参考資料

参考資料１　河川環境に関する情報提供事例カルテ

No.1

名称	体験学習マニュアル『Let's Go 千歳川』	活用媒体	紙
情報発信年	2007年3月	最終更新日	
情報発信者	国土交通省 北海道開発局 石狩川開発建設部 千歳川河川事務所		
対象者	一般住民 市民団体 行政 研究者 その他（学校・教育関係者 ）		
対象エリア	千歳川流域		
URL	http://www.sp.hkd.mlit.go.jp/kasen/08isiken/02genba/24chitose/gakusyu/lets_go/index.html		
目的	・河川環境の保全及び向上、子ども達の健全な成長のため、川での体験活動の普及、推進を図り作成された千歳川をフィールドとする体験学習マニュアル。		
概要	・本書『Let's Go 千歳川／千歳川で安全に体験学習を進めるために』は、「川の体験活動の有効性（効果と現状、普及方策）」、「千歳川及び支川での体験活動」、「プログラムと対象の水準」、「安全確保」、「推進するための方策」等で構成されている。 ・千歳川及び支川で学校教育（総合的な学習の時間）やNPO等が実施している具体的な体験学習の現場を示し、目的、対象者、場所、内容に応じた実施プログラムが示されている。 ・現場での体験活動における安全対策とともに緊急時の対応方策、川の体験活動に関わる基本情報や支援対策等についても掲載されている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
○									

生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○	○					○		

情報の難易度	市民活動リーダーや教育者向けにわかりやすく解説されている
情報の種類	調査結果、専門的・経験的知見 啓発
特徴・工夫	・千歳川流域の学校の総合的な学習や地域での体験学習を実際行うための具体的な情報、手引書として編集され、体験学習に関わる一般的な情報にとどまらず、すぐに使える地域のフィールドや関連する情報を掲載している。 ・作成に当たり、意識調査の実施とともに地域の教育関係者、学識経験者、市民団体、河川管理者等で構成する委員会を設置、ワークショップ形式の検討や現場での模擬実施による検証、シンポジウムの開催等により検討が行われた。 ・普及版として、千歳川河川事務所のホームページより全編ダウンロードできる。 ・マニュアルの活用により継続的な環境教育の推進とその効果等の分析を行い、普遍性の高いマニュアルを目指して内容を更新する予定。 ・川での体験活動を推進する取組みの一環として、事務所による総合的学習の支援（出前講座）やNPOによる「千歳川かわ塾」（公募による季節ごとの川の体験学習）と連動している。
課題	

No.2

名称	「千歳川かわ塾」「石狩川300万本植樹」ほか	活用媒体	ｲﾍﾞﾝﾄ、Webｻｲﾄ、ﾂｲｯﾀｰ
情報発信年	1999年	最終更新日	
情報発信者	NPO法人水環境北海道		
対象者	一般住民 市民団体 行政 研究者 その他（学校・教育関係者 ）		
対象エリア	千歳川流域 北海道地域 全国		
URL	http://www.do-mizukan.com/		
目的	・北海道の川に関する住民団体、学識者、河川管理者、個人等による水環境の保全、改善を目的としたコミュニケーションネットワーク。ネットワークの多様な人材を活かし、フィールドを主体とする事業・活動を行っている。		
概要	・水環境北海道が主催する主な事業として、学童を対象とした体験学習プログラム「千歳川かわ塾」（四季それぞれのプログラムとして年4回開催）、学識者、企業との共同開発による雪中植林法による「石狩川300万本植樹」事業、河川清掃等のフィールド活動や主催するシンポジウム等を通じた情報発信を行っている。 ・会のホームページでは、会の活動に関わる広報とともに参加の募集、活動・事業の報告等を掲載している。 ・北海道地域を中心とする河川管理者、公益法人等の情報、連携している全国のNPO情報など関連する情報の受発信をホームページやメーリングリストにより発信している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
○	○			○	○		○		

生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○	○				

情報の難易度	市民活動リーダーや教育者向けにわかりやすく解説されている
情報の種類	調査結果、専門的・経験的知見 啓発
特徴・工夫	・会として特定の交流拠点等は持っていないが、運営の効率化や広域情報の受発信のため、ホームページや会員のメーリングリスト等を利用し、情報の受発信が行われている。 ・Twitterを利用し、タイムリーな情報の受発信や連携、相互交流を図っている。
課題	

No.3

名称	カラカネイトトンボを守る会	活用媒体	Webｻｲﾄ、ﾌﾞﾛｸﾞ、ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	1995年	最終更新日	2010年10月16日
情報発信者	NPO法人水環境北海道		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（学校・教育関係者　）		
対象エリア	北海道地域　全国		
URL	http://www7b.biglobe.ne.jp/~karakane/		
目的	・カラカネイトトンボをはじめ貴重な動植物が生息する札幌市内に残る唯一の湿原である篠路福移湿原を周辺地域の開発等による消滅から守り、保全しようと組織されたカラカネイトトンボを守る会による情報発信サイト。石狩川が6000年前から育んできた湿原の価値と危機的状況についての啓発、また、ナショナルトラストや自然再生やビオトープづくり、生きものの生態調査・研究等、さまざまな会の活動を広報するための情報発信を流域市民から北海道、全国に向けて行っている。		
概要	・会の活動場所である篠路福移湿原湿原や茨戸川（石狩川水系）、トンネウス沼のフィールドとともに、主な活動である湿原を保護、保全のためのナショナルトラスト運動（2004～）や湿原の生物調査、トンボやホタルのビオトープづくり、ホタル生息地での飼育や自然維持活動などをホームページ上やリーフレット等により写真とともに紹介している。 ・地元の高校の生物部が、調査・研究や自然再生活動に参加し、「カラカネイトトンボを守る会 jr.」として活動している。こうした活動の成果を活動発表会等で積極的に発信するとともに、パネル展の定期的な開催などにより、地域に対する啓発活動を行っている。 ・最新のニュースはブログ「カラカネニュース」で配信している。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○			○	○		○		○
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○			○						

情報の難易度	幅広い年齢層を対象とする流域住民に対し、活動の目的や内容を分かりやすく発信している
情報の種類	調査・研究結果、啓発、活動紹介
特徴・工夫	・「オリジナル資料」のページでは、湿原についてやカラカネイトトンボの生態、トンボ図鑑（静水域、湿原、地域の出現種など）、トンボの観察ガイドやフィールドガイド、生態について、写真を多用しわかりやすく紹介している。 ・全国ワークショップや高校の活動発表会等のさまざまな機会に積極的に参加し、札幌市や北海道地域にとどまらず全国的に湿原保護や活動について発信している。
課題	

No.4

名称	江別防災ステーション	活用媒体	拠点施設、Webｻｲﾄ
情報発信年	1995年	最終更新日	
情報発信者	北海道開発局・江別市		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（観光客等）		
対象エリア	北海道地域　千歳川流域　全国		
URL	http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/bousai/station/index.html		
目的	・江別河川防災ステーションは、水防資器材の備蓄、水防活動の拠点基地や災害時の避難場所として活用するための施設。防災研修の場や河川情報の提供、川を題材とした歴史、川の恩恵などの展示をはじめ、防災に対する意識の啓発、向上に努めるほか、市民の憩いの場として親しまれる空間づくりをめざしている。 ・地域防災推進のための「河川防災ステーション」として、水防活動を行う上で必要な土砂等の緊急用資材の備蓄、水防活動の作業場、災害発生時の基地であると同時に、平常時の地域の人々のレクリエーションの場、河川を中心とした文化活動の拠点としての利用を図っている。		
概要	・防災ステーションとして、川沿いの施設(3階建て)の1階に水防倉庫が設置されている。 ・館内に設置されているパソコンの「河川流域総合情報システム」で、リアルタイムの河川の水位や雨量が確認できる。 ・かつて地域の経済を支え石狩川を航行した蒸気船「上川丸」の実物大（レプリカ）や江別市の古いまちなみや港のジオラマ展示など、地域と川の関わり、歴史等について、展示物等で紹介している。 ・施設内の会議室は、川や防災に関わる団体が会合等で利用する場合は、無料で貸し出しを行っている。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
									○	
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
		○	○	○			○	○		

情報の難易度	地域住民や来館者に向けたわかりやすい内容
情報の種類	河川情報、防災情報、地域情報、イベント情報。
特徴・工夫	・災害時の防災ステーション機能に加え、平常時に定期的な農産物マーケットやイベント空間として活用しながら防災情報を発信している。 ・日常的な利用や来館により広報、啓発を促すため館内には民間委託によりレストランが経営されている。
課題	

No.5

名称	エールセンター十勝 （十勝エコロジーパークエールセンター）	活用媒体	拠点施設、Webｻｲﾄ
情報発信年	2004年（施設の設立）	最終更新日	2010年5月27日
情報発信者	財団法人 十勝エコロジーパーク財団 施設・サイトの管理運営：NPO法人帯広NPO28サポートセンター		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（学校・教育関係者　）		
対象エリア	十勝川流域　北海道地域		
URL	http://yell.p1.bindsite.jp/index.html		
目的	・流域の水辺体験活動等をさまざまな形で支援し、利用してもらうための拠点施設として、治水の森公園（帯広市の敷地）に防災施設として2004年4月にオープン。2009年6月より、河川環境管理財団から十勝エコロジーパーク財団へと移管され、委託を受けたNPO法人帯広NPO２８サポートセンターが管理運営を行っている。		
概要	・施設は、研修室、貸館、屋外に炊事場等があり、いずれも利用できるほか、Eボートやライフジャケットなどの機材の貸し出しも行っている。 ・十勝川と札内川の合流点付近に位置するロケーションを活かし、E ボート体験や川探検、川体験キャンプ、河川川環境学習として水辺安全講習やリバークラフト、プロジェクト WET などの体験プログラム、学校・子ども会・家族・PTA などのさまざまな活動や学校教育等に対応している。 ・上記は全て、申込・料金制で利用可能で、ホームページ上のフォームから申込の申請ができるようになっている。 ・ホームページでは、関連情報のリンクとともに、施設の概要やサービス、施設周辺の自然環境等フィールド情報を豊富な写真等により紹介している。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物（ﾃﾞｰﾀ）
	○							○		
	生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
				○		○				

情報の難易度	市民活動リーダーや教育者、一般の利用希望者それぞれに対応できる情報やサービスを有し提供できる体制になっている
情報の種類	川をフィールド、テーマとする体験学習・環境学習に関わる情報、利用案内、啓発
特徴・工夫	・地域、流域の活動拠点として、ハード（施設、機材貸与）とともにソフト（体験プログラム）の提供について料金体系を設定し、体験学習や小中学校の学校教育等さまざまな規模、内容の利用に供するシステムとなっている。 ・11月～3月は基本的に休館だが、会議等の利用で予約があれば対応している。
課題	・施設自体の運営予算。現在は、エールセンター十勝の管理運営を帯広NPOがボランティアで行う形となっている。

No.6

名称	子どもの水辺北海道地域拠点センターWEB	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2010年2月	最終更新日	2010年5月27日
情報発信者	NPO法人帯広NPO28サポートセンター		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（学校・教育関係者　）		
対象エリア	北海道全域		
URL	http://yell.p1.bindsite.jp/cn24/pg268.html		
目的	・「全ての子ども達に水辺を！」をキャッチコピーに北海道の水辺ポータルサイトとして、川をフィールドとするさまざまな水辺活動を情報の受発信からサポートするために開設されたWEBサイト。		
概要	・河川環境管理財団が運営する「子どもの水辺サポートセンター」や十勝川の拠点施設「十勝エールセンター」とリンクし、「川の情報室」として水辺の体験活動や環境学習をサポートするさまざまな情報を掲載している ・「川の情報室」では以下のようなカテゴリーからさまざまな関連サイトにリンクし、情報を閲覧することができるようになっている。 ① 「北海道の親水スポット」：全国規模や北海道の地域ごとの関連機関や活動団体、フィールド情報検索サイトへのリンク ② 「指導者」：川に学ぶ体験活動協議会（RAC）や北海道体験活動ボランティアセンターなどの関連機関の登録人材データベース・検索サイトへのリンク ③ 「助成金」：水辺の活動に対する活動助成機関へのリンク ④ 「資格」：水辺の体験活動に関わる指導者養成講座や資格制度を有する機関や組織へのリンク		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物（ﾃﾞｰﾀ）
	○							○		
	生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
					○	○				

情報の難易度	市民活動リーダーや教育者、一般の利用希望者それぞれに対応できる情報やサービスを有し提供できる体制になっている
情報の種類	川をフィールド、テーマとする体験学習・環境学習、啓発
特徴・工夫	・水辺の活動に関わる質問や相談をホームページ上から送信できる。
課題	・開設して間もないサイトということもあり、「川の情報室」のページには、「水辺に関わる活動プログラム」、「資料（水辺に関わる資料情報）」など準備中のページがある。 ・サイト自体の広報、関連サイトとのリンク等による利用、普及

No.7

名称	WEB河川情報マップ『川を見つめて』	活用媒体	Webｻｲﾄ、携帯ｻｲﾄ
情報発信年	2004年	最終更新日	2010年10月26日
情報発信者	岩手県立一関工業高等学校土木科		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（カヌーイスト、釣り人など）		
対象エリア	北上川流域		
URL	http://www2.iwate-ed.jp/ict-h/c2/doboku/index.html		
目的	・工業高校土木科という将来公共事業に携わる者としての資質の向上を目指し、ふるさとの川づくりについて土木的な見地、自然との共存のなかで「美しい」川づくりについて「流域交流」をキーワードに総合的な視点で学習している。 ・地域活動をとおして「川づくり」や「地域づくり」に貢献することを目的に、北上川をフィールドとする多角的な流域交流を目指した新しい住民参加型の河川情報ツールとしてインターネットを利用した河川情報マップを制作、発信し、環境保全や地域防災力のアップをめざしている。		
概要	・北上川の自然環境や先人の技術、流域の「川づくり」についての位置情報やポイントの紹介によって川の散策、釣り、川下り等で活用できるよう制作された河川情報マップ「アイ・Map(1995～)」を作成し、公開している。 ・インターネットを利用したマップと情報掲示板（写真とコメント）を連動させたWEB河川情報マップは、北上川の「文化・歴史」「災害」「景観」「イベント」「流況、地形」「自然環境」「河川工作物」等のカテゴリから、写真やコメントを閲覧、投稿できる。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
		○		○	○	○	○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
		○						

情報の難易度	流域住民や河川の利用者が簡易に写真や位置情報を含めた情報を得ることができる
情報の種類	市民（高校生）調査結果、地図情報
特徴・工夫	・Web GISを活用したマップは、携帯電話やパソコンを利用して情報掲示板に写真やコメントを投稿できる。利用（閲覧・投稿）方法の説明もHP上に掲載している。 ・岩手県宮城内陸地震の体験を期に、地域防災への参画を視野に入れ、災害、防災情報の充実とともに、北上川学習交流館アイポート、国土交通省岩手国土河川事務所のホームページとリンクし関連情報等と連携しているほか、QRコードにより携帯電話からのアクセスを容易にしている。 ・学生は「アイ・Map」を活用したカヌー等による調査を実施し、情報掲示板のデータベースの充実や、その活用について実践、検証している。
課題	・H21年度の情報掲示板のアクセス状況は年間でゲスト850件、一関工業高校約140件となっているが、外部からの投稿はまだ少ない。

No.8

名称	国土交通省一関防災センター ・北上川学習交流館　「あいぽーと」	活用媒体	拠点施設,Webｻｲﾄ,携帯ｻｲﾄ,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2002年4月	最終更新日	2011年２月８日
情報発信者	国土交通省岩手河川国道事務所、一関市教育委員会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（来館者）		
対象エリア	北上川流域　一関市		
URL	http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/iport/		
目的	・平常時は、一関遊水地と北上川の風土と民俗、歴史と文化、自然、災害、治水などの情報を提供し、地域の交流及び連携を図るために設置された学習・交流施設で、災害時は現地対策本部として機能する国土交通省の出張所も兼ねている。		
概要	・3階建ての施設では、北上川の風土と民俗、歴史と文化、自然、災害、治水などの情報の紹介、北上川の治水の知恵と地域発展の関わりなど北上川を知るコーナー、学習スペース（80名収容）の１階及び3階の展望室が公開型となっているほか、2階は一関遊水地の陸閘及び排水機場等の施設を集中管理センターとなっており、洪水時の情報収集・提供、水防活動の拠点としても活用されている。 ・通常の展示等のほか、大人から子どもまで川や自然に触れ合いながら、周りの自然をより身近に感じてもらえるような体験学習プログラムを行っている。そのなかで、総合学習や子供の会行事等の支援として「リクエスト講座」も実施している。 ＜リクエスト講座のこれまでの主な講座例＞ ・水害語り部講座（アイオン台風、カサリン台風水害） ・北上川の歴史講座（北上川の舟運、北上川の舟渡し） ・河川の動植物観察講座（パックテスト、水生生物調査） ・国土交通省の出前講座（河川事業の今昔物語、洪水防御施設の役割）		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○			○			○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○	○	○	○	○	○		○	○図書検索

情報の難易度	子どもを含めた地域住民に向けた、多様な方法による分かりやすい内容
情報の種類	地域情報、河川（環境・事業）情報、防災・災害情報、啓発情報、施設利用案内
特徴・工夫	・施設のホームページでは、利用案内、体験プログラムの紹介、募集、北上川に関する情報が閲覧できる。 ・施設では川と自然に関する企画、出展募集や関連する活動に対する学習室、展示スペースの貸与等、防災施設としての広報とともに地域の多様な利用を図っている。 ・「あいぽーとクラブ」（入会無料）として、体験プログラムに参加する一般会員と、プログラムの講師や実施に協力・支援するサポート会員を随時募集し、継続的な参加や川へのより深い理解、ネットワークの形成、拡大を図っている。
課題	

No.9

名称	岩手県河川課ホームページ「いわての川」	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年		最終更新日	2011年２月7日
情報発信者	岩手県県土整備部河川課		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	岩手県　北上川流域ほか		
URL	http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=782&ik=3&pnp=17&pnp=66&pnp=782		
目的	・平成8年に策定された「いわての川づくりプラン」にもとづき、県民と協働による人と自然の共生する「いわての川の望ましい姿」の実現に向け、「いわての川づくり３つの理念」とともに県管理河川にの河川整備、管理などの事業に関わる情報の広報を目的とするサイト。		
概要	・「いわての川」は県管理河川の事業広報として、以下のような内容により構成されている。 ①「ボランティア活動支援制度」：県管理の河川・海岸での「ゴミ拾い」や「草刈り」などの清掃美化活動に対する物品等支援制度 ②岩手県管理河川の河川整備基本方針・河川整備計画の策定状況 ③「多自然川づくり」事業や県内実施河川の紹介 ④「いわての川づくり懇談会」の開催報告等（平成15年度からの開催報告が閲覧可能） ⑤県内の主な河川事業について ・河川課のページは、「岩手県河川情報システム」とリンクし、県内の川の水位・雨量（約130ヶ所）についての情報を提供している。洪水情報は登録申請によるメール通知サービスも行っている。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物（ﾃﾞｰﾀ）
		○	○		○	○	○			
	生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
				○		○				

情報の難易度	一般市民、地域住民に向けた河川情報、事業情報についての分かりやすい内容
情報の種類	事業情報、啓発、防災・災害情報
特徴・工夫	・県内各河川で地域住民とともに「川づくり懇談会」を通じて、川作りに向けた情報公開や意見交換を行い、川づくりに反映してきた。 ・「河川災害復旧等関連緊急事業」などにおいて実施された県内各河川での多自然川づくりについて経緯や内容、多自然川づくりの理念と方法についてもあわせて紹介している。
課題	・県のトップページから、川に関心がある場合を除き本ページにたどりつくのは難しい。

No.10

名称	東北の川ワークショップ	活用媒体	ｲﾍﾞﾝﾄ,Webｻｲﾄ,ﾒﾙﾏｶﾞ,紙
情報発信年	2001年	最終更新日	2010年12月4・5日
情報発信者	東北の川ワークショップ実行委員会（事務局：NPO法人水・環境ネット東北）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（学校・教育関係者　）		
対象エリア	東北地方全体		
URL	http://mizunet.org/xoops/		
目的	・川や水環境の保全に関わる立場の異なる人々（NPO、教育機関・企業・行政）が、それぞれの取り組みの成果を発表しあい、交流、意見を交わすことで、さまざまなつながりを作り、活動の活性化につながるヒントを探ることを目的としたワークショップ開催による情報交換、発信。		
概要	・NPO法人水・環境ネット東北が企画、運営、事務局を担当し2001年にスタートした大会は、毎年、南東北と北東北の2大会を東北の各県を会場に開催されてきた。2009年までの9回の大会で、発表団体はのべ315件。 ・二日間の日程で行われるワークショップの主な内容は、公募による一般部門（市民や行政、企業等の取り組み）と子ども部門（小学生・中学生の発表）を中心に、事業・活動発表と質疑（分科会と全体会）、選考、交流会、表彰式等。2010年12月には、「東北の川ワークショップ　流域交流in北上川」と題し、全体会場での講演、活動発表と質疑、エクスカーションによる大会にリニューアルした。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物（ﾃﾞｰﾀ）
	○	○			○	○	○	○	○	
	生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○		○		○		○			

情報の難易度	市民活動リーダーや河川管理者、学識者など、互いが理解しやすい内容である
情報の種類	事業・活動報告　専門的知見　啓発
特徴・工夫	・ワークショップでは、取組み事例についての事例発表のみならず、質疑や討論により、地域がめざす“いい川”のイメージや技術等の情報を共有することができる。 ・実行委員会方式による運営と、さまざま立場からの参加により、フェイスtoフェイスの関係や官民協働による川づくりのための地域ネットワークにつながっている。 ・（全国）いい川・いい川づくりワークショップと連携し、グランプリ受賞団体への副賞として全国大会への交通費を補助し、参加、交流を促している。 ・運営予算は、概ね助成金等によるが、関係する国や自治体からの運営支援、協力もある。 ・東北地域の広域交流ネットワークとして、ホームページでは、会の自主企画活動とともに地域や全国の活動団体の情報、関連情報の受発信をしているほか、Google Mapを利用した活動団体マップ（全国）をサイト内に構築中。
課題	・運営予算が、単年度の活動助成金等によるもので安定していない。

No.11

名称	「河水千年の夢　広瀬川ホームページ」	活用媒体	Webｻｲﾄ,ﾌﾞﾛｸﾞ
情報発信年	2003年1月6日	最終更新日	2010年12月30日
情報発信者	仙台市建設局 百年の杜推進部 河川課 広瀬川創生室		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（子供　）		
対象エリア	広瀬川流域		
URL	http://www.hirosegawa-net.com/		
目的	・2006年に策定された「広瀬川創生プラン」を官民協働で推進し、策定過程からプラン実現に向け市民参画による川づくりを進めていくために設置された広報や川への関心を高めるためのホームページ。		
概要	・「遊ぶ」「風景」「学ぶ」「記憶」「ボランティア」をテーマとするさまざまな関心や対象を想定した一般市民にも分かりやすい広瀬川や流域に関する情報を幅広く掲載。 ・テーマ「遊ぶ」には、6つの散策コースを提示し、それぞれのルート・ポイントマップとともに「おすすめポイント」を紹介、さらに詳しい情報や、「広瀬川の豆知識」（レポートやコラム）とリンクしている。 ・「広瀬川創生プラン」や「広瀬川の清流を守る条例」など関連する市の施策や事業等、これまでの経緯を含めて掲載しているほか、広瀬川に関わるさまざまな活動やイベント等を「活動カレンダー」で紹介している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○	○	○	○	○	○	○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○		○	○	○	○	○		○

情報の難易度	子供を含めた一般市民から川の自然や歴史の愛好者などに向け興味に応じた情報を得られるしくみになっている
情報の種類	専門的知見　一般的知見　行政情報　研究成果
特徴・工夫	・「ちょっと出かけてみたい」といった導入ガイド的な内容から、子供向けのガイド、地域の歴史、文化や川との関わりについて知りたいといった専門的な内容、川づくりやイベントに参加してみたいといった能動的な志向まで幅広い対象に応える情報発信と利用者自身も情報を投稿できるしくみになっている。 ・写真や地図情報を豊富に取り入れ、お勧めポイントなどコメントを書き込むことができる。 ・「広瀬川ブログ」として、5つの異なるテーマによる個人ブログ（契約）を掲載、紹介している。
課題	

No.12

名称	広瀬川ブログ	活用媒体	ブログ
情報発信年	2006年	最終更新日	2011年2月21日
情報発信者	広瀬川流域市民（個人のブログ）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　）		
対象エリア	広瀬川流域　宮城県仙台市		
URL	http://www.hirosegawa-net.com/blog_top/index.html		
目的	・仙台市建設局百年の杜推進部河川課の広瀬川創生室が運営するホームページ「河水千年の夢 広瀬川ホームページ」で紹介、リンクしている、流域市民5人による個人のブログで、それぞれの個人的な広瀬川に関わるテーマ、視点から、広瀬川に関わるさまざまなことを写真やコメントでレポート、紹介している。		
概要	掲載しているブログは以下の５つ。 ・「はなと広瀬川でお散歩」：散歩で出会った広瀬川のあれこれ ・「武田こうじの川原日記」：言葉(詩やコメント)と写真でつづる広瀬川 ・「おとうさんと遊ぶ広瀬川」：子を持つ父親の視線を通して見た日々の「広瀬川」 ・「三十路すぎた川ガキ、広瀬川へ」：大人になっても川ガキの心は健在。広瀬川や水辺のフィールド体験記 ・「広瀬川フォトブログ」：広瀬川の四季折々の自然や人の姿を写真で綴る		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
					○		○		○

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他

情報の難易度	流域住民や市民がさまざまな視点から親しみやすく広瀬川のいろいろな姿を知ることができる。
情報の種類	個人の知見、感想、報告
特徴・工夫	・ブログはホームページのコンテンツのひとつとして位置づけられ、それぞれのブログの発信者は、広瀬川をフィールドに活動する団体の関係者などで、市からの委託による。 ・行政のホームページにあって、一般の個人ブログと変わらない私的なテーマや視点による日記風の紹介で、流域住民にとって親しみやすい内容になっているとともに、個人による河川環境のモニタリング情報の発信ともなっている。
課題	

No.13

名称	最上川電子大事典	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年		最終更新日	不明
情報発信者	国土交通省山形河川国道事務所（河川学習システム編集部）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（学校・教育関係者　）		
対象エリア	最上川流域		
URL	http://www.thr.mlit.go.jp/yamagata/river/enc/index.html		
目的	・総合的な学習の時間等で、河川が学習素材として扱われるようになってきたことを受け、河川に関する様々な情報を集約し、インターネットを通じ広く人々に的確な情報を提供し、総合学習や生涯学習等の教材として、また一般の人々が河川について学ぶための学習素材として幅広く活用できるよう作られた電子百科事典。		
概要	・最上川を中心とした県内の河川に関する歴史、文化、その他幅広い分野の情報を豊富な写真と図版とともに掲載している。 ・総合学習での利用を意識した図版や写真を多用した学習に役立つ視覚的に分かりやすい内容とともに、事務所の出前講座など学習支援情報、水辺の拠点施設や関連施設、水辺の楽校などのフィールド等に関する情報、市民による活動とともに子どもの活動についても紹介している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
		○	○	○		○	○	○	○

生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○	○	○	○		○	○		

情報の難易度	一般市民から市民活動関係者、教育者向けに分かりやすい内容である
情報の種類	川や地域に関わる一般的知見・専門的知見、環境・地域学習素材
特徴・工夫	・「ジャンル」、「地域」、「言葉（五十音）」のそれぞれから知りたい事項を検索でき、関連情報へも容易にアクセスできる。 ・「最上川の基礎知識」「最上川の歴史・文化」「治水」「利水」「自然環境」「総合的な学習の時間」「美しい最上川に（市民活動等）」「観光・施設」といったジャンル別の基本情報のほかに、ポイントのパノラマ写真や航空写真などの「最上川写真館」、ビューポイントやゴミマップといった「MAPコーナー」、専門的な情報やレポートを閲覧できる「有識者からのヒアリング」などをトップページから閲覧できる。 ・市民参加型の情報収集を多様な素材、形態（文書、写真、ビデオ等情報募集）により行い、情報の更新を図っている。同時に掲載情報に関するアイディアや最上川や同水系に川に関する作品も募集し（これまで６期に渡り募集、最終締切は平成17年１月）、これらのうち採用作品をホームページ上で掲載している。
課題	

No.14

名称	最上川ゴミマップ	活用媒体	紙、Webｻｲﾄ
情報発信年	2003年	最終更新日	2005年
情報発信者	国土交通省山形河川国道事務所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	最上川流域		
URL	http://www.thr.mlit.go.jp/yamagata/river/gmap_main/index.html		
目的	身近な川を通して海に流れ出る「散乱ゴミ」が、地球環境に大きな影響を与えていることから、その実態を多くの流域市民に知ってもらうため、国と県、NPO団体が共同で最上川周辺に捨てられているゴミの実体を調査、流域マップとしてまとめたもの。		
概要	・河川敷などの水辺に投機されたゴミの情報は、河川管理（国、県）として行われる、河川巡視や各保健所が行う不法投棄パトロールの際に記録されたものである。 ・これまでに『2003年最上川ゴミマップ』と『2005年最上川ゴミマップ』が発行されている。2003年度版は、1999年度～2002年度の間に通報または記録された投機ゴミの場所と量について３分類、５段階に分けて表示している。2005年度版は、2004年の秋に県内各地で河川管理者及び河川アドプト団体等が行った試行調査の結果を掲載している。この際、特定の条件のもとで撮影された基準写真との比較や実際のゴミの回収でゴミの量を「ランク」付けし判定する「散乱（漂着）ゴミの指標評価」が官民協働で独自に開発されている。 ・流域の地域別関連データ（人口密度や一人当たりのゴミ処理量等）の掲載		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
	○								

生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
								○ゴミ調査結果

情報の難易度	・流域住民が視覚的に流域情報を容易に把握できる内容である
情報の種類	（官民協働型）調査結果・啓発
特徴・工夫	・調査手法や表現方法においても官民協働で行われ、視覚による独自の指標を開発、調査結果についてもビジュアル的に理解しやすいよう工夫されている。 ・調査結果（ゴミの種類や量）をビジュアル的に表現した最上川流域図が表面で、裏面は画家の村松昭氏による「最上川流域絵図」となっており、流域・地域レベルでの一般市民に対する普及、啓発を図っている。 ・同様の地図及び関連情報は、山形河川国道事務所のホームページや同事務所による『最上川電子大事典』で閲覧できる。
課題	・川や海辺の散乱、漂着ゴミ調査における独自に開発した指標や手法の流域内外での普及、活用

No.15

名称	最上川フットパス長井	活用媒体	Webｻｲﾄ、ﾌﾞﾛｸﾞ,紙
情報発信年	2006年	最終更新日	2009年10月
情報発信者	ながいフットパス推進会議／山形県長井市		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（市外からの訪問者）		
対象エリア	最上川流域		
URL	http://www.nagaiwalker.com/footpass/		
目的	・現在の観光スタイルは、車やバスなどで観光スポットを見るだけで、地域が有している本来の魅力を感じてもらうことができないという認識から、川べりや沿川の観光資源をつなぐ「フットパス」（ハイキングなどで歩くことを楽しむための小道）を整備、活用し、地域をゆっくり歩くことで、自然や街のなかの良い所などを発見、地域の魅力を感じてもらうための普及とガイドを目的とする。 ・地域振興の一つとして国土交通省や長井市、商工会、観光協会当関連機関、MPO等による協働プロジェクトとして行われている。		
概要	・最上川の自然の見どころや沿川の観光資源などの魅力的な場所を取り上げ、つないだ10件のルートを設定、インターネットでの地図情報や動画、携帯用ガイドマップ「川つどうまち ながい・みずはのこみち」で紹介している。 ・実際のルート沿いに、情報と連動した案内標識や木道、飛び石などが設置、整備されている。 ・かつて最上川の舟運で栄えたまち長井の「フットパスお薦めルート」として、最上川発祥ルートや舟運ルート、桜回廊などをスポット等とともに掲載している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○				○	
生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
			○	○		○			

情報の難易度	・一般市民が視覚的に理解しやすい内容
情報の種類	地域・河川魅力資源情報、地図情報
特徴・工夫	・「フットパス」「歩くことを楽しむ」をキーワードに、水神を表す「みずは」の里として、最上川や支川など水の豊かなまちをアピールしている。 ・最心情報は、リンクしている「フットパスぶろぐ」で写真、コメント等により更新している。ブログでは、沿川の市民の取組みを適宜紹介しているほか、地域の歳時記など身近な親しみの持てる情報を丁寧に拾い上げている。 ・マラソン大会と連動した「フットパスウォーキング」なども行われている。
課題	・最上川流域の他の地域での「フットパス」の普及・連携、最上川水系のグリーンツーリズム推進への活用

No.16

名称	最上川リバーツーリズムネットワーク	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2010年7月26日	最終更新日	2011年2月15日
情報発信者	最上川流域観光交流推進協議会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（市外からの訪問者）		
対象エリア	最上川流域　～全国		
URL	http://www.mogami-river.net/index.html		
目的	・最上川リバーツーリズムネットワークは、最上川水系の水辺を観光資源として、リバーツーリズムを官民連携（自治体、NPO、観光事業者、交通機関等）により流域全体で推進するための協議会組織。 ・リバーツーリズムをテーマに、舟やフットパスを利用した地域の水辺散策などにより、最上川がもたらした自然の恵みや地域の歴史・文化に触れ最上川を体感する新しい旅のスタイルを提案、情報発信している。		
概要	・最上川流域の水辺やまちのさまざまな魅力資源について、上流から下流までそれぞれテーマを持つ4つのエリアとジャンル（モデルコース、フットパス、水辺の楽校・水辺プラザ、カヌー）にまとめ、紹介するサイト。 ・エリアごとの情報として、最上川流域全体で推進し、各地で展開しているフットパスや自治体ごとのビューポイントやイベント、スポットなどを写真と説明、地図情報とともに掲載している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○								○	
生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
			○	○	○				

情報の難易度	・流域内外の市民が、流域の魅力資源を多様な角度から知ることができる。
情報の種類	魅力資源情報、観光情報、施設情報
特徴・工夫	・関連する情報として、NPO法人最上川リバーツーリズムネットワークのホームページとリンクし、イベントなどの最新情報や各地のフットパス、モデルコース、スポットなどを紹介している。
課題	・最上川流域の他の地域での「フットパス」の普及・連携、最上川水系のグリーンツーリズム推進への活用

No.17

名称	川づくり情報	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年		最終更新日	2009年10月
情報発信者	国土交通省能代河川国道事務所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	米代川流域　能代市ほか		
URL	http://www.thr.mlit.go.jp/noshiro/kasen/kasen_index.htm		
目的	・国土交通省能代河川国道事務所の事業広報や災害情報、啓発等のための情報サイト。		
概要	・「川づくり情報」のページは、主に以下のような内容で構成されている。 ①事業概要：「米代川緊急総合治水対策」や2010年7月出水の災害復旧事業など ②行政インフォメーション：昭和47年の災害体験談（住民の投稿）、堤防の整備効果、H19豪雨による出水 ③米代川河川整備基本方針（2002年）、米代川河川整備計画（2010年） ④米代川の河川管理：河川パトロール、占用手続きなどの事業のほか、小学生による水質調査（米代川調査隊）の活動報告や、河川愛護モニター、川の通信簿など市民参加型事業の紹介 ⑤川とこどものふれあい支援：水生生物による水質調査、総合学習支援など ⑥出張所ニュース・鷹巣出張所ニュース（毎月）、二ツ井出張所ニュース(不定期)		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○		○	○		○	○		○

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
	○	○	○				○	

情報の難易度	・流域内外の市民が、流域の魅力資源を多様な角度から知ることができる。
情報の種類	魅力資源情報、観光情報、施設情報
特徴・工夫	・トピックスとして、米代川のライブ映像のほか、主に防災情報として、流域自治体のハザードマップリンク集や米代川の時系列洪水氾濫シュミレーションなどを掲載している。
課題	

No.18

名称	夏井川流域の会	活用媒体	Webｻｲﾄ,紙,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2007年	最終更新日	2010年6月
情報発信者	夏井川流域の会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	福島県　夏井川流域		
URL	http://www.natsuigawa.net/natui.htm		
目的	・夏井川流域で流域住民が一つにまとまり、健全な水循環の継承を目指した活動を進めるため、「夏井川上流域連絡協議会」と「夏井川流域住民による川づくり連絡会」が中心となって「夏井川流域の会」を設立（2007）、「森・川・海の笑顔の見える流域」を目指し活動している。		
概要	・会で開催している「川ばた会議」は、実際に川や水辺、森林、史跡や名勝等を訪れ、流域住民でこれらを評価し合い、今後夏井川流域を「どのようにしていきたいか」、「どんなことができるか」について話し合い、流域内で活動している団体の活動発表や情報交換の場ともなっており、流域の団体や個人にも参加を呼びかけ、誰でも参加できる。活動報告はホームページにも掲載している。 ・会が流域の様々な団体・機関に協力を呼びかけ広く意見を求め、特に川ばた会議等で出された意見を中心にまとめた「夏井川アクションプラン21（夏井川流域行動計画）」は、夏井川流域において次世代へ引き継ぎたい水環境を目指して策定された（計画はホームページから全文ダウンロードが可能）。 ・会の実践活動として、夏井川流域の特徴を「水と人とのかかわり」を切り口に紹介した「夏井川流域マップ」（Ａ１判、両面印刷）を作成。マップ情報は、ホームページからもダウンロードできる。その他の会の活動である、全国一斉水質調査への参加と調査結果、水質改善（廃食油回収推進運動）の広報などの活動をホームページで紹介している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○		○	○	○	○	○	○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
		○	○	○		○		

情報の難易度	市民活動リーダーや教育者向けにわかりやすく解説されている
情報の種類	調査結果、専門的・経験的知見　啓発
特徴・工夫	・日常的に福島県など行政との連携による情報発信を行っているほか、会が流域の市民・団体や関係機関に呼びかけ、フィールドワークや意見交換、活動の場・機会を提供し、出てきた意見等を集約し、計画等に反映する体制ができている。 ・県や東北地域、全国のワークショップなどに積極的に参加し、交流や情報の受発信につとめている。
課題	

No.19

名称	福島荒川資料室	活用媒体	拠点施設,Webｻｲﾄ,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	1998年（資料室の開設）	最終更新日	2009年7月
情報発信者	ふるさとの荒川づくり協議会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	福島市内　荒川流域		
URL	http://www.f-shikinosato.com/arakawa/		
目的	・荒川に関する自然、歴史、文化、治水、災害等の情報を紹介、ふるさとの川荒川に関する啓発と川づくり、まちづくりに寄与することを目的とする。		
概要	・荒川沿いに設置された荒川資料室（1998年開設）を拠点に、以下のような情報サービスを行っている。 ① 荒川の歴史や見所をパネルや改修工事資料により展示 ② 河川砂防事業等を模型等で展示 ③ 川の自然を絵や写真で展示 ④ 国道や河川情報の検索（パソコンによるWEB検索）　※地域情報は「うつくしま地域情報ターミナル」 ・会員を募集し、会員を中心に以下の活動を定期的に行っている。 ①「荒川大将塾」：川や生きものなどとのふれあいを通した遊びと学びを実践 ②「荒川探訪会」：荒川をより深く知るための玄人向けフィールド探索 ③クリーンアップ作戦 ④水質・水生生物調査		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○			○				○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○		○	○			○		

情報の難易度	流域の市民、住民に向け、荒川や地域の自然、工事情報等の情報について簡単に閲覧できる
情報の種類	調査結果、専門的・経験的知見　啓発
特徴・工夫	・流域市民に対して荒川をより一層知り、親しんでもらう、また河川環境の保全改善などさまざまな活動への参加を促すため、荒川のファンクラブとして会員を募集、会報（FAN）を発行するなど工夫している。
課題	・近年、ホームページによる情報発信も行うようになり、資料室や関連事業の紹介、会員募集などを行っているが、情報室のアクセス等の地図情報や、会員登録についての説明がホームページ上からは閲覧できない。

No.20

名称	朝日町エコミュージアム	活用媒体	Webｻｲﾄ,携帯ｻｲﾄ,紙,ｲﾍﾞﾝﾄ,拠点施設
情報発信年	2000年	最終更新日	2011年1月26日
情報発信者	NPO法人朝日町エコミュージアム協会		
対象者	一般住民（流域外も含む）　市民団体　行政　研究者　その他（学校・教育関係者）		
対象エリア	山形県朝日町　最上川流域　全国		
URL	http://www.natsuigawa.net/natui.htm		
目的	・町全体をエコミュージアムとして位置づけ、地域資源を再発見し、地域内外に向けて発信ししていくものとして開設された「朝日町見学情報データベース」サイト。拠点施設である、「朝日町エコミュージアムルーム」の業務を受託するNPO朝日町エコミュージアム協会が、朝日町民、朝日町教育委員会、学術者の協力のもとまとめた情報データベースで、観光や郷土学に役立てもらおうという目的を持っている。		
概要	・本サイトでは、エコミュージアムのデータベースとして、さまざまな関連イベント情報のほか、エコミュージアムの利用ガイド、16のエリアとテーマからそれぞれの見学場所の概要と案内人の説明、位置情報（Yahoo Map）等を掲載している。 ・エコミュージアムガイドとして「朝日町エコミュージアム案内人の会」が組織され、町民が学芸員となって町の歴史や文化、自然、産業などについて自分達の経験と知識をもとにガイドしている。各ガイドのテーマや見学箇所、おすすめのコースなどを写真入りで紹介している。 ・エコミュージアムには本サイトのほか、拠点施設エコミュージアムコアセンター「創遊館」の常設コーナーがあり、サテライト（見学場所）への訪問者に対し案内人の紹介や資料提供、宿泊施設の案内等の相談、サービスを行っている。 ・蓄積された地域の魅力資源の情報は、「エコミュージアム・ノート」として蓄積され、ホームページ上からも閲覧できる。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○			○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○	○		○		

情報の難易度	地域住民にとっての地域学習や外からの訪問者に対するガイドとして多様な関心を喚起する内容
情報の種類	地域資源、観光ガイド、記録、調査結果
特徴・工夫	・地域資源の情報収集は、教育関係者や学術者の協力とともに、住民自身にも協力を呼びかけて「あさひまち宝探し」として行われている。その一つとして「水とくらしの探検隊」として、起伏が多い朝日町の農業を支えた水路や7つの堰について先人達の水路開削や維持管理の歴史や成り立ちを地域の子ども達自身が調べ、その成果が小冊子や紙芝居、しおり（ガイドブック）、DVDなどに教材化され、学校行事や公民館事業等様々な形で利用されている。 ・各見学箇所の拠点の説明版に貼付されているQRコードにより、携帯電話を使ってその場でサイトにアクセスし、住民学芸員の説明等を読むことができる。
課題	

No.21

名称	い～な川活　かわら版	活用媒体	Webｻｲﾄ、ﾌﾞﾛｸﾞ，紙，ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2009年9月	最終更新日	2010年12月28日
情報発信者	奥会津元気回復協議会 （構成：地元自治体、建設業組合、漁協、地元観光会社・建設会社等）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（地元企業等）		
対象エリア	南会津町（舘岩、伊南、南郷）只見町、檜枝岐村 伊南川と舘岩川、檜枝岐川の各支流の流域		
URL	http://www.iina-kawakatsu.com/		
目的	・「い～な川活」とは、「尾瀬を源流とする伊南川の多様性回復とふれあい創造事業」の愛称で、「伊南川の川づくり」と「地域・観光づくり」を２本柱として、地域住民・企業・行政・専門家らが一体となり将来の伊南川再生、地域の活性化のためのプランづくりを行うことを目的としている。伊南川を地域資源として捉え、流域で共有するとともに、魚類をはじめ、多くの生き物たちが生息する川、地域の人たちが活用して楽しめる川づくりを「川活（かわかつ）」という言葉に託し、情報を発信している。		
概要	・「い～な川活 かわら版」として、ホームページと紙媒体の会報紙で、事業に関わる情報として、講演会、意見交換会（川活談義）、勉強会、現地調査、ワークショップ、川遊びなど協議会のさまざまな活動やその報告とともに、めざす川の姿、川づくり、地域づくりについての情報を掲載している。 ・紙媒体の「かわら版」（2010年11月に第5号を発行）には、最近の活動状況やレポート、専門家の提言寄稿、川づくりのイメージなどを写真やイラスト図版とともにダイジェストで掲載、PDF版をホームページからダウンロードできる。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
○	○	○		○	○	○		○	

生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○	○		○		

情報の難易度	建設関係者等専門家とともに川や地域の環境に関心のある住民に対しても分かりやすい内容
情報の種類	調査・研究結果、事業・活動報告、地域資源の紹介
特徴・工夫	・地域や川の魅力や資源とともに、川づくりに・地域づくりに関わる専門的な知見等も写真やイラストを多用し分かりやすく紹介している。ホームページの「伊南川流域の豆知識」では、流域、沿川の魅力資源等ポイントを文章と写真、位置情報（Google Map利用）で紹介。 ・最新情報は、ブログで写真と文章により更新している。
課題	・事業は2009年・2010年の2ヵ年となっているため、現在、今後の展開に向けたまとめの段階に入っている。事業を具体化していくための情報発信等が今後の課題。

No.22

名称	多摩川流域リバーミュージアム	活用媒体	Webｻｲﾄ，紙，拠点施設
情報発信年	2001年	最終更新日	不明
情報発信者	国土交通省 京浜河川事務所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（学校・教育関係者　）		
対象エリア	多摩川流域		
URL	http://www.tamariver.net/index.htm		
目的	・国土交通省京浜河川事務所が2001年に策定した多摩川水系河川整備計画の中で、重点施策として位置づけられた「多摩川流域リバーミュージアム（TRM）計画」にもとづいた情報発信。多摩川流域をフィールドミュージアムとして捉え、多摩川の持つ価値を共有、学習していくための３つの柱として、①環境学習や活動のフィールドとしての多摩川の積極的な利用、講師の派遣やプログラムの提供など学習や活動の支援、②「岸辺の散策路」「川の一里塚」「水辺の楽校」などの河川ふれあい施設、市民活動拠点を整備と官民協働による運営、③多摩川の自然や文化、防災等情報を収集と携帯電話やパソコン等による提供が位置づけられれている。本サイトは、それを官民協働により具体的に推進していくための情報支援サイト。		
概要	・TRMの情報を多摩川沿川の関連施設や水辺の楽校、地域住民・市民による活動とも連動し、流域の幅広い市民の関心に応え、多摩川への興味や活動等への参加を促すための多様な情報を掲載している。 ・調べ学習や研究などに役立つ「多摩川百科事典」「多摩川電子図書館」など、独自の情報とともに京浜河川事務所や研究機関のサイトにもリンクしている。 ・沿川に多くある水辺の楽校や学校教育などで、多摩川活用した環境学習を支援するための教育者やリーダー向けの情報を「環境学習支援ツール」のページに集約し掲載している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
○				○		○		○	○

生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
	○		○	○	○			

情報の難易度	一般市民から市民活動リーダー、教育者向けに分かりやすい内容である
情報の種類	一般的知見・専門的知見・行政情報
特徴・工夫	・「多摩川歴史さんぽ」や「多摩川フォトさんぽ」など、写真を多用し、撮影ポイント等地図情報、コースガイド、解説等もあわせ、自然や歴史、景観などさまざまな視点、テーマから多摩川の魅力を紹介している ・それぞれのコンテンツは、関連情報へのリンクを含め内容が充実している
課題	・市民の活動情報は（情報量が多すぎることもあってか）網羅、更新しきれていない部分もある。京浜河川事務所のHPと関連事項で相互にリンクしていない部分もある	

No.23

名称	川崎・多摩川エコミュージアム	活用媒体	拠点施設、Webｻｲﾄ、紙,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	1999年	最終更新日	2010年8月
情報発信者	多摩川流域ネットワーク（TBネット），NPO法人多摩川エコミュージアム		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	多摩川流域		
URL	http://www.seseragikan.com/　（二ヶ領せせらぎ館ホームページ）		
目的	・国土交通省が進める「多摩川流域リバーミュージアム」計画の川崎版として事業を推進。情報発信拠点である「二ヶ領せせらぎ館」（国土交通省京浜河川事務所の施設、川崎市運営）による種々の委託事業実施案内や活動情報をインターネットや紙媒体の資料、同館に隣接した大型電子掲示板等で展示し、流域情報を来館者や流域住民に向けて発信している。		
概要	・公開型の情報発信、交流拠点である二ヶ領せせらぎ館では、チラシや書籍、ガイド等により、主に流域のイベントや交流会等への参加を呼びかけ、プロジェクト事業等の報告を行っている。 ・同館の事業は、川崎市からの委託事業を中心とし、流域や沿川の自然環境や歴史・文化に関わる普及、啓発、まちづくり提案、支援事業、行政との連携事業等があり、多くの事業が住民参加型事業のため、インターネットによる情報交流が主体となっている。 ・こうした各種の事業は、個別のチラシ等による来館者への呼びかけや館の運営スタッフによる対応、屋外の電子掲示板による常時放映等により行っている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○	○	○	○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○		○	○	○	○	○	○	

情報の難易度	学童や研究者、体験活動等のリーダーや一般の来館者、流域住民など多様な利用者に応じた幅広い情報提供を行っている
情報の種類	イベントや活動の案内と参加募集、交流会やセミナーの開催、活動実施報告等
特徴・工夫	・多摩川の河川敷にある多摩川国交省施設の中の公開型交流拠点を持ち、展示物や紙媒体による書籍や資料、運営スタッフによる対応といった来館者に対する直接的な情報発信とともに、インターネットにより幅広い情報の受発信を行っている。 ・ホームページでは逐次、活動の報告を投稿の掲載を行う。 ・多摩川エコミュージアム活動の中に設置されたプロジェクトリーダーが伝達のサポートをしている。 ・多摩川流域ネットワークの流域各所（8箇所）の交流拠点や水辺の楽校（17箇所）との連携によるインターネットによる情報の受発信を行っている。
課題	

No.24

名称	「野川流域連絡会」・「野川ルール」	活用媒体	Webｻｲﾄ、紙,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2000年	最終更新日	2008年8月
情報発信者	野川流域連絡会（事務局：北多摩南部建設事務所工事第二課）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	野川流域		
URL	http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/kasen/ryuiki/05/nogawa-title.htm		
目的	・2000年12月に設置され、現在第４期目として活動している「野川流域連絡会」は、公募による都民委員と団体委員、行政委員の約50名で組織され、互いの情報を共有しながら、意見交換、提案、勉強会、自然観察会など行っている。 ・連絡会では内部に研究部会を立ち上げ、渇水の問題や湧水保全、生きものの保護、親水、環境教育など多岐にわたる野川の課題に対し、各研究部会が取り組んでいる。連絡会の組織やその経過報告、研究の成果とともに、野川の抱えている課題を広く発信するとともに、利用者に対する啓発、外部の研究者・研究機関の研究への参画を促している。		
概要	・ホームページでの野川流域連絡会の紹介や各研究部会の検討内容や調査、研究の経過、成果などの報告。 ・研究会の一つ「生きもの分科会」での検討をもとに、生きものへの餌やりや採集、犬の散歩の他にペットの放流・草刈・ゴミなど野川の利用等に関する6項目について提案したパンフレット型のルール本「野川ルール」を発行、ホームページでも内容や検討の経過を紹介するとともに、PDFファイルをダウンロードできるようになっている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○	○	○	○	○	○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
	○	○			○	○		

情報の難易度	（ホームページ）河川環境の改善に関心を持つ市民や研究者向けの専門性の高い内容（「野川ルール」）地域住民など利用者に理解を得られやすい内容
情報の種類	調査結果、研究報告、啓発
特徴・工夫	・水量や湧水などの水循環や自然生態、利用に関するルールなどの多様な課題について流域で共有し、官民協働による検討結果や調査結果について経過を含めて公開することにより、課題の解決に向けた地域の合意や沿川住民の理解や協力、参画を促そうとしている。 ・特に利用等に関わるルールを提案した「野川ルール」は、禁止事項を挙げるのではなく、地域全体で課題を共有し考えていくための素材として位置づけ発信している。
課題	

No.25

名称	ニューズレター　夢見る三角川原	活用媒体	紙
情報発信年	2009年9月	最終更新日	
情報発信者	川原で遊ぼう会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（会員）		
対象エリア	多摩川流域、平井川流域（東京都あきる野市）		
URL	なし		
目的	・会員を中心とした川で遊ぼう会の活動の紹介と報告。 ・会が主催する平井川流域自然環境調査結果のレポート、河川改修情報等を提供し、子ども達が安心して遊べる川づくりを目的とする。		
概要	・B5版、モノクロ、32～36ページ程度 ・自然観察会やイベントの案内、ほぼ毎月行われている生物調査、平井川の河川改修工事情報、会員からのレポート、エッセイ等により構成されている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○	○	○	○		○

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○					

情報の難易度	子どもも含めた地域活動の仲間に対して、報告、情報提供の場でもあり情報を共有するためのツールになっている。
情報の種類	活動紹介・報告、調査結果
特徴・工夫	・学童を中心とした「平井川 川ガキ新聞」（A4サイズ、モノクロ、40ページ）を不定期に発行。編集も子どもが参加して行う（2010年9月で第13号） ・会独自のホームページ等はないが、会の活動概要、連絡先等は多摩川流域リバーミュージアムの水辺の活動団体紹介のページで紹介されている。
課題	・30ページ以上のボリュームのあるニュースレターで、内容豊富な反面、編集や印刷には労力、費用がかかる。

No.26

名称	西暦2010年の多摩川を記録する運動	活用媒体	紙,Webｻｲﾄ
情報発信年	2000年	最終更新日	2011年1月
情報発信者	西暦2010年の多摩川を記録する運動実行委員会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	多摩川流域		
URL	http://www.ac.auone-net.jp/~tamagawa/　（実行委員会事務局：NPO多摩川センター）		
目的	・多摩川の河川敷での人の利用、景観、古い映像資料の収集等を住民参加型と一斉調査等で情報収集し、記録報告集及び電子情報として発信。 ・調査の参加を通し、多摩川情報を体験的に獲得するとともに、調査記録の継続を目的とする。		
概要	・西暦2000年を記念し、市民参加型による多摩川情報の記録と普及を目的に、1）多摩川での人の利用行動一斉調査、2）生態調査（ｶﾜｳ、ｶﾝﾄｳﾀﾝﾎﾟﾎﾟの分布等）、3）河川景観、4）古い映像等の収集を行い、記録報告集及び映像のDVD化と公開を行った。 ・2000年に続き、10年後の2010年にも同様の調査等を行い、10年間の変遷等もあわせて記録し、2011年春季にレポート等として公開する予定。 ・調査方法は、流域住民、大学生に呼びかけ調査員を募集し、左右岸に別れた約30グループが堤防上のキロ杭を目印に、歩きながらの目視カウントにより調査する。2010年では、特別調査として、堤防から富士山が見える場所の調査、堤防沿いの5階建て以上の建物分布等もあわせて調査。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○								○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○					○利用調査結果

情報の難易度	調査に参加した市民団体や一般市民に分かりやすい内容（マップ化と記録集）
情報の種類	市民参加型調査結果
特徴・工夫	・調査員の募集に際し、前回（2000年）の調査や市民調査の意義について幅広い層、特に若い世代に呼びかけ参加を促している。 ・調査結果の集計を10年前と比較できるように工夫。 ・収集、DVD化した多摩川に関する映像記録を沿川の交流拠点で公開できるように工夫している。
課題	・市民参加型実態調査の継続 ・調査結果の普及・活用

No.27

名称	川のしんぶん	活用媒体	紙
情報発信年	1976年	最終更新日	2011年1月
情報発信者	多摩川の自然を守る会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	多摩川流域		
URL	なし		
目的	・多摩川の河川敷が運動場に整備されることに反対する目的で「多摩川の自然を守る会」を結成（1970）した。 ・市民に多摩川を肌で知ってもらうことを目的に始めた月例の自然観察会（1972～）のテキストとして「緑と清流」（1972～）を発行し、多摩川の自然環境保護運動に関するレポートとして「川の新聞」を発行（月1回）し、郵送で配布している。		
概要	・「緑と清流」（B5サイズ、4ページ）は、会結成10年以降毎月1回発行されている自然観察会当日の地図と前回の観察会記録と感想文集。 ・「川の新聞」（B5サイズ、8ページ）は、多摩川の自然のニュース、会員からの便り、河川工事情報、催し案内で構成。 ・以上の情報紙を会発足30周年を記念して「多摩川の自然を守る会記録」（2002年）「多摩川自然観察会記録」（2002年）、「多摩川自然観察会感想文集」（上・下，2010年）等を発行している。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○			○	○					

情報の難易度	主に手書きの地図やイラスト、記録で構成しているため、流域住民にとって分かりやすい
情報の種類	多摩川の植物、野鳥、昆虫等の観察記録、河川改修等の工事情報
特徴・工夫	・「川のしんぶん」は、地図、イラスト、手書きのメモで構成され、親しみやすい誌面になっている。 ・会設立の記念年ごとに復刻版や記録集としてまとめ発行している。
課題	

No.28

名称	財団だより「多摩川」	活用媒体	紙,Webｻｲﾄ
情報発信年	1978年	最終更新日	2010年12月
情報発信者	財団法人　とうきゅう環境財団		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	多摩川流域		
URL	http://home.q07.itscom.net/tokyuenv/		
目的	・多摩川流域の環境改善を目的とした企業CSRとしての研究助成を目的に設立（2010年10月公益財団法人）。主に以下の情報発信を目的としている。 ・多摩川の自然や歴史、文化に関する情報提供 ・流域の住民、研究者からの同上事項に関する寄稿 ・流域住民の住民、市民団体の活動紹介 ・同財団法人の助成活動等の案内、報告等		
概要	・情報誌「財団だより　多摩川」は、季報（年4回）、A4版、一部カラー、12ページ ・内容は、寄稿、投稿をベースに、「多摩川に学ぶ」、「多摩川散歩」、「私と多摩川」、「歴史　多摩川」、「インフォメーション多摩川」、「財団からのお知らせ」等で構成。 ・ホームページでは、多摩川に関する新聞記事（見出し、掲載新聞、掲載日）、流域各地の活動団体等の寄稿による「今日の多摩川と支流」（毎月掲載）、源流から河口までの多摩川の見どころを地図情報とコメントで紹介する「多摩川へ行こう」のほか、財団の主要事業である、多摩川及びその流域の環境浄化に関する調査、研究に対する助成事業（学術研究助成と一般研究助成）についての情報（応募要綱、採択結果、助成成果等）が掲載されている。 ・研究助成成果リストは、1977年度のものから、年度ごとの研究課題、概要、研究者等がホームページから閲覧できるほか、年度別、プログラム別やキーワードによる検索が可能。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○		○	○	○			○	○	
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
				○	○	○				

情報の難易度	長く学術分野と一般の研究助成を実施してきたこともあり、双方の活動や研究成果の情報が閲覧し、共有できるしくみになっている。
情報の種類	多摩川の自然、歴史、文化に関わる情報、研究成果、啓発
特徴・工夫	・主に投稿、寄稿により構成され、読み物的な工夫がなされている。 ・年度ごとの研究助成報告は、流域の主たる図書館や関係機関にも配布されている。 ・研究成果と研究の位置情報をインターネットで検索するシステムを開発中。
課題	

No.29

名称	源流の四季	活用媒体	紙
情報発信年	2002年	最終更新日	2011年1月
情報発信者	多摩川源流研究所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	多摩川流域　全国		
URL	http://www.tamagawagenryu.net/		
目的	・多摩川源流を拠点にした多摩川源流研究所による、源流域の森林の状況やNPO全国源流ネットワーク、全国源流の郷協議会等の活動の紹介、報告、行政の動き、多摩川流域のイベント等の広報を目的に行っている。		
概要	・情報誌「源流の四季」は、A4版、8ページ、カラー版、年4回（季刊）、2011年1月で40号を発行。8000部を流域に配布している。。 ・多摩川源流研究所、多摩川源流協議会（４市町村）、多摩川源流観察会、NPO法人多摩川源流こすげ等の活動案内及び報告、多摩川源流大学の授業報告等を掲載。 ・官民による上、下流交流事業の報告。 ・森林の施策、管理技術、制度等の紹介。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○		○		○	○		○	○	
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○			○	○	○	○			

情報の難易度	源流域の森林や地域振興に関する多様な情報を、下流域を含めた流域市民や自治体、教育関係等に向け、逐次情報を共有できる内容になっている
情報の種類	活動やイベント等の案内、報告、施策等の紹介
特徴・工夫	・全国の広範な活動や情報を提供、関係自治体への配布 ・国や自治体の施策、制度に対する提案や研究報告がある。 ・ホームページにおいても同様の発信をしており、「源流の四季」は創刊号（2001年春号）～24号（2007年冬号）のバックナンバーがPDF版で閲覧することができる。
課題	

No.30

名称	清流NEWS	活用媒体	紙,Webｻｲﾄ
情報発信年	1990年	最終更新日	2011年1月
情報発信者	日野市環境共生部　緑と清流課		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	日野市　浅川流域　多摩川流域		
URL	http://www.city.hino.lg.jp/index.cfm/13,411,34,45,html		
目的	・日野市域の湧水、水路、河川、崖線緑地に関する情報提供。 ・緑と清流課のみならず、関係部局の情報や市内外の活動団体の事業案内、報告を行う。		
概要	・ B5サイズ、二色刷り、6ページの構成、年4回発行。2001年1月号で86号。 ・ 緑と清流課職員により編集、発行を行っている。 ・ 2011年1月号では、巻頭言（外部）、用水クリーンデイ報告、環境月間報告、緑化協会イベント（菊花展）報告、シンポジウム報告、大学生のボランティア活動報告等により構成。 ・日野市のホームページ、同課のページからには、事業活動や過去1年間に発行された「清流NEWS」（PDF版）が閲覧できるほか、「日野市清流保全条例」* や関連する取組み、「湧水自噴井戸調査結果（平成元年度より毎月2回実施）」、「用水守制度の紹介」のほか水路に関わる諸手続きの案内などが掲載されている。 *日野市清流保全条例:昭和50年(1975年)制定、2006年全面改正		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○		○	○	○	○	○			

情報の難易度	市民に対する広報誌として、関連情報を幅広く分かりやすく掲載している
情報の種類	水や緑に関する行政情報やボランティア活動報告
特徴・工夫	・市の職員が執筆、編集、発行する課報。 ・日野市内だけなく、市外の流域（浅川・多摩川）も視野に入れた関連情報を掲載している。
課題	

No.31

名称	鶴見川流域ネットワーキング ホームページ『バクの流域へようこそ』	活用媒体	Webｻｲﾄ,紙,拠点施設
情報発信年	2001年1月 (HP)	最終更新日	2011年1月11日
情報発信者	鶴見川流域ネットワーキング		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（教育関係者）		
対象エリア	鶴見川流域		
URL	http://www.tr-net.gr.jp/		
目的	・流域を「バク」の姿として捉え、流域で連携し、さまざまな活動を展開しているNPO鶴見川流域ネットワーキング（TR-NET）のホームページ。鶴見川流域の流域連携による活動組織や活動の情報を幅広く紹介、発信し、流域住民の「流域地図」の共有、活動への参加を図っている。		
概要	・鶴見川についての基礎情報、流域連携によるTR-NETの組織と多様な活動、総合治水対策や流域マスタープラン等河川行政施策や協働による計画づくりの経緯や内容を体系的に掲載している。 ・TR－NETの主要な流域活動である、「流域学習」（理念や方法、学習支援体制、拠点施設である鶴見川流域センターの活用）、「流域クリーンアップ作戦」（2010年で17回）、「バクの流域ウォーカー」（流域ウォーキング情報サイト）、「流域スタンプラリー」などについて、活動募集や活動報告などを含めて紹介している。 ・TR-NETではウォーキングマップや生きものガイドブック等を発行している。そうした出版物は一部書店でも購入できるほか、ホームページでも概要や入手方法を紹介している。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○	○		○	○	○	○	○	
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○		○	○	○		○			

情報の難易度	専門家から環境学習リーダー、一般市民など多様な層に向けた分かりやすい内容
情報の種類	活動紹介、参加募集、調査結果、啓発、ガイド
特徴・工夫	・ホームページでは、流域各地で地域の市民団体が中心になり定例的に実施している水辺や雑木林の管理作業や生きもの調査・クリーンアップなどのイベントに対する登録制（「誰でもいつでも気軽に参加できる」）のボランティア募集を行い、流域住民の活動参加を促している。 ・鶴見川流域マスタープランなど関係している計画や事業等について、行政情報とのリンクもあわせ紹介している。 ・「流域学習」の推進に関わり、運営業務を行っている鶴見川流域センターでの流域に関わる情報発信や活動、鶴見川及び支川等をフィールドとする体験学習や川遊びのための「学習川遊び安全ガイド」を発行（パンフレット版とダウンロード版）。 ・HP上で「流域目視録」として、投稿写真のデータベースを構築、デジカメや携帯電話の写真機能を利用し、流域の情報を投稿、閲覧できるようになっている。
課題	

No.32

名称	彩湖自然学習センター	活用媒体	Webｻｲﾄ,紙,拠点施設,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	1997年6月	最終更新日	2011年2月1日
情報発信者	国土交通省荒川上流河川事務所・埼玉県戸田市　教育委員会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（学校・教育関係者）		
対象エリア	荒川流域　関東地域		
URL	http://www.city.toda.saitama.jp/433/432448.html　（戸田市ポータルサイトから）		
目的	・戸田市郷土博物館の分館として、荒川第一調節地（彩湖）湖畔の国土交通省の水環境センター浄水場の一部を借用し設置された。施設の機能として、以下を目指している。 ① 自然と地域への関心を触発することにより地域住民としての意識高揚を図る ② 自然の不思議を理解する学習意欲を支援し、自然環境を保護する心を育む ③ 川をテーマに、自然・文化の育成を促し、地域にやさしい町づくりを目指す ④ 市民とともに成長し、自ら育てるミュージアム		
概要	・5階建ての館内は、大型水槽、水辺シアター（野鳥、水鳥についての展示）、観察ステーション、事務室、オリエンテーションルーム（学習室）、展望広場等により構成され、フロアごとにテーマを設定した展示を行っている。 ・彩湖をフィールドとし、施設を利用した自然観察会や野鳥観察、登録制による子ども自然クラブの活動など、年間を通じてさまざまな自然講座が企画、運営されている。 ・施設や利用情報、講座の案内や募集のほか、毎月行われている彩湖の鳥類調査の調査結果等はホームページから閲覧できる。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○						○	○	○
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○		○	○		○	○	○		

情報の難易度	子どもも含めた地域住民や一般市民、教育関係者や自然学習リーダーなど幅広い層に対応した分かりやすい内容
情報の種類	自然環境情報、地域情報、行政情報、学習資料、調査結果
特徴・工夫	・施設の企画運営を教育委員会が行っていることもあり、学校教育との連携に力を入れている。フィールドの活用や施設に来館しての学習に対するサポート（ワークシート、学習の手引書の提供、自然体験活動プログラムの相談等）や環境学習等に関わる出張授業や自然に関わる教材提供、資料・備品の貸出をあわせて行っている。
課題	

No.33

名称	埼玉県水辺再生課ホームページ 「川の国埼玉へ」	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	1997年6月	最終更新日	2011年1月27日
情報発信者	埼玉県水辺再生課		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（		
対象エリア	埼玉地域		
URL	http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/l08/		
目的	・2007年に定められた「川の国埼玉 川の再生基本方針」のもと、地域資源を有効に活用し、個性ある取組を実践しようとする地域（地域住民、NPO、企業、市町村等）との連携・協働により、「清流の復活」、「安らぎと賑わいの空間創出」を二本の柱とする川の再生とともに、川が地域の共有資産として広く県民に認識され、地域による持続的・自立的な改善行動、維持管理が行われることをめざし情報発信を行っている。		
概要	・ホームページは、川の再生の推進体制、県内100箇所（県内より募集）で事業実施の4年間にそれぞれ推進する「水辺再生100プラン」の概要や各箇所の取組の実施状況、モデル箇所の整備についての紹介、関連するイベント等の情報、事業候補箇所に対する県民の提案、ほか関連情報により構成されている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○		○	○	○	○		○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
		○	○	○	○	○		

情報の難易度	地域住民や市民団体等市民が事業の概要について把握できる内容になっている
情報の種類	行政情報（河川環境整備事業等）、イベント情報
特徴・工夫	・川の再生100プラン実施箇所はGoogle Mapを利用し、川ごとに検索、各箇所の位置情報、モデル事業については事業の概要を閲覧できる（2010年5月25日作成、同年7月29日更新）。 ・2005年度より彩の国リバーサポート制度(水辺のサポーター)を募集により実施(2011年1月現在、登録団体206団体）、活動を支援している。 ・「川の再生交流会」として、県内の活動団体が参集し、議論、交流する大会は毎年1回開催されている。
課題	・上記地図情報に関して、位置情報以外の情報（概要や写真や取り組み状況、関連情報等）についての追加記載、更新。

No.34

名称	あらかわ学会年次大会	活用媒体	ｲﾍﾞﾝﾄ,Webｻｲﾄ,紙
情報発信年	1996年	最終更新日	2011年2月
情報発信者	NPO法人あらかわ学会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	荒川流域　関東地域		
URL	http://www.arakawa-gakkai.jp/		
目的	・あらかわ学会（以下、学会）は、首都圏を流れる荒川の歴史的、今日的意義と役割を見つめ直し、流域と流域住民との関係のあるべき姿や自然・文化の有様を考え、流域住民に広く普及、発信していくことを目指して、多様な分野の市民が集まり設立（1996年）。学会として行う調査・研究や交流・啓発事業のほか、「自然・環境」、「歴史民俗」、「美術」、「写真」、「整備と管理」の５つの委員会による活動が行われており、市民環境科学の実践、確立、普及をめざしている。 ・その主要事業である「年次大会」では、研究、活動等の報告を募集、論文集にまとめ、発表会、討論等により広く共有、発信する目的で毎年1回開催されている。		
概要	・「あらかわ学会年次大会」は、荒川に関する研究、活動、意見・提案などの論文、ポスター作品について会員を中心に（行政及び高校生以下は非会員も可)募集し、論文集としてまとめ、その発表、質疑、展示を中心に議論等を行う。 ・論文の募集、発表は、大きく「自然・環境」、「河川土木」、「歴史・文化」、「地域社会」の各部門によるもので、河川管理者や市民団体による事業、活動のほか、個人による研究成果や提案等も含まれる。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○			○	○	○	○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○		○	○	○		○		

情報の難易度	論文・ポスターによる発表、質疑等により大会参加者にとって相互に理解しやすい
情報の種類	学術研究成果、事業・活動報告、提案、映像作品等
特徴・工夫	・市民団体による活動や、行政の事業とともに個人の学術研究や提案など、発表、論文の内容は多岐に渡り、多様な関心、立場からの参加により、それらの情報を共有し、議論することができる。 ・事業や活動の成果や提案について、論文集という形でまとめ、記録として蓄積している。 ・あらかわ学会では、年次大会のほか、関東地方の他の流域、地域の市民、行政等に呼びかけ、川づくりや地域づくりの取組みについて募集、発表、討論等を行う「川の日ワークショップ関東大会」を実行委員会主催で毎年開催している（2011年1月に第6回大会を開催）。
課題	・論文・発表の募集による収集や参加者の拡大

No.35

名称	荒川クリーンエイドニュース	活用媒体	Webｻｲﾄ,紙,拠点施設,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	1994年	最終更新日	2011年1月
情報発信者	NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラム		
対象者け手)	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	荒川流域　東京都・埼玉県　全国		
URL	http://www.cleanaid.jp/index.html		
目的	・荒川のゴミ清掃を通して自然環境保全の啓発を行う目的で、1994年の活動開始とともに、会報誌やリーフレット、報告書、インターネットにより行われている情報発信。 ・河川環境改善の啓発や活動の報告、流域市民や企業に対する活動参加への呼びかけ、広報資料として活用している。		
概要	・荒川水系の下流域を中心に、春期、秋期の年2回行われているゴミ一斉清掃（ゴミ調査、水質簡易調査も同時に実施）の呼びかけや活動報告、調査結果の報告や環境学習やエコーツアー等、関連する活動やイベント等について、広く情報を発信している。 ・情報発信として、毎年のクリーンエイドの活動参加や実施日、実施場所、団体を示したカラーリーフレットのほか、「ニュースレター」（年3回、A4サイズ、二色刷り）、ホームページ（随時更新）、年間活動報告書（年1回）等の発行があり、会費制による会員や実施団体、関係機関を中心に発信されている。 ・ニュースレターの主な内容は、①報告、連絡会の案内、②クリーンエイドの実施情報、③環境学習講座の案内、④エコツアー等イベントの案内、⑤事務局からの連絡事項等がある。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○		○	○	○		○		
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○			○	○					

情報の難易度	流域市民や活動団体、学校、企業など幅広い層に対して、啓発や活動への参画を促す分かりやすい情報を発信している。
情報の種類	活動情報、調査（ゴミ、水質）結果、啓発
特徴・工夫	・会の主要の活動の一つに情報発信を位置づけ、河川ゴミや水質、環境学習に関わる情報を、紙（ニュースレター、パンフレット、冊子、報告書、図書）、インターネット（ホームページ、メールマガジン）等さまざまな方法で発信している。 ・清掃等に関わる各団体、学校、企業等の情報交換ツールとしての役割や、協賛企業の社会貢献の広報的な役割も持つ。
課題	

No.36

名称	荒川へようこそ！	活用媒体	紙(ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ)
情報発信年	2010年	最終更新日	
情報発信者	国土交通省 荒川下流河川事務所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（沿川の小学校等）		
対象エリア	荒川下流流域		
URL			
目的	・事務所管内の荒川下流域各所での自然・環境を守る取組み、川で遊んだり自然に親しむことができるスポットを紹介し、都市に残された貴重な自然を流域市民が知り、活用しながらともに守り育てていくことを目的に、活動団体の協力、参加によって編集、発行された。 ・荒川下流部で行われている自然の保全・再生の事業や効果、その他の環境関連事業の概要などを広報として掲載している。		
概要	・荒川及びその流域、人工的に造られた放水路である下流部についての基礎情報とともに、河川敷の自然のスポット（自然再生を進めている場所や水辺の楽校、子どもの水辺など）について、それらをフィールドとしている活動団体とともにマップや、イラスト、写真によって紹介している。 ・各自然のスポットの紹介ページは位置図やアクセス方法とともに、そこで見られる生きもの等どんな自然なのか、どんな活動が行われているのかといったポイントを豊富な写真等によって紹介。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○			○		○	○		
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○			○	○					

情報の難易度	自然学習リーダーや小学校の教職員にとっての学習教材・素材として、川や自然に親しむ体験や活動への参加を考えている子どもの親にとってのガイドとしてわかりやすい内容
情報の種類	フィールドガイド、事業・活動情報
特徴・工夫	・各自然のスポットは、その場所をフィールドに活動をしている団体のリーダー等が写真（活動や生きもの）や情報を提供し、各フィールドリーダー（イラスト）が紹介する形で紙面構成されている。 ・本パンフレットは、沿川の施設や小学校等に学習ガイドや素材として配布されたほか、協力した活動団体の広報資料として、提供、活用されている。
課題	

No.37

名称	荒川なんでもMAP	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2010年	最終更新日	
情報発信者	国土交通省 荒川下流河川事務所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	荒川下流流域　（東京都・埼玉県）		
URL	http://www3.ktr.mlit.go.jp/arage/itgis/nandemomap/map.cgi		
目的	・国土交通省荒川下流河川事務所の広報ホームページの中の沿川及び周辺地域の施設等さまざまな利用に供するための関連情報ページ「荒川に行く」に掲載されているWeb流域情報マップ。		
概要	・荒川下流域の河川敷施設を中心とするビューポイントやトイレ、スロープなど荒川のお散歩情報や、サッカー場・野球場など河川敷の施設、流域の福祉施設などの場所（全705件）を検索、閲覧できるGoogle Mapを利用した地図情報。 ・マップ検索とともに各項目の情報（写真や施設によっては連絡先等）の一覧で検索、閲覧できるようになっている。		

情報カテゴリー										
	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
	○						○			
	生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
			○						○河川敷施設・自治体福祉施設	

情報の難易度	流域市民が簡単に河川敷や流域自治体の利用施設の位置情報等を閲覧することができる。
情報の種類	行政情報、河川敷施設情報
特徴・工夫	・荒川下流域の河川敷の情報に限らず、流域自治体の福祉施設や広域避難場所に関する位置情報等を掲載している。 ・本パンフレットは、沿川の施設や小学校等に学習ガイドや素材として配布されたほか、協力した活動団体の広報資料として、提供、活用されている。
課題	・河川管理施設や防災、福祉施設、利用についての情報を中心に掲載しているが、自然再生地や川や河川敷をフィールドとする活動情報等については、子どもの水辺登録地の3件のみで、行政情報のみの掲載となっている。市民活動情報など追加情報の掲載については、特に明記されていない。また、各項目の個別情報にコメント欄があるが、まだ記入されていない。 ・荒川下流河川事務所のHPの「荒川に行く」からリンクするが、バナー表示など目だった表示がないため見つけにくい。

No.38

名称	新河岸川コミュニケーションマップ	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2007年6月10日	最終更新日	2010年11月1日
情報発信者	柳瀬川流域水循環市民プロジェクト研究会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	新河岸川流域　東京都・埼玉県　～全国		
URL	http://www.strata.jp/yanase/		
目的	・新河岸川の流域の水循環に関係するデータや諸情報、流域の資源や魅力資源を流域市民の参加によって集め、地図上に“流域資源・魅力マップ”として整理・蓄積・発信する ・流域市民や企業等のコミュニケーションや多用な参加のプログラムを開発していくための基本ツールとするとともに、市民や企業等の流域コミュニケーションツールとする。		
概要	・新河岸川流域の水循環、水環境、生物、流域資源、魅力情報などのデータや情報を流域市民が集めてWEBのGISマップ上に登録・蓄積・発信することができるシステム。GISエンジンは、GooglMapを利用している。		

情報カテゴリー										
	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○		○		○		○		○緑地・農地・食	

情報の難易度	一般市民向け
情報の種類	調査結果　一般的知見　啓発　市民からの情報収集結果
特徴・工夫	・WebGISの活用により市民による情報の登録も可能 ・Google Mapの活用により操作が簡易 ・情報登録時の形式が多用（word、excel、pdf） ・水質調査結果がデータベースとして蓄積されている ・河川環境関連の調査や活動情報など関連する多様な情報掲載の可能性がある。
課題	・データが重く、クリックからのタイムラグが大きい。 ・字が多く内容が読み取りづらい。 ・各年度、地点ごとにしかデータがダウンロード出来ないため、大量データのダウンロードの手間が大きい。

No.39

名称	新河岸川流域 身近な川・里川マップ	活用媒体	紙・Webｻｲﾄ
情報発信年	（流域一斉調査：1990年スタート）	最終更新日	2009年6月
情報発信者	新河岸川水系水環境連絡会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	新河岸川流域　埼玉県・東京都		
URL	http://www.strata.jp/yanase/index.html（新河岸川コミュニケーションマップ）		
目的	・東京都と埼玉県にまたがる新河岸川および各支川の全流域で、河川浄化、自然環境の保全・回復を図り、それをまちづくりに生かしていくことをめざして、流域の活動団体が、個別の取り組みとともに流域全体につなげていくことを目的に、緩やかな市民ネットワークとして1994年に組織。 ・連絡会の共同事業として、流域の市民団体、住民団体、教育機関、企業、行政等との連携により、河川環境の調査「身近な川の一斉調査」と結果のマップ化による広報をとおし、市民科学、環境科学の普及、発展めざしている。		
概要	・「身近な川の一斉調査」は、新河岸川水系では1990年にスタートし、現在は、毎年6月に行われる「身近な水環境の全国一斉調査」（全国水環境マップ実行委員会）と連携し、連絡会の事業として調査箇所250ポイント以上、参加団体50グループ以上により水質調査や水生生物調査等が行われている。結果は、イラストや写真、流域図をベースとするマップを毎年発行し、公表している。 ・調査結果を活かした環境学習教材として、2009年には公的助成を受け、新河岸川流域で見られる鳥と魚の生きもの図鑑ともなる下敷きを作成し、流域の学校に配布している。 ・2009年度版は、調査結果をと水質の指標となる水生生物の写真を流域図に掲載、裏面は新河岸川流域身近な川・里川マップとして流域の湧水ポイントを写真で掲載している。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物（ﾃﾞｰﾀ）
			○	○				○	○	○
	生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○			○	○					

情報の難易度	流域地図上への調査結果の反映により、流域住民にとって視覚的に理解しやすい
情報の種類	調査結果、地図情報、啓発
特徴・工夫	・水質・生き物等のデータをweb上のマップ（新河岸川コミュニケーションマップ）に反映し、他の情報とともにだれでも閲覧できる。
課題	

No.40

名称	新河岸川流域新聞「里川」	活用媒体	紙、Webｻｲﾄ
情報発信年	1998年	最終更新日	2010年1月
情報発信者	新河岸川流域川づくり連絡会（事務局：国土交通省荒川下流河川事務所）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	荒川水系新河岸川流域		
URL	http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/shingashi/		
目的	・新河岸川流域川づくり連絡会は、新河岸川流域において総合治水対策や川づくり、水循環を支川や流域の地域づくりとともに流域全体で推進していくため、流域の国（荒川下流河川事務所）、自治体、住民（団体）等を中心に市民間、市民と行政との情報交換、共有のために組織され、「流域フォーラム」や「川づくり見学会・交流会」等の開催とともに、連絡会の情報誌として「流域しんぶん　里川」（1998年～2010年まで60号）を発行している。 ・情報誌は、主に流域での活動、イベントへの参加案内や河川管理情報の提供、総合治水対策の啓発を目的とする。		
概要	・「里川」では、流域の行政（東京都、埼玉県など）の情報提供、住民団体のイベントカレンダーや活動の案内、総合治水対策や環境に関する啓発情報、事務局だよりなどにより構成されている。 ・最新号（2010年1号，第60号）の内容 ：①流域源流まつり、川まつり等の報告、イベント案内、②総合治水対策とは？、③連絡会への一般参加の呼びかけ　等		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物（ﾃﾞｰﾀ）
	○		○		○	○		○	○	
	生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○		○	○	○	○	○			

情報の難易度	一般市民に向けて流域の環境や行政施策、活動団体について分かり易く示している
情報の種類	イベント・活動情報、行政情報、啓発
特徴・工夫	・写真やイラスト、地図などを多用したレイアウトで分かりやすい。 ・河川管理者等行政による施策や事業のPR度が高い。 ・関連する情報や過去に開催されたのシンポジウムや研究会報告や資料、「里川」のバックナンバー（PDF版）、これまでの活動の報告等、ホームページで閲覧できるようになっている。
課題	

No.41

名称	ブログ　きよせ中里だより	活用媒体	ブログ
情報発信年	2008年4月	最終更新日	2011年2月3日
情報発信者	川づくり・清瀬の会（個人のブログ）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　）		
対象エリア	新河岸川水系（柳瀬川）　東京都清瀬市		
URL	http://seiryukara.blog32.fc2.com/blog-category-8.html		
目的	・清瀬の暮らしのなかにある風景や自然、まちなかを流れる柳瀬川、空堀川、金山調節地の様子やその川を見守る活動などを、日々の出来ごとなどとともに発信している。		
概要	・カテゴリーでは「清瀬の自然」が最も多く、地域で見られる植物の紹介や川や自然再生地である保全活動等を豊富な写真と短いコメントで紹介している。 ・2番目、3番目に多いカテゴリーである「河川環境」、「市民活動」では、柳瀬川や空堀川の工事情報や懇談会の報告、所属している地元の市民団体の活動の様子などを、こまめにとりあげ、個人のブログでありながら、団体の活動紹介や地域全体の情報発信の役割を果たしている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○		○		○	○	○	○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○		○		○		○		○水質事故

情報の難易度	活動団体の仲間や地域住民に向けた親しみやすい分かりやすい内容になっている
情報の種類	地域の自然情報、工事・計画情報、活動報告
特徴・工夫	・地域環境に対する地域住民・市民のウォッチングが豊富な写真とコメントによって表現されている。 ・特に市民団体として取り組んでいる空掘川の動植物や自然環境、川づくりの活動や工事、計画などの情報は、活動団体内のみならず、同新河岸川水系の活動団体や市民に対するタイムリーな情報提供にもなっている。
課題	

No.42

名称	いるま川筋文化ネットワーク	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2009年	最終更新日	2010年11月10日
情報発信者	いるま川筋文化ネットワーク		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　）		
対象エリア	荒川水系入間川流域　埼玉県		
URL	http://www.various-things.com/irumabunkatoppu.html		
目的	・「いるま川筋文化ネットワーク」は、会員と市民の協働によって、入間川水系、加治・阿須丘陵の自然環境保全活動や地域の様々な文化活動を通じて、豊かで住み良い街づくりをめざし、入間川の自然再生及び会員相互や各種団体との交流親睦を深めることを目的に組織された。 ・かつて舟運によって栄えた入間川や地域の川筋文化を地域で共有し、川の自然再生とともに復活させることを目的に活動し、関連する情報をホームページにより発信している。		
概要	・会の紹介、川の再生、利用に関する提案等、活動についての全てがホームページに掲載されている。 ・入間川をウォータースポーツのエコミュージアムとする「入間川アクアエコミュージアム」として再生する会の提案や、県の河川事業等の関連情報。 ・入間川の歴史を子どもたちに知ってもらう運動を展開していくため、関連する資料（川と地域に関わる歴史、文化、産業、生業、自然などについて）等。 ・入間川を障害者や子ども達なども安心してカヌーなどができるフィールドとしていくための会のフィールド活動等についての紹介		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○			○	○	○	○	○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○	○		○		

情報の難易度	主に会員や地域住民等に向けた、活動の目的や内容、提案などの分かりやすい内容
情報の種類	活動紹介、報告、提案
特徴・工夫	・活動写真等を多用し、水辺でのフィールド活動と、川の自然再生、川の再生による地域文化の醸成といった会の活動を分かりやすくアピールしている。 ・会の活動報告や、関連情報を主に会員や関係者に向けて会報誌「あめんぼ通信」（最新号は2010年8月の第7号）をホームページ上（トップページ）で発信している。
課題	

No.43

名称	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	活用媒体	Webｻｲﾄ,ｲﾍﾞﾝﾄ,拠点施設
情報発信年	2008年4月	最終更新日	2011年2月3日
情報発信者	茨城県霞ヶ浦環境科学センター		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	霞ヶ浦流域　茨城県		
URL	http://www.kasumigaura.pref.ibaraki.jp/index.htm		
目的	・霞ケ浦環境科学センターは、新たな湖沼環境の保全と管理のあり方を探るため1995年に開催された「第６回世界湖沼会議－霞ヶ浦'95」を契機に、その設置が提唱され、10年後の2005年に設立された。人と自然の共生する環境の保全・創造を謳った「霞ヶ浦宣言」の精神を受け継ぎ、実現するため、環境保全に関する調査研究とともに、環境学習や市民活動の拠点として県民の利用に供することを目的としている。		
概要	・施設は、「湖沼とともに生きる」をテーマに、霞ヶ浦の歴史・暮らし・生き物たち・水質・地球環境などから構成された展示、交流サロン、会議室、文献資料室のほか、多目的ホールや市民団体、研究者、企業などが環境活動の成果などを展示・発表することができるスペース（展示交流広場／小展示室）、研究室、研究室により構成されている。 ・ホームページは、センターの総合情報サイトとして、講座・イベントなどの最新情報のほか、調査・研究成果、市民活動や環境学習の支援情報等が掲載されている。 ・その他の発行物として、パンフレットや『霞ケ浦環境科学センター年報』（最新号・第5号，2009年）、『霞ケ浦環境科学センターだより』（最新号･No.6 2009年3月）等の定期刊行物がある。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見･提案	河川改修	環境学習	歴史･文化景観･資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○			○						○
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動･事業内容	他団体･流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○			○	○	○	○			

情報の難易度	研究者や専門家、一般市民まで幅広い層の利用に対応する多様な情報提供や情報交流の仕組みを有する
情報の種類	施設利用情報、調査・研究成果、行政情報
特徴･工夫	・県民の施設の活用や民間の環境活動の支援を図り、申請により展示室、交流サロン及び文献資料室やホール会議室などが利用できるようなっている。 ・HPからリンクする「茨城県水質マップ」はGoogle MAPを利用し、県内各河川ごとの調査結果が表示され、地図上のポイントから、各調査地点の水質の経年変化も閲覧できる。
課題	

No.44

名称	いんざい水の郷ネットワーク	活用媒体	Webｻｲﾄ,ﾌﾞﾛｸﾞ,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2007年3月	最終更新日	2011年1月24日
情報発信者	NPO法人いんざい水の郷ネットワーク		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（来訪者）		
対象エリア	千葉県　印旛・手賀沼流域		
URL	http://www.inzaimizunosato.com/index.html		
目的	・「NPO法人いんざい水の郷ネットワーク」は、かつて「木下河岸（きおろしかし）」として、江戸時代から明治時代にかけて利根川の下流域と江戸を結ぶ中継地として繁栄していた千葉県印西市の木下、大森地区において、歴史ある豊かな自然環境、水辺を活かした地域の活性化を目指して設立(2006年)された。舟運事業を中心に、歴史資源、自然資源、伝統の食などの地域資源を活用し、歴史と文化に育まれた中心市街地等と、新しい街である千葉ニュータウン地域が相互補完する一体的なまちづくりを目指して活動している。主要事業である地域の舟運事業において、訪れる人や流域住民にも活動の主旨や地域資源を伝えるための情報発信を行っている。		
概要	・「ぶらり川めぐり」は屋根つきの平舟で六軒川、弁天川、手賀川をめぐるもので毎年3月～11月の隔週の土日に運行している。30分コース（六軒川と弁天川をぐるりと一周するコース）、60分コース（手賀川まで進み発作の田園風景も楽しめるコース）、手賀沼コース （船を１隻貸し切って手賀沼まで行くコース）があり、航行とともに、生きものや自然環境、地域の水辺の歴史等についてガイドする。 ・地域の水辺に見られる生きものや歴史については、ホームページ上でも公開、閲覧できる。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見･提案	河川改修	環境学習	歴史･文化景観･資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○						○	○	
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動･事業内容	他団体･流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○			○			○			

情報の難易度	地域住民や一般市民に対し、地域情報や魅力資源について、舟めぐりによる現場での情報提供も含め分かりやすい内容になっている
情報の種類	活動情報、地域の自然環境・歴史情報
特徴･工夫	・ホームページの新着情報が定期的に更新し、清掃活動や防災訓練など舟運事業や会の他の活動について、逐次、写真とともに報告している。 ・新聞やテレビ、雑誌などのメディアで舟運事業「ぶらり川めぐり」が取り上げら得る機会が多く、地域ニュースなどの動画をトピックとしてホームページ上から閲覧できるようになっている。
課題	

No.45

名称	利根運河フットパスマップ	活用媒体	紙
情報発信年	2010年9月	最終更新日	
情報発信者	利根運河協議会（事務局：国土交通省江戸川河川事務所）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	関東地域　千葉県野田市、柏市、流山市		
URL	http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/project/tiiki/eco_park/		
目的	・利根川と江戸川を結ぶ舟運航路として開削され、千葉県野田市、柏市、流山市にまたがって流れる利根運河が、地域の人々に親しまれ、周辺の自然環境や歴史文化と調和し、より美しい環境が形成されることを目標に、国土交通省、千葉県、関係市、有識者、民間団体の代表により「利根運河協議会」が組織（2006）され、「利根運河エコパーク実施計画」が策定（2009）された。その実現に向けた生態系の保全や観光振興などの一環で、流域住民や一般市民にその魅力資源を紹介するために発行されたガイドマップ。		
概要	・「利根運河フットパス」は、利根運河を中心とした三市に残る豊かな自然やビューポイント、運河にまつわる歴史文化などのスポットを巡る散策ルートで、現在、「利根運河大師を巡る道」、「谷津の四季を楽しむ道」、「利根運河河口までの道」の３つのテーマを持つコースが設定されている。 ・各フットパスのルート及びポイントを紹介するマップ（A3・両面カラー版、4つ折）が発行されている。 ・利根運河の概要や取組み、歴史的背景などを紹介する同サイズのリーフレットも発行されている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
								○	
生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
○						○		○緑地・農地	

情報の難易度	活動団体の仲間や地域住民に向けた親しみやすい分かりやすい内容になっている
情報の種類	地域の自然情報、工事・計画情報、活動報告
特徴・工夫	・関連するシンポジウムの開催やフットパスの広報のためのウォーキング大会なども開催され普及を図っている。
課題	・フットパスの普及、流域住民の関わりと参加

No.46

名称	よこはまかわを考える会ニュース	活用媒体	紙,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	1982年	最終更新日	2011年1月
情報発信者	よこはまかわを考える会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全国		
URL	なし		
目的	・横浜市内の河川に関する活動団体の紹介や同会が企画するイベント、学習会、研究会等の紹介と案内。 ・横浜市内河川の環境情報や全国の川での活動紹介を通して、川に関する啓発や活動の活性化を図る。		
概要	・ニュースは、毎月1回発行（2011年1月1日号で347号）。B5サイズ、モノクロ、6～8ページで、毎回約800部発行し、全国に郵送している。 ・月1回の定例研究会の案内、会員（全国）からの情報、投稿、会員のサークル、研究会等の報告。川に関するトピックス、横浜をはじめとする全国の川でのかわづくり、まちづくり活動団体のイベント情報、全国規模の大会の案内等。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○	○				
生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
			○	○		○			

情報の難易度	活動団体や関心の高い層が、関連する地域及び全国情報を確認することができる
情報の種類	研究会・活動・イベント情報、活動報告、会員による投稿（環境、生きものに関するコラム、エッセイ、レポートなど）
特徴・工夫	・会報紙は約30年近く毎月発行され、さまざまなテーマにより講師を招いた定例研究会を毎月開催している。 ・横浜の地域発情報誌ながら、ネットワークを活かした全国の住民・市民団体の活動情報等が記載されている。 ・同会が発足支援を行った種々の研究会やサークル紹介を積極的に行っている。誌面は主に投稿により構成されている。 ・郵送費削減もあり、希望者にはPDF版のメールでの発信も行っている。
課題	

No.47

名称	向上高校生物部	活用媒体	Webｻｲﾄ,紙
情報発信年	1999年	最終更新日	
情報発信者	向上高校生物部		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　学校関係　）		
対象エリア	神奈川県～全国		
URL	http://www.kojo.ac.jp/club-bio/index.html		
目的	・同校生物部による神奈川県下の河川、水系におけるタイワンシジミ、マシジミ等の分布調査結果の公表とシジミに関する地域情報の収集。 ・全国シジミネットワーク（仮称）形成のための提言と啓発。		
概要	・全国の河川、水系に拡大する外来種のタイワンシジミによる在来種の駆逐が問題になっている折、学校の部活動として県内の河川等の調査を行い、生息する種、分布等、調査結果を発表した。 ・この情報提供をベースに各地の市民、活動団体等に呼びかけ、生息するシジミに関する情報を集め、研究を推進している。 ・また、全国の関係機関、団体、学校等に呼びかけ、全国シジミネットワークの構築を図っている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
					○		○		○

生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○					

情報の難易度	写真や図表の多様により研究者によらず分かりやすい内容になっている
情報の種類	調査結果、報告、啓発
特徴・工夫	・タイワンシジミに関する情報、調査結果、繁殖拡大の経緯、今後の課題等、学生の目線で分かりやすく紹介している。 ・アンケートによる市民へのシジミ分布に関する調査への参加、協力を図っている。 ・さまざまな機会で研究報告や発表等の情報発信を積極的に行い、学校教育、部活動の枠にとどまらない情報発信やネットワークの広がりとともに研究成果の普及、啓発を図っている。
課題	

No.48

名称	水のことを知っていますか？	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2006年	最終更新日	2006年
情報発信者	国土交通省関東地方整備局		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（学校・教育関係者　）		
対象エリア	関東地方		
URL	http://mizujyouhou.ktr.mlit.go.jp/		
目的	・普段使っている水や使った後の水について、また、雨水や身近な川についてなど、「水」や「流域」への関心を促すため、さまざまな情報を提供する総合サイト。		
概要	・問題に答える形式やテーマやクイズ形式の問題を示し、さまざまな水に関わる関心を引き出し、理解を深めるための検索機能の利用や関連情報へのアクセスができるようになっている。 ・郵便番号や住所からその場所の「流域」が検索でき、位置情報や水系、雨水の流れについて、また、地域の取水・給水状況（取水内訳、浄水所等）、下水状況（下水道整備状況、下水の行方）、水道水の水質などのデータ検索が可能。 ・「水の資料館」として、行政機関等の水や川に関わる子ども向けのサイト、水や生きもの、河川、流域、水源、上水、下水などの各テーマから関連するサイトへ容易にアクセスできるようになっている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
		○	○				○		

生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他

情報の難易度	子どもだけでなく幅広い年齢層の地域住民に対して分かりやすい内容である
情報の種類	位置情報、調査データ、学習教材、啓発
特徴・工夫	・行政界を超えた流域のなかの地域情報、川や上下水、雨水など身の回りにあるさまざまな水についての情報を閲覧できる。 ・「身近な水のことについて知っていますか？」（自分の使用する水はどこから来てどこへ流れていくのか）、「流域について知っていますか？」という投げかけを入口に、言葉の穴埋め問題や身近な水についての問題に答えることからスタートし、分からないこと、知らないことについてさまざまな関連情報について検索、調べることによって理解が促される仕組みになっている。 ・検索方法やサイトの使い方についてのガイドもあり、さまざまなテーマからの調べ学習等に役立つ検索シートや調査シートが用意され、興味や理解に応じた水や流域に関する環境学習ツールとして工夫されている。
課題	・水質など自治体レベルのデータにはばらつきがあり、調査結果が古いもの等もある。 ・ライブ映像や関連施設へのリンクができないものもある。

No.49

名称	新潟の水辺だより	活用媒体	紙,Webｻｲﾄ, ｲﾍﾞﾝﾄ,ﾒﾙﾏｶﾞ
情報発信年	1987年10月	最終更新日	2010年11月25日
情報発信者	NPO法人新潟水辺の会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　会員　　）		
対象エリア	新潟県、長野県、信濃川流域　～　全国		
URL	http://www17.plala.or.jp/mizubenokai/		
目的	・新潟水辺の会の活動や行政の施策、会員による各所の水辺だより。提言等を通し、川への関心を高める。 ・会員サービスの一環。		
概要	・A4サイズ、モノクロ、8ページ程度、最新号（2010年9月号）は79号。 ・会が企画、運営する調査やイベント情報の提供や報告、会員からのレポート、提案等による構成。 ・広域ネットワーク団体として、新潟県を中心に全国にも広いネットワークや会員を有し、それらを活かし県外、全国との情報の受発信がある。 ・会員相互の日常的な連絡や意見交換にはメーリングリストが使われている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○		○		○	○		○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○	○		○		

情報の難易度	会員は専門家や活動団体が多く、やや専門的な情報が多いが、会員による投稿等を中心として読みやすい内容になっている。
情報の種類	調査・研究結果、事業・活動報告・予定、投稿による報告やコラム、
特徴・工夫	・会の活動・事業として行っている調査、研究活動等や住民や子どもによる昆虫、哺乳類等の調査結果が充実している。 ・会報誌や関係論文はホームページで最新号、バックナンバーともPDF版を閲覧することができる ・会の中心メンバーに学識者や専門家が多く、論文やレポート等による情報発信のほか、シンポジウムや研究会の開催による情報発信なども行っている。 ・ホームページをリニューアルし、会員等が直接情報の書き込みを行い、リアルタイムの水辺レポートができるよう工夫している（準備中）。
課題	

No.50

名称	加治川ネット21	活用媒体	Webｻｲﾄ,携帯ｻｲﾄ
情報発信年	1996年	最終更新日	2011年1月24日
情報発信者	NPO法人加治川ネット21		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（地元企業等）		
対象エリア	新潟県　阿賀北地域		
URL	http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/		
目的	・NPO法人加治川ネット21は、新潟県北部に位置し、新発田市、北蒲原郡を流れる加治川や流域、地域の住民の連携を図りつつ、自然環境の保全環境の保全や文化の振興に関する事業を行い、地域の発展に寄与することを目的に設立された(2003年)。 その目的を果たすため、さまざまな事業、活動とともに、地域の情報拠点として多様な情報の発信を行っている。		
概要	・会のホームページでは、活動履歴や活動に関わる最新情報（主催イベントや関連する催し、調査等の案内）、主な活動事業である交流事業や広域連携や総合学習にか関わる最近の活動の報告、会報や広報誌、新聞等への掲載、報告書等発行図書についての情報を掲載している。 ・このホームページのほか、会の活動、イベント情報、新発田市情報モバイルサイトにリンクするモバイルサイトを開設している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○	○		○	○				

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○	○		○		

情報の難易度	流域の川や地域の環境に関心のある住民に対して分かりやすい内容
情報の種類	調査・研究結果、事業・活動報告、地域資源の紹介
特徴・工夫	・ホームページによる情報発信のほか、紙媒体による情報発信として、会報誌「カジカの学君」(最新号2010年10/6号で46号)の発行、広報誌「水辺の広場」（年2回発行、最新号2010年10月で12号）等を発行し、地域や水環境の保全やその活動について、定期的な情報発信を行っている（会報誌、広報誌は、バックナンバーを含めHP上でもPDF版を閲覧できる） ・地方紙や主要紙の地方版、図書などに活動等について紹介、掲載されることも多く、そうした記事や寄稿等をHPで逐次紹介、閲覧できるようになっている。 ・会や地域の情報のほか、シンポジウムの開催、全国大会への参加を含め、他地域や関連する全国の情報の受発信を積極的に行っている。
課題	

No.51

名称	岐阜県　川の防災情報	活用媒体	Webｻｲﾄ,携帯ｻｲﾄ
情報発信年		最終更新日	逐次更新
情報発信者	岐阜県		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	岐阜県		
URL	http://www.kasen.pref.gifu.jp/index.html		
目的	・岐阜県と国土交通省・気象庁が観測した岐阜県域の雨量・水位情報、河川の状況等をリアルタイムで提供するホームページ。		
概要	・気象、水防、洪水予報・避難判断情報の緊急情報をメインに、気象庁、国の河川防災情報ポータルサイト等ともリンクし、雨量情報、水位情報、水位予測、樋門の開閉・排水ポンプの稼働状況、防災や河川に関する用語情報などが掲載されている。 ・携帯サイトも併設されている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
	○	○					○	

情報の難易度	一般住民、関係自治体に対して河川の防災・災害に関する緊急情報を集約的に閲覧できるシステムになっている
情報の種類	気象情報、雨量・水位情報、災害・防災情報
特徴・工夫	・コンテンツの一つ「岐阜県浸水想定区域図ポータル」より、各河川の整備状況等(公表時点)を勘案して、大雨により河川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めた浸水想定区域（ハザードマップ）WEB上で閲覧することができる。
課題	・リアルタイム情報としては集約されており、状況把握しやすいが、日常的な防災についての啓発情報等はハザードマップのほかは特に掲載されていない。

No.52

名称	みずから守るプログラム	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2010年	最終更新日	2011年１月13日
情報発信者	愛知県(建設部河川課)		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	愛知県		
URL	http://www.pref.aichi.jp/0000025924.html		
目的	・愛知県で「愛知県河川情報周知戦略」として平成21年度より展開している水害に対する新しいソフト対策「みずから守るプログラム～大雨が降ったら～」に関する情報サイト。 ・川の防災情報を公表におけるインフォメーション型の一方通行の形式的な情報提供からコミュニケーション型の情報周知としていくことにより、水害に対する地域防災力の向上と「自助行動できる住民層」へとスパイラルアップする取り組みを推進していくため、関連する情報を集約して発信している。		
概要	・町内会や自主防災会、地域住民、防災NPO法人とともに地域協働を中心として行政の情報提供も改善する水害に対する新しいプログラム「みずから守るプログラム」について、その目的、目標とともに、具体的な推進方策、事業内容についての紹介。 ・プログラムの地域協働事業（手づくりハザードマップ作成支援、大雨行動訓練実施支援）についての紹介、募集、取組み状況等の紹介。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
		○			○				

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
	○	○	○	○	○	○		

情報の難易度	一般住民や自治体に対して地域防災や自主的な防災活動に関する情報と必要性を分かりやすく発信している
情報の種類	防災事業情報、活動支援情報、啓発
特徴・工夫	・「みずから守るプログラム　情報掲示板」では、「みずから守るプログラム」に関する「最新の取り組み状況」や、取り組みの推進や新たな参画に向けた「よくある質問」など、様々な情報提供を行っている。
課題	

No.53

名称	土岐川・庄内川魅力資源マップ	活用媒体	紙
情報発信年	2008年3月	最終更新日	2009年2月
情報発信者	国土交通省庄内川河川事務所（発行） （企画・編集：土岐川庄内川交流会 全区間踏破プロジェクト）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	土岐川・庄内川流域(岐阜県・愛知県)		
URL			
目的	・庄内川（岐阜県内では土岐川）の自然特性、地域に残された経験や知見を収集、情報を共有し川づくりに活かしていく取組みの一環として、流域市民有志により組織された「土岐川庄内川交流会」(2005年)によってまとめられた地図情報とポイント情報による流域情報地図（冊子）。		
概要	・2006年1月から14回に渡り行われた土岐川庄内川交流会のメンバーによる源流から河口までの約100km全区間踏破プロジェクトの結果を、その14区間ごとに地図上にアイコン（寺院、神社、歴史にまつわる場所、魅力ポイント、撮影ポイント）でポイント表示し、踏査での発見や魅力資源等を豊富な写真とコメントで紹介している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
								○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○					

情報の難易度	流域住民、一般市民に対して分かりやすい内容である
情報の種類	地域資源情報、地図情報、河川環境情報、踏査結果
特徴・工夫	・実際の踏査による写真を多用し、コメントや地図情報とともに掲載することで、川や地域の魅力資源、川歩きの楽しさを伝えるとともに、ざまざまな視点を提供している。
課題	・紙媒体の印刷物であるため、発行部数に限りがあり、再版による普及が難しい。

No.54

名称	「Ｒｉｏ」豊田市矢作川研究所　月報	活用媒体	紙、Webｻｲﾄ
情報発信年	1998年	最終更新日	2011年1月
情報発信者	豊田市矢作川研究所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	矢作川流域　全国		
URL	http://yahagigawa.jp/		
目的	・研究所の月報として、矢作川の環境に関する提案や研究所報告（概要）、流域の住民活動の案内や報告、研究所事業の案内等で構成し、主に研究所の事業や活動紹介を目的とする広報誌。		
概要	・誌面は、A4サイズ、カラー版、4～6ページで、毎月発行（2011年1月号で通算148号）。 ・最新号（2011年1月号）では、巻頭言（研究所長）、源流の小学生ボランティアからの投稿、河川管理者からの改修事業情報、研究所研究員による環境調査報告、名古屋で開催（2010.10）されたCOP10の報告等で構成。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○	○		○	○	○

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○	○		○		

情報の難易度	一部専門性が比較的高い内容もあるが、市民・住民等広範な層に向け、親しみやすく、分かりやすい内容となっている。
情報の種類	流域活動紹介、事業・研究報告、行政情報、投稿記事
特徴・工夫	・定例報告として、多様な分野、専門家、関係者の情報をタイムリーに提供している。最新号はホームページでもPDF版で閲覧できる。 ・専門的には、研究所研究員や他の研究報告の投稿による年報「矢作川研究」が報告書として編集されている（現在まで14号を発行。掲載論文はホームページからPDF版で閲覧できる）。
課題	

No.55

名称	長良川環境レンジャー通信	活用媒体	紙、Webｻｲﾄ
情報発信年	1978年	最終更新日	2010年12月
情報発信者	NPO長良川環境レンジャー協会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　会員　）		
対象エリア	長良川流域、岐阜県		
URL	http://www2.odn.ne.jp/nagaragawa/		
目的	・NPO法人長良川環境レンジャー協会* の会員に対する情報提供、活動紹介、報告を主な目的とする。 ＊NPO法人長良川環境レンジャー協会（2001年７月現在） ：正会員62名　準会員61名　賛助会員14名（団体９） （関係団体）岐阜市役所、岐阜県関係、国土交通省関係		
概要	・会報は、B5版、モノクロ、10ページで、環境学習会、清掃活動、水辺安全講習会、水生生物調査活動、「ながっらっ子レンジャー」自然体験活動等、協会の活動紹介、報告、予定のお知らせなどで構成されている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○		○		○		○	○	○

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○	○		○		

情報の難易度	市民活動リーダーや関係機関等の会員が相互に閲覧、情報提供できるしくみになっている
情報の種類	活動紹介・報告・予定、啓発
特徴・工夫	・広報活動として、本会報とホームページを併用している。 ・活動予定カレンダーを掲載し、タイムリーな情報を提供している。 ・会員による投稿や手紙の紹介など、会員相互の情報発信を支援している。
課題	

No.56

名称	天竜川流域情報ネットワーク・TENET	活用媒体	メルマガ
情報発信年	2009年	最終更新日	2011年10月
情報発信者	NPO法人天竜川ゆめ会議		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	天竜川流域及び全国		
URL	jimukyoku_tenet@yahoo.co.jp　（事務局メールアドレス）		
目的	・天竜川流域の河川や水辺で活動する流域住民、市民の交流、連携組織「天竜川ゆめ会議」（2002年）による情報発信で、「水・川のメールマガジン」として天竜川の環境・文化・歴史・市民活動やイベント等さまざまな情報を受発信し、流域の日常的な情報交換、共有の場とすることにより、情報ネットワークの構築、普及の一つの手立てとしている。		
概要	・メールマガジン『天竜川流域情報ネットワーク・TENET』は、国土交通省天竜川上流河川事務所からの委託により、天竜川ゆめ会議が流域住民に対し行っている河川情報の登録制メールマガジンで、国土交通省職員、長野県職員、市町村職員、一般住民、ゆめ会議会員等の構成で、現在800名程度の規模で発信されている。 ・発信されている情報は天竜川流域の事業、活動情報のほか、全国的な河川環境にか関わる情報や、事業、活動、イベント、シンポジウム等の開催など多岐に渡り、メール配信希望者は誰でも登録でき、事務局である「天竜川ゆめ会議」を通じて情報発信することができる。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○		○	○		○	○		

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
		○		○	○	○		

情報の難易度	流域住民や河川管理者等幅広い層に対し、広域的な情報をタイムリーに得ることができる。
情報の種類	事業・活動、イベント等の告知、紹介
特徴・工夫	・天竜川ゆめ会議では、発足当初より天竜川に関わる課題や展望について流域連携による活動を通じて発信してきた。その主要事業の一つとして、河川敷の外来植物繁殖の問題提起と討論会を開催、官民協働による駆除活動を夏（アレチウリ）、冬（ハリエンジュ）に展開している。また、地域住民、市民、関係行政が一堂に会しオープンに議論する場である「『天竜川みらい計画』のその後についての座談会」を定期的に開催しているほか、流域意識の醸成を図り、流域連携、交流を推進するための活動として「天竜川の仲間たちのフォーラム」（流域の事業・活動の発表と交流会）を2003年より毎年1回開催している。
課題	

No.57

名称	天竜川の知識認定試験	活用媒体	イベント
情報発信年	2007年	最終更新日	2009年10月
情報発信者	NPO法人天竜川ゆめ会議		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	天竜川流域		
URL			
目的	・治水や利水を含めた天竜川の歴史や文化、生きものについて、子どもから大人までが「天竜川」について楽しく学び理解を深めるきっかけとなることを目指し、NPO法人天竜川ゆめ会議が企画、国、県、各報道機関等の後援を受け年1回実施している天竜川についての知識を認定する試験。		
概要	・「天竜川の知識認定試験」は、全50問で時間は１時間、回答は４択でマークシート方式による。「天竜川サイエンス」「上伊那川たんけんブック」「下伊那川たんけんブック」など、これまでに発行されている冊子などから天竜川の治水や利水、自然に関するものから、地域の歴史に関するものなど幅広く出題され、正答数によって１級から６級に認定、受験者に通知される。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
								○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○								

情報の難易度	流域住民の幅広い層に対し、川や流域に対する関心や興味を広げる内容
情報の種類	クイズ形式の河川・流域情報
特徴・工夫	・各地で試行されている地域の「ご当地認定試験」の発想と手法を活かし、幅広い年齢層に対する川や流域に対する関心、興味を高め愛着を深めるための工夫がなされている
課題	・認定試験の継続、普及と参加者、認定者の拡大

No.58

名称	天竜川総合学習館「かわらんべ」	活用媒体	Webｻｲﾄ，拠点施設，ｲﾍﾞﾝﾄ，紙
情報発信年	2002年7月	最終更新日	2011年1月19日
情報発信者	国土交通省天竜川上流河川事務所、飯田市		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	天竜川流域		
URL	http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/kawaranbe/index.htm		
目的	・天竜川総合学習館「かわらんべ（“カッパのような子ども”と言う意味）」は、「天竜川の学習」・「地域コミュニティ」・「防災の拠点」を活動の柱とし、飯田市と国土交通省が共同で運営を行っている。 ・館の主要な活動の一つである「かわらんべ講座」は、天竜川の河川敷に建設されている立地条件を活かし、館周辺など天竜川をフィールドとする水辺の自然体験型学習を行うとともに、講座を通した世代を超えた交流の場、新たな地域コミュニティの場を提供し、防災講座等により防災に関わる啓発を目的に開講されている。 ・館は、洪水時の河川情報の収集・発信基地および水防活動拠点としての役割も担っている。		
概要	・かわらんべ講座は、主に毎週土曜日に開講している天竜川とその流域を題材とした体験学習講座で、天竜川の「自然」・「文化」・「歴史」・「環境」をテーマとし、様々な体験活動を実施している。講座の内容、参加募集、報告をホームページで逐次紹介している。 ・学校の総合的な学習の時間への施設・プログラム・講師等の提供を積極的に行い、かわらんべ講座の成果からまとめられた「川遊びのルール」（子供向け、指導者向け）を開発、冊子やHP上で公開している。 ・館内には様々な展示物や河川関係や環境学習に関わる図書等の蔵書による図書室、貸室可能な総合学習室があり、無料で閲覧・利用できる。 ・防災拠点としての位置づけから、「三六水害」など過去の水害についての展示や啓発とともに、「かわらんべ防災講座」を開講している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○			○		○	○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○	○	○	○	○	○			

情報の難易度	子どもから地域住民など多様な世代や関心に対応した多様な情報を提供している。
情報の種類	講座（フィールド体験・座学）、展示、図書
特徴・工夫	・天竜川の防災拠点としての位置づけから、施設としての防災だけでなく、防災を安全管理の視点で幅広く捉え、「災害から身を守るだけなくではなく、自然に親しみ、自然を学ぶことで自然の力を知り、万一のときのために行動できる心を育てる」として「かわらんべ防災講座」（川遊びリーダー養成、救急救命法、川遊びルール講習など）を通じて行っている。こうした活動以外でも、施設が子供たちの「たまり場」となることで、子供たち同士・または地域の大人との接点を増やし「地域力」を高める安全基地としての機能の向上、普及を図っている。
課題	

No.59

名称	大和川市民ネットワーク	活用媒体	ｲﾍﾞﾝﾄ、Webｻｲﾄ,紙
情報発信年	2007年	最終更新日	2010年12月
情報発信者	大和川市民ネットワーク		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　企業　）		
対象エリア	大和川流域（奈良県・大阪府）		
URL	http://ycn-2009.ciao.jp		
目的	・大和川流域の個人・団体・企業・行政・大学などの様々な活動主体を一つの一大ネットワークにより結び付け、これまで交流の少なかった上流（奈良県）と、下流（大阪府）のネットワークにより、より多くの市民の意識を大和川の再生に向けるとともに、より効果的で意義のある活動を進めようと結成された広域市民ネットワーク。 ・ネットワークの中では、メーリングリストやホームページによる情報交換の他、独自企画あるいは行政との連携による各種イベントの企画・実施を行い、子どもたちも含めた市民参加型で楽しめる催しを開催することで、大和川再生に向けての啓発活動も行っている。		
概要	・大和川の水質改善やゴミ問題を改善するための諸活動として、ネットワーク全体で大和川流域一斉生活排水対策社会実験への協力、汚濁の著しい河川の浄化作戦、国及び地方自治体が主催するクリーンキャンペーンへの参加などを行っている。 ・大和川の河川空間、河川環境を利用して人々が集うための諸活動として、河川空間を活用し、住民が「川に親しむ」ためのイベントの企画・実施及び関連するイベントや講座、活動などを紹介、報告するための情報発信を機関誌（年4回発行）、ホームページやメーリングリストなどを利用して行っている。 ・流域の教育関係者や学識者、河川管理者などで構成される「『わたしたちの大和川』研究会」の監修・編集による副読本「わたしたちの大和川(補充版)」を発行(2010年2月)している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○	○	○	○	○		○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○	○		○		

情報の難易度	市民団体や教育関係者、一般市民や子どもたちなどさまざまな層に対し、関心を喚起する多様な情報を発信している
情報の種類	調査・研究成果（採取した生物の生体展示を含む）
特徴・工夫	・水質改善やゴミ問題といった流域全体の広域的な課題の解決に向けて、流域の一般市民に対し、住民の川や河川空間に親しむためのイベントの企画・実施及び情報発信の工夫をしている。 ・地元の信用金庫のCSR活動（大和川水質改善応援定期預金「大和川定期預金」など）と連携し、顧客を含めた流域市民の関心や多様な取組みへの参加の機会を提供している。
課題	

No.60

名称	大和川について	活用媒体	Webｻｲﾄ,携帯ｻｲﾄ
情報発信年		最終更新日	2011年2月8日
情報発信者	国土交通省大和川河川事務所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　）		
対象エリア	大和川流域（奈良県・大阪府）		
URL	http://www.kkr.mlit.go.jp/yamato/about/index.html		
目的	・国土交通省大和川河川事務所の総合情報サイト。「大和川について」のページでは、大和川流域をリバーミュージアムとして位置づけ、大和川や流域に関するさまざまな情報のほか、河川事業に関わる広報、流域市民による活動情報等を掲載している。		
概要	・「大和川について」は、大和川や流域情報として、主に以下のような内容で構成されている。 ・「大和川を知る」：大和川の概要、大和川散策ガイド、大和川古写真（募集による）、大和川リバーミュージアム、大和川つけかえ300周年 ・「大和川の治水と洪水の歴史」：過去の水害、大和川流域浸水実績図、治水年表、水位の急上昇について、洪水氾濫シミュレーション、大和川重要水防箇所 ・「大和川での取り組み」： Cプロジェクト計画、河川堤防の詳細点検結果情報図、大和川圏域河川整備状況図、大和川ごみマップ（大和川環境整備連絡協議会）、大和川の河川公園（大阪府・奈良県） ・河川に関わる用語集		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○		○	○		○	○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○		○	○	○	○	○	○	

情報の難易度	市民団体や教育関係者、一般市民や子どもたちなどさまざまな層に対し、関心を喚起する多様な情報を発信している
情報の種類	調査・研究成果（採取した生物の生体展示を含む）
特徴・工夫	・「大和川散策ガイド」はZENRIN Mapを利用し、大和川の事業や洪水の記録、史跡や歴史的集落など歴史情報等のアイコン表示による位置情報、カテゴリー検索、ポイントの写真等の情報を閲覧できる。 ・ほかに「流域の活動情報・報告」として、流域住民、市民団体によるさまざまな活動についての情報や結果を掲載し、支援している。
課題	

No.61

名称	芥川・人とさかなにやさしい川づくりネットワーク	活用媒体	Webｻｲﾄ、ﾌﾞﾛｸﾞ，紙、拠点施設
情報発信年	2005年	最終更新日	2010年10月
情報発信者	NPO法人芥川倶楽部		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　全国の住民団体　）		
対象エリア	淀川流域　（大阪府高槻市）		
URL	http://akutagawaclub.web.fc2.com/		
目的	・芥川・ひとと魚にやさしいネットワーク（芥川倶楽部）は、芥川を遡上する天然アユをシンボルとして、大阪府高槻市内を流れる芥川が地域の人々に親しまれ、多様な生き物が生息できるよう豊かな生態系の回復をめざし組織された。芥川の自然、歴史を守り育て、市民と芥川に触れ合う機会を作り、生き物との触合いを通じて市民の心の豊かさを回復することを目指して、多くの市民と行政のネットワークを構築し活動することを目的とする。		
概要	・特定外来生物ミズヒマワリ駆除活動、国、府、芥川倶楽部の協働による魚道の設置、澪筋づくりなど、魚の遡上や生きもの生息環境の改善などを計画から工事まで市民が関わり行っている。 ・そうした活動や芥川が抱えている課題を、主に活動記録・報告という形で具体的に紹介し、活動への参加募集も含めホームページや情報誌「芥川水辺だより」（季刊）、イベント情報・報告はブログにより紹介している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
○	○			○	○	○	○		

生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○		○			

情報の難易度	一般市民に対して川や活動に関する情報として分かりやすい内容
情報の種類	活動紹介、イベント情報
特徴・工夫	・ネットワークでは、河川環境の変化を人と川の関わりの変化という課題として捉え、流域市民に対し押し付けでない長い目でみた住民と川との深いつながりをめざし、さまざまなレベルや方法での対話、コミュニケーションをキーワードに情報発信、活動を行っている。 ・高槻市の自然を紹介する資料館「あくあぴあ芥川」の指定管理者（「あくあぴあ芥川共同活動体」としてNPO法人芥川倶楽部、NPO法人大阪自然史センターで共同運営）として、館の運営を行っており、淡水魚水族館、高槻市内の鳥・哺乳類・昆虫類などの市内の緑地や芥川で見られる生きものを紹介するとともに、企画展や観察会、子ども自然ワークショップなどのイベントも開催し、芥川についての多様な情報発信を展開している。
課題	・活動への参加者の拡大

No.62

名称	淀川談話室ほか（淀川河川事務所ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）	活用媒体	Webｻｲﾄ,携帯ｻｲﾄ
情報発信年	2000年からの情報を掲載	最終更新日	2011年1月
情報発信者	国土交通省淀川河川事務所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　）		
対象エリア	淀川流域		
URL	http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/		
目的	・淀川に関する総合情報サイトで河川管理事業に関わる基本情報とともに、広く流域の市民に対して河川環境や河川管理事業に対する理解を深め、川への関心を高めてもらうため、様々なテーマから豊富な情報を掲載している。		
概要	流域市民に対する情報発信として、以下のようなテーマのページを展開している。 ・「淀川交流広場」：淀川の風景や生きものなの市民からの投稿写真を紹介する「淀川フォトギャラリー」や流域のテーマ型散策ガイド ・「淀川を楽しむ」：淀川河川公園ガイドや、バードウォッチングや植物など季節やエリアごとのガイドや「ワンド」の生態環境など自然と親しむための情報 ・「淀川を知る」：淀川の今昔（水系各河川の歴史、洪水の記録）、データでみる淀川（諸元等の基本情報や淀川に関するデータ）、淀川の自然（淀川の生きものやワンドの紹介、河川・水辺の国勢調査の情報を活かした「環境データベース」等） ・「淀川談話室」：河川整備計画策定時に寄せられた意見の紹介や、治水、防災、環境、利用、管理など事務所に市民から寄せられた具体的な質問、意見にQ&A形式で回答するコーナーの他、「ご意見箱」としてメールで意見・質問・感想を投稿できる。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
○	○		○	○	○	○	○	○	○

生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○	○	○	○	○			○	

情報の難易度	多様な情報をテーマごとに展開し、多様な利用や関心に対し情報検索が容易
情報の種類	事業情報、広報、ガイド、啓発、意見聴取と回答
特徴・工夫	・防災に関する情報として、日ごろの備えや洪水や津波に関する情報、沿川各所の水位、雨量、ライブ映像を確認できる「淀川LIVE情報」、流域市町別避難場所情報などを掲載している。 ・「淀川モバイルネット」として携帯電話サイトを開設し、市民のさまざまな利用や現場で欲しい情報の取得を容易にしているとともに、検索や災害時の情報発信サービス、携帯メールでの情報の受発信が可能な「淀川ホットライン」を展開している。
課題	・

No.63

名称	淀川資料館	活用媒体	拠点施設、Webｻｲﾄ,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	1998年	最終更新日	2010年12月
情報発信者	社団法人 近畿建設協会　（施設管理者：国土交通省淀川河川事務所長）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	淀川流域　大阪府、京都府、滋賀県		
URL	http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/		
目的	・淀川に関する歴史、文化、自然、洪水、河川改修等の資料の常設展示とともに、河川管理資料の提供、土木技術研鑽の教材としての情報提供を行う。 ・住民や研究者に対する淀川に関する情報提供と広報、啓発を目的とする。		
概要	・河川管理を主目的とした資料館は1997年に開設、一般公開は1998年から行っている。施設内に淀川の歴史、暮らし、環境等をテーマに関連資料等を展示している。 ・インターネットサービスとして、①資料館主催行事の案内（企画展、出前講座、フィールドワーク等）、②資料検索(データベース)、③淀川に関わる関係団体・施設・機関へのリンク、歴史・環境情報へのリンクといった淀川ネットワーク・リンク、④広報誌『淀の流れ』（1983年～、年2回発行、WEB上はPDF版）がある。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○	○	○	○	○	
生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
			○	○		○		○文献検索	

情報の難易度	子どもの環境学習とともに流域住民から専門家、研究者まで幅広い層に対応する情報提供のしくみがある
情報の種類	淀川の歴史、文化、自然、治水事業、イベント案内等
特徴・工夫	・資料館が主催する川歩き、夏休み講座、出前講座、企画展等の行事、展示等によるさまざまな情報提供機会を創出している。 ・資料館が所有する古文書、絵図等の公開による専門家、学生等への情報提供を行っている。
課題	

No.64

名称	ねや川水辺クラブ	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2001年	最終更新日	2007年9月
情報発信者	ねや川水辺クラブ		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　会員　）		
対象エリア	淀川水系寝屋川流域　大阪府		
URL	http://www.neyagawamizube.jp/		
目的	・寝屋川を中心とした市内の水辺の再生をめざし、公募による市民主体のワークショップ（寝屋川再生ワークショップ）により「寝屋川再生プラン」が策定(2001年)された。そこで謳われた市民の果たす役割、プラン実現のための市民の自主組織「ねや川水辺クラブ」による活動に関わる情報、普及、啓発を目的とする情報発信。		
概要	・ホームページでは、これまでの活動の経過や活動に関わる発表資料等を閲覧できる。 ・会の活動についての会員のレポート、寄稿による報告や、活動予定等を掲載した会報誌「会報 ねや川水辺クラブ」を発行（14号 2007.4月まで発行）、ホームページからも閲覧できる。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○			○	○				
生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
			○			○			

情報の難易度	主に流域住民に対し、活動について分かりやすく紹介している。
情報の種類	活動情報、活動報告
特徴・工夫	・地域や全国の活動団体の発表会や報告会などに参加し、活動に関わる情報発信を積極的に行っている。 ・団体を組織化する経緯となった「寝屋川再生ワークショップ」の経緯や活動の詳細については、事務局である寝屋川市下水道室のホームページ http://www.city.neyagawa.osaka.jp/index/soshiki/gesui/t-river.htmlから閲覧することができる。
課題	・最新の活動情報については、インターネット上では発信されていない。

No.65

名称	淀川管内河川レンジャー	活用媒体	Webｻｲﾄ、紙,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2003年（※河川レンジャー制度の提言）	最終更新日	2011年1月22日
情報発信者	国土交通省淀川河川事務所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	淀川流域		
URL	http://www.river-ranger.jp/		
目的	・河川レンジャーは、川と人々との係わりの変化、治水・防災の問題、川を活かした環境学習や住民活動の高まりといった背景のもと、これまでの行政中心の川の管理・整備から、住民と行政が一緒になって、川を守り、育てていくため、淀川水系流域委員会による提言をもとに河川整備計画に位置づけられた制度である。 ・住民と行政との間に立ち、行政が責任を持たなければならないこと以外で、危険を伴わない河川管理上の役割を担う人や団体（団体に属する個人を特定）である河川レンジャーの制度や活動を広報し、活動を推進、普及していくための情報サイト。		
概要	・河川レンジャー制度について、制度発足の背景や経緯、制度上の位置づけとともに、住民等と行政をコーディネートしながら、淀川・宇治川・桂川・木津川をフィールドとして、防災、環境保全、歴史文化、川づくり、河川管理支援などの川に関する様々な活動を行う河川レンジャーの役割について紹介している。 ・淀川管内の各出張所に所属するレンジャー(個人)の紹介とともに、各レンジャーからの報告形式で、活動計画、活動報告を掲載している。 ・新着情報として、管内各地で実施されるさまざまな活動（イベントやクリーン作戦、観察会など）等について、逐次情報を掲載している。 ・各レンジャーの活動報告を掲載した「河川レンジャーニュース」(事務局報告、隔月発行)がある。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○			○	○	○	○	○	
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○		○	○	○	○				

情報の難易度	河川環境や活動に関心のある市民に対し、活動への参画の機会や内容について詳しい情報を提供している
情報の種類	広報（活動・事業情報）
特徴・工夫	・淀川を見守る人材の育成をめざし、専門家を講師とする淀川に関わる多様な分野の「淀川発見講座」を毎年開講し、受講者を募集しているとともに河川レンジャーの養成講座の一環としても位置づけている。
課題	

No.66

名称	瀬田川リバプレ隊	活用媒体	Webｻｲﾄ,紙
情報発信年	2000年	最終更新日	2011年2月63日
情報発信者	NPO法人瀬田川リバプレ隊		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　会員　）		
対象エリア	滋賀県　琵琶湖・瀬田川流域		
URL	http://www.animateur.co.jp/riverplay/		
目的	・国土交通省琵琶湖工事事務所が、瀬田川改修100周年記念事業の一環で隊員を公募したのを契機に集まった市民が、流域を含む河川の歴史、文化、環境問題について学習し、体験を通じて川に親しみ、これからの川づくりについて発信することを目的に組織した「NPO法人瀬田川リバプレ隊」による情報発信サイト。		
概要	・ホームページでは、会の主な活動である外来魚駆除（魚釣り大会等）、各種講演による勉強会、瀬田川と河岸の現地調査、瀬田川の植物調査、ヨシ刈り、写真展等イベントの開催の報告や案内を中心に、単年度ごとの活動などを掲載している。 ・琵琶湖・瀬田川の外来種駆除の一環で、オオクチバスやブルーギルの解剖マニュアルを掲載している。 ・ほぼ隔月で会報誌「リバプレ隊だより」を発行（最新号は2011年1月発行の第50号）し、最近の活動報告を中心に掲載している。会報誌はホームページからもPDF版を閲覧できるようになっている。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○			○	○		○	○	
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○			○	○		○			

情報の難易度	会のメンバーや流域一般市民に向け、活動の目的や内容等、分かりやすい内容である
情報の種類	活動情報、啓発
特徴・工夫	・最新の活動については、写真とコメントによるブログ版で、頻繁に更新しているほか、活動の概要が年度ごとに概略整理され掲載されており、活動を分かりやすく伝えている。 ・流域や地域のフォーラムや交流会に積極的に参加することを通じて、広報活動を行っている。
課題	

No.67

名称	滋賀県琵琶湖博物館 (インターネット展示室)	活用媒体	Webｻｲﾄ，拠点施設，ｲﾍﾞﾝﾄ，紙
情報発信年	1996年(開館)	最終更新日	2011年2月11日
情報発信者	滋賀県立琵琶湖博物館		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	滋賀県　～全国		
URL	http://www.lbm.go.jp/		
目的	・琵琶湖博物館は、研究、調査に基礎をおきながら、交流・サービス、情報の収集・発信、資料整理、展示を総合的に行うことによって琵琶湖とその集水域および淀川流域の自然、歴史、暮らしの理解を深め、これら琵琶湖地域の人びとととともに「湖と人間」の新しい共存関係を築いていくことをめざし1996年に開館。 ・本サイトは、琵琶湖博物館の広報サイトであると同時に、さまざまな博物館活動や関連する情報について紹介している。		
概要	本サイトは以下のような情報により構成されている。 ・「博物館へ行こう」：博物館の利用案内／イベントや展示(常設・特別)の案内 ・「インターネットで調べてみよう」 ：資料データベース／電子図鑑（滋賀の魚・トンボ・珪藻・オサムシ・外来生物）・検索／気象観測データ／質問箱 ・「博物館をもっと知りたい」：琵琶湖博物館について／研究室／主な活動／人ネットワーク／出版物情報 ・「琵琶湖博物館質問回答データベース」検索：過去に寄せられた質問と回答について、テーマやキーワードで検索可能		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○		○	○	○	○		○	○	○
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○			○	○	○	○			

情報の難易度	一般市民から教育関係、専門家などさまざまな対象に対応し総合的に情報を得られるしくみになっている
情報の種類	博物館情報(広報、活動)、研究成果、電子図鑑
特徴・工夫	・メールマガジン「湖（うみ）行こ！」により博物館で開催される展示会や観察会・見学会、講座等の催し物・イベントのおすすめ情報を希望者のパソコンにメールで配信するサービスを行っている。 ・企画展の図録や研究調査報告書、子ども向け情報誌「うみっこ通信」などさまざまな図書、情報誌を発行しており、サイトでも紹介している。 ・参加型博物館として、フィールド調査や展示交流員など博物館のさまざまな活動に参加する登録制のしくみがあり、その内容や募集情報を掲載している。
課題	

No.68

名称	滋賀県水害情報発信サイト 水害の記録と記憶	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	年	最終更新日	2010年12月23日
情報発信者	滋賀県流域治水政策室		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	滋賀県		
URL	http://www.pref.shiga.jp/h/ryuiki/hanran/		
目的	・地域防災力を強化するためには、地域の水害に対するリスク情報の共有が必要との認識がある一方、近年大きな水害の発生がなく、水害体験者の高齢化や減少などにより「地域の過去の水害履歴」が入手しにくい状況となっている。また、水害に対する関心が薄れ、若い世代や新住民に過去の情報が伝わりにくくなっている現状から、地域の水害に関する「記録と記憶」を収集・整理し、日頃から水害に関する情報を視覚的に提供することにより、県民の防災意識を高め、それぞれの地域防災の普及、災害への備えがより積極的なものとなることを目的に開設された水害情報発信サイト。		
概要	・過去の水害の記憶、記録を継承し現在の防災に活かすための情報として、滋賀県の水害履歴とともに先人たちの智恵、水害写真などの記録情報を収集し、掲載している。 ・現在県が推進している流域治水対策や洪水ハザードマップ等の防災情報、行政の出前講座や地域の活動団体の紹介など、関連情報もあわせて掲載している。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
									○	
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
		○	○	○	○	○				

情報の難易度	一般市民に向け災害や防災に関する情報を多様な視点から分かり易く提供している
情報の種類	水害記録、行政施策、啓発
特徴・工夫	・県では、今後も水害の聞き取り調査を継続して実施し、県内における水害体験や先人の知恵、水害写真等を募集することにより、このサイトを「みんなでつくるデータベース」としての充実化を図り、協力、参画を呼びかけている。
課題	

名称	プロジェクト保津川	活用媒体	Webｻｲﾄ,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2007年	最終更新日	2011年1月
情報発信者	NPO法人プロジェクト保津川		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　全国の住民団体　）		
対象エリア	桂川水系　保津川流域　京都府		
URL	http://hozugawa.org/index.html		
目的	・丹波から京の都へ通じる保津川（桂川）は、古くから丹波地方の豊かな資源を都へ運ぶ舟運の大動脈として地域と深い関わりを持ってきたが、現在、ゴミの不法投棄や水質の悪化など、環境の悪化が大きな課題になっている。プロジェクト保津川は、流域の住民、各種団体、企業、行政とのパートナーシップのもと、保津川の環境保全を通じて循環型地域社会、そしてまちづくりにつなげていくことを目指して活動を行うとともに関連する情報を流域に向けて広く発信している。		
概要	・プロジェクト保津川では、保津川の環境の改善、保全のための主な事業として、クリーン作成（定例清掃）や活動等に関連するシンポジウムの開催、研究機関や教育機関とも提携した環境教室や野外観察会などを実施し、活動の内容や報告、参加募集などをホームページを通じて行っている。 ・特にクリーン作戦の結果は、「水辺の散乱ゴミ指標評価手法（海岸版）」＊を用いて、Google Mapを利用しポイントごとの結果が写真や文字情報（場所や日時、ゴミの情報）とともに示したWEBサイト「ごみマップ」を構築、運営し、公表している。 ＊「水辺の散乱ゴミ指標評価手法（海岸版）」：国土交通省東北地方整備局、全国クリーンアップ事務局、NPOパートナーシップオフィスが共同で2004年に開発		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○			○			○		

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
		○				○		○ｺﾞﾐﾏｯﾌﾟ、川での生業に関わる技術等

情報の難易度	マップや写真を多用し流域住民にとって視覚的に分かりやすい内容
情報の種類	活動紹介・報告、募集、啓発、調査結果
特徴・工夫	・クリーンアップ作戦を通じて行われる不法ゴミ投棄の調査結果のWEB-GISを利用した情報発信。 ・プロジェクト保津川では、京都府および亀岡市文化資料館、流域の各団体・事業者との協働により、「保津川筏復活プロジェクト」として保津川の筏流しの復活を通じた流域の文化の再発見や環境保全をめざした取り組みを進めている。
課題	

名称	源流人会だより「ぽたり」	活用媒体	紙,Webｻｲﾄ
情報発信年	1978年	最終更新日	2011年1月
情報発信者	財団法人 吉野川 紀の川源流物語		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　会員　）		
対象エリア	吉野川 紀の川流域　全国		
URL	http://www.genryuu.or.jp/index.htm		
目的	・同財団が運営する活動拠点である「森と水の源流館」（2002年～）における活動、事業の案内、報告等の一環として、特に特別会員である「源流人会」＊への情報提供。 ・源流学の構築及び源流ファンの拡大を目的とする。 ＊源流人会は会費制による活動組織で、拠点施設への入館が無料になるほか、館の各種イベントへの参加費の割引や会員限定の講習会、イベントへ参加、持ち込み企画等も可能となっている。		
概要	・四季報として2011年1月（冬号）で19号、A4版、カラー、12ページで構成され、拠点施設「森と水の源流館」の活動紹介、各種イベントや講座等の案内のほか、源流学の一環として源流の自然と暮らしに関する紹介（第19号では、事業の話、熊の話、源流の森づくり等）、水生昆虫調査結果、里山の森の観察会報告、源流人会、活動報告等が掲載されている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○	○		○	○		○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○	○				

情報の難易度	会員に対する定期的な情報サービスとして、関連情報や知識や関心を深める多様な内容である。
情報の種類	源流に関する知識、調査報告、活動案内・報告
特徴・工夫	・源流学構築のため、源流での生活、暮らしの知恵等を生活者の視点で提供している。 ・拠点施設「森と水の源流館」（岐阜県川上村）の情報等、関連情報はホームページでも紹介している。
課題	

No.71

名称	（NPO）旭川流域ネットワーク（AR-NET）	活用媒体	メルマガ、ブログ,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2005年4月	最終更新日	2010年10月
情報発信者	旭川流域ネットワーク		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　全国の住民団体　）		
対象エリア	旭川流域及び全国		
URL	http://blogs.yahoo.co.jp/okakawa2		
目的	・旭川の流域を４つのグループ（最上流域、上流域、中流域、下流域）に分け、活動しているため、AR-NETが流域の中間支援組織として、各グループや流域全体の情報を収集、メールマガジン「AR-NET NEWS」とブログで発信し、流域情報の流域住民間の共有、全国の活動団体等に対しても発信している。		
概要	・ネットワークの発足（1997）以来、広域な流域への発信、経費の低減を目的にインターネットを活用し、流域情報や関係している活動団体やグループの活動情報（旭川の環境調査や植生管理、シンポジウムの開催等）、全国のNPOの情報、行政情報を事務局が一元管理し受発信している。 ・ネットワーク発足以来の主な活動の一つである「旭川源流の碑 建立」はリヤカーで旭川源流（支川の源流を含める）の碑を住民自らが運び、流域全体の情報を共有するためのキャラバンイベント（年1回、約8ヶ月をかけて行われる）で、キャラバンの様子は、逐次メールマガジンとブログ（写真つき）で同時発信している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
○	○		○	○	○				

生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○		○	○	○		○		

情報の難易度	インターネットを活用したタイムリーできめ細かな情報発信により、流域住民や活動参加者が容易に情報を受発信、共有できる
情報の種類	活動紹介・報告、調査結果、参加募集
特徴・工夫	・河口から源流まで源流の碑建立キャラバンは、リレー形式で時間をかけ、多くの流域住民が関わることで、上下流交流や流域の意識を育んでいる。 ・毎年、源流の碑の建立の前日にAR-MET主催、旭川流域連絡協議会（国、流域の自治体による組織）、地元市民団体の共催で行われる「旭川流域交流シンポジウム」は、様々な立場やネットワークの関係者が一堂に会し、共通のテーマによるディスカッションや各グループ、流域の活動団体からの報告等が行われ、直接的な交流や川づくりや地域づくりに向けた情報交換、共有の場となっている。 ・組織の運営理念として経費のかからない情報共有方式、イベント運営を行うとともに、専用の事務局施設はない。
課題	・活動の運営や情報受発信において事務局（個人）が担っている部分が大きい。 ・インターネットツールがない人にとっては日常的な情報が伝わりにくい。

No.72

名称	FMラジオ番組「SaBaGawa物語」	活用媒体	FMラジオ放送,Webｻｲﾄ
情報発信年	2005年	最終更新日	2011年1月19日
情報発信者	NPO法人ほうぼうネット		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　全国の住民団体　）		
対象エリア	山口県防府市　佐波川流域		
URL	http://www.boubounet.jp/radio/radio.html　（NPOほうぼうネットHP） http://www.sabagawa.net/radio/radio.html　（サバリバストーリー）		
目的	・NPO法人ほうぼうネット（前身は「防府／防災ネットワーク推進会議」）は、官民学協働による地域防災を推進する手立てとして2004年に発足、さまざまな佐波川に関する情報発信を通じて、市民に対する地域防災の啓発、防災リーダーの育成を行っている。 ・特に地域のFMコミュニティ放送の定期枠による佐波川情報番組の放送を通じて、流域住民に広く情報を発信している。		
概要	・山口県防府市を主な放送区域としているFMコミュニティラジオ放送局（FMわっしょい）の定期番組『SaBaGawa物語』（毎週水曜日 19:00～19：50）を国土交通省山口河川事務所の委託を受け放送し、佐波川の魅力や歴史、川と生活、災害関連などさまざまな角度から佐波川の情報を発信している。 ・ほうぼうネットでは、ラジオ番組の他にも、T-DIG（地域防災図上訓練）の実施や防災実動訓練、ワークショップの開催等さまざまな方法、機会の提供により地域防災に関わる啓発や参加を促している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
○	○			○	○	○	○	○	

生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○	○	○	○	○		○		

情報の難易度	現場の取材やゲストスピーカーにより、地域の水害や防災情報を幅広い視聴者にわかり易く伝えている
情報の種類	災害や地域防災関連情報、イベントや講座・活動の広報、啓発
特徴・工夫	・『SaBaGawa物語』の過去の放送内容は、サバリバストーリーのWebサイトで毎週更新され、過去の番組も聴く事ができる。 ・モバイルサイトも展開しており、ホームページのトップからQRコードを使って容易にアクセスできる。 ・子どもや大人が遊び感覚で参加できるT－DIGを開発し、ワークショップ形式での参加による普及を図っている。
課題	

No.73

名称	かいたん日記	活用媒体	ブログ
情報発信年	2001年	最終更新日	2010年12月4・5日
情報発信者	個人のブログ		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	島根県雲南市		
URL	http://d.hatena.ne.jp/kaitan_mikio/		
目的	・尾原ダム水源地域活性化のキーパーソンである個人のブログ。個人の私的な日記だが、四季折々の地域の自然や行事、暮らし、文化などを家族や日常のなかのできごとや風景として紹介するとともに、ダム事業や水源地活性化に関わる事業等を含めた地域の日常を伝えるレポートとなっている。		
概要	・「尾原ダム地域づくり推進連絡協議会」のコアメンバーのひとりである個人のブログは、ほぼ毎日更新され、地域の自然や文化や暮らしの風景などを写真とコメントによって日常のできごとととともに伝えるとともに、水源地としてのダム事業や水源地活性化事業に関すること（工事の進捗状況や地域住民による取組み）などが個人の視点から記されている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
				○	○	○		○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○	○		○		

情報の難易度	地域住民にとって分かりやすく、親しみやすい内容になっている
情報の種類	個人の報告、見解
特徴・工夫	・家族の姿なども含む個人の私的な日記であるが、地域の文化や暮らしの様子とともに、発信者が地域のキーパーソンでもある事から地域住民の関心や意識をうかがい知ることができるものとして河川管理者等からも注目されている。
課題	

No.74

名称	新町川を守る会	活用媒体	ｲﾍﾞﾝﾄ,Webｻｲﾄ
情報発信年	1990年	最終更新日	2011年１月26日
情報発信者	NPO法人新町川を守る会		
対象者（情報の受け手）	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	徳島県徳島市　吉野川流域		
URL	http://www2.tcn.ne.jp/~nposhinmachigawa/		
目的	・会の活動を紹介する本ホームページにおけるインターネットによる情報発信内容は、同会が復活させた撫養航路（徳島～鳴門）の航行案内、乗船予約と掲示板への情報の書き込みを中心に現在運用されている。		
概要	・同会が主催する事業「クリーンアップ」、「リバークルージング活動」、「リバーサイド修景活動」、「イベント活動」等は毎回、定められた日時に集合した人のみで行うため、特に予告等は行っていない。 ・イベントとして行われる「吉野川フェスティバル」、「とくしま夢あかり」、「川からサンタがやってくる」、「水際コンサート」、「寒中水泳大会」等イベントの案内は、ホームページの掲示板への書き込みにより適宜発信している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○			○				○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○			○		○定期船運行情報

情報の難易度	流域住民、一般市民に向けた分かりやすい内容
情報の種類	活動情報、イベント情報、定期船の予約情報
特徴・工夫	・定期的な情報や、舟運は予め日時が設定されているため、案内等の予告は出さずホームページの更新の労力を低減している。 ・急な日程変更等は掲示板で告知している。
課題	

No.75

名称	樋井川流域治水市民会議	活用媒体	Webｻｲﾄ,ｲﾍﾞﾝﾄ,ﾂｲｯﾀｰ
情報発信年	2009年10月	最終更新日	2011年10月
情報発信者	樋井川流域治水市民会議		
対象者（情報の受け手）	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　全国の住民団体　）		
対象エリア	福岡県福岡市　樋井川流域		
URL	http://sites.google.com/site/hihikawashiminkaigi/		
目的	・樋井川流域治水市民会議(以下、市民会議)は、流域住民、大学関係者、市民、行政職員、土木事業者や企業など樋井川や地域に関心を持つ全ての「市民」が、流域の過去に学び、現在において行動し、未来に対しての希望を持つことができるよう、情報を共有して平等な話合いをする場を創出することを目的に組織され、インターネットを利用し情報の共有、発信を行い、市民会議の意見として福岡市・福岡県知事に対し樋井川流域での総合治水政策を提言するなどの活動を行っている。		
概要	・ホームページ上で市民会議の会議やワークショップ、勉強会、見学会といった活動や結果、会議の議事録等を逐次紹介、報告しているほか、2010年１月に福岡市長に対して提出した「樋井川流域治水に関する市民提言（案）」の全文を掲載、紹介している。 ・市民会議の活動は、テレビなどマスコミに取り上げられる機会も多く、そうした映像（動画）情報を無料動画投稿視聴サービス（You Tube）を利用して紹介、ホームページからも視聴することができる。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○	○			○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○				○	○			○

情報の難易度	流域の一般市民に対してはマスコミ発信情報を二次的に利用するなど、多様な層、立場に対応した情報発信を行っている。
情報の種類	活動経過、報告、提言
特徴・工夫	・徹底した討論や、治水対策の立案、実施のための勉強会、フィールドワークを回を重ねて行い、幅広い層や多様な立場の合意形成や参画を図っている。 ・情報の共有、発信手段として動画サイトの利用したマスコミ情報の二次発信や、意見交換ツールとしてTwitter「樋井川なう」を開設、携帯メールからの樋井川の様子についてコメントと写真の送信による情報収集、発信を行っている。
課題	

No.76

名称	筑後川・矢部川 まるごとインターネット博物館	活用媒体	Webｻｲﾄ、ﾌﾞﾛｸﾞ,紙
情報発信年	2003年	最終更新日	2010年12月
情報発信者	NPO法人筑後川流域連携倶楽部・筑後川まるごと博物館運営委員会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　）		
対象エリア	筑後川流域及び全国		
URL	http://chikugogawa-marugoto.net/		
目的	・NPO法人筑後川流域連携倶楽部（1998 設立）が筑後川防災施設「くるめウス」の運営委託とあわせ、1）筑後川流域市民団体のイベント情報、2）筑後川・矢部川に関する自然、文化に関する情報、3）河川管理情報、4）全国のNPO等の活動情報の受発信を目的に発信している。		
概要	・NPO法人筑後川流域連携倶楽部は、流域の市民団体、河川管理者等との連携と協働を目的に発足し、筑後川流域全体をフィールドミュージアムとして位置づけ、筑後川なんでも発見団、筑後川大学、流域交流イベントの開催、『筑後川新聞』の発行（隔月、2010年12月号で通算68号，発行15000部）等を行ってきた。 ・同倶楽部による交流拠点施設を筑後川防災施設「くるめウス」（久留米市，2003～）に設置以来、筑後川・矢部川に関する流域の姿、古い映像資料、水害の歴史、観光、自然、歴史文化、イベント情報等を、拠点施設とともにインターネット（ホームページ「筑後川・矢部川まるごとインターネット博物館」とブログ『筑後川新聞』）、紙（『筑後川新聞』）など複数の媒体の複合により収集、発信している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○			○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○		○		○		○		

情報の難易度	多様な層の流域住民の多様な関心に対応する内容
情報の種類	広報（流域の自然や歴史・文化、イベント・祭り等）、啓発、活動
特徴・工夫	・情報誌『筑後川新聞』をブログ版として発信。紙版が隔月なのに対し、最新情報を掲載している。筑後川に関する総合情報サイト「筑後川・矢部川まるごとインターネット博物館」は、動画やライブ映像を交え、トップページには24のテーマが並び、それぞれのコンテンツから関連サイト等に容易にアクセスできる ・筑後川まるごと博物館運営委員会の構成メンバーにより、新聞、ブログ等の発信を役割分担している。事務局はNPO法人筑後川流域連携倶楽部に設置。
課題	

No.77

名称	筑後川発見館「くるめウス」	活用媒体	拠点施設、Webｻｲﾄ、イベント
情報発信年	2003年	最終更新日	2011年1月19
情報発信者	国土交通省筑後川河川事務所・久留米市（施設管理者）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	筑後川流域　福岡～九州地域		
URL	http://www.kurumeus.org/		
目的	・昭和28年の筑後川流域の大水害の記録を伝え、災害から身を守ることや防災、減災、河川環境の保全、河川愛護の啓発を目的とする「河川情報拠点施設」として2003年にオープン。 ・災害時においてには、地域の防災拠点（久留米市指定避難場所〈H21.4月から〉、水防資材備蓄）、水位雨量情報の提供、災害情報の受発信、などの役割を持つ「地域防災センター」として機能する。 ・平常時には、防災・減災、河川環境、河川愛護の意識啓発のための学習会等の実施や資料展示を行っている（筑後川の魚と水環境を学習する為の淡水魚水族館。久留米市管理も併設）。		
概要	・施設は、①散策型水槽（筑後川上流、中流、下流の魚類等の紹介）、②情報スタジオ（大型スクリーン映像、筑後川監視カメラ映像、水位、雨量情報等）、③多目的ルーム（市民団体等の利用可能）、④探索シミュレーション(治水施設の疑似体験施設)、⑤人と川の歴史ウォール（筑後川の歴史を紹介）、⑥ 防災資料展示により構成されている。 ・ホームページによる情報発信は、インターネットによる検索、リンク集を中心に以下のような内容で構成されている。 ①館における企画展、イベント情報、館の案内　②イベントカレンダー ③リンク集（川で遊ぼう、じゃぶじゃぶ川ネット、川で学ぼう、初めての川遊び、河川局のKIDS WEB等）、④問合せ、⑤サイトマップ等で構成、⑥国交省からの情報として「川の防災情報」、「九州の情報室」へのリンク		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○			○		○

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○	○	○	○		○		○	

情報の難易度	子どもを含めた流域住民に対しフィールドワークを含めた多様な分かりやすい情報発信を行っている
情報の種類	河川情報（筑後川の歴史、文化、自然、治水、防災等）、施設情報、イベント情報
特徴・工夫	・イベントカレンダーによる事業予定の案内、募集 ・写真館コーナーでの館内活動風景の表示 ・問合せのコーナーで各種質問を受け付けている。
課題	・ホームページへのアクセス数が少ない（2011年２月で1日2～17件）

No.78

名称	矢部川景観プロジェクト・ゴミゼロプロジェクト	活用媒体	Webｻｲﾄ,ﾌﾞﾛｸﾞ
情報発信年	2008年	最終更新日	2010年12月
情報発信者	矢部川をつなぐ会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	矢部川流域　（福岡県）		
URL	http://www.yabegawa.net/index.html		
目的	・矢部川をつなぐ会は、「矢部川の水の恵みに感謝し、次世代に継承するために、流域で活動している団体および行政・企業のネットワークを形成し、実践活動を行う」ことを目的に組織された矢部川流域の活動団体（市民団体、森林組合等）によるネットワーク。福岡県が創設した行政とNPOのそれぞれの専門性を活かした協働事業として矢部川に関わるふたつのプロジェクト（矢部川景観プロジェクト・矢部川ゴミゼロプロジェクト）を委託し、活動、情報発信を行っている。 ・矢部川景観プロジェクトは、矢部川流域の自然、歴史文化、生態系などについて流域市民自身で考え、景観資源等を未来に残していくことを目的したプロジェクト。		
概要	・矢部川景観プロジェクトの主な活動として、①フィールドワーク・人とモノの発掘、収集・リストアップ、②矢部川楽校・地元講座（流域案内人「やべがわびと」人材育成）、③矢部川流域フットパス「ゆつら一つとやべがわ」の設定（ルートの選定、地元による運営、管理）等を挙げ、ホームページや関連のブログ等で紹介するとともに活動への参加や情報の募集を行っている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○			○	○		○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○	○				

情報の難易度	流域住民の多様な層に対し、情報提供、情報募集を通じ参加を促す仕組みである
情報の種類	事業・活動情報、啓発、情報集果、調査結果
特徴・工夫	・フットパスについては、上・中・下流域でそれぞれのテーマを持った6つのコースを計画中のものを含め、実施したコースの内容についてホームページ上で紹介しているほか、お薦めコースやプロジェクトに関わる情報として、景観保全（景観ルールの設定やビューポイント等の選定）、情報発信に関わる人材（矢部川大使、やべかわびと）、矢部川流域の地産のものだけでつくる地消の鍋料理「やべかわなべ」のアイディア等を募集し、情報の収集とともに取組みへの参加を促している。 ・ゴミゼロプロジェクトの活動の一つとして、2006年度から毎年行っている矢部川流域一斉ごみ調査と結果のマップ化について、プロジェクト保津川の技術協力を得て、WEBごみマップに参加、情報を掲載している。
課題	・現在フットパスのルート等について、電子国土ポータルを利用したWEB上の公開を進めている。

No.79

名称	紫江`S　水環境館の常設展示	活用媒体	拠点施設,Webｻｲﾄ,ﾌﾞﾛｸﾞ,紙,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2001年	最終更新日	2010年2月
情報発信者	福岡県立北九州高等学校 魚部		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	九州地域		
URL	http://www.gyobu.jp/		
目的	・高校生の部活動による北九州地域を中心とする魚類、水生生物に関する調査結果の公表、紹介とともに保護や保全、啓発を含めた活動のPRを目的とする。 ・調査が多様化し精度が高まることにより、行政の環境対策への提言を行う。市民や研究者からの情報提供を呼びかけている。		
概要	・1998年、北九州高校 魚部の発足以来、柴川を中心に魚類、水生昆虫等の調査を行い、展示会等を開催してきた。以降、小学生への指導、市の公共施設「水環境館」で常設展示コーナー（北九州の生きものたち）を開設、採取した生きものの水槽展示やパネル展示により、地域の生きものと生態環境、魚部の活動を紹介。2002年からペーパーによる「魚部ニュース」の発行、同年ホームページを立ち上げる。 ・2009年、これまでの調査、研究成果をもとに、『福岡県の水生昆虫図鑑』、『北九州の干潟BOOK』を発行。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○			○	○		○		○

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○		○			

情報の難易度	水槽、パネル等による展示、解説により子どもや一般市民にも分かり易く親しみやすい内容になっている
情報の種類	調査・研究成果（採取した生物の生体展示を含む）
特徴・工夫	・水槽は調査活動等で捕獲した水生昆虫、魚類等を更新展示している。 ・パネルによる生物の変遷、分布等により、地域の固有種や希少種の保護や生育環境保全に対する啓発を含め分かりやすく解説。地元高校生による活動成果ということが、地域住民を中心とする来館者の関心を呼んでいる。 ・ホームページでは、これまでの魚部の活動の紹介のほか、リンクしている「魚ぶろく」で最新の活動報告等を逐次発信している。
課題	

No.80

名称	We Love 大野川 大野川流域ネットワーキング	活用媒体	Webｻｲﾄ、ﾒﾙﾏｶﾞ,拠点施設,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2004年	最終更新日	2010年
情報発信者	NPO法人河童倶楽部		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	大分県　大野川流域　全国		
URL	http://www.ohno-river.com/		
目的	・大野川の源流から河口まで、流域各地で活動する市民、団体の緩やかな連携組織である大野川流域ネットワーキングに関わる情報や流域全体の事業、イベント等の活動情報等の受発信を一元管理する。河川管理者、大学等との連携による「河童大楽（大學）」、「子ども河童倶楽部」、「大野川源流の碑建立」といった活動のほか、流域活動の支援を目的とした「お助け隊YUI（結）」、「インターネット研究会」等を立ち上げ、それらの情報を提供する。また全国NPOや河川管理者等との連携のための情報の受発信などがある。		
概要	・大分県が占有する河川敷地を借地、自立的に情報発信、交流・活動拠点（「河童小屋」）を建設（2000年）し、人の交流とともにインターネットを利用した情報の交流の両面で流域情報の共有化、活動の促進を行っている。 ・ネットワークの経緯や経過、交流拠点について、また、河川管理者との連携による調査や研修事業の受託、自主事業として行っているシンポジウムやクリーンアップキャンペーン等の活動についての紹介や活動報告等について写真等を多用しホームページ上で掲載している。 ・大野川のことをもっと知りたい、川の学習をしたい、川遊びをしたい、大野川流域を散策したいといった様々な目的に対して活用できる情報として、「資料館」のページには、大野川流域懇談会（官民の連携組織）、NPO河童倶楽部（ネットワーク事務局）等によりこれまでにまとめられた大野川の川遊び、舟運、歴史、自然、文化、水質等、多様な情報をまとめて掲載している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○		○	○	○		○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○	○	○			

情報の難易度	ネットワークに関わる流域住民、一般市民にも分かりやすく興味をひく
情報の種類	活動記録、活動成果、流域活動に関わる広報・啓発
特徴・工夫	・ネットワークでの活動に関わるメンバー同士の日常的な相互の情報発信、連絡は、メーリングリストを活用し、情報交流拠点の運営経費削減等を図っている（情報管理はNPO代表1名が担当）。 ・インターネット等の積極的な活用を図り、官民学による「インターネット研究会」、「携帯電話活用研究会」を行い利活用について研究している。
課題	

名称	大野川・川あそびマップ・川遊び楽習帳	活用媒体	Webｻｲﾄ、紙
情報発信年	2004年	最終更新日	2010年
情報発信者	国土交通省大野川河川事務所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　小学生やその親　）		
対象エリア	大野川流域		
URL	http://www.qsr.mlit.go.jp/oita/oono_kawaasobi_map/index		
目的	・「大野川・川遊びマップ」、「川遊び楽習帳」は、「大野川における安全確保のあり方に関する検討委員会」が取りまとめた「大野川の川遊びの楽しさと恐さを知るための提言」（2005年3月）の理念に基づき、学識者や川遊びの専門家からなる「大野川・川遊び勉強会」が作成した、川遊びの支援と情報提供を目的としたマップと川遊びの怖さや楽しさなどの基礎知識を提供する小学生向けの小冊子で、ホームページ上で全て公開し、普及・活用を図っている。		
概要	・「大野川川遊びマップ」は、大野川のさまざまな利用を想定し、以下のような構成でマップが示されている。 ・大野川流域マップ：流域全体の川遊びのできる場所を紹介、水辺へのアクセス （大野川下流域マップ：利用の多い下流域はさらに用途に応じたマップで紹介） ① 川遊びマップ：おすすめの水辺へのアクセス方法や遊び方など ② 河川利用施設の紹介：水辺以外も含めた利用できる場所、 ③ ジョギングマップ：ジョギング等に利用しやすい河川堤防の紹介 ④ 川下りマップ：川下りが可能な場所やボートの降ろし場所等 ② 大野川に棲む生きもの：大野川に住む魚、エビ、野鳥、植物の写真による紹介 ・「川遊び楽習帳」は、川でのさまざまな遊びや学習について、守るべき基本事項や準備、危険な場所や安全に遊ぶための注意事項、川の構造（水循環、流れや断面、平常時・増水時の様子）などを、イラストや写真を多用し紹介。 ・双方とも全てをPDF版で閲覧、ダウンロードできるほか、「川遊び楽習帳」はA5版40ページの印刷物版もある。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
								○	○	
	生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○									

情報の難易度	ネットワークに関わる流域住民、一般市民にも分かりやすく興味をひく
情報の種類	川遊びや川の学習に関わる専門的知見、沿川の環境やフィールド情報を含めたマップ、小学生向け川遊び、学習のためのガイド
特徴・工夫	・マップ、楽習帳とも、河川利用と安全確保の基本的な考え方として、河川の「公共用物の自由使用の原則」と「河川利用における自己責任の原則」を、情報の利用における免責事項とともに提示し、川遊びの普及とともに利用に関わる啓発を図っている。
課題	

名称	資料館「リバーパル五ヶ瀬川」	活用媒体	拠点施設、Webｻｲﾄ,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	1997年	最終更新日	2010年
情報発信者	国土交通省延岡河川国道事務所・NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　）		
対象エリア	五ヶ瀬川流域		
URL	http://www.gokasegawa.com/　（NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク）		
目的	・「リバーパル五ヶ瀬川」は、五ヶ瀬川最下流部の同水系北川派川の友内川に隣接する水門施設内に開設された交流、情報発信拠点。水防センターとしての位置づけもあり、降雨体験やパネル、映像による北川や五ヶ瀬川の洪水、水害に関する情報を発信し、体験の伝承や防災対する啓発を行っている。 ・川の環境を知り、体験学習を推進するため、館周辺の干潟等を利用したフィールド学習やカヤックなどの体験学習も行っている。		
概要	・宮崎県、延岡市との協働によるまちづくりイベントや防災やまちづくりのワークショップ、川を利用したカヌースクール・ツーリング、Dボート競技会などの活動を館の内外で行っており、こうした活動について、逐次ホームページの活動カレンダーやチラシで参加者を募集しているほか、活動報告のレポートも掲載している。 ・施設の常設展示として、水害、水防関係の情報パネル、映像の展示、地域の自然、文化、歴史に関する写真、パネルの展示、水門操作や水害時のシミュレーション模型などが設置され、解説を行っている。 ・まちづくりや地域活性化に関わるプロジェクト、学童を中心とした自然観察会、干潟体験、川の活動の指導者養成講座、五ヶ瀬川流域の団体との情報交換や協働イベントを館の内外で実施している。 ・施設内には川や地域・流域に関する図書、文献コーナーがあり、公開されているほかホームページでは所蔵文献の検索機能がある。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
	○			○				○		
	生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○		○	○	○		○		○図書検索	

情報の難易度	幅広い年齢層の地域住民に対応した、多様な方法での情報提供を行っている
情報の種類	河川環境情報、防災情報、活動情報、活動報告
特徴・工夫	・国内外のアーティストを招聘し、アートと融合したユニークなまちづくりイベント（東海さるく）を企画、運営し、地域住民、一般市民に対して地域の魅力資源を再発見する契機や参加の機会を提供している。 ・RAC（川に学ぶ活動体験協議会）指導者養成講座（フィールド講習会）の開催等、フィールド体験・活動に重きを置いた情報発信を行っている。
課題	

No.83

名称	大淀川学習館	活用媒体	拠点施設、Webｻｲﾄ,ﾌﾞﾛｸﾞ,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	1995年	最終更新日	2011年1月21日
情報発信者	宮崎市、財団法人宮崎文化振興会（指定管理者）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　来館者　）		
対象エリア	宮崎県内　大淀川流域		
URL	http://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/cul/oyodo/		
目的	・水道資料館として発足した同館は、水のみならず大淀川の環境情報を伝え、同館への誘客を目的に、パンフレットやインターネット等でのイベント、学習会の情報を発信している。 ・友の会「アカメ会」を結成し、会員への情報サービスを行っている。		
概要	・施設では、「世界のカブトムシ、クワガタ展」、「水の中の生きもの展」、「カラー魚拓展」、「大淀川の写真、学習展」等の企画展示を行っている。 ・学童を対象にした園児教室、館内での環境教室、観察教室、体験教室等を定期開催している。 ・施設の情報提供としては、船や漁具等の実物や、大淀川に棲む生きものの水槽による生体展示やタッチプール、模型、ジオラマによる展示のほか、川のシアター（3Dビジョン映像）、タッチパネル式のパソコン検索のほか、図書・情報室（文献、パソコン）の利用も可能。 ・WEB（ホームページ）による情報発信では、「大淀川図鑑」として大淀川流域に生息する魚や鳥、昆虫、植物等の生き物や歴史、文化などを、写真を多用し紹介している。館のイベント情報など最新情報は、ブログ「大淀川学習館ブログ」で更新、発信している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○								○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○					

情報の難易度	幅広い年齢層の一般市民に対応し、多様な方法での情報提供を行っている
情報の種類	河川環境情報、文献情報、イベント情報、施設利用案内
特徴・工夫	・自然楽習園や大型水槽、生体展示ホールなどによる大淀川の生きものの生体展示や3D映像など、館内の展示方法が多様で屋内にありながら体験型の学習ができるような工夫がされている。 ・館外に水辺の楽校や里山の学校を開設し、フィールドからの情報を提供している。
課題	

No.84

名称	白川エコロジカルネットワーク	活用媒体	ｲﾍﾞﾝﾄ,Webｻｲﾄ,ﾌﾞﾛｸﾞ
情報発信年	2000年6月	最終更新日	2010年12月8日
情報発信者	東海大学白川エコロジカルネットワーク		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（学校・教育関係）		
対象エリア	熊本県　白川流域　～九州地域		
URL	http://shirakawaeconet.kane-tsugu.com/		
目的	・九州東海大学白川エコロジカルネットワークは、川をとおして自然の大切さや自然環境について地域とともに学び、普段の学生生活では得られない自然観を身につける為の活動の場をつくり、広めることを目的に、同大学の学生を中心に2003年に設立し、河川の清掃活動や子供たちへ川辺での環境学習・遊びを通した川辺の安全講習、グランドワーク等の活動を行っている。 ・ホームページは、団体の目的や活動等について紹介し、活動の普及、参加を図っている。		
概要	・ホームページは、団体の紹介とともに、メンバーや活動内容、スケジュール、活動報告等により構成されている。 ・主な活動場所である白川の小磧水辺公園(仮称)では、白川里親協定を結び地域住民、活動団体との協働で、河川の清掃活動や子供たちへ川辺での環境学習・遊びを通した川辺の安全講習などを行っている。こうした活動について、案内ともに写真を多用した報告を掲載している。 ・活動等を通じて撮影した写真をホームページ上の写真集として、テーマごとに掲載している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○			○		

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○	○				

情報の難易度	フィールド活動写真等を多用し、地域住民や学生、教育関係者などに向けた活動のようすがわかりやすく伝えている。
情報の種類	活動情報、フィールド情報
特徴・工夫	・大学生による地域活動であるが、学内だけでなく他大学や地域の活動団体、地域住民、行政等との地域連携を図り、白川の流域連携組織(白川流域リバーネットワーク)に学生団体として加盟している。 ・そうした連携を図り、日常的に、掲示板への書き込みやブログなどインターネットを使った情報の受発信のほか、フィールドワークや意見交換会、関係するイベントや全国大会等にも積極的に参加、交流している。
課題	・活動資金の調達や活動の普及 ・引継ぎの難しい学生を中心とする活動の継続。

No.85

名称	白川地域防災センター（白川わくわくランド）	活用媒体	拠点施設、Webｻｲﾄ,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2000年6月	最終更新日	2011年２月1日
情報発信者	国土交通省 熊本河川国道事務所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（学校・教育関係、来館者）		
対象エリア	熊本県　白川流域　～九州地域		
URL	http://www.wakuwaku-land.com/		
目的	・白川地域防災センター（白川わくわくランド）は、白川の学習施設、関係団体や活動団体の交流、ネットワークづくりの拠点、白川に関する情報発信拠点として、地域の住民、教育機関（特に小学校）の人々に、川に関心を持ち利用してもらうことを目的に整備され、施設内外での事業、活動を通じて情報を発信している。		
概要	・施設は以下の3つのフロアから構成される。 ：＜1F＞展示室（流水大型模型・パソコン、パネルによる洪水の歴史と河川管理システム、白川の歴史、自然、風景についての模型や映像・パネル等による展示） ＜2F＞多目的室・談話室　＜3F＞白川の流れが眺望できる屋上交流広場 ・施設の運営（来館者に対する対応、河川学習指導等）は、地域のNPOが国の委託及びボランティアにより行っている。 ・ホームページでは、施設の紹介、施設利用や主催イベント、関連イベントの案内（イベントカレンダー、募集、報告）、防災情報（リンク）、白川の関連情報(リンク)等を掲載している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○			○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○		○	○				○	

情報の難易度	地域住民や教育関係者、一般市民に向けて、フィールド活動等体験型を含めた分かりやすい情報発信をしている。
情報の種類	施設情報、活動情報、啓発
特徴・工夫	・地域住民参加型学習会として、河川環境、歴史、文化、防災をテーマとし、フィールドワークを中心とした学習会「白川わくわくランド寺子屋」を月に1回程度実施している。 ・防災出前講座や水防災をテーマとするシンポジウムの開催案内など、防災関連情報の発信に力を入れている。 ・白川の広報誌として、国土交通省熊本河川国道事務所白川出張所の広報誌「しらかわニュースレター 『しらかわ水辺新聞』」、施設の広報誌「白川わくわくランドニュース」（年5回、イベント活動情報・報告等）が発行されており、ホームページからPDF版を閲覧できる。
課題	

No.86

名称	遠賀川水辺館	活用媒体	拠点施設、Webｻｲﾄ,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	1994年	最終更新日	2010年12月1日
情報発信者	（施設）国土交通省遠賀川河川事務所 （施設運営・管理，情報サイト運営）NPO法人直方川づくりの会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	福岡県直方市　遠賀川流域、九州全域		
URL	http://mizubekan.jp/		
目的	・遠賀川の環境情報、イベント等の案内とともに水防センターとして防災情報を発信 ・拠点施設を活用した防災の意識啓発とともに、さまざまな年齢層の地域住民を対象とした河川環境情報を多様な形で発信することにより、日常的に川に親しみ、川づくりや地域づくりに参画する機会を提供し、人材を育成する。 ・めだかの学校、YNHC（青少年博物学会）、ユースリーダー、エコモーションのおがた友の会、オヤジの会（退職者の会）等、多層なグループサークルをつくり、相互の情報交流の拠点としている。		
概要	・インターネットによる「Mizubekan News」、「イベントカレンダー」、「イベントトピックス」等の情報を発信。 ・水辺館は国交省の河川管理事務所に隣接し設置された公開型施設で、３つのフロアで構成されている。1階には人工衛星からみた遠賀川、川の図書館、遠賀川の生きものの水槽による生体展示等、2階は研究室、3階は展望所、館外にビオトープ水路や田んぼがあり、環境学習が行われている。また、活動団体の協力により遠賀川をフィールドとするリバーチャレンジスクールを開催。 ・館内に直方市河川観光課を置き、観光情報も発信している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○	○		○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○	○	○	○	○		○	○	

情報の難易度	幅広い年齢層の地域住民に対応した、多様な方法での情報提供を行っている
情報の種類	河川環境、イベント、観光、防災情報
特徴・工夫	・館内での情報提供や学習指導は、各世代で構成するグループがリーダーとなって行うよう工夫し、世代間交流の促進している。 ・インターネットによる遠賀川の気象や水位等防災に関するデータ、川の利用の可否についての随時情報を発信。
課題	

No.87

名称	さが水ものがたり館	活用媒体	拠点施設、Webｻｲﾄ,ﾌﾞﾛｸﾞ,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2005年	最終更新日	2011年１月
情報発信者	国土交通省筑後川河川事務所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	嘉瀬川流域、佐賀県		
URL	http://homepage3.nifty.com/saga-mizu/		
目的	・さが水ものがたり館は、防災・減災、河川環境の保持、河川愛護意識の啓発を目的とし、また、石井樋や成富兵庫茂安の治水・利水の歴史を伝えるために嘉瀬川河畔の石井樋公園内に設置された拠点施設。 ・河川情報拠点施設、地域防災センターとして、災害時には災害情報の受発信、平常時には嘉瀬川の石井樋(土木遺産)や佐賀平野の治水、利水の紹介、展示、学習会の開催等を目的としている。 ・ホームページでは、施設のプロフィール、活動等を紹介し、利用やイベント等への参加を促している。		
概要	・さが水ものがたり館は、成富兵庫茂安の功績や石井樋の取水施設としての機能などを映像やジオラマ、模型による常設展示のほか、企画展、学習会の開催による治水、利水の歴史、文化の講話会、フィールドを利用した研修会等が行われている。 ・館内には、防災・減災のほか河川に関する図書資料や情報誌等が収集、設置してある。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○		○		○			○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
		○	○					

情報の難易度	幅広い年齢層の地域住民に対応した、多様な方法での情報提供を行っている
情報の種類	施設情報、利用案内、イベント情報
特徴・工夫	・常設展示として「佐賀平野と水」、「成富兵庫茂安の生涯」、「石井樋のすべて」が映像、ジオラマ、模型で学習できるほか、周辺の石井樋公園内と嘉瀬川に復元整備された施設を見学できる。 ・館内には会議室があり、防災・減災、河川環境保持などに関するさまざまな活動や交流・発表の場としても利用することができる。 ・治水や利水等に川に関する講話会のほか、親子で気軽に参加できる七夕や観月の夕べ、エコグッズづくり等のイベントを行い、来館者の増加や利用の促進を図っている。
課題	・流域の活動団体や研究者等の施設の利用促進

No.88

名称	九州川の情報室	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2003年	最終更新日	2011年２月
情報発信者	国土交通省九州地方整備局		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	九州全域		
URL	http://www.qsr.mlit.go.jp/n-kawa/kawa-guide/		
目的	・「九州の川情報の発信源」として、九州全域の川に関する情報やスポット情報、川の活動について閲覧、検索できる総合情報サイト。 ・地域防災や自主防災など、防災に関わる啓発を目的とした情報発信も積極的に行っている。		
概要	・ホームページは以下のような内容で構成されている。 ①総合学習：学校の取り組み事例や、総合学習、環境学習に役立つ情報へのリンク ②川のライブリー：九州各地の主な川の情報を写真や関連情報とともに紹介 ③川を見守る人：各地域、各河川で活動する活動団体の紹介 ④川の利用に関わるマナーや水難事故防止についての啓発情報 ⑤川の生きもの図鑑：植物、魚類、底生生物、鳥類、河川ごと見られる主な生物種や希少種等 ⑤　域防災、自主防災等防災に関わる啓発情報 ⑦各地の川の活動やイベント情報（新着情報とともに、地域ごと、川ごとの検索も可能）		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○				○			○	○	○

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○	○	○	○	○				

情報の難易度	広域的な情報を齢層の地域住民に対応した、多様な方法での情報提供を行っている
情報の種類	川のフィールド情報、活動情報、防災に関わる啓発
特徴・工夫	・リバーツーリズムやリバースクールなど川の利用、活動、地域に合わせた情報についての相談に対しメール等で対応している ・掲載希望情報をメールで受け付けている
課題	・各地域の個別情報の収集と発信 ・個別のきめ細かな情報サービス

No.89

名称	九州「川」のワークショップ	活用媒体	イベント
情報発信年	2001年	最終更新日	2010年11月
情報発信者	九州「川」のワークショップ実行委員会　事務局：NPO法人九州流域連携会議		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（企業・小･中学生・高校生・大学生）		
対象エリア	九州地域		
URL	発表団体募集等は、サイト「九州川の情報室」 http://www.qsr.mlit.go.jp/n-kawa/kawa-guide/index.htmlで紹介		
目的	・NPO九州流域連携会議は、九州の各地域・流域で活動する市民団体のネットワークで、九州地域におけるいい川づくりに関わる情報交換や相互支援、人材育成、協働によるワークショップなどのネットワークを活かした活動を展開している。 ・ワークショップでは、公募による活動・事業等の事例発表や討論を通じて互いの情報を交換し、理解や交流を深め、各地のいい川づくりにつながる連携を図る場とすることを目的としている。		
概要	・主要な活動の一つである九州「川」のワークショップは、2001年にスタートし、実行委員会主催による九州各地の持ち回り方式で年1回開催し、2010年11月に宮崎県延岡市で開催された大会で10回目を迎えた。 ・源流域から河口までさまざまな水環境をフィールドとする取組みについて、官民学に呼びかけ募集し、発表や議論を通じて“いい川づくり”のキーワードを探る。具体事例にもとづく直接的な情報交換や全体討論によって、課題の共有や今後の取組み等についての意見交換や提案を行っている。 ・福岡県版ワークショップ「ふくおか水もり自慢！」（2011年2月の筑後大会で第7回）も福岡県内各地で巡回開催している。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見･提案	河川改修	環境学習	歴史･文化景観･資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○				○	○		○	○	
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動･事業内容	他団体･流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○		○	○	○		○			

情報の難易度	さまざまな立場や年齢層に対して相互に理解しやすい内容
情報の種類	ワークショップによる事業・活動事例報告、公開討論等
特徴･工夫	・「一般の部」とともに、「子どもの部」や「学生の部」を設け、若い世代の参加を促している。 ・九州各地での継続的な開催により、人の交流や情報交換を可能にし、さまざまな流域連携や地域連携、具体の取組み等に展開している。 ・（全国）いい川・いい川づくりワークショップとも連携し、本大会を通じたネットワーク、情報発信により全国大会への参加も多く、全国的な交流につながっている。 ・九州各地域の市民ネットワークや大学の教職員等が実行委員に構成メンバーに入っていることから、各大学の学生等若い世代が発表者やスタッフとして運営等にも関わり、世代間交流や地域の活動等に参加する契機にもなっている。
課題	・継続的な開催、運営に関わる費用の捻出、運営体制 ・一般市民への普及、参加者の拡大

No.90

名称	古賀河川図書館	活用媒体	Webｻｲﾄ、ﾒﾙﾏｶﾞ,拠点施設
情報発信年	2008年	最終更新日	2011年1月17日
情報発信者	古賀邦雄、古賀河川図書館		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全国		
URL	http://chikugogawa-marugoto.net/		
目的	・日本及び世界の水、河川、湖沼、水路等に関する文献の収集と公開及び貸し出し ・河川関係者、学童、学生等幅広い層を対象に河川情報を提供している。		
概要	・図書館を設置し、川や水に関する水学、舟運、法律、環境、水害、農業用水、治水、ダム工事誌、児童書など35に大分類し所蔵（約8500冊、2010年現在）している。 ・関係図書を常時収集するとともにインターネットで検索できる。図書館では閲覧、情報提供、貸し出し等を行っている。 ・自主研究として図書館所在地の筑後川の文献調査及び碑の調査を行っている。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見･提案	河川改修	環境学習	歴史･文化景観･資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○								○	
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動･事業内容	他団体･流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
				○					○文献検索	

情報の難易度	独自の分類項目と検索機能、解説等により、専門書等を分かりやすく紹介
情報の種類	（図書館）全国、世界の水、川に関する図書、報告書
特徴･工夫	・個人のコレクション及び図書館開設による閲覧はまれである。 ・図書館には関連図書が毎月数十冊新たに寄贈され、ホームページで紹介されるとともに所蔵文献に追加登録されている。 ・独自の蔵書図書分類法（大分類35、小分類）、書名、著者名、発行年等によるキーワード検索により、インターネット上で蔵書の検索が容易にできる。
課題	

No.91

名称	いい川・いい川づくりワークショップ	活用媒体	ｲﾍﾞﾝﾄ、紙、Webｻｲﾄ
情報発信年	1998年	最終更新日	2010年10月
情報発信者	いい川・いい川づくり実行委員会・（事務局）NPO法人全国水環境交流会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（企業、教育関係等）		
対象エリア	日本全国、韓国		
URL	http://www.mizukan.or.jp/kawanohi/kawanohi.htm		
目的	・河川環境の保全や“いい川”づくりの手法等に関する各地の現場から、その活動事例を報告してもらう。報告内容を議論し、評価する過程で参加者への情報提供や共有、意識の啓発を行う。 ・参加者間の自主的な交流や河川管理への参画を促す。		
概要	・旧建設省が定めた「川の日」（毎年7月7日）を記念し、官民協働による川づくりのための情報交換を目的に1998年から年1回開催。2010年10月の通産13回目の大会でのべ応募件数は864件となっている。 ・毎回、発表、報告者を募り、発表～選考～討論～表彰のプログラムで1泊2日で実施、表彰することでの活動の活性化を期待。 ・年1回の全国大会から現在9箇所での地域大会、韓国国内での全国大会（2010年で9回）に波及している。 ・エントリー団体や結果について、ホームページや記録集の発行により普及を行っている。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○	○		○	○		○	○	
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○		○	○	○		○			

情報の難易度	市民から事業者、研究者等専門家まで幅広い層や多様な立場に向けた分かり易い内容
情報の種類	活動・事業報告、研究報告
特徴・工夫	・各取組みの発表者は参加者に対し3分間で伝えるための表現方法を工夫する。 ・発表、公開討論方式による情報の深化、意見交換。 ・フェイス to フェイスの意見・情報交換。 ・記録集の発行による公表、普及。
課題	・発表者（応募者）からの情報伝達時間の設定が短い（3分）ため、伝達内容が不十分な場合がある。 ・行政情報の減少傾向。 ・全国大会の継続開催における運営経費の捻出が困難。

No.92

名称	メールマガジン「RAC NEWS」	活用媒体	Webｻｲﾄ,ﾒﾙﾏｶﾞ,紙,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2000年9月	最終更新日	2010年12月9日
情報発信者	NPO法人川に学ぶ体験活動協議会（以下、RAC）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（会員、一般希望者、学校等）		
対象エリア	全国		
URL	http://www.rac.gr.jp/		
目的	・RACは川遊びの安全管理、技術等を啓発する目的で設立（2000年）、会員制により構成され、指導者養成のための講習会、サマーキャンプ、フォーラム等を各地で行っている。 ・川をフィールドとした体験活動等を行っている市民団体や活動リーダー、教育関係者等に対して、安全な体験活動を全国的に推進、支援していくため、関連する講座やイベントを企画、運営している。		
概要	・RACが主催する「指導者養成講座」「子どもの水辺安全講座」「各地の会員活動の紹介」「助成金等の情報」等の提供による会員サービスとしての情報発信をホームページと登録制（会員以外の一般の希望者も可）によるメールマガジンで行っているほか、ニューズレター（年1回）を発行している。 ・主催イベントや指導者養成やスキルアップのための講座の案内、参加募集等の広報をホームページ等を通じて行っている。 ・川遊びの安全管理のためのテキスト、啓発書の発行や川遊びグッズ等の紹介（貸し出し、販売等の情報）を行っている。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○							○		
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
				○	○	○				

情報の難易度	専門家から環境学習リーダー、一般市民に対して分かりやすい内容
情報の種類	事業・活動紹介、参加募集、人材・フィールド検索、啓発
特徴・工夫	・ホームページでは、体験学習の支援として「指導者検索システム」を構築、会員の中から登録されている指導者（1033人、2011年1月現在）を、地域や条件から検索できる。 ・同様、フィールド検索として、全国の「川の達人」（RACリーダー資格保有者）からの推薦による「全国川遊び百選」を掲載、フィールドの基本情報とともに、Yahoo 地図を活用した位置情報や推薦者のコメントを掲載している。
課題	

No.93

名称	『全国のひやりはっとプラットフォーム』 （水難事故防止啓発サイト）	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2000年9月	最終更新日	2010年12月9日
情報発信者	財団法人 河川環境管理財団		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（会員、一般希望者、学校等）		
対象エリア	全国		
URL	http://www.rac8.org/11hiyarihat/		
目的	・「水辺のひやりはっとプラットフォーム」は、水辺のレジャーや活動等における危機的状況（「ひやりはっと」）を防ぎ、事故等を防止するため、さまざまな体験事例等をフィールドや状況とともに収集、整理し活用していくために解説された水難事故防止に関わる啓発サイト。		
概要	・本サイトでは、ＲＡＣ（川に学ぶ体験活動協議会）で展開する川の指導者養成講座等で研修の受講者の協力に基づき収集された事例を紹介している。(H22.6現在 1097件）。 ・事例は原則として原文のまま紹介しているが、一部は内容がより理解できるよう管理者の判断で編集、事故等を再発防止のための対策を検証し、紹介している。 ・上記情報をマップ化した「水難事故マップ2003-2009」は、2003～2009年の7年間に、川や湖沼等で水遊び、釣り、遊泳、レジャー、散策、通行中など、様々な状況で発生した水難事故のうち、新聞記事やインターネットニュース情報から把握できた事故の内容と発生地点の位置情報をGoogle Mapを利用し地域ごとに表示している。 ・水辺活動における安全対策や活動支援などの関連情報サイトとリンクしている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
							○		

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
								○水難事故情報

情報の難易度	専門家から体験学習リーダー、一般市民に対して分かりやすい内容
情報の種類	事例情報収集結果、啓発、ガイド
特徴・工夫	・場所や流れの状況等から事例を検索（キーワード検索と選択式簡易検索）でき、事故防止への活用を図っているほか、「傾向と対策」のページにおいて代表的な事例をもとにその対策を紹介し、安全な水辺の活動に対する啓発を行っている。 ・事例の収集は、当初、2003年から2009年の約600件の掲載よりスタートし、その後2009年の記録170件が追加された。ホームページには新規情報の入力画面があり、以降も事例を収集し、定期的に追加していく予定。 ・実際の事故情報を収集、掲載しているため、情報の取り扱い等に関しての配慮を呼びかけている。
課題	

No.94

名称	子どもの水辺サポートセンター	活用媒体	Webｻｲﾄ,ﾒﾙﾏｶﾞ,紙,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2002年7月	最終更新日	2010年12月20日
情報発信者	財団法人 河川環境管理財団		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（教育関係者、学校等）		
対象エリア	全国		
URL	http://www.mizube-support-center.org/#		
目的	・「子どもの水辺サポートセンター」は、国土交通省、文部科学省、環境省（農林水産省も協力）の連携により平成11年度より進められている『「子どもの水辺」再発見プロジェクト』の普及推進・支援組織として設立された。 ・子どもたちの水辺体験活動の充実を図るために、情報提供、各種講習会等の開催、資機材の貸し出しなど関係省庁等とも連携し、様々な支援策を通じて、地域で活動する学校や市民団体による水辺体験活動を支援している。		
概要	・『「子どもの水辺」再発見プロジェクト』（1999～）における「子どもの水辺」（活動組織とフィールド）の申請受付等登録事業とともに、登録された各地域の子どもの水辺をホームページ上で逐次紹介している。 ・安全、人材、場所、活動助成、資格・講座、文献など水辺の体験活動に関わるさまざまな情報を関連する組織とも連携し、インターネットや冊子等により発信している。 ・活動事例集「水辺から学ぼう」の小中学校編と市民団体編を編集、冊子として発行し、希望者に頒布しているほか、ホームページでも公開している。 ・アメリカで開発された水に関する環境教育プログラム「プロジェクトWET」を導入し、独自の講習会等を通じた指導者育成やプログラムの普及に関する情報発信等を行っている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○							○		

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○	○	○			

情報の難易度	学校の教育者から環境学習リーダー等に対し分かりやすい内容
情報の種類	水辺の体験活動に関わる専門的知見、関連事業・制度、機材レンタル等活動支援情報、フィールド等ガイド、啓発
特徴・工夫	・普及、推進の一環として、毎年、全国各地の小中学校、市民団体等が実施している河川体験活動の事例発表会を「川に学ぶ全国事例発表会」を開催している（平成22年度で９回目）。 ・水辺の体験活動に関する最新の関連情報は、登録制のメールマガジンによって配信している。
課題	

No.95

名称	身近な水環境の全国一斉調査	活用媒体	紙,Webｻｲﾄ
情報発信年	2004年	最終更新日	2010年12月
情報発信者	全国水環境マップ実行委員会（事務局：みずとみどり研究会）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全国		
URL	http://www.japan-mizumap.org/		
目的	・全国の河川や水辺の水質を一斉調査し、全国マップを作成し、広報することにより身近な水環境の実態を知る。 ・各地で自ら調査し公表することによる水環境への啓発を促す。 ・全国マップや流域マップの作成し、速報性による水環境改善への情報提供及び活動促進。		
概要	・2004年から毎年6月を時期として行われる、各地の市民団体の参加によるパックテストを用いた統一マニュアルによる全国一斉調査（測定項目は気温、水温、COD）で、これまでに7回実施されている。 ・2010年に実施された第7回調査の調査総数（全国）は、参加団体913団体、調査地点は4923箇所。 ・調査票で収集されたデータは早期に統計化、マップ化され、ホームページ上の速報版や冊子による調査結果概要報告（発行部数：2010年度版 7000部）で公表される。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
			○		○		○		

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○	○				

情報の難易度	調査に参加した市民団体、一般市民に分かりやすい内容
情報の種類	市民参加型調査結果、啓発、活動紹介、活動参加募集
特徴・工夫	・全国マップ、流域マップといった表現方法が水質の広域的な状況や比較等に効果がある。 ・行政による調査結果は約1年かかるが、インターネットによる情報の受発信、参加の募集、調査マニュアルや調査結果の配信等とマップ化が早期の結果報告を可能にし、若年層の参加を勧め、長期の調査継続体制を可能にしている。 ・参加団体の一斉調査結果の活用事例を寄稿により報告書に掲載している。
課題	・事業の継続や報告書・マップの制作費用の捻出 ・参加団体の継続的参加と拡大

No.96

名称	あまみず　ａｍａｍｉｚｕ	活用媒体	紙,Webｻｲﾄ
情報発信年	1995年８月	最終更新日	2010年10月
情報発信者	NPO法人雨水市民の会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全国		
URL	http://www.skywater.jp/index.html		
目的	・雨水の保全、利用に関する情報の提供 ・雨水利用事例の紹介 ・雨水に関する外国の事例、制度の紹介 ・会員の募集等		
概要	・前身である「雨水の利用を進める市民の会」が1995年8月より発行している会報誌。当初はペーパー1枚のかわら版的なものだったが、現在はＡ4版オールカラーで16ページほどの冊子になっている。2010年10月発行の最新号で55号。現在は、6000部で年間3回発行している。会員への提供とともに、一般には1冊500年で提供。 ・雨水に関する各地の利用事例の紹介、海外事例の報告。 ・関連する調査、研究の概要報告 ・雨水に関するＱ＆Ａ ・雨水市民の会が事務局を務める「雨水ネットワーク会議」の報告 ・会からのお知らせや関連する事業等についての「イベントカレンダー」		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○		○			○				

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
		○	○	○		○		

情報の難易度	専門的な内容も多いが、関心のある専門家、市民に対して雨水の貯留や利用に関わる幅広い、最新の情報が得られる
情報の種類	雨水に関する知識、取組み・技術情報
特徴・工夫	・専門的な内容も多いが写真や図表、イラストなどを多用した分かりやすい解説や、特集、レポート、コラムなどで、読み物としての誌面づくりの工夫をしている。 ・Ｑ＆Ａコーナーがあり、読者とのやりとりができる。 ・雨水利用グッズや施設建築、工事、販売等関連企業のＰＲ等による連携を図り、会の運営費を捻出 ・会報誌のバックナンバーは、初期のものから最新号まで、会のホームページから閲覧できる。
課題	

No.97

名称	自然共生研究センター　ARRC NEWS	活用媒体	Webｻｲﾄ,紙,ｲﾍﾞﾝﾄ,拠点施設
情報発信年	2000年9月	最終更新日	2011年1月20日
情報発信者	独立行政法人 土木研究所 自然共生研究センター		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全国		
URL	http://www.pwri.go.jp/team/kyousei/jpn/index.htm		
目的	・実験河川を活用して河川における自然環境の保全、復元方法について調査、研究を行っているセンターの事業ついて、その成果の報告、技術的な相談窓口、イベント情報の案内、報告等を目的とし関連情報を含めて掲載しているホームページ。		
概要	・内容は以下のような構成になっている。 ①センターの紹介 ②研究成果 ③技術相談（多自然川づくりや自然再生技術等、メールや電話での受付） ④イベント情報（実験河川の調査イベント等の案内や報告） ⑤ダウンロードメニュー ⑥施設利用案内 ・トピックスとして、センターでの実験スケジュールや実験の様子や結果などのオリジナル動画をYou Tubeで閲覧できる ・携帯サイトを併設している。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○			○		○	○	○	○
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
				○		○				

情報の難易度	動画や情報誌などにより市民にも専門的内容を理解しやすく紹介し、個別の相談や質問等にも対応するしくみになっている
情報の種類	調査研究報告・成果、イベント情報、実験報告、施設・技術情報、学習・啓発情報
特徴・工夫	・河川環境の保全、復元に関する市民、技術者に対する技術相談を受け付け、対応している。 ・研究コラムとして、研究の概要や成果を分かりやすく解説している。 ・『ARRC NEWS』（紙媒体による年報）は、研究センターのさまざまな活動や研究の最新情報、各地の現場や河川環境情報や関連する行政の情報等について、豊富な写真やイラスト等を使い、特集や投稿記事によって分かりやすく伝えている。最新号、バックナンバーともホームページからPDF版を閲覧、ダウンロードできる。
課題	

No.98

名称	FRICS　川の防災情報ネット	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2006年4月	最終更新日	2011年1月20日
情報発信者	財団法人 河川情報センター（FRICS）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全国		
URL	http://www.river.or.jp/teikyo/index.html		
目的	・洪水、土砂災害等の自然災害に関する河川、流域の情報を防災機関や国民に迅速に発信する。 ・情報提供のノウハウや技術開発を行う。		
概要	・水防災情報のポータルサイト「RIVWE NET」として、以下のような内容の情報発信を行っている。 ①河川、流域に関するイベント等の案内、報告 ②FRICSの研究報告、情報サービスの内容紹介 ③水情報国土データベース等へのリンク、都道府県の河川情報サイト、国交省防災情報へのリンク ④川の豆知識 ⑤月刊誌『POTAL』（川に関するコミュニケーションマガジン、※2008年4月より休刊）		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○	○		○				○		

情報の難易度	関連情報やリタイムの情報を集中的に迅速に把握できるしくみになっている
情報の種類	河川・流域に関する一般情報、防災・災害関係情報
特徴・工夫	・「川の防災情報ネット」は、独自に開発した防災情報サービスで、年間契約により有料で提供している。 ・提供される情報は、国土交通省河川局、気象庁、都道府県等が所管するレーダ雨量データ（現況、累加、履歴、予測等）、テレメータ雨量、積雪、水位・流量、水質、ダム諸量、堰諸量、排水機場諸量、海岸、気象、地震等に関する多種多様な情報。 ・市町村、都道府県毎に関連する直轄管理河川において発令された河川予警報情報や気象注意報・警報、地震情報等で、グラフやマップ、レーダー図等で分かりやすく表示。 ・位置情報は、より具体的な地名、地図等で詳細情報として提示される。
課題	

No.99

名称	機関紙『RIVER FRONT』	活用媒体	紙、Webｻｲﾄ
情報発信年	1988年	最終更新日	2010年9月
情報発信者	財団法人 リバーフロント整備センター		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全国		
URL	http://www.rfc.or.jp/pdf/index1.html		
目的	・同センターによる総合的、先端的な河川等の水辺に関わるテーマや行政と市民に関するテーマ等について調査、研究を行った内容を概要版として報告、紹介するための機関紙（年3回発行）。 ・同センターの活動や事業の案内と報告、関連する図書や関係団体の紹介も行っている。		
概要	・誌面はA4・カラー版、約35ページで、最新号は2010年9月号の69号。以下のような内容構成となっている。 ①巻頭言 ②特集記事 ③地域活性化に関する研究 ④活動紹介 ⑤水辺施設の紹介 ⑥新刊図書の紹介 ・関係者に無料で配布されている。 ・誌面はホームページからPDF版を閲覧することができる。 ・ホームページは、「日本河川流域再生ネットワーク（JRRN）」、「海岸情報ステーション」、「国内外の川の紹介」等へリンクしている。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○			○		○	○		○
生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
		○	○	○		○		○研究報告	

情報の難易度	主に専門家や研究者等に向けた専門的内容
情報の種類	国内外の河川・海岸情報、河川関係研究報告
特徴・工夫	・機関誌『RIVER FRONT』のほかに研究成果を報告する『リバーフロント研究所報告』（年1回発行）、その他関連図書の編集、発行を行っている。 ・かつて発行された月刊誌『FRONT』（1988～2007）、月刊『多自然研究』（～2009）のバックナンバーが検索、閲覧できる（『FRONT』は目次のみ）。
課題	

No.100

名称	ホームページ　JAPAN　RIVER	活用媒体	Webｻｲﾄ、ﾒﾙﾏｶﾞ,紙,ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	1940年	最終更新日	2010年12月16日
情報発信者	社団法人日本河川協会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全国		
URL	http://www.japanriver.or.jp/		
目的	・設立(1940年)当初は、全国的な大水害が頻発した時期で、水害防除のため国民的啓発を目的とした。1997年の定款変更とともに安全で快適な自然豊かな川をめざして河川に関する情報交流、知識の普及や河川愛護活動の支援を目的に、ホームページや雑誌の発行、講演会の開催等を通じて情報発信を行っている。		
概要	・ホームページ「JAPAN RIVER」は、河川に関する個人や種々の団体、行政間の意見交換、交流の場として、主に以下のような内容が掲載されている。 ①会員によるサークル活動等を通した情報交換の場 ②定期刊行物、雑誌「河川」のこれまでの記事検索 ③文献、資料、河川活動団体名簿などの検索、「川のなんでもリンク集」等 ④主催講演会「河川文化を語る会」ほか講演会やセミナー等の案内、報告等		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○		○			○				
生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
		○	○	○				○文献検索	

情報の難易度	活動団体、技術者、専門家など幅広い層に対し関連する情報へのアクセスを容易にしている
情報の種類	イベント等事業情報、会員情報、河川管理一般
特徴・工夫	・会員制でインターネット、紙情報、フィールドワーク、講演会等、多岐に渡る方法で河川全般の情報を国内外に提供する。
課題	・会員の高齢化、減少と新規会員の獲得 ・活動団体情報などの内容の更新と追加

No.101

名称	国立環境研究所『NIES』(ニース)	活用媒体	Webｻｲﾄ,ﾒﾙﾏｶﾞ,紙
情報発信年	2001年4月	最終更新日	2011年2月8日
情報発信者	独立行政法人　国立環境研究所		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全国		
URL	http://www.nies.go.jp/		
目的	・研究成果の普及を目的に地球環境や日本の環境に関する総合的、総括的な情報の提供している ・他の研究機関との連携を図り、同研究所やその他研究機関における研究情報の提供している。 ・国際会議、シンポジウムのイベントの開催案内、報告など、国際協力研究や所外での研究活動等も含めた情報の収集、発信を行っている。		
概要	・環境問題に関する新着情報、研究所案内、研究への取組み(研究内容と報告)、イベント、刊行物、データベース等の情報を提供する。 ・研究所内に設置された「地球環境センター」「環境リスク研究センター」等が提供するニュース、オンラインマガジン、インフォメーションにリンクされている。 ・中学生のための環境学習会として環境科学解説のページがある。 ・他、刊行物として『環境儀』、『国立環境研究所ニュース』等で活動や研究成果等を分かりやすく報告している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○		○	○						○

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
								○研究成果

情報の難易度	環境情報、研究に関する総合サイトとして、研究者から一般市民まで、関連する情報に容易にアクセス、閲覧できる
情報の種類	地球環境、大気・水環境、健康、科学物質、自然、ゴミ等環境全般に関わる研究成果や関連する情報、研究成果
特徴・工夫	・研究所の各部門が個々に情報を提供していてリンクされている。また環境の研究分野別の関連情報にアクセスできるしくみになっている。 ・研究者だけでなく一般や学童(主に中学生以上)に向けた分かりやすい解説で研究成果や情報を提供している。
課題	

No.102

名称	水とともに	活用媒体	紙,Webｻｲﾄ
情報発信年	1995年８月	最終更新日	2011年1月
情報発信者	独立行政法人 水資源機構		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全国		
URL	http://www.water.go.jp/honsya/honsya/index.html		
目的	・安定した水資源の確保をめざし、ダムや水路事業等に関する情報を提供している。 ・土木の歴史、人物伝等、土木等公共事業への理解、啓発と水資源機構の運営の公開。		
概要	・「水」と「水資源機構」に関する情報を掲載している月刊広報誌。A4サイズ、オールカラー版、30ページ、毎月1回発行。 ・土木技術に関するPR。①土木の歴史、②水資源に関わるダム、水路と地域の紹介、③水の土木遺産等について、寄稿や対談方式、取材記事等により構成。 ・水資源機構の事業の紹介等及び機構が管理する水資源施設や存在する水源地等市町村の観光情報等魅力資源の紹介。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
				○				○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○	○		○		

情報の難易度	専門的な内容も多いが、専門外でも水資源や土木事業等関連について理解しやすい内容である
情報の種類	水資源機構事業の広報、水資源や土木技術や構造物等の紹介
特徴・工夫	・日本の土木史、土木の役割の紹介が大半を占めている。 ・豊富な写真、図表等を使用したオールカラーの誌面、作家による土木史の物語等で読み物的な内容としている。 ・ホームページから、2008年からの総目次、2009年からのPDF形式バックナンバーがで閲覧、ダウンロードできるほか、土木偉人伝などの連載は、独立して各回別に閲覧できるようになっている。
課題	

No.103

名称	ダム水源地ネット	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2008年	最終更新日	2011年2月1日
情報発信者	財団法人 水源地環境整備センター		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全国		
URL	http://www.dam-net.jp/		
目的	・ダム水源地環境整備センターによる広報誌「みんなでつなぐダム水源地ネット」(1992年創刊、2008年3月月号までは冊子として発行）と「リザバー」が統合し、河川の上下流をつなぐWEB総合情報誌としてリニューアルされたホームページ。ダムやダム事業に関わる広報として事業の案内や報告を発信ししているほか、上下流を結ぶ啓発、水源地の地域振興を目的とした情報発信を行っている。		
概要	・WEB上の月刊誌の体裁で、以下ような内容で構成されている。 ・「水源地の紹介」：地域情報や関連イベント、特産品、観光情報等を写真や地図とともに掲載。 ・「今月の行事」：各地の水源地やダム周辺でのイベントや祭り等の情報 ・「水源地レポート」：各地の水源地の地域振興の取り組みをレポート ・「ワンポイントセミナール」：ダム事業に関連した行政情報・通達、ダム管理新規施策等の解説（連載形式） ・「水源地情報」：各地の水源地やダムに関する事業やイベント、調査・研究等の案内、報告等 ・「リザバー」を受け継ぐページとして「技術講座」（ダム管理に関する諸テーマについて内容を解説）や「事例紹介」（ダム・堰危機管理業務顕彰表彰等、ダム管理に関する事例を紹介）を掲載 ・他に各地の湖畔での釣り情報		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○		○						○	
生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
		○	○	○	○	○			

情報の難易度	レポートや記事、連載など誌面的な構成により一般市民にも分かりやすい内容である
情報の種類	地域情報、事業情報、観光情報
特徴・工夫	・WEBマガジンとして、関連機関や水源地域の自治体などの関連情報等へのアクセスがしやすい。 ・紙媒体による「ダム水源地ネット」、「リザバー」のバックナンバーのPDF版も閲覧できる。 ・登録制のメールマガジンサービスを行っている。
課題	

No.104

名称	海ごみプラットフォーム・JAPAN	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	2007年5月	最終更新日	2011年1月
情報発信者	一般社団法人　JEAN		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全国及び韓国など海外		
URL	http://www.malipjapan.jp/		
目的	・全国ネットワーク組織であるJEANが、2007年より海ゴミ問題の改善を目的に、さまざまな立場の関係者の情報共有や意見交換、対策推進の「場」として、「海ごみプラットフォーム・JAPAN」を呼びかけ、年1、2回の会合を重ね、タイムリーな幅広い情報共有を目的に開設された全国の海ゴミに関する情報を収集、発信するサイト。 ・日本各地の海岸などで行われるクリーンアップキャンペーン情報や海ゴミに関するニュース、行政情報、研究論文等を発信し啓発を行う。		
概要	・サイトでの発信内容は、「海ごみ情報」（ニュース、法令、行政情報、研究論文・報告書）、「コミュニティイベント」（地域情報、活動情報）、「海のはなし」（これまでのJEAN通信、クリーンアップレポート等に掲載された記事の紹介）、「クリーンアップキャンペーン情報」等により構成されている。 ・他に情報発信として、Eメールで発信する日韓のNGOで共同発行する「海洋ゴミニュース」（英語版、年2回発行）、JEANの機関紙（年4回発行）等がある。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○					○				
生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
			○	○				○海ゴミ情報・法令等	

情報の難易度	情報共有のためのプラットフォームとして、活動団体、関係機関、行政などに対し、関連するさまざまな情報を効率よく提供している
情報の種類	海ゴミ、川ゴミに関する法制度、研究論文、活動紹介・報告、ニュース
特徴・工夫	・位置情報や写真を多用した多様な関連情報を掲載しており、サイト内のキーワード検索ができる。 ・コミュニティイベント情報については、全国の会員からの情報掲載も行っている。 ・クリーンアップキャンペーン情報は、各地の活動の一覧、位置図、調査結果が検索できる。
課題	・当初、種々の情報を網羅した「海のポータルサイト」を開設したが、外部からの悪質なアクセスのため閉鎖した経緯がある。

名称	Asian River Restoration Network	活用媒体	Web サイト
情報発信年	2006年	最終更新日	2011年2月9日
情報発信者	ARRN事務局　（財団法人リバーフロント整備センター）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（海外　　）		
対象エリア	アジア		
URL	http://www.a-rr.net/		
目的	・第4回「世界水フォーラム」において、日本、韓国、中国の三ヶ国に加え、マレーシアとUNESC-IHE（ユネスコ-水教育研究所）による分科会「アジアモンスーン気候地域の流域保全」をテーマとした分科会が開催され、これをきっかけに、アジア諸国における河川再生に関する情報交換を目的にARRN（アジア河川・流域再生ネットワーク）が組織（2006年11月/東京）された。 ・本サイトでは、アジアモンスーン気候地域における河川保全のためのデータベース、技術的なガイドライン等の情報を共有することを目的に、日本、韓国、中国等アジア圏の情報を発信している。		
概要	サイトの構成は、以下の通りである。 ①ニュース＆イベント：ARRNメンバーにより提供された河川及び流域の保全情報や国際会議などのニュース等 ②ARRNの紹介：設立の背景、活動の目的、事務局について ③ARRNメンバー：団体構成、会員情報、団体構成及び会員の紹介、 ④活動報告：ARRNの主要事業である国際フォーラム、ワークショップ等の報告と広報委員会からの提供情報 ⑤刊行物：流域保全ガイドラインを含む年間報告、ニュースレター等 ⑥資料：河川保全のためのガイドライン、関係論文、参考資料等 ⑦プロジェクト：日本、中国、韓国及びヨーロッパ各国の河川改修事例の紹介		

情報カテゴリー	利用・イベント	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(データ)
	○				○	○				
	生物(知識)	災害(データ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	リアルタイム情報	その他	
				○	○				○海外事例紹介	

情報の難易度	アジア各国の幅広い情報にアクセスできる仕組みになっている
情報の種類	日本、韓国、中国を中心とした国際フォーラム及び河川改修事例
特徴・工夫	・ARRNの構成団体であるJRRN（日本）、KRRN（韓国）、CRRN（中国）の各サイトとリンクしているため、アジア圏の情報を入手しやすい。 ・ニュースメールとニュースレターを発行しており、ニュースメールはメールマガジン形式で会員向けに発信している。内容は、国際会議等の開催案内や各国からの情報発信など。ニュースレターは年2回発行されるカラー版の郵送機関紙で、半年ごとの活動報告等を掲載している。ともに上記Webページよりダウンロード可能。
課題	・事務局である（財）リバーフロント整備センターのWeb サイト（JRRN）からたどりつきにくい。

名称	Citizen's association for Bundang environment	活用媒体	Webサイト
情報発信年	1994年	最終更新日	2011年2月9日
情報発信者	盆唐(ﾌﾞﾝﾀﾞﾝ)環境市民団体		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	韓国 京畿道城南市及び周辺		
URL	http://www.bandi.or.kr/		
目的	・盆唐環境市民団体は、ホタルをはじめとする生物の生息環境を守るための調査、分析、環境教育プログラムの実践などに取り組む団体。城南市を流れる炭川に関わる市民団体のネットワークに向け、子どもから大人まで分かりやすい環境情報の発信を目的としている。		
概要	①家庭からの排水や雨水利用に関する情報 ②京畿道(行政区)を中心とする環境教育に関わる団体のネットワーク組織としての経緯や目的等の紹介。 ③団体の活動・事業(自然学校のプログラム、干潟等の渡り鳥に関する情報、環境教育ガイド、ホタル生息地のナショナルトラスト運動等)の紹介や参加の呼びかけ ③幼稚園児、小学生向けの体験教室、昔遊びやカエル、ホタルなどの生きものの写真や資料の紹介等		

情報カテゴリー	利用・イベント	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(データ)
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生物(知識)	災害(データ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	リアルタイム情報	その他	
	○			○	○		○			

情報の難易度	写真を多用し、内容や表現に配慮した大人から子供まで分かりやすい内容
情報の種類	イベントや活動の案内と参加募集、体験活動教室の紹介や活動報告など
特徴・工夫	・体験教室のページは、2～3日おきに頻繁に更新されているため、最新情報が入手できる。 ・関係する環境教育機関や、河川愛護団体とのリンクしている。 ・体験教室の参加者、教育関係者、流域の市民、住民団体等、広く情報を提供している。
課題	

名称	健やかな道林川をつくる市民の会	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	1999年	最終更新日	2011年2月9日
情報発信者	健やかな道林川をつくる市民の会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	韓国 ソウル市内　道林川流域		
URL	http://www.dorimchun.org/index_k.html		
目的	・韓国ソウル市内の道林川（ドリムチョン）をフィールドに、道林川を自然型河川に近づけるための調査研究、市民が川と憩える場の造成、地域環境教育などの活動を行う市民団体による広報、啓発のためのホームページ。		
概要	ホームページは以下のような内容で構成されている。 ・団体の沿革、フィールド（道林川）の紹介 ・団体の活動（雨水貯留・活用に関わる活動、地域の小・中学生、高校生を対象とした環境教育活動や河川関連の生態調査、他の地域団体や学校教育に関する支援活動、ソウル大学との協働による環境教育プログラムや拠点施設の設立、運営など）紹介、報告 ・環境教育など活動に関わる論文や資料の公開 ・関係する市民ネットワーク、団体の紹介（リンク） ・関連するイベントや事業、公的機関や民間の助成事業などを最新情報として逐次掲載している。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○	○		○		

情報の難易度	流域住民に向けて、写真を多用した分かりやすい内容になっている
情報の種類	活動紹介、活動報告、啓発
特徴・工夫	・フィールド活動や交流活動など多くの活動の写真を多数掲載し、活動に対する理解や啓発を促している。 ・国内の関連する大会（韓国「川の日」大会）や国外（日本）の大会（「川の日」ワークショップ、雨水国際会議など）などにも参加し、交流を図るとともに関連する情報の受発信を積極的に行っている。 ・川をフィールドとした環境教育の実施や子どもや学生の活動への参加機会の提供や活動支援等を通じて、若い世代の啓発や人材育成を図っている。 ・地域の高校生と連携した道林川愛護キャンペーンなどを定期的に実施している。
課題	

名称	韓国「江の日」大会	活用媒体	ｲﾍﾞﾝﾄ
情報発信年	2003年	最終更新日	2010年8月
情報発信者	韓国「江の日」大会実行委員会		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	韓国内全域		
URL			
目的	・さまざまな活動主体による水辺環境（河川、海岸、干潟、湿地、湖沼など）の保全活動事例について、公開による発表、討論、審査という方式を通じて優秀な事例を選考することを目的に2002年より毎年開催している。参加者は、韓国内全域から集まり、流域市民、市民団体、企業、行政関係者、教育関係者等で情報を共有、交流することで広く水辺環境の保全に資することを目的とする。		
概要	・2002年のスタート以来、毎年、韓国内各都市にて開催。地元自治体や企業の協力を得て、各回の組織委員会を設立し、運営に当たっている。各回の参加者は、約300名にのぼり、関連する国際シンポジウムや青少年交流プログラム、河川敷での祭典などが同時開催される。 ・第１回(2002年)：「江の日陽平(ﾔﾝﾋﾟｮﾝ)大会＆国際シンポジウム」（京畿道/陽平市） ・第２回（2003年）：「江の日城南大会＆韓日河川文化シンポジウム」（京畿道/城南市） ・第３回（2004年）：「江の日釜山大会」（釜山広域市） ・第４回（2005年）：「江の日公州大会国際大会」（忠清南道/広州市） ・第５回（2006年）：「江の日全州大会」（全羅北道/全州市） ・第６回（2007年）：「江の日晋州大会＆青少年水環境プログラム」（慶尚南道/晋州市） ・第７回（2008年）：「江の日羅州大会＆韓日青少年交流ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」（全羅南道/羅州市） ・第８回（2009年）：「江の日仁川大会＆国際河川シンポジウム」(仁川広域市) ・第９回（2010年）：「江の日安東大会」（慶尚北道/安東市）		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○		○	○	○	○		○	○	

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○			○	○		○		○緑地

情報の難易度	・子どもの活動から市民活動まで、多様な層が直接的な交流とともに情報を交換、共有できるしくみである
情報の種類	活動発表・報告
特徴・工夫	・日本で開催している「いい川・いい川づくりワークショップ」（前、「川の日ワークショップ」）を通じた両国の交流がきっかけとなって始まった大会。双方の大会で高い評価を得た事例の発表者が参加したり、若い世代の交流プログラムの開催など両国間のNGOレベルでの交流が年々拡大している。
課題	・最新情報や大会概要報告など、Webサイトを利用した大会についての情報発信が求められる。

名称	台湾河川復育網	**活用媒体**	Webｻｲﾄ
情報発信年	2008年	**最終更新日**	2010年11月
情報発信者	台湾河川再生ネットワーク		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	台湾全域		
URL	http://trrn.wra.gov.tw/trrn_en/		
目的	・TRRN（台湾河川再生ネットワーク）は、2008年、水資源計画研究所、水資源エージェンシー及び台湾経済省によって設立された。 ・台湾全域の河川環境の保全及び持続可能な河川再生のための国内外の河川再生事例を含め共通情報の発信を目的としている。		
概要	・団体紹介（設立の経緯、活動紹介等） ・ニュースレター ・シンポジウムやセミナー等、自主開催事業の紹介と報告 ・台湾全域の全河川の紹介（マップによる位置図、河川の現況、水質等） ・河川改修(復元)事例の紹介（国内事例とともに日本など国外の事例も紹介） ・生態復元のための工程や工法、メンテナンス、ポイントなどの情報 ・河川生態学データベース（国内河川ごと） ・河川生態復元に関わるNGO団体の紹介 ※中国語と英語の二ヶ国語対応		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○		○		○	○	○			

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○					

情報の難易度	比較的専門的な内容もあるが、啓発的な要素が強く、写真等を多用し、関連情報も含め全体的に一般市民に対して分かりやすい内容になっている
情報の種類	団体紹介、活動紹介、河川情報、河川改修事例紹介
特徴・工夫	・河川の自然復元をめざした国内外の整備事例などについて写真等を多用し、数多く紹介している（国外の事例としては日本の事例が多い）。 ・台湾内の情報を発信するだけでなく、アジア圏内の各種セミナーやシンポジウム等、関連する情報も合わせて公開している。
課題	

名称	River Symposium	**活用媒体**	Webｻｲﾄ
情報発信年	1997年	**最終更新日**	
情報発信者	International Water Forum		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	全世界		
URL	http://www.riversymposium.com/		
目的	・オーストラリアのクィーンズランド州ブリスベンにて毎年開催される国際河川シンポジウムに関する開催案内や関連情報などの情報サイト		
概要	・1997年より毎年開催されている国際イベントであり、学識者による研究発表のためのシンポジウムのほか、リバーコンサート、展示ブース、川を利用したさまざまな催しを行うリバーフェスティバルなど、多くの人が参加する市をあげての一大イベントであり、開催1年前からプログラムを告知、参加者を募っている。 ・研究や活動発表の中で特に優れている学識者や若い研究者にはリバー賞が与えられ、約20万豪ドルが助成される。		

情報カテゴリー

利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
○		○	○	○	○				

生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
			○	○				

情報の難易度	個別の論文等の内容については専門的
情報の種類	シンポジムのプログラム概要、参加方法、関連イベント情報、研究成果
特徴・工夫	・毎年、多数の論文等が登録されるが、発表論文等は、アップロードされたものから公開される。関連イベント等の詳細も検索しやすく、参加申込み等も全てWeb上で行うことが出来る。
課題	・過去13回の開催概要を閲覧することが出来ない。

名称	The River Restoration Centre	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	1998年4月1日	最終更新日	2011年2月17日
情報発信者	河川再生センター事務局		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（コンサルタント）		
対象エリア	英国全域		
URL	http://www.therrc.co.uk/		
目的	・英国内の河川再生の推進と持続可能な河川管理に向け、国内の情報を提供するために設立された非営利組織。情報等を経験豊かなコンサルタント等のネットワークを通じ、専門的な課題に対する技術情報、河川改修計画のアドバイスを提供することを目的としている。		
概要	＜情報発信＞ 河川改修のための技術的助言や情報の提供。河川工学や水文学、地理学、生態学をはじめとする河川改修及び河川管理の専門家がアドバイザーとしてネットワーク化されており、その紹介等も行っている。 ＜プロジェクト検索＞ イギリス国内の河川改修事業1040件が登録されており、マニュアルやテキストを含む情報を検索することが出来る。 ＜河川改修ワークショップの案内＞ 河川改修のトレーニングワークショップ、改修計画セミナーやプレゼンテーションを開催している。 ＜業者や専門家紹介＞ 請負業者（登録による有料サービス）や専門的なアドバイスを受けるための検索機能と仲介		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
	○	○	○		○	○	○		○	
	生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
				○	○	○				

情報の難易度	・Webサイト内のコンテンツが充実しており検索しやすい。内容は専門的。
情報の種類	・河川管理や整備等に関わる技術情報、計画等、事業・活動情報
特徴・工夫	・英国内河川改修事例の豊富な情報（1,040件）のストックだけでなく、国内の主要な河川に係る市民団体や環境保護団体（15団体）とのネットワークやアメリカ合衆国やヨーロッパ諸国の関係団体とリンクし、広く情報を提供している。 ・専門的なアドバイス等に対する検索や仲介の仕組みが有料サービスとして確立されている。
課題	

名称	British Waterways　“Waterscape”	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年		最終更新日	2011年2月
情報発信者	British Waterways （ブリティッシュ・ウォーターウェイズ）		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（ツーリスト）		
対象エリア	英国全域		
URL	http://www.britishwaterways.co.uk/home （British Waterways） http://www.waterscape.com/（Waterscape）		
目的	・British Waterwaysは、1962年に設立され、イングランド、スコットランド、ウェールズの2200マイルにおよぶ河川、運河のネットワークを再生、管理し、利用に供するための公益法人。主な役割の一つである河川、運河に関する情報発信として総合情報サイト「Waterscape」を運営している。		
概要	・British Waterwaysが提供する河川、運河に関する総合情報サイト「Waterscape」は以下のような内容で構成されている。 ①河川、運河の紹介（地域ごとに検索可能、歴史的構造物などあわせて紹介） ②河川、運河の活動、利用関わる情報 ：ボランティアやレンジャーの活動紹介、ボートクルージング、サイクリング、釣りに関するルートやサービス施設などのガイド、利用に関するルールなど、さまざま関連情報を含め詳しく紹介 ③河川、運河に関わるイベント（ワークショップや講座、展示会など）情報 ④月刊ニュース「Boaters'」や最新ニュースなど ⑤地図情報や関連情報へのリンク		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（ﾃﾞｰﾀ）
	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	生物（知識）	災害（ﾃﾞｰﾀ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○			○	○	○	○		○緑地	

情報の難易度	・Webサイト内のコンテンツが充実しており、多様な目的による検索も容易
情報の種類	・地域情報、河川・運河網情報（施設や位置情報等）、利用情報 ・市民活動情報、イベント情報
特徴・工夫	・河川、運河ネットワークのプレジャーボートを利用したクルーズは、英国内ではポピュラーであり、係留、給水などの便宜施設や構造物、ルートなど詳細情報を掲載した紙媒体の情報（マップやガイドブック）が発行されてきたが、インターネットにより、地域ごとの検索や関連情報や最新情報を含めた情報の取得が容易になっている。 ・リンクするマップのサイトでは、上記のような情報マップをWeb-GIS上で展開している。 ・サイクリング情報として推薦コースやポイントの投稿が可能。
課題	

名称	European Centre for River restoration	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	1999年	最終更新日	2010年7月
情報発信者	European Centre for River restoration　事務局		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（　　）		
対象エリア	ヨーロッパ全域		
URL	http://www.ecrr.org/		
目的	・持続可能な水管理のもとでのヨーロッパ全域における良識ある河川整備の促進を支援することを目的とし、河川の生態系保全、水質、洪水管理、事業の成功例等の情報を発信している。		
概要	・センターの設立経緯と主な活動紹介 ・ヨーロッパにおける各国の河川保全センター支部の紹介 ・国際会議、セミナー、水に関するフォーラム、現地視察会の紹介 ・ニュースレター、国際会議の議事録、関係出版物、文献等の情報公開 ・EU文献データベース検索：野鳥、洪水、地下水、河川改修等		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○		○	○	○	○	○			○
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○	○	○	○	○	○				

情報の難易度	幅広い層に対する比較的専門的な内容
情報の種類	団体紹介、活動紹介、主催プログラム紹介、文献等の公開
特徴・工夫	・ヨーロッパ全域の河川保全情報センターであるため、事務局は2～3年ごとに異なる国(デンマーク、オランダ、イタリア等)に置き、その役割を担う。現在の事務局はオランダの国土水管理行政サービスに設置されている。 ・インターネットによる情報発信だけでなく、出版物、ニュースレターの発行・発信、国際会議、テーマごとのワークショップ、フィールド視察等の主催、ほか国際会議等での発表や参加といった多様な情報発信を展開している。
課題	

名称	American Rivers	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	1973年	最終更新日	2011年2月17日
情報発信者	American Rivers		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（企業等　）		
対象エリア	アメリカ合衆国内		
URL	http://www.amrivers.org/		
目的	・アメリカン・リバーズは、河川や地球温暖化、川の復元、河川保護、安全できれいな水供給等を目的に1973年に設立されたアメリカのNGO。本サイトは、団体のミッションや活動の広報とともに、地球温暖化がもたらす河川の枯渇や大洪水、水資源、河川改修等河川事業、水環境の保全等に関わる情報を発信することを目的としている。		
概要	・1973年の設立以来、主に登録している会員（65,000名）や国内外の市民に向けて、以下のような情報を提供している。 ①地球温暖化と川との関係 ②河川環境の保全 ③川の利用（洪水対策、川でのレクリエーション、川の生きもの） ④水の供給について ⑤人々の生活と水資源 ・合衆国本土を9ブロックに分け、ブロックごとの活動やイベント等を紹介。 ・全国的に展開する川でのクリーンアップキャンペーンの開催案内や開催報告。		

情報カテゴリー	利用・ｲﾍﾞﾝﾄ	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源)	生物(ﾃﾞｰﾀ)
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生物(知識)	災害(ﾃﾞｰﾀ)	防災(啓発)	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他	
	○	○	○	○	○	○	○			

情報の難易度	多様な層に向けた情報を総合的に公開し、専門性の高い情報を得ることもできる
情報の種類	団体情報、活動情報、活動成果、研究成果、啓発
特徴・工夫	・広大な合衆国の国土を9つのブロックに分け、地区ごとのイベントや活動情報を容易に検索することができる。 ・スタッフに多方面の専門家を有する組織で、アメリカの河川に関わる大規模な河川改修事業の内容、予算といった詳細や関連情報を閲覧することが出来る。 ・登録会員や寄付者に対するサービスとして、年間カレンダーや出版物の配信、誕生日や記念日などに特典などを用意し募っている。
課題	

名称	Surf Your Watershed	活用媒体	Webｻｲﾄ
情報発信年	1970年（機関設立年）	最終更新日	2011年3月1日
情報発信者	The US Environmental Protection Agency (EPA)　アメリカ合衆国環境保護庁		
対象者	一般住民　市民団体　行政　研究者　その他（企業等　）		
対象エリア	アメリカ合衆国内		
URL	http://www.epa.gov/owow/surf/		
目的	・「Surf Your Watershed」は、人間の生命と健康を保障する自然環境、水、大気、土地など環境全般の保護、管理を行う国の機関として設立されたEnvironmental Protection Agency (EPA)　が運営する総合情報サイトで、アメリカ全土の水環境に関する施策や事業、法律、活動等関係情報について、各流域等から検索できる。		
概要	・トップページから、郵便番号、都市名、州・郡名、河川名等、地理的単位やキーワード、または地図上の州ごとの検索から「自分の流域」を検索することができる。 ・大気や水環境に関するエリアごとのデータコードナンバーを持つ各流域情報は、流域のプロフィールとして以下のような情報を閲覧できる。 • 流域名、行政区域 • 市民グループや研究機関 • 問題のある水域や調査環境アセスメントの評価 • 米国地質研究所のさまざまな調査データ • 郡や関連する地域の情報 • EPAの事業の一つであるNational Estuary Programs（河口・沿岸域の環境保全事業）に関わる地域情報		

情報カテゴリー

利用・イベント	維持管理	水循環	水質	川づくり	意見・提案	河川改修	環境学習	歴史・文化景観・資源）	生物（データ）
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

生物（知識）	災害（データ）	防災（啓発）	活動・事業内容	他団体・流域団体	活動支援	まちづくり	ﾘｱﾙﾀｲﾑ情報	その他
○	○	○	○	○	○	○		

情報の難易度	多様な層に向けた情報を総合的に公開し、専門性の高い情報を得ることもできる
情報の種類	団体情報、活動情報、活動成果、研究成果、啓発
特徴・工夫	・流域の環境情報のほか、州など広域的レベルでの大気、水環境等環境調査データやEPAや他の研究機関の関連情報等へのアクセスが容易にできるしくみになっている。
課題	

参考資料２　市民団体による情報受発信の状況及び情報ニーズに関するアンケート調査結果

１）アンケート概要

・実施期間　：2011 年 2 月

・配布数　　：流域ネットワーク団体（合同ヒアリング参加団体）経由　約 80 団体
　　直接依頼　41 団体

・回収数　　：51 団体

・設問数　　：15 問

・アンケート調査票

質問１　貴団体の名称を教えてください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

質問２　貴団体の活動対象の河川・活動範囲について教えてください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿水系＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿川

【活動範囲（最もあてはまるもの１つに○をつけてください。）】

①複数の流域全体　②流域全体　③1 つの河川全体（源流～河口まで）　④河川の一部

質問３　貴団体の活動目的について教えてください。

……

……

……

……

質問４　貴団体の組織について教えてください。

スタッフ数：＿＿＿＿＿＿人　　会員数：＿＿＿＿＿＿人

質問５　貴団体が行っている活動内容について教えてください。（あてはまるもの全てに○をつけてください。）

①河川清掃・河道の維持管理	②まつり・イベント	③自然観察
④学習会･シンポジウム	⑤環境学習・体験活動	⑥環境調査
⑦研究活動	⑧多自然川づくり	⑨水質浄化運動
⑩生物保全活動	⑪市民等への提案活動	⑫行政等との意見交換･提案
⑬河川環境等の情報発信	⑭普及・啓発活動	⑮防災や水防等の活動
⑯その他（　　）		

質問６　貴団体の抱えている課題や問題点があれば教えてください。（あてはまるもの全てに○をつけてください。）

①河川の生態系保全	②多自然川づくり	③河川の水質保全・向上
④活動の安全確保	⑤行政等との関係	⑥市民・住民への普及・啓発
⑦河川に関する知識不足	⑧専門家との繋がり	⑨資金確保
⑩人材確保	⑪資材確保	⑫情報交換・コミュニケーション
⑬マネジメントに関する能力不足	⑭その他（　　）	

質問７　貴団体の抱えている課題や問題点について具体的に教えてください。

例）活動している河川の生態系に関する知識が不足している、若手の育成をしたいが人手が集まらない　　など

……

……

……

質問8 貴団体の河川環境の情報の受発信の状況について教えてください。以下の対象（相手）ごとに、主にどのような情報の内容を、どのような手段で、どの程度入手（受信）しているか、また、どのような情報の内容を、どのような手段で、どの程度発信しているのかについて、該当するものを選んで記入ください。（あてはまるもの全てを記入ください。特にあてはまらない箇所は空欄にしてください。）

対象(相手)	情報の入手(受信)			情報の発信		
	A.情報の内容	B.手段	C.頻度	A.情報の内容	B.手段	C.頻度
記入例	①、②	①、③、⑧	④	①、②、③、④	③、⑤、⑥	①
河川管理者						
流域の自治体						
学識者・専門家						
他の市民団体						
学校						
市民・住民						
会員						
その他						

【A.内容】

①水環境・水循環　②水質　③植物
④魚類　⑤魚以外の水生動物　⑥③～⑤以外の生物
⑦川づくり　⑧川に関わる資源　⑨市民の意見・提案
⑩利用・イベント　⑪歴史・文化　⑫景観
⑬環境学習・体験学習　⑭維持管理　⑮河川改修
⑯その他

【B.手段】

①ホームページ　②ブログ　③メール
④ツイッター　⑤WebGIS(地理情報システム)　⑥SNS(ソーシャルネットワーキングサイト)
⑦懇談・会議　⑧紙の広報誌・通信　⑨フィールドワーク
⑩フォーラム　⑪ワークショップ　⑫紙のマップ
⑬電話　⑭FAX　⑮郵便・宅急便など
⑯新聞などのマスコミ　⑰ミニコミ紙　⑱その他

【C.頻度】

①ほぼ毎日　②1週間に数回　③月に数回
④月に1回　⑤半年に1回　⑥1年に1回
⑦数年に1回　⑧ほとんどない

質問9 活動を行う上で河川環境に関してどのような情報が不足していますか。（あてはまるもの全てに○をつけてください。）

①水環境・水循環	②水質	③植物
④魚	⑤魚以外の水生動物	⑥③～⑤以外の生物
⑦川づくり	⑧川に関わる資源	⑨市民の意見・提案
⑩利用・イベント	⑪歴史・文化	⑫景観
⑬環境学習・体験学習	⑭維持管理	⑮河川改修

⑯その他（具体的に　　）

質問10 不足している情報について具体的に教えてください。

……

……

……

……

……

質問11 今後、貴団体が活動を通してもっと発信したい情報があれば具体的に教えてください。

……

……

……

……

……

質問12 市民からよく聞かれる、あるいは求められていると感じる情報があれば具体的に教えてください。

……

……

……

……

……

質問 13 河川環境の情報の受信や発信について抱えている問題点があれば教えてください。（あてはまるもの全てに○をつけてください。）

【情報の発信について】

①団体の持つ情報が不足している
②情報の整理・蓄積が出来ていない
③情報が多すぎて何を発信すればよいかわからない
④専門的な内容を分かりやすく発信するのが難しい
⑤情報が会員全体に行き届かない
⑥情報が市民にまで届いていない
⑦行政への情報発信が不足している
⑧団体として情報を発信するためのツールが不足している（インターネットなど）
⑨市民の側に情報を受信するためのツールが不足している（インターネットなど）
⑩人手が足りずホームページの更新ができない
⑪情報発信のための資金が限られている
⑫その他（　　）

【情報の受信について)】

①河川環境に関する情報が全般的に不足している
②行政からの情報が不足している
③情報の内容が専門的でわかりにくい
④情報が多すぎて混乱する
⑤情報が市民にまで届いていない
⑥団体として情報を受信するためのツールが不足している（インターネットなど）
⑦市民の側に情報を受信するためのツールが不足している（インターネットなど）
⑧情報を受信し続けるための資金がない
⑨その他（　　）

質問 14 情報の受発信で工夫している点があれば具体的に教えてください。

……

……

……

……

……

質問 15 その他、河川環境の情報の受発信について意見･提案などがあれば教えてください。

……

……

……

……

……

……

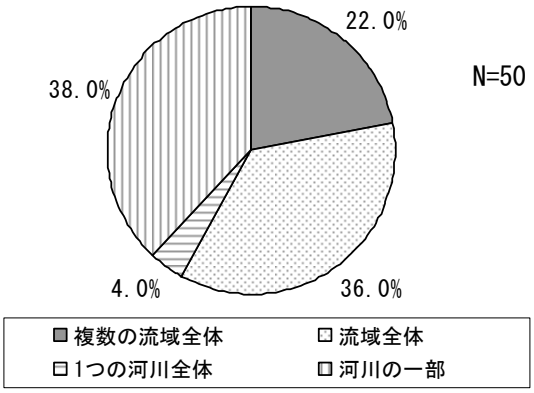
2）アンケート結果

質問１　貴団体の名称を教えてください。

（回答略）

質問２　貴団体の活動対象の河川・活動範囲について教えてください。

【活動範囲】



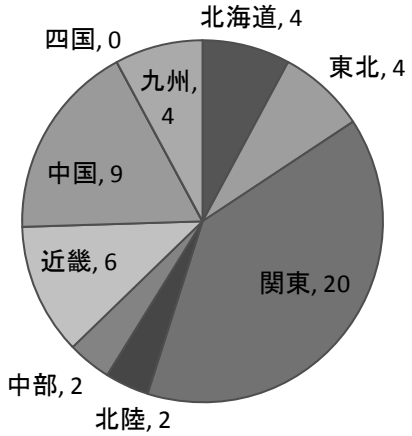
選択肢	回答数	割合
複数の流域全体	11	22.0
流域全体	18	36.0
1つの河川全体	2	4.0
河川の一部	19	38.0
合計	50	100.0

【活動水系】

石狩川（4）	北上川	名取川	最上川	阿武隈川
荒川（13）	多摩川（6）	利根川	信濃川	加地川
安倍川	天竜川	淀川(4)	大和川	近木川・見出川
旭川（7）	吉井川(2)	五ヶ瀬川	大野川	緑川
川棚川				

【活動地方】

北海道(4)	東北(4)	関東(20)	北陸(2)
中部(2)	近畿(6)	中国(9)	九州(4)



質問３　貴団体の活動目的について教えてください。（n=51）

【地域づくり】

・　川を丸ごと博物館に！水を活かしたまちづくり・緑を活かしたまちづくり・歴史文化を活かしたまちづくり

- 地域におけるまちづくりのためのNPO中間支援を目的に設立したが、現在、主な活動として環境分野、とくに海洋ごみ、河川ごみ問題に取り組んでいる。
- 水と緑を総合的・広域的に保全し、水循環のバランスのとれたまちづくりをめざして、市民、行政関係者、企業関係者、専門家が協同して活動している。意識や価値観、立場も異なる個人が集まり、意見を出し合い、その中から協同作業を積み重ねて合意づくりをめざしていく。
- 人間も自然の一部であるという認識に立ち、県内の川を中心とした地域（流域）を対象に以下の事も目的に活動する。①子供たちの健全な成長のため自然に触れ合える環境を整える。②地域文化について意見交換を行う場を設定する。
- △△川の旧川を、村におけるかつての自然や文化、開拓と治水の歴史のシンボルとして位置付け、その自然環境と周辺産業が共に価値を高めあう未来の実現に向けて事業を行い、持続可能な地域社会の醸成に寄与することを目的とする。
- □□川本川および各支流の全流域で、河川浄化、自然環境の保全・回復をはかり、それをまちづくりにいかしている。流域の市民団体、住民団体、教育機関、企業、行政などと交流を深める。河川環境の調査「身近な川の一斉調査」を通し、市民科学の普及、発展に努める。
- 川に関心を持ち、様々な分野で河川と係わりをもっている地域住民に「河川レンジャー」（以下：レンジャー）として、レンジャー自身が培ってきた個性と特性を活かした河川に係わる取り組みを行うことにより、「地域（人）と河川」「地域と行政」を様々な意味で繋げるコーディネートを行う。このことにより、多くの人々が川への関心を高め、川にふれ、川の事を共に考えていける関係の構築を目指す。そして、ひいてはこれまでのような川づくりやまちづくりの時に検討段階の「意見だけ」を地域住民から伺う「市民参加」ではなく、検討から実施計画、実施の最後まで参加する『市民参加』を目指している。
- 市やその周辺部において、循環型で福祉の充実した地域社会をつくることを目的とする
- 会員相互の親睦融和をはかり　地域社会の発展に寄与するとともに、奉仕活動、体力づくりを目的とする
- 小学校の児童・教職員と学校支援ボランティアをコーディネートする地域づくりの組織であり、実践活動として、学校と地域や行政、専門機関と連携して〇〇川の自然を活かした地域づくりの活動を目的としている。
- 川と人とのいい関係の再構築：特に「川ガキ」による遊び文化を育てること。
- 川を軸とした地域間、官民の交流と連携を通じて、豊かな自然を保全し、歴史や文化を尊重しながら安全で楽しい水辺の創造をはかり、市民の活力あふれる社会の実現への寄与。水難事故防止のための安全な川遊びの普及。
- 市内水辺の再生と川を活かしたまちづくりを目指す。ワークショップの場で水辺づくりの市民提案を行ってきた。一方、その実現のため、クリーンリバー作戦、生き物調査、源流ハイキング・間伐作業、舟下り、市民工事などを行政との協働で実施。同時に、これら市民参画・協働の手法による水辺づくり・まちづくりの過程において、「自己決定がやる気を生む」として、市民と行政の関係のあり方の転換を目指す。
- 健全で良好な水環境の改善と創出ならびに水文化の再構築に持続的に取り組み続けていける地域社会の確立を目指した人づくりに、地域全体で持続発展的に取り組み続けていくことを目的としている。自分たちが暮らしている地域を含む流域という大きなつながりの中で、その水環境の現状と課題を把握してその改善や創出を進めていくと共に、「川と共に生きる暮らしと文化」そのものを再構築していくことに取り組んでいる。
- 会員相互の協力や広範な人々との協働によって、水辺に関わる自然、歴史、文化、生活、風俗、福祉、教育、産業、スポーツ、レクリエーション、安全並びに科学技術を探り、これからの水辺の望ましい姿を考え、楽しく生き生きとした美しい水辺づくり、水辺育てを行い、地域にとっての水辺の環境改善やまちづくりに寄与することを目的とする。
- 次の世代を担う子供たちに対して、地域の文化に根ざしたすばらしい自然環境を引き継ぐため、地域の住民と互いに連携を図りながら、環境の保全並びに文化の振興に関する事業を行い、地域の発

展に寄与することを目的として活動している。
- 地域の自然と触れあう体験を通じて、多くの方が将来にわたり、生命の尊さ、自然の大切さを学んでゆけるよう、豊かな自然を子ども達に引き継ぐ事を目指して活動している。豊かな自然を子供たちに引き継ぐ事が本会の目的。

【いい川づくり】
- ○○川流域の河川や水辺で水害・土砂災害等の自然災害の防止、水資源の保護、生態系の保護観察等の活動を行っている仲間たちと交流、連携を促進しつつ、○○川の環境を保全、回復し、次世代に誇りをもってこれを継承することを目的として活動している。
- ①□□川の“いい川づくり”に関わる市民、住民（団体）の活動支援②“いい川づくり”に関する提案③市民環境科学に基づく調査、研究活動
- “いい川づくり”のための諸活動。具体的には、河川清掃などの美化活動、一般市民への啓発活動、水質調査活動。
- ○○川に多自然川づくりが出来るポイントを探す
- 河原や湿地で川沿いに歩けない状況を改善、遊歩道をつくり、周辺に憩いの空間をつくる。
- △△市を流れる川の「いい川づくり」のための合意形成

【環境学習・体験活動、環境調査】
- 河川資料館の管理運営。川を活用した環境教育、河川愛護、まちづくり活動。
- 大学の学生が源流域に行って様々な体験実習をすることで、「授業を聞いただけではわからないことを実感し、本物を知って、見分けられるようになろう」というもの。
- ゴミ拾いと水質調査。やがてコウノトリが飛んで来てくれる夢あり。ウォーキングしながら、ゴミ拾い、生き物自然観察、水質調査。小中学校の環境学習指導。水辺の里親。
- 川が「昔のように活動できる場」「学びの場」となるように願い、子供たちが川での自然体験を通して、自然の美しさ・神秘性・厳しさなどにふれ、感動や驚きを覚え、思いやり・忍耐力・協調性・社会性などを養い、生きることや生命の尊さを学ぶことが出来るよう、学校・家庭・地域などが一体となって、自然や環境への理解を深めるため、活動を続けている。
- 市及びその周辺での環境学習及び実践活動
- □□水防センターの管理・運営。川の洪水時などの防災活動や自然環境、地域の歴史・文化などについての情報発信と環境学習支援など。
- 県内の野生生物の専門家と自然観察愛好家が作った会。県内の野生生物の実態を市民の手で調査することを目的にしている。地元の貴重な自然は地元が理解して調査する力をつけなければ守れないと考えている。自治体関係者や学校教師・植物園・動物園関係者や獣医も会員にいる。
- 「ふるさとの人や自然について、まず体験し交流して学び、課題を見つけて調査し（ふるさと再発見）、学んだことを発表して（ふるさと再評価）、さらに深く人々と交流して（ふるさと交流）、共に未来のふるさとの担い手になること（ふるさと共生）」である。「ふるさと」とは、当面は、県を対象としている。指導教員の専門研究が水生昆虫であるために、河川等の生物調査・水質定点調査が自然体験の手始めになっているが、応援する専門家を伴った大型哺乳類被害聞取り調査や、野鳥観察・山野草観察・樹木調査・土壌岩石鉱物観察・歴史学習も行い、「ふるさとの状況」の総合的理解を目指している。
- 市内の中学高校の環境調査をするクラブ活動の顧問教師の連絡会として 15 年前に発足した。この会の活動目的は、「ふるさとの人や自然について、まず体験し交流して学び、課題を見つけて調査し（ふるさと再発見）、学んだことを発表して（ふるさと再評価）、さらに深く人々と交流して（ふるさと交流）、共に未来のふるさとの担い手になること（ふるさと共生）」である。指導教員の専門分野は様々で、河川等の生物調査・水質定点調査が自然体験の手始めになっているが、各分野で応援する専門家を伴った水生生物調査や水質調査、植物調査や川床などの岩盤地質調査も行い、「源流から海辺までのふるさとの状況」の総合的理解と住民との地域の課題の共有を目指している。

【環境保全、自然再生】

- △△川流域で活動をしている市民団体と川に関心を持つ個人が集まり“ゆるやかなネットワーク”として活動する中間団体。川は都市（まち）の暮らしの根本をささえる大切な資源であるという認識のもと、△△川が未来も「いい川」として人々に親しまれるよう、①地域住民が親しめ、かかわれる川、②緑が多く、多様な生物が生息する川、③健全な水質と流れが確保された川の復活を目指して、各地域の市民と協力しながら、提案型・参加型の活動を行っている。
- 市内の湧水の保全と市内を流れる川に生息している様々な生き物の観察と保全に取り組んでいる。地下水の保全と清流河川維持を広める為に、市行政と連携し「湧水・清流都市宣言」をめざしている。
- 市の象徴的魚であるミヤコタナゴの復活を目標として活動を開始したが、市域の川において、アユが 1 尾採補されたことが、その後の会の活動の具体的な目的を決定した。即ち、「市域の川をアユの遊泳する川にしよう」ということが、当会の活動の基本的な目的となった。
- 人類の社会活動の基本であり流域の歴史的、文化的営みの所産である健全な水環境を確保するために、現存する多種多様・個別的問題の抜本的な解決に向けて、水環境の保全又は改善を志す人達とのコミュニケーションとネットワークを図り、様々な観点から水環境を総合的に捉える視点を養い、水環境の保全又は改善に関する事業を行い、水環境に対し節度と良識のある社会の形成に寄与することを目的とする。
- 川を知り、川を守る事を目的とする
- 一般市民に対して、環境に関する事業を行い、地球環境の向上に寄与することを目的とする
- ゴミの不法投棄など、環境の悪化が大きな課題になっている。流域の住民、各種団体、企業、行政とのパートナーシップのもと、□□川の環境保全を通じて循環型社会の形成、そしてまちづくりにつなげていくことを目指している。
- ○○川の河川清掃。他団体との交流・情報交換。

【普及・啓発活動】

- □□川と私たちの関わりを流域全体の多くの人達に理解をして頂き、140 あるといわれる一級河川□□川水系の全ての支流に「川守」を育てる。流域の川守（活動団体）達をつなぎ、□□川の素晴らしい河川環境を次代の子ども達に引き継ぐために流域の情報を共有する。（手段）・会報（週 1 回程度）を配信し、流域の情報の共有を図る。地域の文化を再認識し山や川等の自然を守る誓いのシンボルとして「□□川源流の碑」をリヤカーで流域全体をリレーして建立する。流域の情報を共有し、課題をみんなで話し合うために建立の前日に建立地で□□川流域交流シンポジウムを開催する。
- ○○川流域団体の交流。○○川流域での課題や団体の抱える課題等の検討と意見交換。河川政策等に関する意見や提言、等
- きれいな水を次の町にきれいなままで送るため、住民１人１人が川に優しい生活を実行するよう啓発啓蒙を行う。
- 基本的には一般住民に対し河川に親しんでもうらう。その為のイベント、勉強会、見学会、セミナー開催、ミニコミ誌発行など。
- 生涯スポーツとしてのカヌースポーツの普及および技術の向上ならびに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。主な事業として，河川等でのカヌースポーツの普及および安全啓蒙のための講習会、カヌーを使っての河川清掃などを開催。

【複合】

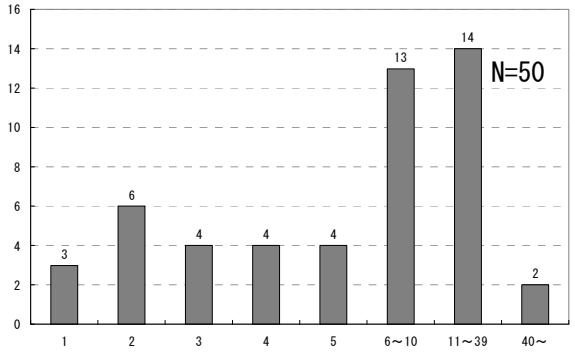
- ①河川整備時の提案、②河川の清掃、③水質生きもの調査、④環境学習、⑤他川の見学　空堀川への水量確保、⑥会報の発行、⑦雑木林維持管理（他団体協力）、⑧河道に樹木や水際に水草の植栽、⑨川まつり、環境フェア参加

・ ○○川流域をフィールドとして、○○川流域をもっと知ることにより、自然環境保全、子供の環境学習、リーダー育成、地域づくり、情報インフラ、人的インフラ整備、情報発信等を活動の指針として、流域の活動の継続性を模索する
・ 「人間と川（水）とのかかわりはどうあるべきか」を問いかけた記録映画の上映活動をきっかけに、ただ昔をなつかしむだけではなく、山や川での原体験をもつ者として、『もう一度あの美しく豊かな緑（山）、清らかな水と親しみある川を蘇らせよう』と結成した。『遊ぶ』『調べる』『歩く』『学ぶ』ことを活動の四つの柱に、『人と自然とのかかわり』をとり戻すことを目指している。これまでの活動としては、「○○川・大探検」「水辺の楽校クリーン大作戦」「ホタルの生息調査とホタルマップ作成」「水生生物調査」「自然環境講演会」「おもしろ自然学教室」「生き物の生息環境に配慮した川づくりの基礎的調査・研究」などの活動を行い、「シーボルトの川づくり塾」を開催し、○○川の魚たちとシーボルトの関わりを学んだ。さらには、子供たちと「シーボルト隊」を結成し、○○川の調査や源流探検、川とくらしの関係などを考えた川づくりを広めていくことを目標としている。
・ △△川（流域）に関する学術・文化などの探求を行うことにより、△△川に集う人々の健康で文化的な生活の実現と、より良い△△川づくりへの貢献をめざし、現在、①歴史民俗委員会、②自然環境委員会、③写真委員会、④美術・スポーツレクリエーション委員会に分かれ活動。毎年、論文投稿・発表が行われる年次大会を開催。また、「川の日ワークショップ関東大会」事務局として活動を実施。
・ ①自然や文化と調和した川づくり（治水対策）、②河川・砂防整備への住民意見反映、③河川環境の保全と再生、④川を活かした街づくり
・ 自然環境を守り、△△川に清流をとりもどすと共に、水害のない川づくりを願って、市民が交流し協力することを目的とする。活動内容①△△川に集い、遊び、学ぶ活動や自然保護・水質改善・清掃、△△川学習や研究などにとりくむ団体や個人の交流をはかる。②△△川にかかわる情報を交流し、相互に援助し高め合う。

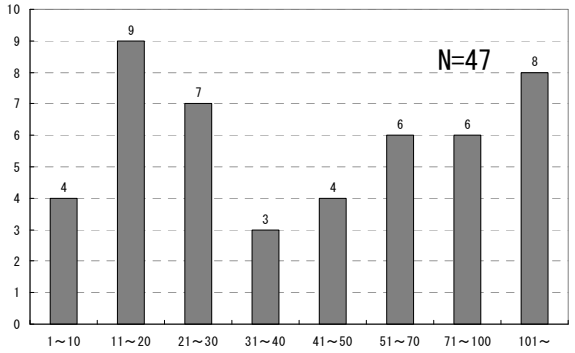
質問４　貴団体の組織について教えてください。

	最大	最小	平均	標準偏差
スタッフ数	57	1	11.0	11.7
会員数	2400	0	554.1	3456.5

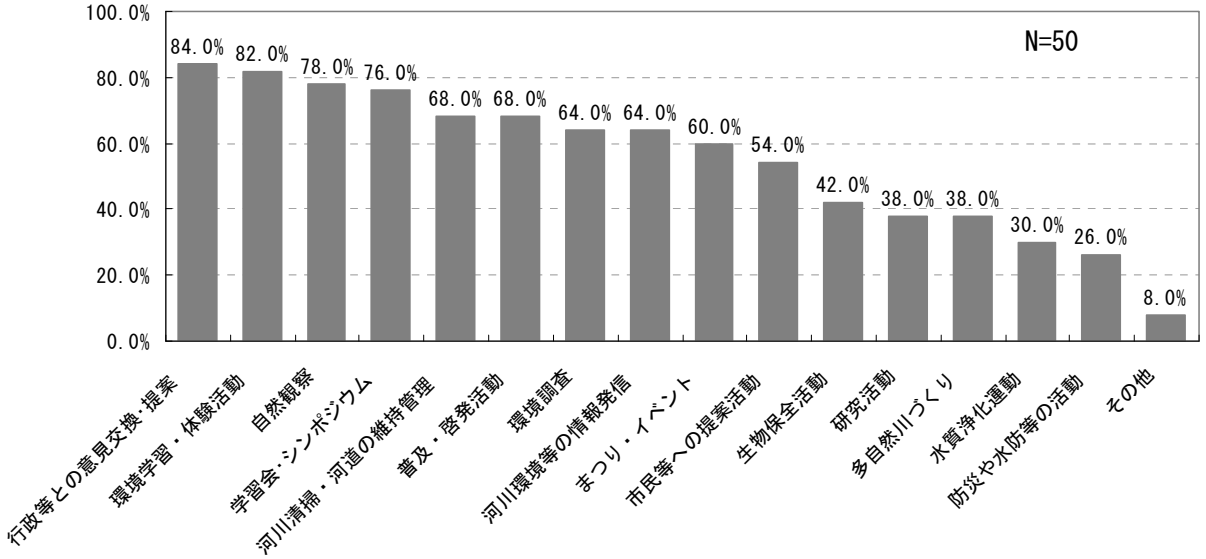
【スタッフ数】



【会員数】

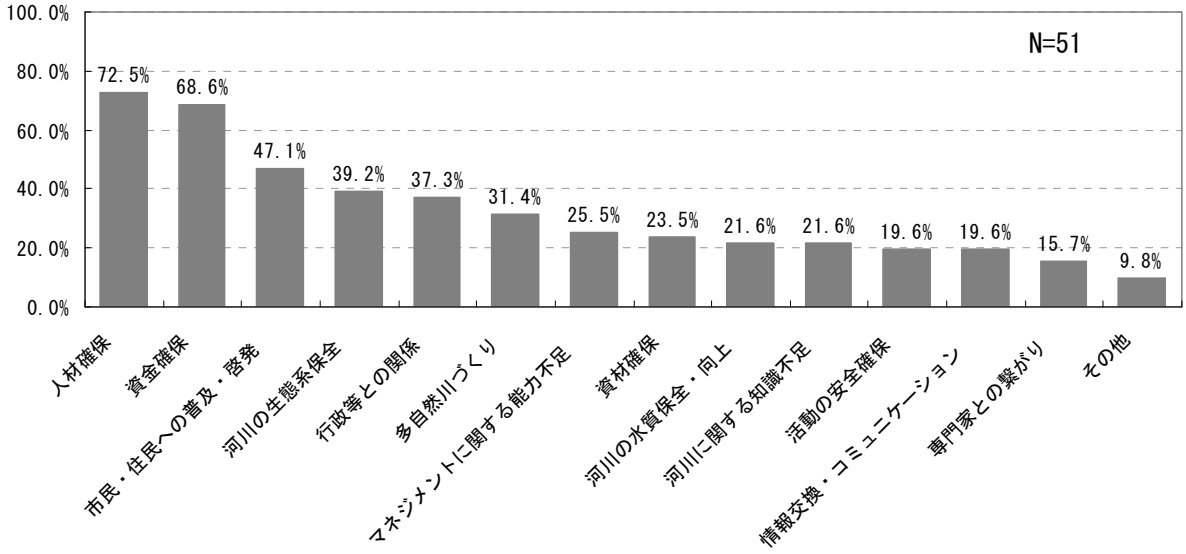


質問５　貴団体が行っている活動内容について教えてください。（あてはまるもの**全て**に○をつけてください。）



選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
河川清掃・河道の維持管理	34	68.0	まつり・イベント	30	60.0
自然観察	39	78.0	学習会･シンポジウム	38	76.0
環境学習・体験活動	41	82.0	環境調査	32	64.0
研究活動	19	38.0	多自然川づくり	19	38.0
水質浄化運動	15	30.0	生物保全活動	21	42.0
市民等への提案活動	27	54.0	行政等との意見交換･提案	42	84.0
河川環境等の情報発信	32	64.0	普及・啓発活動	34	68.0
防災や水防等の活動	13	26.0	その他	4	8.0

質問６　貴団体の抱えている課題や問題点があれば教えてください。（あてはまるもの**全て**に○をつけてください。）



選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
河川の生態系保全	20	39.2	多自然川づくり	16	31.4
河川の水質保全・向上	11	21.6	活動の安全確保	10	19.6
行政等との関係	19	37.3	市民・住民への普及・啓発	24	47.1
河川に関する知識不足	11	21.6	専門家との繋がり	8	15.7
資金確保	35	68.6	人材確保	37	72.5
資材確保	12	23.5	情報交換・コミュニケーション	10	19.6
マネジメントに関する能力不足	13	25.5	その他	5	9.8

質問７　貴団体の抱えている課題や問題点について具体的に教えてください。（n=51）

【人材確保】

- 収益事業を行いたいが、専属スタッフがいないため難しい状況である。新規入会する会員はいるが、全体的に高齢化が進んでいる。高齢を理由に退会する者がこの頃特に目立つ。
- 設立して 20 数年が経過しており、設立当時のメンバーの高齢化に伴い、若い世代の確保をしているが、スポット的なイベントには参加してくれるが、日常の活動には入ってこない。しかしここ最近は若い世代が 2～3 名活動に関わりだしてきている。専門知識がなくても、活動の中で楽しく動いてくれる場づくりが今の課題。
- 高齢化が進み、特に組織の指導者になり得る中堅のメンバーが少ない。養成講座などで安全管理について講習などしているが、メンバー全体が一丸となって安全管理に取り組めていない。
- 大学生や若手がいない。
- 活動の参加が減少している。若手の育成をしたいが人手が集まらない。活動に対して一致した共通認識が薄れてきている（生活にゆとりなくなり、環境に対する認識が、従前より薄れている）
- 会員の高齢化。資金不足（会員が少ない）。
- 若手の新規参加がなく、会員の老齢化が進み後継者が育たない。

- 源流部に産廃処分場計画があり、水質が悪化し、生態系に変化が起こることが懸念される。活動を若手に引き継いでいかなければならないが若手の人数も少ないし、意識も高まらない。
- 行事の時は手伝ってくれる団体等があり、人手では何とかなるが、それぞれの会に所属していることから、会員にはなかなかなってもらえない。事務作業が多いので、事務経理の人材がほしいが財源がない。
- 活動の次世代（若手）への伝承。今のスタッフは40～60代。子どもを対象として活動しているが若手（20～30代）の参加がなく世代が不連続となっている。
- 多自然川づくりの目的に対して理解してくれる人材探しに苦労している。
- 活動場所周辺の住民が活動に参加してくれない。後継者となる若手の参入。
- 一部のスタッフへの負担が大きい。人材確保。地域の理解不足。
- 川の環境学習を開催した場合など、大人数を相手にした時のスタッフの確保。資金的、経済的な自立と継続。雇用制度の延長。
- 会員の高齢化により行動力が低下ぎみ、常時動くメンバーが固定化傾向。大学などとの連携で若手の活動はあるが、卒業とともに関係が途絶える。また、新しく入会しようとする人にとって、活動に歴史があり固まっている中で、新しい提案がしにくいのでは？「自己決定がやる気を生む」という行政との関係が、組織の中では反映する機会がなく、新しく活動しようとする人、自分の思いが反映されやりがいを感じるという場面がないと感じるのか。その結果、最近の情報機材を使いこいなせる人材に依拠したいインターネットの更新など情報発信が十分できないため、内部会員向けの会報などにとどまってしまう。
- 意識を持った新会員が集まらない（若い人、男性）。様々な自然体験活動を指導する団体が出来、そちらに活動の重点を置く会員がでてきた。財源がないので講師として活動しても、謝金、日当は支払えない等も原因か。
- 少子化・高齢化の影響が少なからずあり、活動中の安全確保のためのスタッフの確保に苦慮することが想定される。
- より広い個人・団体会員の参加に努力している。若手の参加は、研究者の指導する学生や、会員団体での参加者、小学生親子との結びつきなど、意識的な努力の最中である。
- 若干の人材不足。スタッフはリタイア組が中心。
- 1987年10月に発足以来、様々な取組を重ねて23年を過ぎ、高齢化していることで機動力が不足している。若手も一時常勤したが独立し会を離れているため、その育成が展望できていない。
- 地域の中学高校のクラブ・大学・行政などと連携して「中高生のための水辺教室」（14年目）や「△△川源流大学」（2年目）を事業化して以来、地域の住民の環境調査意識の盛り上がりに伴い順調に事業拡大してきているが、拡大につれて事業の資金調達やマネジメントなどでスタッフの能力を超えていることが問題。活動の組織化・役割分担・人材確保が急務。
- 特に数名の人に、事務作業、清掃活動運営作業が集中している。また、30代、40代が多く、学生などの20代がいない。事務作業にあたれるスタッフがいない。
- メンバーが高齢化している中、若手メンバーの減少。人材確保が困難。
- 活動の主な資金源が会員の会費と企業、財団等からの寄付であることから、当会の活動を理解し、支援してくださる方々が必要。また、当会で主体的に、新たに実施する事業等は、会員が持ち寄った企画を基に検討し、会員や関係団体等と連携して実施することが多く、自主的に、かつ、主体的に活動してくれる会員が求められている。
- スタッフ不足（ボランティアでは、限界がある）。
- 高齢化、過疎化が急速に進み、継続の仕組みづくりが困難になってきている。
- 活動スタッフが常に不足。
- 会員が高齢化している。会員の多くが重複していろいろな活動をしているため多忙で、相互の協力が難しい。自発的な興味がないと運営委員が勤まらず、成果を確認することが難しい活動なので、人が集まらない。
- 会の持続・発展を考えるとき、会員増強に直面している。

【資金・資材確保】

- 資金確保については助成金頼みなので、絶えずスタッフ申請書と報告書の作成に追われているし、安定した運営にならないのでいつも自転車操業である。
- 各種補助金によって運営しているが、固定収入の裏づけが欲しい。
- 行政との業務契約による事業展開はある程度行っているが、主体的な活動に充ち足りる資金の確保が弱い。
- 中間支援組織としての位置づけを考えているが、資金の確保、運営拠点づくりがうまくいかない。この問題をクリアにしない限り、人材育成や川づくりへの参画等のミッションが達成されない。
- 大学の運営方針により事業の存続・資金が毎年更新制になっていることによる。継続的なプランを計画しづらい。
- 活動資金確保が不安定であり、現在、専従事務員は 1 名であるが仕事量に対しての専従職員の確保はもちろん、アルバイト等の人材確保にも苦労している。
- 今までは信用金庫の創業支援館を安価で借りていたが、３年たつので、出なければならない。しかし、定期収入があるわけではないので、安い事務所の確保が難しい。補助金制度は、事業仕分けで１年ごとに変わったり（環境省関係）して不安定であてにならない。エコポイントで寄付をいただくことができたが、これも来年で終了。
- 地域の主体的な活動のため、行政等からの補助金が恒常的にあるわけでないので、資金確保、人材確保（指導者等）、資材確保には苦慮している。
- 助成金頼りとなり、安定した収入が少ない。常勤スタッフの確保が困難。清掃活動に直接使う道具などは、行政からの好意でまかなえている状況。ただ、担当者が変わるとどうなるかは不透明。ゴミマップを全国で使えるようにするための道具類が不足（デジカメ、GPS ロガーなど）。
- 資金確保が困難であるため、資材確保・知識向上を十分に行えない。
- 資金不足（ナショナル・トラスト運動の展開、認定 NPO 化）。
- 活動フィールドの確保が難しい。特に他活動（体育系）や将来の河川整備などの関係から、確保できない。できなくなるなどの問題がある。高水敷に水を引き込むなどのビオトープ環境を確保しているが、その維持に手間や資金がかかり、この費用の確保や人材確保が課題。
- ①多方面の専門化との人脈はあるが、その専門家を活かすためにはある程度の資金が必要となり、資金確保が大変である。②ベースとなる資金づくりができていないため、長期的な事業計画が立てられない点が課題。③専従の事務局員を確保するには一定の資金確保を長期的に図る必要がある。④資材は、買ってくる、寄付でもらうなどで対応できるが、資材置き場がなく困る。都内で倉庫を借りると費用がかかる。以前は河川管理者に預けていたが、公平性の確保と言われ、一市民団体の荷物（資材）は預かれないと言われ困っている。⑤資金確保のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ能力が不足している。
- 現在は財団法人の助成で辛うじて事業を進めているが、活動範囲の拡大に伴い資金確保が問題になる。

【市民への普及・啓発】

- ○○川水系のすばらしさ、特に○○川のすばらしさやカヌーのフィールドとして優れていることを、もっと市民に広く理解してもらいたいと思うが、思うように広がらないことと、肝心の○○川からの参加者が少ない。
- 平成 22 年度に設立したまだ新しい団体であり、また当会のような任意で運営され非営利で活動する市民団体は、これまで村では例が無いため、会の目的や理念に対し、自治体、地域住民などの理解がまだ十分に得られていないと感じている。平成 22 年度は、主な活動として小学校の総合学習支援を村との協働により実施したが、運営についてはごく限られた参加スタッフによって行う形になり、会が目指す「地域と旧川の繋ぎ目」的な役割は十分に果たせなかった。まずは、会の果たせる役割を活動によって示していくことで、地域の信頼を得ることが課題であり目標と考えている。
- 当会で取り組んでいる水環境に関する活動は、事業実施後のアンケート結果等から、市民の潜在意

識としては非常に高い関心があるものと考えているが、イベント事業の参加者は横ばいないし微減が続いている。活動の真意に対する理解が得られておらず、とっつきにくい印象を与えているのでは、という課題を感じている。

- 毎年、定期的に川での清掃活動や自然と親しむイベントを行っているが、地域住民の参加・関心がまだまだ不足している。情報の伝達不足なのか？住民へのアプローチ不足なのか？地域性なのか？現状より多くの人々の参加を促す手法が問題点。
- 地域の活動として多岐にわたる活動を継続しているが、一部を除いて活動の意義について理解を得て、広く活動が発展していく素地を形成するには至っていない。地域住民の理解を得るための手段や方法を模索している。

【合意形成、行政等との関係】

- △△川・□□川合流点の川づくりについて、△△川の現河道が有する豊かな環境を保全しながら、新河道を整備する川づくりの方法について、専門家、河川管理者、自治体、周辺住民、市民団体とともに検討を行っている。どのように「いい川づくり」を合意形成できるかが大きな課題である。また、△△川中流の各所に存在する落差工がアユ等の遡上・降下に支障となっており、その改善を提案している。
- 良い川づくり（川の構造面で）市民との合意形成の難しさ。
- ○○川流域には「地域文化」が存在しているので、そこから学ぶ活動をしているが、行政が邪魔をしている。市民活動の拠点施設の建設そして、独自の管理運営に関わり、○○っ子探険隊などの活動でかなり高い評価を得たが、担当が変わり取り組まなくなった。しかし、○○川汽水ワンドが自然再生事業を背景にほぼ完成しつつあるのでこれを環境学習を背景に小・中高生の取り組みにする為汗をかいているが、行政が経過も分からずお荷物扱いにしている。
- 10年前の小学校の副読本の改訂要望が続いたため、△△川市民ネットワークの専門部会に位置づけ、限られた予算と事務局態勢で、とりあえず補充版を少部数で発行した。行政の事業に位置づけ、全面的な改訂作業となることを要望している。
- □□川・○○川流域連携での取り組みで、移動時間や人材が負担となっており、各団体との連携（自立分担）が課題。□□川・○○川復活での取り組みは 10 年、20 年の長期的なものとなるため、行政や広域連携の組織基盤づくりが課題。
- 河川区域の自然再生事業に、国交省として資金に係る助成制度の確立。
- ①役所側の人事異動で、気心が知れてきた人が異動するため、１からの関係づくりが大変である。②河川管理者とのコミュニケーションが充分にとれなくなりつつある。特に、１つの市民団体と話をすると公平性の観点から問題があると河川管理者が認識していると思われ、踏み込んだ話ができない。連絡事項等の伝達程度となる。
- 市の環境部門の市民協働への意識が後退している。
- 河川環境に対する市民・市民団体の考えには多様なものがあり対立しかねない。
- 市には河川に接続する都市計画公園が 3 カ所もあるが、事業化が一向に進まない。

【情報交換・コミュニケーション】

- 流域が二県にまたがっており、それぞれの情報が様々な為整理が必要。流域の河川生態の情報が不足しており、流域の情報を専門家を招いて学習しているが、適任者を探すに手間取っている。IT 関係者の確保が出来ていない。スタッフはそれぞれ仕事を抱え、空いた時間が取れない。常駐スタッフは資金的な面が大きく確保出来ない。
- 会員数の増加、組織の拡大と共に、会員内での情報交換、意識共有の面でも問題が出てきており、この問題はスタッフ等の新規参加の面でも支障になっていると感じている。
- 合併による上、中流域の団体の減少。自治体が団体の情報受発信の手伝いをしなくなっている。高齢化による後継者不足。情報の受発信方法（上、中流域は、ネット環境は地デジ化に併せて整っているがインターネット接続者は非常に少ない）。上流域、中流域の情報発信が非常に少なくなってい

る。行政改革地方分権化の影響で、直轄河川の事務所のフットワークや、情報閲覧体制が弱くなっている。

- 同じフィールドで活動している団体となかなか歩調が合わず、合同での調査などができていない。
- 水質保全・向上については、地域の中で取り組んでも、下流側に位置している関係で、上流側の影響が強く出てしまうため、上流側も含めた取り組みでないと効果が薄いが、上流側まで含めると対象範囲が広範になりすぎて、連動した取り組みまでなかなか踏み込めない。
- イベントや活動の記録保存・参加校への情報連絡・開催した地元との情報交換・行政との連携と情報交換などが不十分。資金不足・スタッフ不足。
- ネットワークしている流域の団体のトップが、地域活動のリーダーになってきて、多くのことを流域単位で一緒に活動することが難しくなってきている。
- 対象地域が広範囲なため、特定地域での活動や対象地域全体への把握が不十分になりがち。

【河川に関する知識の不足】

- 河川に対しての知識不足。
- 資金確保が困難であるため、資材確保・知識向上を十分に行えない。（再掲）
- 専門家とのつながりもできたが、まだまだ知識不足である。
- 植生の専門家がいないので、その環境調査を手がけていない。
- 一般的な河川に係わる知識は会員の力を借りて確保できるが、専門的なことになると不足する。しかし、河川管理者に訊ねても業務に係ることもあるためか、明確な回答がなく分からずじまいとなる。

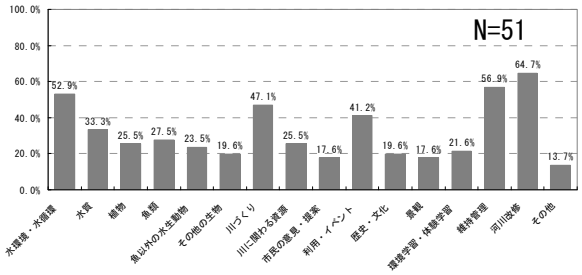
【その他】

- もともとは、川の市民活動を行っていたのではなく、「川に関心がある」「川に関する活動はおもしろそう」と感じた人たちが『レンジャー養成講座』を通じてレンジャーになっている例が最近増えてきている。“イベント”だけに終わってしまわないか危惧する。これにより、上記設問にもあげた各項目（河川の生態系保全、多自然川づくり、行政等との関係、市民・住民への普及・啓発、河川に関する知識不足）について、レンジャーになった以後も意識を持って、怠ることなく取り組んでいけるか？
- 活動していけばいくほど、様々な問題が見えてくる。総じて力不足という想いをつのらせることになる。
- やりたいこと、やらねばならないことたくさんある。事務局スタッフ、資金、時間がない。
- 住民運動と関わることが多く、産廃反対運動の市民からの調査要請や反対運動の協力が要請されるが、中立性を確保することが難しい。
- □□高校理学部の課題は、学校の体質としてスポーツ活動には全校挙げて取り組む姿勢があるが、科学文化活動には応援が十分とは言えず、ここを強化するには校外での評価を今以上に積み上げていくこと。
- 湿原の特別緑地保全地区の指定（埋立ての阻止、訴訟）。
- 水質浄化に向けた活動が停滞しており、この活動の活発化を図ることが課題。
- 安全確保には気を使っているが、万が一の時が心配であり、どの程度まで（だれ、どれだけ）保険をかけ、どの程度の補償をすれば、市民活動としての責務を果たせるのかが知りたい。
- ①大型外来植物駆除が大変、□□川では水際の刈り残し部に樹木が生えても洪水時の倒木・流出の恐れがあり伐採されてしまう。②河川改修が 40 年くらい前に当時のやり方（コンクリート低水護岸）で一応終了しているので多自然な川とはほど遠い。③下水処理場の排水が 60%で水質が向上しない。
- 平常時水量確保：最大の水源が工場排水であり、改修工事は直線的で横断面が大きい不自然型で行われている。

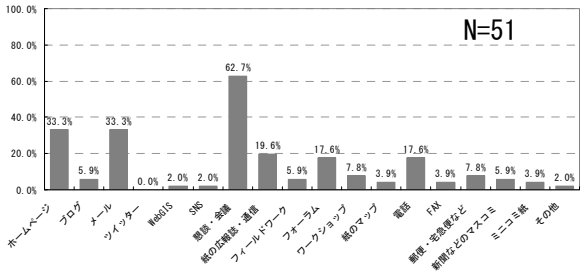
質問８　貴団体の河川環境の情報の受発信の状況について教えてください。以下の対象（相手）ごとに、主にどのような情報の内容を、どのような手段で、どの程度入手（受信）しているか、また、どのような情報の内容を、どのような手段で、どの程度発信しているのかについて、該当するものを選んで記入ください。（あてはまるもの**全て**を記入ください。）

【情報の入手】

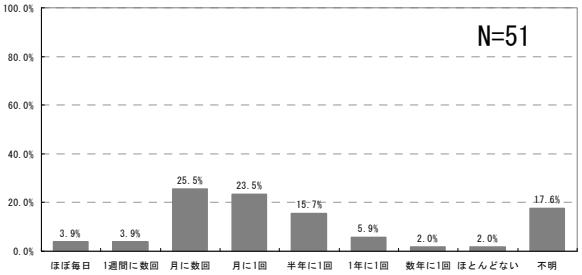
(a)河川管理者



①情報の内容



②手段



③頻度

①情報の内容

選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	27	52.9	水質	17	33.3
植物	13	25.5	魚類	14	27.5
魚以外の水生生物	12	23.5	③～⑤以外の生物	10	19.6
川づくり	24	47.1	川に関わる資源	13	25.5
市民の意見・提案	9	17.6	利用・イベント	21	41.2
歴史・文化	10	19.6	景観	9	17.6
環境学習・体験学習	11	21.6	維持管理	29	56.9
河川改修	33	64.7	その他	7	13.7

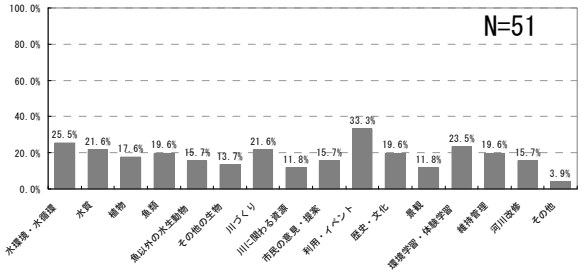
②手段

選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	17	33.3	ブログ	3	5.9
メール	17	33.3	ツイッター	0	0.0
WebGIS（地理情報システム）	1	2.0	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	1	2.0
懇談・会議	32	62.7	紙の広告誌・通信	10	19.6
フィールドワーク	3	5.9	フォーラム	9	17.6
ワークショップ	4	7.8	紙のマップ	2	3.9
電話	9	17.6	FAX	2	3.9
郵便・宅急便など	4	7.8	新聞などのマスコミ	3	5.9
ミニコミ紙	2	3.9	その他	1	2.0

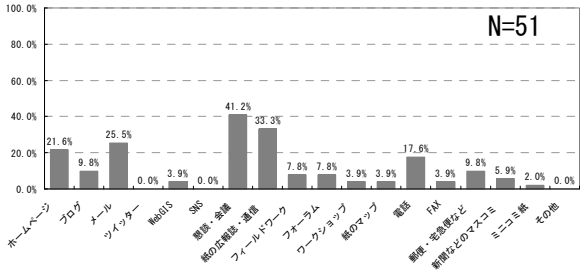
③頻度

選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	2	3.9	1週間に数回	2	3.9
月に数回	13	25.5	月に1回	12	23.5
半年に1回	8	15.7	1年に1回	3	5.9
数年に1回	1	2.0	ほとんどない	1	2.0

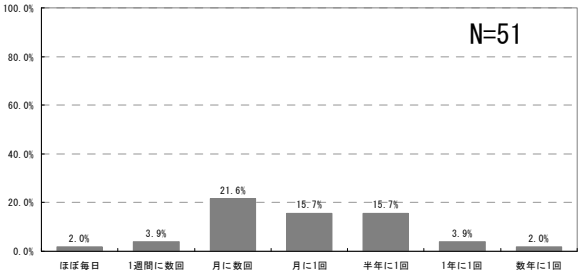
(b)流域の自治体



①情報の内容



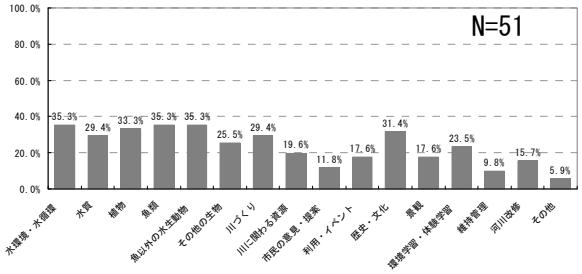
②手段



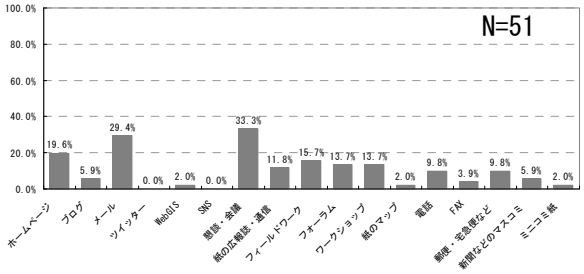
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	13	25.5	水質	11	21.6
植物	9	17.6	魚類	10	19.6
魚以外の水生生物	8	15.7	③～⑤以外の生物	7	13.7
川づくり	11	21.6	川に関わる資源	6	11.8
市民の意見・提案	8	15.7	利用・イベント	17	33.3
歴史・文化	10	19.6	景観	6	11.8
環境学習・体験学習	12	23.5	維持管理	10	19.6
河川改修	8	15.7	その他	2	3.9
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	11	21.6	ブログ	5	9.8
メール	13	25.5	ツイッター	0	0.0
WebGIS（地理情報システム）	2	3.9	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	21	41.2	紙の広告誌・通信	17	33.3
フィールドワーク	4	7.8	フォーラム	4	7.8
ワークショップ	2	3.9	紙のマップ	2	3.9
電話	9	17.6	FAX	2	3.9
郵便・宅急便など	5	9.8	新聞などのマスコミ	3	5.9
ミニコミ紙	1	2.0	その他	0	0.0
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	1	2.0	1週間に数回	2	3.9
月に数回	11	21.6	月に1回	8	15.7
半年に1回	8	15.7	1年に1回	2	3.9
数年に1回	1	2.0	ほとんどない	0	0.0

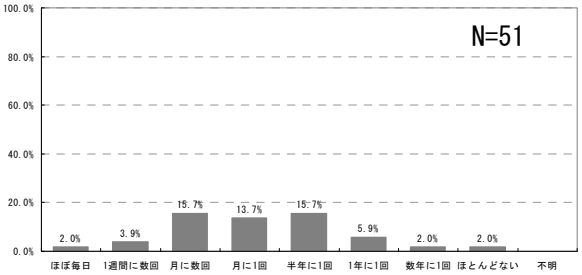
(c)学識者・専門家



①情報の内容



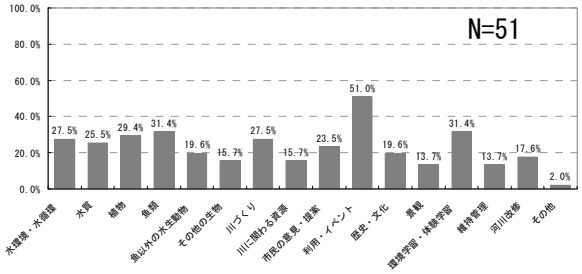
②手段



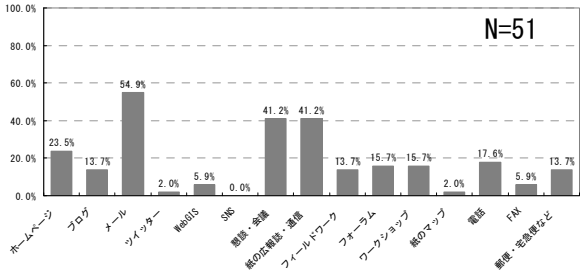
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	18	35.3	水質	15	29.4
植物	17	33.3	魚類	18	35.3
魚以外の水生生物	18	35.3	③～⑤以外の生物	13	25.5
川づくり	15	29.4	川に関わる資源	10	19.6
市民の意見・提案	6	11.8	利用・イベント	9	17.6
歴史・文化	16	31.4	景観	9	17.6
環境学習・体験学習	12	23.5	維持管理	5	9.8
河川改修	8	15.7	その他	3	5.9
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	10	19.6	ブログ	3	5.9
メール	15	29.4	ツイッター	0	0.0
WebGIS（地理情報システム）	1	2.0	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	17	33.3	紙の広告誌・通信	6	11.8
フィールドワーク	8	15.7	フォーラム	7	13.7
ワークショップ	7	13.7	紙のマップ	1	2.0
電話	5	9.8	FAX	2	3.9
郵便・宅急便など	5	9.8	新聞などのマスコミ	3	5.9
ミニコミ紙	1	2.0	その他	3	5.9
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	1	2.0	1週間に数回	2	3.9
月に数回	8	15.7	月に1回	7	13.7
半年に1回	8	15.7	1年に1回	3	5.9
数年に1回	1	2.0	ほとんどない	1	2.0

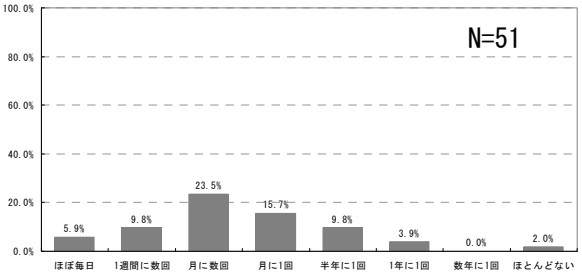
(d)他の市民団体



①情報の内容



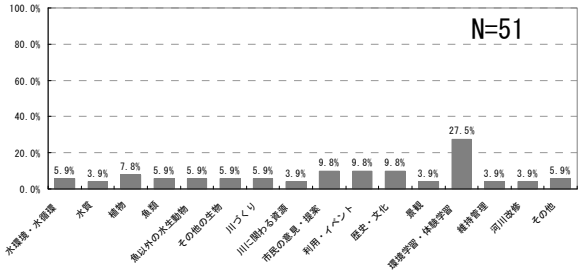
②手段



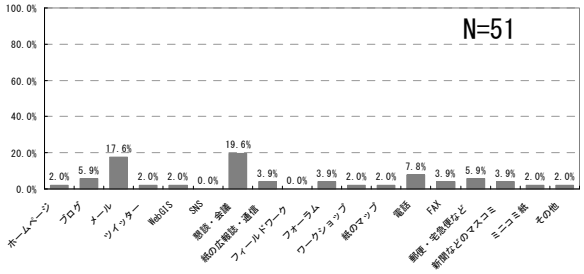
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	14	27.5	水質	13	25.5
植物	15	29.4	魚類	16	31.4
魚以外の水生生物	10	19.6	③～⑤以外の生物	8	15.7
川づくり	14	27.5	川に関わる資源	8	15.7
市民の意見・提案	12	23.5	利用・イベント	26	51.0
歴史・文化	10	19.6	景観	7	13.7
環境学習・体験学習	16	31.4	維持管理	7	13.7
河川改修	9	17.6	その他	1	2.0
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	12	23.5	ブログ	7	13.7
メール	28	54.9	ツイッター	1	2.0
WebGIS（地理情報システム）	3	5.9	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	21	41.2	紙の広告誌・通信	21	41.2
フィールドワーク	7	13.7	フォーラム	8	15.7
ワークショップ	8	15.7	紙のマップ	1	2.0
電話	9	17.6	FAX	3	5.9
郵便・宅急便など	7	13.7	新聞などのマスコミ	5	9.8
ミニコミ紙	1	2.0	その他	0	0.0
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	3	5.9	1週間に数回	5	9.8
月に数回	12	23.5	月に1回	8	15.7
半年に1回	5	9.8	1年に1回	2	3.9
数年に1回	0	0.0	ほとんどない	1	2.0

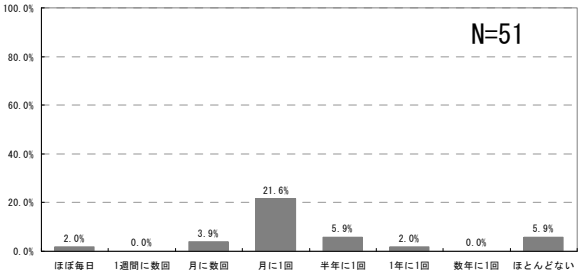
(e)学校



①情報の内容



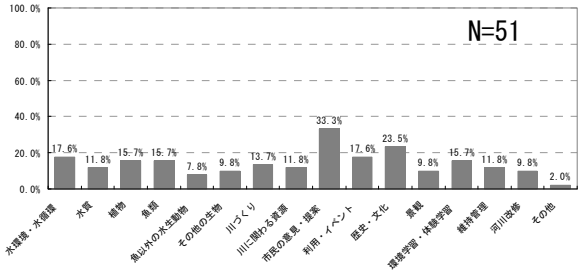
②手段



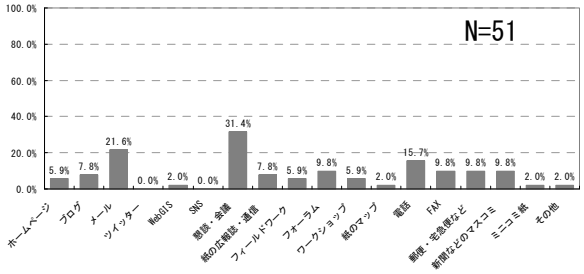
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	3	5.9	水質	2	3.9
植物	4	7.8	魚類	3	5.9
魚以外の水生生物	3	5.9	③～⑤以外の生物	3	5.9
川づくり	3	5.9	川に関わる資源	2	3.9
市民の意見・提案	5	9.8	利用・イベント	5	9.8
歴史・文化	5	9.8	景観	2	3.9
環境学習・体験学習	14	27.5	維持管理	2	3.9
河川改修	2	3.9	その他	3	5.9
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	1	2.0	ブログ	3	5.9
メール	9	17.6	ツイッター	1	2.0
WebGIS（地理情報システム）	1	2.0	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	10	19.6	紙の広告誌・通信	2	3.9
フィールドワーク	0	0.0	フォーラム	2	3.9
ワークショップ	1	2.0	紙のマップ	1	2.0
電話	4	7.8	FAX	2	3.9
郵便・宅急便など	3	5.9	新聞などのマスコミ	2	3.9
ミニコミ紙	1	2.0	その他	1	2.0
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	1	2.0	1週間に数回	0	0.0
月に数回	2	3.9	月に1回	1	21.6
半年に1回	3	5.9	1年に1回	1	2.0
数年に1回	0	0.0	ほとんどない	3	5.9

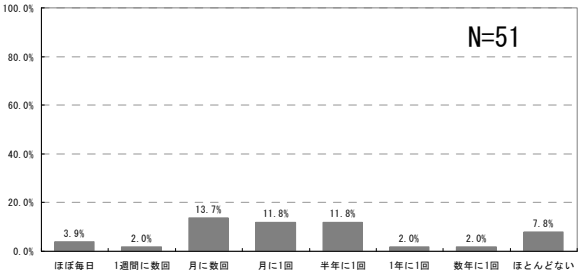
(f)市民・住民



①情報の内容



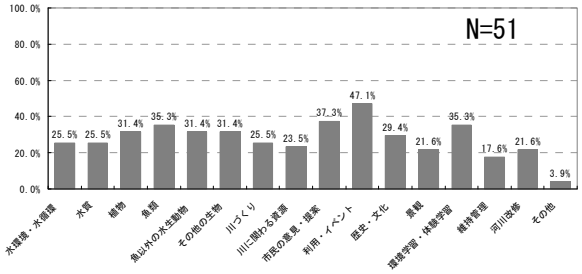
②手段



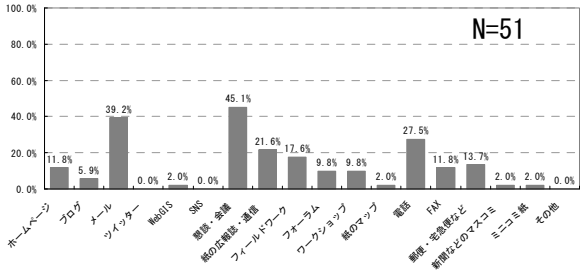
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	9	17.6	水質	6	11.8
植物	8	15.7	魚類	8	15.7
魚以外の水生生物	4	7.8	③～⑤以外の生物	5	9.8
川づくり	7	13.7	川に関わる資源	6	11.8
市民の意見・提案	17	33.3	利用・イベント	9	17.6
歴史・文化	12	23.5	景観	5	9.8
環境学習・体験学習	8	15.7	維持管理	6	11.8
河川改修	5	9.8	その他	1	2.0
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	3	5.9	ブログ	4	7.8
メール	1	21.6	ツイッター	0	0.0
WebGIS（地理情報システム）	1	2.0	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	16	31.4	紙の広告誌・通信	4	7.8
フィールドワーク	3	5.9	フォーラム	5	9.8
ワークショップ	3	5.9	紙のマップ	1	2.0
電話	8	15.7	FAX	5	9.8
郵便・宅急便など	5	9.8	新聞などのマスコミ	5	9.8
ミニコミ紙	1	2.0	その他	1	2.0
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	2	3.9	1週間に数回	1	2.0
月に数回	7	13.7	月に1回	6	11.8
半年に1回	6	11.8	1年に1回	1	2.0
数年に1回	1	2.0	ほとんどない	4	7.8

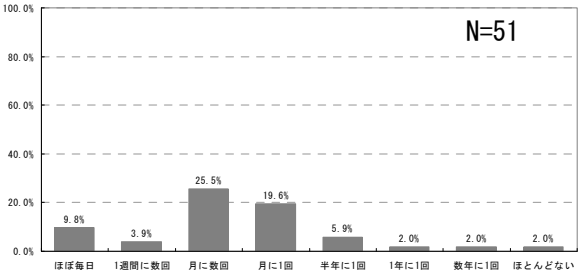
(g)会員



①情報の内容



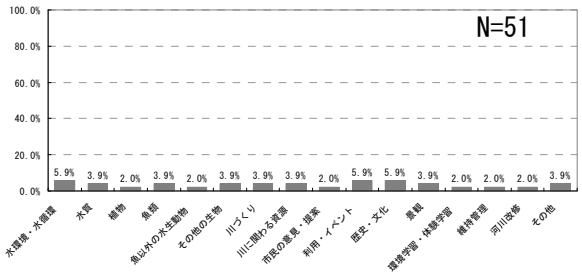
②手段



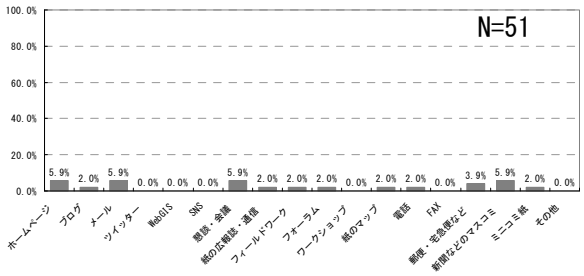
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	13	25.5	水質	13	25.5
植物	16	31.4	魚類	18	35.3
魚以外の水生生物	16	31.4	③～⑤以外の生物	16	31.4
川づくり	13	25.5	川に関わる資源	12	23.5
市民の意見・提案	19	37.3	利用・イベント	24	47.1
歴史・文化	15	29.4	景観	11	21.6
環境学習・体験学習	18	35.3	維持管理	9	17.6
河川改修	1	21.6	その他	2	3.9
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	6	11.8	ブログ	3	5.9
メール	20	39.2	ツイッター	0	0.0
WebGIS（地理情報システム）	1	2.0	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	23	45.1	紙の広告誌・通信	11	21.6
フィールドワーク	9	17.6	フォーラム	5	9.8
ワークショップ	5	9.8	紙のマップ	1	2.0
電話	14	27.5	FAX	6	11.8
郵便・宅急便など	7	13.7	新聞などのマスコミ	1	2.0
ミニコミ紙	1	2.0	その他	0	0.0
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	5	9.8	1週間に数回	2	3.9
月に数回	13	25.5	月に1回	10	19.6
半年に1回	3	5.9	1年に1回	1	2.0
数年に1回	1	2.0	ほとんどない	1	2.0

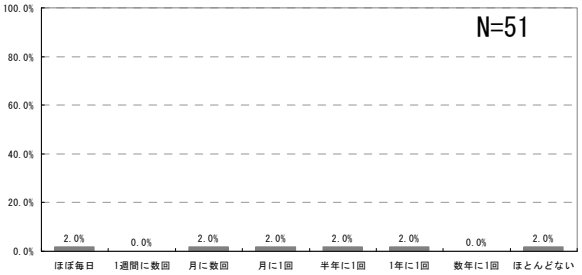
(h)その他



①情報の内容



②手段

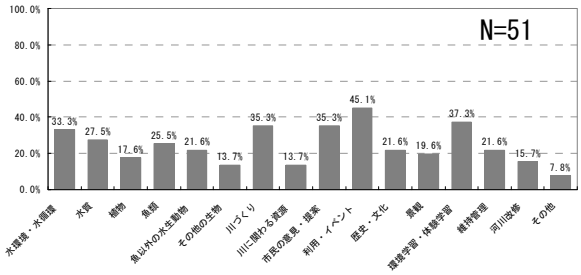


③頻度

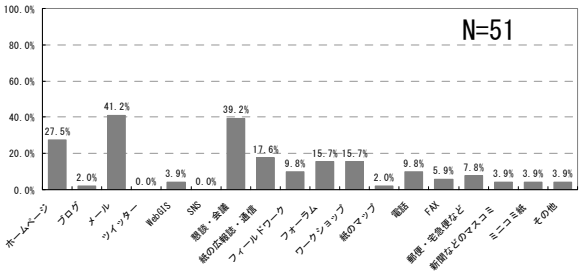
①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	3	5.9	水質	2	3.9
植物	1	2.0	魚類	2	3.9
魚以外の水生生物	1	2.0	③～⑤以外の生物	2	3.9
川づくり	2	3.9	川に関わる資源	2	3.9
市民の意見・提案	1	2.0	利用・イベント	3	5.9
歴史・文化	3	5.9	景観	2	3.9
環境学習・体験学習	1	2.0	維持管理	1	2.0
河川改修	1	2.0	その他	2	3.9
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	3	5.9	ブログ	1	2.0
メール	3	5.9	ツイッター	0	0.0
WebGIS（地理情報システム）	0	0.0	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	3	5.9	紙の広告誌・通信	1	2.0
フィールドワーク	1	2.0	フォーラム	1	2.0
ワークショップ	0	0.0	紙のマップ	1	2.0
電話	1	2.0	FAX	0	0.0
郵便・宅急便など	2	3.9	新聞などのマスコミ	3	5.9
ミニコミ紙	1	2.0	その他	0	0.0
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	1	2.0	1週間に数回	0	0.0
月に数回	1	2.0	月に1回	1	2.0
半年に1回	1	2.0	1年に1回	1	2.0
数年に1回	0	0.0	ほとんどない	1	2.0

【情報の発信】

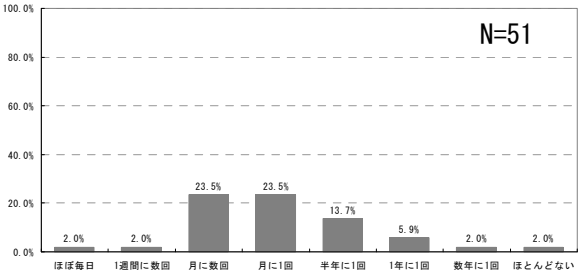
(a)河川管理者



①情報の内容



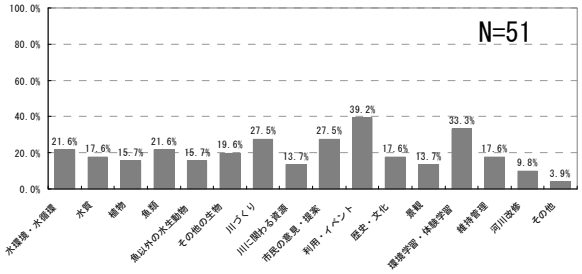
②手段



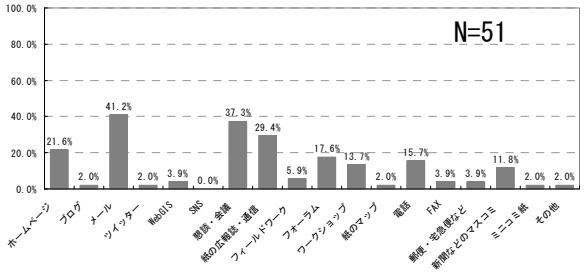
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	17	33.3	水質	14	27.5
植物	9	17.6	魚類	13	25.5
魚以外の水生生物	11	21.6	③～⑤以外の生物	7	13.7
川づくり	18	35.3	川に関わる資源	7	13.7
市民の意見・提案	18	35.3	利用・イベント	23	45.1
歴史・文化	11	21.6	景観	10	19.6
環境学習・体験学習	19	37.3	維持管理	11	21.6
河川改修	8	15.7	その他	4	7.8
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	14	27.5	ブログ	1	2.0
メール	21	41.2	ツイッター	0	0.0
WebGIS（地理情報システム）	2	3.9	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	20	39.2	紙の広告誌・通信	9	17.6
フィールドワーク	5	9.8	フォーラム	8	15.7
ワークショップ	8	15.7	紙のマップ	1	2.0
電話	5	9.8	FAX	3	5.9
郵便・宅急便など	4	7.8	新聞などのマスコミ	2	3.9
ミニコミ紙	2	3.9	その他	2	3.9
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	1	2.0	1週間に数回	1	2.0
月に数回	12	23.5	月に1回	12	23.5
半年に1回	7	13.7	1年に1回	3	5.9
数年に1回	1	2.0	ほとんどない	1	2.0

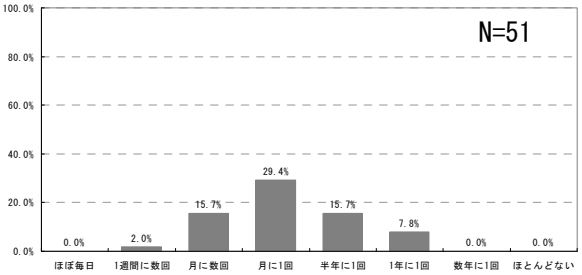
(b)流域の自治体



①情報の内容



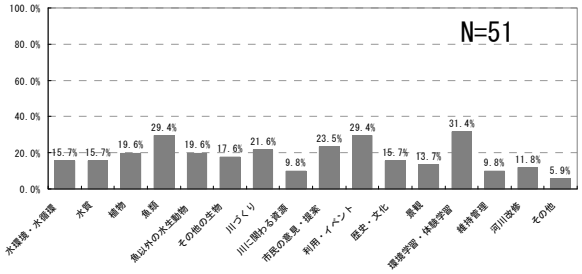
②手段



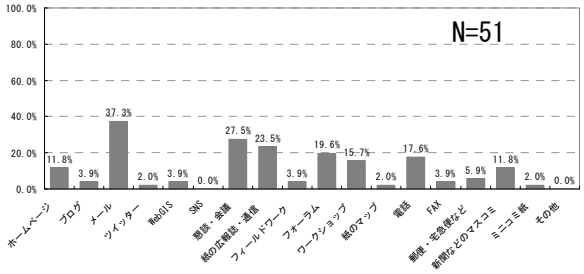
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	11	21.6	水質	9	17.6
植物	8	15.7	魚類	11	21.6
魚以外の水生生物	8	15.7	③～⑤以外の生物	10	19.6
川づくり	14	27.5	川に関わる資源	7	13.7
市民の意見・提案	14	27.5	利用・イベント	20	39.2
歴史・文化	9	17.6	景観	7	13.7
環境学習・体験学習	17	33.3	維持管理	9	17.6
河川改修	5	9.8	その他	2	3.9
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	11	21.6	ブログ	1	2.0
メール	21	41.2	ツイッター	1	2.0
WebGIS（地理情報システム）	2	3.9	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	19	37.3	紙の広告誌・通信	15	29.4
フィールドワーク	3	5.9	フォーラム	9	17.6
ワークショップ	7	13.7	紙のマップ	1	2.0
電話	8	15.7	FAX	2	3.9
郵便・宅急便など	2	3.9	新聞などのマスコミ	6	11.8
ミニコミ紙	1	2.0	その他	1	2.0
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	0	0.0	1週間に数回	1	2.0
月に数回	8	15.7	月に1回	15	29.4
半年に1回	8	15.7	1年に1回	4	7.8
数年に1回	0	0.0	ほとんどない	0	0.0

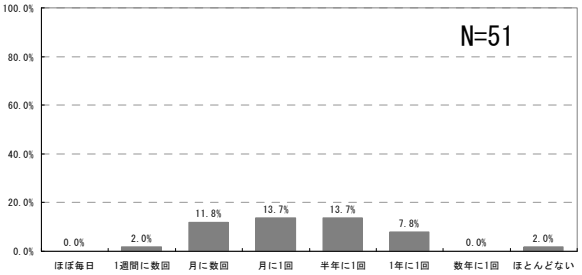
(c)学識者・専門家



①情報の内容



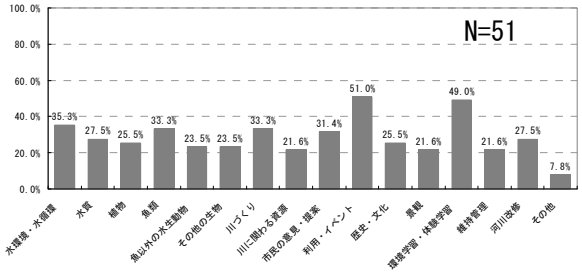
②手段



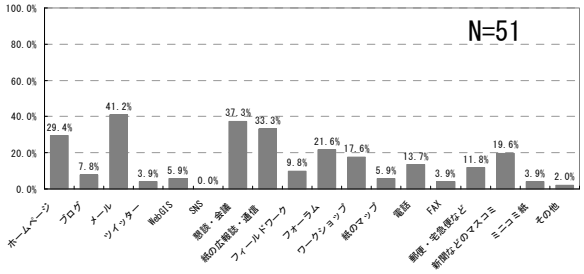
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	8	15.7	水質	8	15.7
植物	10	19.6	魚類	15	29.4
魚以外の水生生物	10	19.6	③～⑤以外の生物	9	17.6
川づくり	1	21.6	川に関わる資源	5	9.8
市民の意見・提案	12	23.5	利用・イベント	15	29.4
歴史・文化	8	15.7	景観	7	13.7
環境学習・体験学習	16	31.4	維持管理	5	9.8
河川改修	6	11.8	その他	3	5.9
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	6	11.8	ブログ	2	3.9
メール	19	37.3	ツイッター	1	2.0
WebGIS（地理情報システム）	2	3.9	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	14	27.5	紙の広告誌・通信	12	23.5
フィールドワーク	2	3.9	フォーラム	10	19.6
ワークショップ	8	15.7	紙のマップ	1	2.0
電話	9	17.6	FAX	2	3.9
郵便・宅急便など	3	5.9	新聞などのマスコミ	6	11.8
ミニコミ紙	1	2.0	その他	0	0.0
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	0	0.0	1週間に数回	1	2.0
月に数回	6	11.8	月に1回	7	13.7
半年に1回	7	13.7	1年に1回	4	7.8
数年に1回	0	0.0	ほとんどない	1	2.0

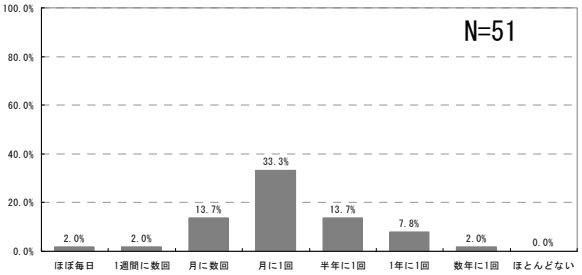
(d)他の市民団体



①情報の内容



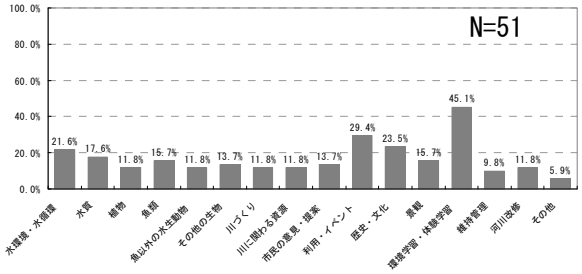
②手段



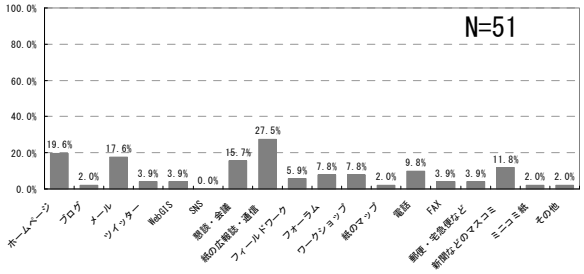
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	18	35.3	水質	14	27.5
植物	13	25.5	魚類	17	33.3
魚以外の水生生物	12	23.5	③～⑤以外の生物	12	23.5
川づくり	17	33.3	川に関わる資源	11	21.6
市民の意見・提案	16	31.4	利用・イベント	26	51.0
歴史・文化	13	25.5	景観	11	21.6
環境学習・体験学習	25	49.0	維持管理	11	21.6
河川改修	14	27.5	その他	4	7.8
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	15	29.4	ブログ	4	7.8
メール	21	41.2	ツイッター	2	3.9
WebGIS（地理情報システム）	3	5.9	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	19	37.3	紙の広告誌・通信	17	33.3
フィールドワーク	5	9.8	フォーラム	11	21.6
ワークショップ	9	17.6	紙のマップ	3	5.9
電話	7	13.7	FAX	2	3.9
郵便・宅急便など	6	11.8	新聞などのマスコミ	10	19.6
ミニコミ紙	2	3.9	その他	1	2.0
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	1	2.0	1週間に数回	1	2.0
月に数回	7	13.7	月に1回	17	33.3
半年に1回	7	13.7	1年に1回	4	7.8
数年に1回	1	2.0	ほとんどない	0	0.0

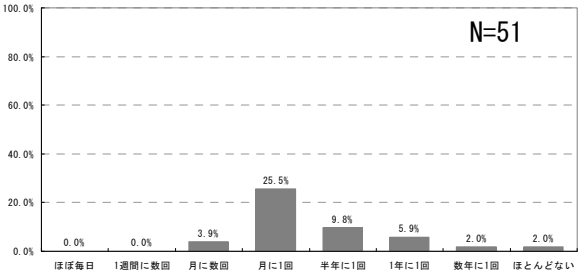
(e)学校



①情報の内容



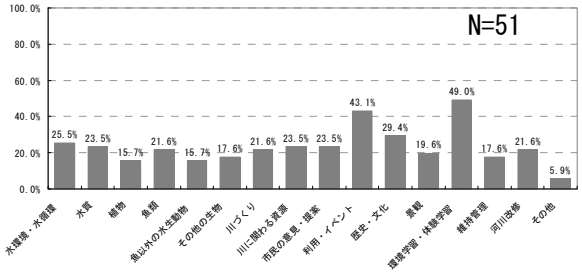
②手段



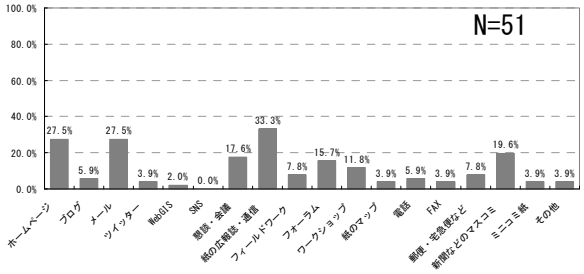
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	11	21.6	水質	9	17.6
植物	6	11.8	魚類	8	15.7
魚以外の水生生物	6	11.8	③～⑤以外の生物	7	13.7
川づくり	6	11.8	川に関わる資源	6	11.8
市民の意見・提案	7	13.7	利用・イベント	15	29.4
歴史・文化	12	23.5	景観	8	15.7
環境学習・体験学習	23	45.1	維持管理	5	9.8
河川改修	6	11.8	その他	3	5.9
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	10	19.6	ブログ	1	2.0
メール	9	17.6	ツイッター	2	3.9
WebGIS（地理情報システム）	2	3.9	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	8	15.7	紙の広告誌・通信	14	27.5
フィールドワーク	3	5.9	フォーラム	4	7.8
ワークショップ	4	7.8	紙のマップ	1	2.0
電話	5	9.8	FAX	2	3.9
郵便・宅急便など	2	3.9	新聞などのマスコミ	6	11.8
ミニコミ紙	1	2.0	その他	1	2.0
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	0	0.0	1週間に数回	0	0.0
月に数回	2	3.9	月に1回	13	25.5
半年に1回	5	9.8	1年に1回	3	5.9
数年に1回	1	2.0	ほとんどない	1	2.0

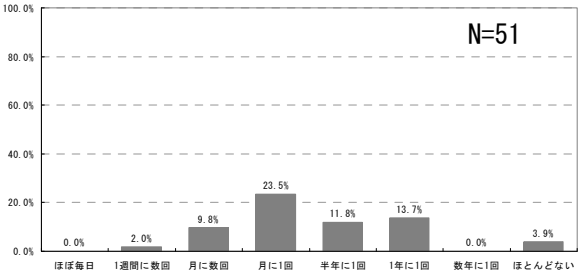
(f)市民・住民



①情報の内容



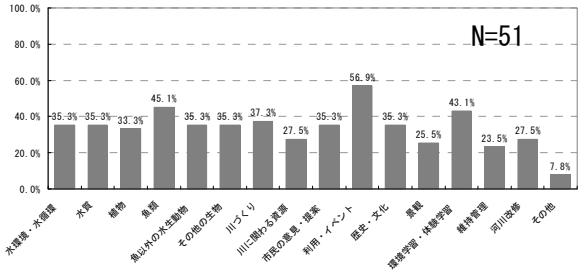
②手段



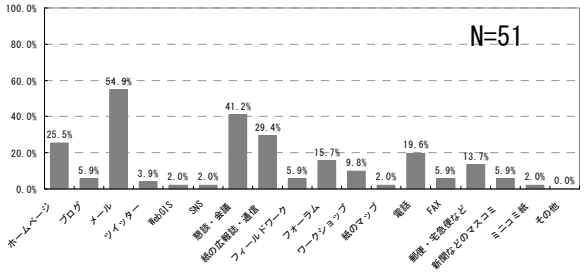
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	13	25.5	水質	12	23.5
植物	8	15.7	魚類	11	21.6
魚以外の水生生物	8	15.7	③～⑤以外の生物	9	17.6
川づくり	11	21.6	川に関わる資源	12	23.5
市民の意見・提案	12	23.5	利用・イベント	22	43.1
歴史・文化	15	29.4	景観	10	19.6
環境学習・体験学習	25	49.0	維持管理	9	17.6
河川改修	11	21.6	その他	3	5.9
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	14	27.5	ブログ	3	5.9
メール	14	27.5	ツイッター	2	3.9
WebGIS（地理情報システム）	1	2.0	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	9	17.6	紙の広告誌・通信	17	33.3
フィールドワーク	4	7.8	フォーラム	8	15.7
ワークショップ	6	11.8	紙のマップ	2	3.9
電話	3	5.9	FAX	2	3.9
郵便・宅急便など	4	7.8	新聞などのマスコミ	10	19.6
ミニコミ紙	2	3.9	その他	2	3.9
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	0	0.0	1週間に数回	1	2.0
月に数回	5	9.8	月に1回	12	23.5
半年に1回	6	11.8	1年に1回	7	13.7
数年に1回	0	0.0	ほとんどない	2	3.9

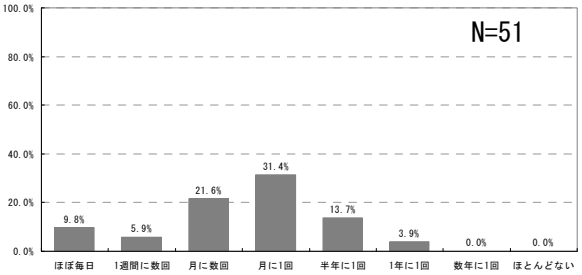
(g)会員



①情報の内容



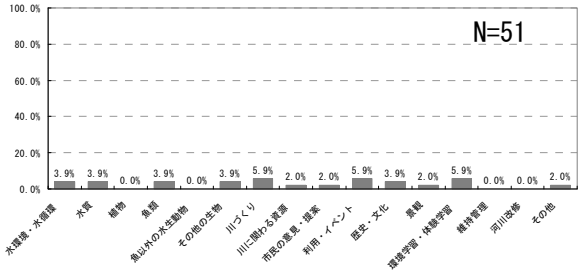
②手段



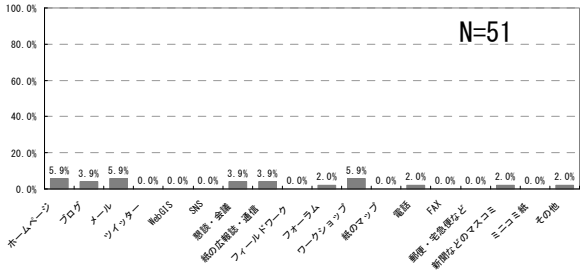
③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	18	35.3	水質	18	35.3
植物	17	33.3	魚類	23	45.1
魚以外の水生生物	18	35.3	③～⑤以外の生物	18	35.3
川づくり	19	37.3	川に関わる資源	14	27.5
市民の意見・提案	18	35.3	利用・イベント	29	56.9
歴史・文化	18	35.3	景観	13	25.5
環境学習・体験学習	22	43.1	維持管理	12	23.5
河川改修	14	27.5	その他	4	7.8
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	13	25.5	ブログ	3	5.9
メール	28	54.9	ツイッター	2	3.9
WebGIS（地理情報システム）	1	2.0	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	1	2.0
懇談・会議	21	41.2	紙の広告誌・通信	15	29.4
フィールドワーク	3	5.9	フォーラム	8	15.7
ワークショップ	5	9.8	紙のマップ	1	2.0
電話	10	19.6	FAX	3	5.9
郵便・宅急便など	7	13.7	新聞などのマスコミ	3	5.9
ミニコミ紙	1	2.0	その他	0	0.0
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	5	9.8	1週間に数回	3	5.9
月に数回	11	21.6	月に1回	16	31.4
半年に1回	7	13.7	1年に1回	2	3.9
数年に1回	0	0.0	ほとんどない	0	0.0

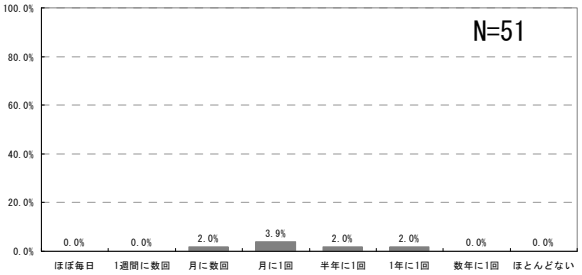
(h)その他



①情報の内容



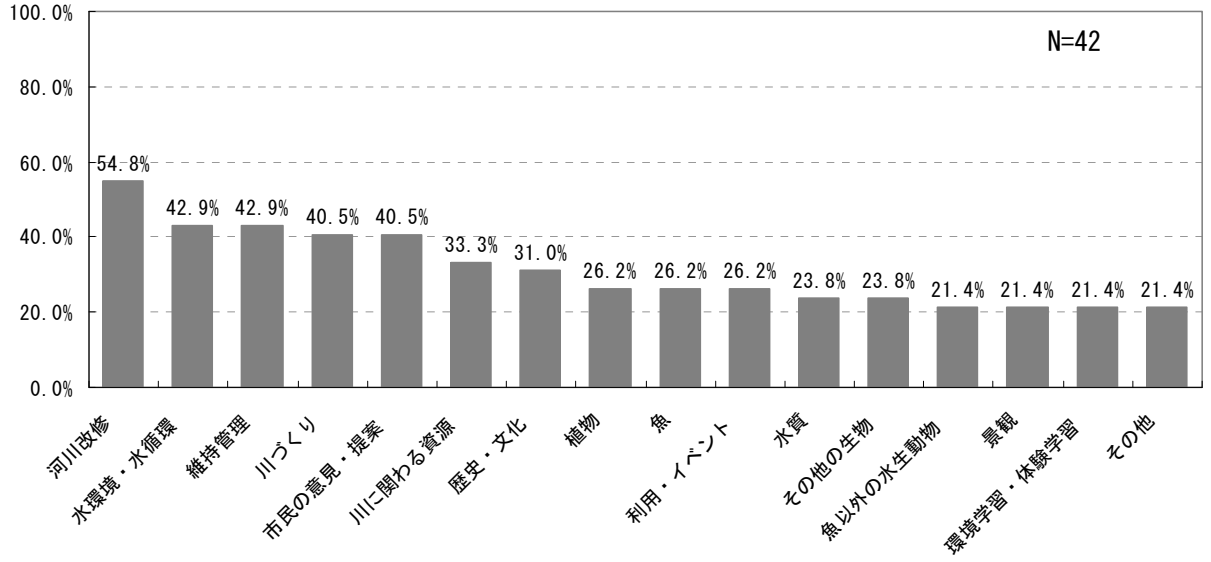
②手段



③頻度

①情報の内容					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	2	3.9	水質	2	3.9
植物	0	0.0	魚類	2	3.9
魚以外の水生生物	0	0.0	③～⑤以外の生物	2	3.9
川づくり	3	5.9	川に関わる資源	1	2.0
市民の意見・提案	1	2.0	利用・イベント	3	5.9
歴史・文化	2	3.9	景観	1	2.0
環境学習・体験学習	3	5.9	維持管理	0	0.0
河川改修	0	0.0	その他	1	2.0
②手段					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ホームページ	3	5.9	ブログ	2	3.9
メール	3	5.9	ツイッター	0	0.0
WebGIS（地理情報システム）	0	0.0	SNS（ソーシャルネットワーキングサイト）	0	0.0
懇談・会議	2	3.9	紙の広告誌・通信	2	3.9
フィールドワーク	0	0.0	フォーラム	1	2.0
ワークショップ	3	5.9	紙のマップ	0	0.0
電話	1	2.0	FAX	0	0.0
郵便・宅急便など	0	0.0	新聞などのマスコミ	1	2.0
ミニコミ紙	0	0.0	その他	1	2.0
③頻度					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
ほぼ毎日	0	0.0	1週間に数回	0	0.0
月に数回	1	2.0	月に1回	2	3.9
半年に1回	1	2.0	1年に1回	1	2.0
数年に1回	0	0.0	ほとんどない	0	0.0

質問９　活動を行う上で河川環境に関してどのような情報が不足していますか。（あてはまるもの**全て**に○をつけてください。）



選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
水環境・水循環	18	42.9	水質	10	23.8
植物	11	26.2	魚	11	26.2
魚以外の水生動物	9	21.4	③～⑤以外の生物	10	23.8
川づくり	17	40.5	川に関わる資源	14	33.3
市民の意見・提案	17	40.5	利用・イベント	11	26.2
歴史・文化	13	31.0	景観	9	21.4
環境学習・体験学習	9	21.4	維持管理	18	42.9
河川改修	23	54.8	その他	9	21.4

質問 10　不足している情報について具体的に教えてください。(n=51)

【川づくりの考え方】

- 多自然川づくりや河川改修について、実際の現場との感覚のズレを感じることが多い。また、市民や土木業者側にも多自然川づくりや、これから理想としている川づくりについての、共通認識が育っていないので、そんな事に対しての情報をどう受け入れ、発信していけば良いのか悩んでいる。
- 川づくりへのビジョンが見えないまま、個別情報が得られても単なる知識としての意味しかない。
- 自分が勉強不足ということもあるが、何が問題なのかすら分からないために他から情報をもらわないと分からないということもある。「今、この川では何が問題でどのような対策をとっている」などの情報発信があるととても便利だと思う。
- 河川管理者（国）との情報交換がほとんど出来ていない。管理者として今後の河川をどうしていくのか、といった方針は、自治体や地域に対してもあまり説明が無い。当会の設立準備段階では河川管理者にもオブザーバーとして参加頂いたが、こちらからの情報提供もなかなか機会を作れず、お互いに理解を深める機会が必要と感じている。
- 現在行われている河川改修と生態系保全の兼ね合いや市民の河川利用に関しての行政側のスタンスがあいまいで、多自然川づくりや住民の声を聞くと言いながら、その成果についての報告が無い。
- 川づくりに関する市民の考え・行政の考え。
- 抜本的な河川改修等が行えない条件の川で多自然の環境をつくるにはどうしたらよいか
- 市民、行政など関係者に多自然川づくりについての認識が低い。そのため、擬似親水整備になって

しまいがちである。
- 下流域左岸に私有地、産廃業者があり、景観が悪い。この状況がずっと続くのか堤防管理者としての県の展望を知りたい。市民として土手沿い、川沿いを歩ける環境を望んでいる。また、橋毎にホームレスが存在し、ゴミ投棄、不法新参者も多い。水辺環境を考える以前に行政として何とかしてほしい。

【河川改修・管理】
- 河川改修に関する情報については、河川管理者から発信されるようになってきているが、災害復旧などの緊急的な工事についてはまだすぐには流れてこない。
- 河川管理に関する施策、事業、工事情報が不足している。
- 行政が持つ河川整備及び維持管理情報が入らなくなった。この原因は地元河川整備では約 20 年前に争議があり、市民と河川行政との合意システムを作り上げて進行してきていたが、数年前このシステムに納得いかない市民団体が表れ、行政訴訟に発展、現在も進行中、この事により合意システムに参加している市民と行政訴訟の団体を排除して交流する事は一部の団体への利益供与となる事が問題になり、河川行政との懇談が持ちづらくなった。この解決策を現在も模索中。
- 川づくり、河川改修計画の事業者からの情報が必ずしも十分ではない。
- 河川整備の事前情報
- 維持管理、河川工事等、川づくりの提案などに直接関わる情報がこれまで不足していた。
- 最新の知見を改修に活かすための手段・方法。

【市民の意見・提案】
- 地域市民の意識や要望も、活動参加者を通じて汲み取れる部分もあるものの、大多数である「非参加の市民」の意識や要望は見えにくい部分があると感じている。
- 流域に住む人々・市民が河川に対し何を思い、何を感じているか。何を求められているのかについて。
- 特に情報の不足を強く感じないが、市民が現在望んでいる“川の姿”についての意見集約されたものがあれば活用したい。

【水環境・生物】
- 水環境のデータが欲しい。川にどんな魚が居るか知りたい。
- 植物・生物の専門家がいない。
- 河川に生息する野生生物の情報が全般的に不足。
- 昔と現在の生き物の状況分布の違いが知りたい。
- 水生植物（外来種）。昨年、夏期ホテイアオイが異常に発生（水質悪化へ）。その対策について情報不足であった。
- 特に水質や生態系など、専門性のあることについては、漠然とした把握はしていても、網羅的な調査・解析等による把握は不十分であり、そういった情報は特に不足気味。
- 地下水等の水循環情報
- 分かりやすい水文データ（地点毎の水位、流量、水温）
- ①水循環：上水・下水道を含めた水循環の在り方、小規模戸別型浄化施設（石井式合併浄化槽）②水質：水質浄化の成功例と効果的で実現可能性の高い方法。③植物：河川に相応しい植物。成功事例集。④魚：調査方法、外来魚の駆逐方法。⑤魚以外の生物：調査方法。⑥川に関わる資源：どんな資源があるのか知りたい。

【河川の利活用】
- どこからどこまでは何をしていい、何はダメ、等の河川の利活用について検討する材料が、全般に不足し、また複雑に感じる。特に、漁業権の設定有無等、法的拘束力がある情報が「詳しい人」で

ないとわからない状況にあり、混乱を生じたケースがあった。
- 河川内に入れない状況
- 学校教育での河川保全活動の教材が不足している。

【他団体の活動状況】
- 上流に向けて植樹や清掃活動を共に行いたい。どこを散策してもそのエリアに合った河川景観を求める時、他市の団体、行政の河川への感心度を知り、共に活動していけたらと思う
- 他地域で同様の活動を行なっている団体の活動方法・活動内容など。また、人・モノ・金を回していく具体的な手段。

【情報の提供方法】
- 今はインターネットなどで探そうと思えば様々な情報が手に入る。情報が不足しているというよりは発信側の方法が分かりづらい。例えば、行政のホームページで公開しているといっても情報が多すぎて目的とする（欲している）情報までなかなかたどりつかない。
- 過去のデータや計画、郷土史等が行政ホームページ（特に「報告書」地方公共団体）に不足している。行政のホームページ担当者のやる気によって、発信される情報に差がある。報道発表資料や更新情報に載らない行政情報がある。
- 河川に関わる事は河川事務所のホームページくらいしか情報が無く詳細には分からない状況。調査をしているなら結果をせめて地元に知らせてほしい。
- 個々の市町村ではそれぞれに良くやられていると思うが、流域の一元化した情報がない。（流域の情報ステーションが必要）。
- 河川管理者による様々な河川環境の情報提供は他県に比べ多い方であるが、情報の質においては、まだまだ全般的に不足している状況と認識している。また、住民からのアクセスにもインターネット社会の中で、格差が益々深刻化している実情である。流域の行政や市民ネットワークによる住民への情報提供の量と質を更に増して行く必要を感じる。
- 具体的には喫緊の課題として、地震・津波・地盤沈下・液状化現象等への住民不安に対して、現在の耐震基準や水防基準や基準の強化予定等を知らせ、取り組み中の耐震強化・河川堰堤改修計画などを知らせながら少しでも不安解消に努めることである。さらには、住民からの情報の聞き取りや意見提案を重視し、河川行政への市民参加を促進していくことが大切である。また、多自然型の河川づくりには住民意見ばかりでなく生物生態の専門家からの意見も極めて重要で、一地域住民だけの近視眼的な意見だけで施策を行うことは危険である。次に、次代を担う若者への啓発の点である、河川による恵みが多くの施策や労苦により築かれてきたことを水防や経済・環境の面から歴史的に学習できる教材が欲しいと切に願う。環境教育の中心には、人類の生き残り戦略が置かれるべきであり、近年の ESD 活動にも積極的に関わって情報提供して欲しい。

【その他】
- 情報は、あればあるだけ重要であり、数多くの情報の中から、その時に必要な情報を取捨選択するものである。そのため、すべての情報が常に不足していると考えている。
- 河川管理者でも、河川環境の専門機関でも、専門の研究者でもないので、どの情報についても十分なものなどなく、すべての情報が不足していると言える。もちろん、地元に関する利用・イベントや歴史・文化等は、ある部分では詳しいが、すべてを把握しているわけではないので、地元に関することでも、十分に情報を得ていないものが多々ある。
- ①地域での個々の河川の治水・利水・環境・川文化の履歴情報②流域の河川環境現況情報＝魚類の放流数に対する生息数、漁獲数、遡上数などが不明。③流域の河川環境復元の展望にかかわる情報＝河川管理者の未定整備計画、ダム事業者の漁協等改修計画、放流計画、自治体の川の駅など河川施設計画、企業・漁協等の計画。④川復元や進化に対する市民や企業団体、学校、漁協などの取り組み意向、人材などの個別河川での情報。

・ 活用できる様々な助成金などの情報。
・ リバートレッキングなどで川を縦断するため、釣り人情報などあれば計画を立てやすい。
・ 河川レンジャーの窓口以外の部署の情報。
・ 川と人との関り。特に地域が育んできた文化はその地域固有のものがあり、事例研究とすべき。河川法改正時に取り組んだ川に学ぶ小委員会の紹介をすべき。「日本の川をとりもどす」は「川と人とのいい関係の再構築」と思う。地域の文化の歴史を、伝承されてきたチエ教訓に光を当てるべき。子どもたちは「遊べる川にして下さい」 将来の川は「人間の一方的じゃない川」「川も生き物も人も海もみんな仲良しでいられる川がいい」とフォーラム・ワークショップで言っている。

質問 11　今後、貴団体が活動を通してもっと発信したい情報があれば具体的に教えてください。(n=51)

【団体の活動目的】
・何のために活動をしているのか、という根幹に関わる部分をよりわかりやすく伝える方法はないかと考えている。イベント事業の案内、実施報告等はホームページやツイッターを活用し事業毎に実施しているが、その活動を「なぜ」やっているのか、をうまく伝えきれていないと感じている。単に事業紹介でなく、その実施背景としてこんな環境問題、地域の問題、治水の問題がある、といった内容をわかりやすく発信できれば、より地域住民の理解に立った活動が出来るのではと思っている。

【団体の活動内容】
・ 体験学習の実施を行っていること（自然・文化歴史）
・ 活動が面白いことを市民に伝えたい。
・ まだ、最も基本的な情報、何の会で、何をしている、という情報もうまく発信出来ていない状況にある。自治センター、観光施設等に会の紹介冊子は置いているが、減っている形跡もあまりない。まずは、情報発信の頻度、機会を増やすことが重要と考えているが、そのための人員も満足でない状況にある。
・ 流域の河川生体環境（水質・流量、生息魚類・水生昆虫・流域の鳥、水草・昆虫・植生）及び水循環、水資源等多数の発信情報がある。今まで、流域で調査した魚類と鳥の調査結果を子供でも判るように、魚編・鳥編の２種類の下敷き図鑑を作成して主に流域の小・中学校に配布した。これを元に流域に生息している水生生物、および水草の市民モニター講座を継続し、資料を蓄積し観察図鑑の作成を検討している。
・ 水生生物生息状況や水質（COD，透視度など）。生活排水を汚さない工夫。
・ 大型哺乳類（シカ・サルなど）・水生昆虫・鳥類などの調査データの情報発信とホームページの更新にパワー不足。
・ これまでに実施してきた「中高生のための水辺教室」等の成果。
・ 河川の清掃を通じた、地元の再発見に取り組む活動全般。定例清掃会などの具体的なイベント情報。ゴミマップの普及に向けた活動。
・ 埋立てによる〇〇湿原の環境悪化の状況・分析。とんぼのモニタリング。３年間の調査報告。
・ 河川をゴミ捨場と考えている住民（一部）に対し我々の日常活動（河川清掃）を通じて認識してもらう（周辺住民も任意参加）。行動で示すことが重要！

【問題提起】
・ 河川環境や景観保全の必要性、市民自ら行動することの大切さ。
・ 市民の視点で自ら調査した結果を川づくり（管理）へ反映できるような情報・川の利用状況と河川環境の保全の実態

- 源流域の農山村の問題と水資源保全について
- 『○○川の問題点（河川法改正の主旨からして）と、その解決を市民も役割を分担して進めましょう』という呼びかけ。
- ○○川の▲▲堰まで、アユが天然遡上していること。遡上を阻外している河川横断物への魚道設置によりかつての様に、□□川へのアユ復活が可能なこと。
- 気候変動の集中豪雨から住民の生命財産を守り、生物多様性・多自然川づくりを本当に河川行政だけで行えるのか。

【様々な対象者への発信】
- 川の環境のすばらしさを多くの人に認識してもらう事、カヌースクールや、川遊びなど川での活動がもっと活発になるような仕組み作り。
- 都市化された地域であるが湧き水が豊富であり、この事を多くの人々に発信したい。また、意見の違う他の市民と行政連携がうまく出来たときは事例を紹介したく思う。
- 団体として、日々河川の清掃を行っているが、小、中学生、市民共に散策しながらでもごみ拾いが出来るように折りにふれ発信して行きたい。
- メール等での発信については会員に限らず、また関心の有無に関わらず（受信者に迷惑にならない程度）自然環境に関わることはなるべく多く発信していきたい。
- 情報が随時集まる仕組みをつくり、ホームページで発信したい（行政情報・流域各地団体の情報）
- 行政の方々（町役場の職員）が、積極的に参加してもらえるように発信をしていきたい。子供たちに川の楽しさ恐ろしさをもっと伝えていきたい。そのためには教育機関・行政の協力が必要。
- ここで活動している団体だから分かる地域に密着した情報、環境の状態や変化に関する日常の細やかな情報、気づきなどは、随時発信していきたい。また、市民団体として、市民の生の声、声なき声を拾って発信していけたらと思っている。
- 65 年ぶりに▲▲までサケが遡上した□□川の復元運動への参加。都市河川の川掃除や川利用への参加。
- 流域の市民活動の情報を流域全体の住民に情報発信できないか。防災や自然観察や地域振興に河川は深く関わっているので、「○○河川だより」のような、河川ごとの流域の情報配信が冊子やネットを使ってもらいたい。特に、小中高校の河川への取組みは市民の生活にも関わることが多いので、是非お願いしたい。近年多くなった市民による環境活動の情報発信も有用性が高い。また、学校教育の中で長年、クラブ活動で河川環境調査を行っているが、学校間の連携が苦心する。

【その他】
- 川の魅力情報
- 流域内の水循環、環境全般、活動、防災、その他。
- 川と人間生活の関り、その中での川の変遷(歴史)。
- 河川の現状と今後、河川をどのように守っていくか。
- 季節ごとの動植物の状況
- 県内の川活動を行っている団体の活動報告など
- 流域団体の連携。荒川流域には数多くの市民団体が活動しており、この団体のさらなる連携が、河川管理のあり方を変えていくと考えている。
- 河川環境に問題が起きた時の様々な対応マニュアル
- 河川に入れるような場作り
- 川での安全な遊び方と指導方法。市民への多自然川づくり。
- ①□□市をその都市像である“人と自然が調和した生活文化都市”にすること。②“いい川づくり”を“いい街づくり”につなげたいこと。具体的には川を活かした新たなコミュニティづくり。③川と山を結ぶ緑の回廊づくり。水と緑の回廊づくり。その上で新たなウォーキングロード・サイクリングロードを創ること。④街の特産物などを売る“川の駅”を創り、街に賑わいを取り戻すこと。

⑤真の水循環の構築のために、現在の下水道システムから「小規模戸別型浄化施設を普及させた新たな下水道システムへの社会インフラの改革」を行い、安全で水量豊かな○○川を創ること。
- 水防。
- 役所の通達等の分かりやすい情報（役人が何に基づいて仕事をしているか）

質問 12　市民からよく聞かれる、あるいは求められていると感じる情報があれば具体的に教えてください。
(n=51)

【河川改修・管理】
- 河川改修の情報
- 改修中の河川がどう変わるのか
- 河川工事の際、市民への工事の詳細説明。
- 川の工事について、なぜあんな事をしているのかと言うことは、良く聞かれる。
- ①直線型河川改修への疑問と不満。②蛇行する旧河川が埋められてしまうことへの不安。③旧河川に生息するいきものたちの生態系への不安。④行政からの河川工事の情報不足に対する不満。
- 何のために毎年、10 年以上も続けて大工事がおこなわれているのか。二重防護のための低水護岸は本当に必要か。改修工法の検証もなしにさらに新しい工法になるのはなぜか。
- 河川整備後の維持管理システム。河川平常維持水量確保について。流入生活汚染の改善対策。下水処理水の流入対策、河川水の良好な水の回復。流域雨水幹線からの河川への流入に伴う影響。流域の揚水状況
- 洪水に対する安全性

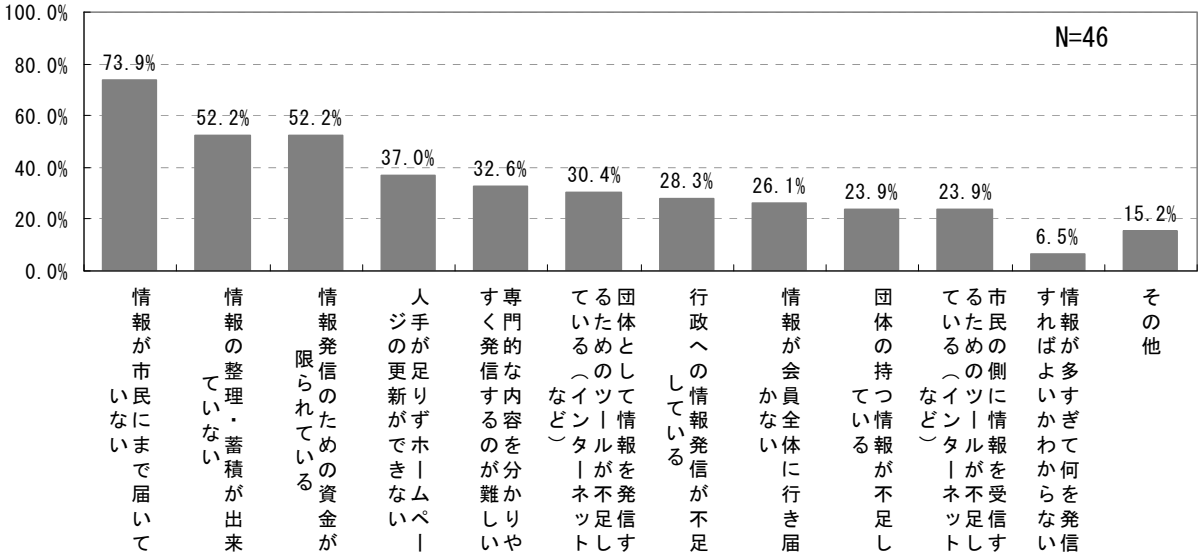
【水環境・生物】
- 河川環境（自然・歴史・文化）
- 河川の水質について
- 子供達が秋遅くまで泳いでいるが水質は？
- ○○川への流量の確保
- 環境学習のために実施した魚類調査の結果や、地域の祭りで実施した魚類や植樹用樹木苗の展示などに、かなりの人々が興味を示し、活動意義に賛同して寄付をしてくれる方が数多くいた。
- 川の清掃活動に参加する時に、事前に魚類調査を行なって参加者に見てもらう活動を続けているが、いつも、自分達の清掃活動の成果として大きな関心を持って見てもらっている。日ごろの魚類調査においても、採捕した魚を水槽に入れて通行の人たちに展示しているが、大きな関心を持って見てくれる人が多い。特に、普段自然に接する機会の少ない子供達には、自ら採捕活動に参加することによって自然を体感してもらうことが出来、多くの子供達がそれを望んでいると感じている。
- 水の安全性、市民レベルでは把握できない水質項目（重金属類や農薬などの有機化合物や環境ホルモン物質など）についての現状と動向に関する情報、生物の生息環境状況に関する情報、下水道整備などの進捗状況と展望、なぜ改善が進まないかの原因と対策に関する情報など。
- ①水源について：地元に河川の源泉が多く存在している。この源泉（湧水）の元の地下水事情は？②下水道整備の状況：市内の下水道整備は終了しているが、未接続者への対応は？③揚水状況：湧水量の減少する事がたまにあり、原因として工事など揚水に問題があるのでは？等
- ○○トンボ（準絶滅危惧種）を観たい！ホタルを子供たちに観せたい！等

【その他】
- 多岐にわたり、回答できない。
- 市民からの要望は多様であるが、いずれの情報も市民に分かりやすい発信、表現が求められている。防災関係では、いざという時どうするかを国、自治体とも詳しく出して欲しい。

- 河川法の改正以来、いろいろと動いていた河川管理者の情報発信が最近少なくなっている。方針が変わったのか？
- これについては、どこの事務所のどのセクションに相談したらよいか？という質問がある。私たちはどの河川事務所でも普通に入っていくが、一般の市民の皆さんが何か相談したくてもどこに行ったらいいのか解りにくいようである。
- どのような活動団体があるのか（活動エリア、事務局など）
- ①子供の環境学習に関する問合せがある（公民館より）②環境学習を指導して欲しい（市民・公民館・行政より）③川遊びをさせて欲しい（市民。公民館。行政）
- 市民と接する機会のほとんどがイベント事業の場であるため、市民の方からの質問も事業に関わること(実施場所の生き物など環境、河川整備関連のこと、当会のこと等)がほとんどである。逆に、私達には何が答えられる、ということを明確にし、イベント以外の場でも日常的に市民との対話、情報交換ができる仕組みを検討しなければならないと感じている。
- 多自然川づくり。市民公共事業。河川内樹木の管理。堰、落差工の対処。ローカル、ルールづくり。総合治水対策。
- いい川とは誰から見てなのか？－市民、流域住民からと答えている。
- 自治会に対して、ゴミの調査協力を依頼している。その方たちに言われるのが、『この活動が何につながるのか？』ということである。私たちからは、下記のことを提示している。－全国での清掃活動のモデルケースを目指している。⇒全国の人が、地元を見直すキッカケになれば。この活動ののち、他の自治会や市などの地方自治体などと一緒に、河川をどうするかを検討する基礎データとなる。
- 河川を良く出来るのか
- 川にそもそもの興味を持っていない人の存在もかなり多いと感じている。川と暮らしが密接で無くなっているので、川に日常の興味を持っている人は、限られてきているという感じもある。
- 地域の市民は、川があまりに身近な存在のため、逆に無関心、ないし自分の知っていること見ていること以上の情報は求めていない、という感じがある。
- 内水面漁協の存在について時々聞かれる。
- ○○川の歴史的構造物の説明看板など。

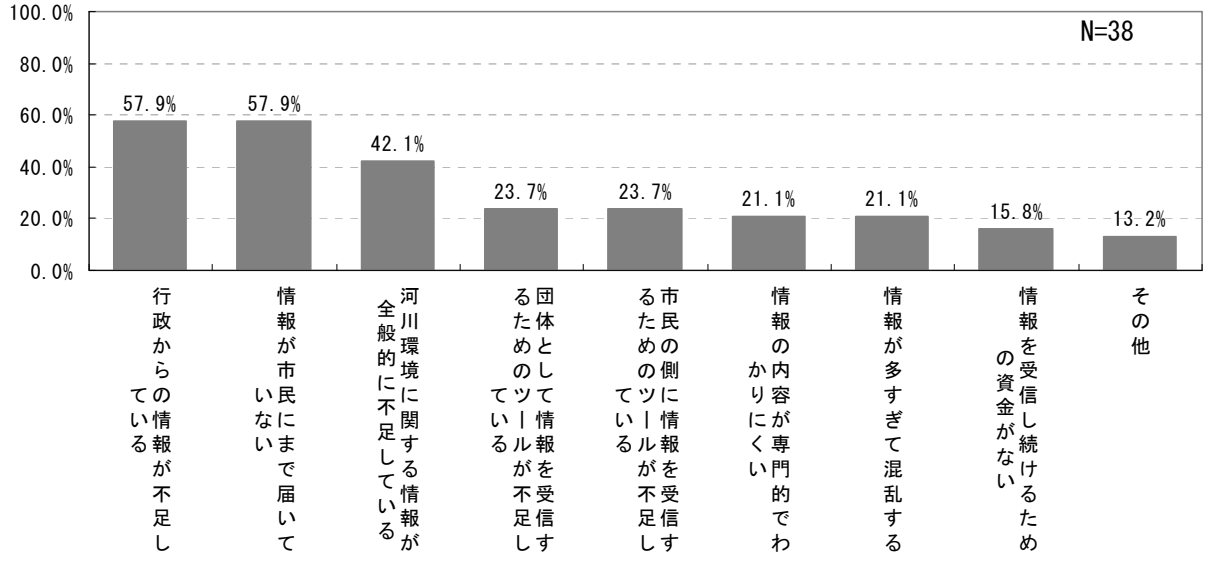
質問 13　河川環境の情報の受信や発信について抱えている問題点があれば教えてください。（あてはまるもの**全て**に○をつけてください。）

【情報の発信について】



選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
団体の持つ情報が不足している	11	23.9	情報の整理・蓄積が出来ていない	24	52.2
情報が多すぎて何を発信すればよいかわからない	3	6.5	専門的な内容を分かりやすく発信するのが難しい	15	32.6
情報が会員全体に行き届かない	12	26.1	情報が市民にまで届いていない	34	73.9
行政への情報発信が不足している	13	28.3	団体として情報を発信するためのツールが不足している	14	30.4
市民の側に情報を受信するためのツールが不足している	11	23.9	人手が足りずホームページの更新ができない	17	37.0
情報発信のための資金が限られている	24	52.2	その他	7	15.2

【情報の受信について】



選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
河川環境に関する情報が全般的に不足している	16	42.1	行政からの情報が不足している	22	57.9
情報の内容が専門的でわかりにくい	8	21.1	情報が多すぎて混乱する	8	21.1
情報が市民にまで届いていない	22	57.9	団体として情報を受信するためのツールが不足している	9	23.7
市民の側に情報を受信するためのツールが不足している	9	23.7	情報を受信し続けるための資金がない	6	15.8
その他	5	13.2			

質問 14　情報の受発信で工夫している点があれば具体的に教えてください。(n=51)

【コミュニケーション】

- 日頃の来館者に、川のすばらしさを伝え、川遊びが子供達の成長にとって素晴らしい効果をもたらすことなどを、めげずに楽しくしつこく話すことで、新聞に載った情報等に興味を持ってもらうようにする。
- 新聞、FM ラジオ、ケーブルテレビ等のメディアと定期的に交流して、投げ込みが反映される関係を保っている。
- 環境保全活動をする上でまちづくりにつながるよう、常に学びの場があれば会員共に参加をする。また、市行政と共通認識を持ったために課題の都度話し合いをする。
- 川は水系として連続しており、ある場所で発生した問題は水系全体に影響する。こういう考えから、水系を中心とした他の市民団体との情報交換は欠かせないし、自分の所属団体のフィールド外の問題であっても積極的に関わっていく努力をしている。
- 必要な情報は、直接情報発信関係者や知っている人に聞いている
- ①人的ネットワークを可能な限り拡げて受発信のアンテナを高くしている。②専門的な知識は、書籍・雑誌、マスメディアなどからの入手を心がけている。③”かわ仲間”を増やして情報の間口を大きくしている。
- インターネットや紙面で発信する情報だけでは、十分な伝達にならないため、フィールドワークと

セットにすることが肝要と考え、河川管理者や学識者からの情報を現場で検証するような方策としてフィールド研修会を開催している。

- 「しずおか川自慢大賞」という交流イベントを通して発信している。
- ネット・メールのみでなく実際に会って情報交換の場を設ける。
- 学校のクラブ間で連絡会を作って情報の共有をしている。年間にフィールドワークとシンポジウムを 10 年間以上行ってきた。流域の住民との交流も盛んである。行政もこれまでバックアップ体制をつくってきた。市民団体のネットワークとも連携をしている。

【ツール】

- WebGIS「○○川流域コミュニケーションマップ」を開発し、流域の様々な情報の交換を工夫し始めている。
- リピーターだけでなく、新規参入者を増やすために広く意識の高い人達とのつながり・ツイッターを利用している。
- 今年度からの新たな試みとして、リアルタイムでのイベント実施状況の報告(ツイッターによる「実況」)を行っている。イベント事業の参加者は限られ、また会員でも「来たくても来れない」人が多いことから、携帯電話(スマートフォン)を活用し、参加スタッフがイベント実施中に更新を行った。これにより、これまではイベント実施数週～数ヵ月後になるホームページ上のアップ情報か、マスメディアの取材によってのみ発信されていた「何をしています」という情報が、即時的に発信できるようになった。どういう発信のしかたが好ましいか、校閲を経ない情報の発信による誤謬等、実施により課題も多く見つかったが、大きな可能性も感じている。
- メーリングリストの活用で止まっている。会員の多くは日常会社等の勤務があり、会のホームページの開設には人的、時間的に余裕がない。
- メーリングリストの活用（但し、メールも同じだが、パソコンを使えない人が多い）
- ホームページとメールを有効に活用する（ブログやツイッターまでは使いこなせていないが）。
- ホームページの改善を、ブログ式で再構築中。複数の編集担当者が使えるように近々に変更予定。メールやホームページアクセスをしない、できない会員向けには、マスコミ通信欄活用を検討中。
- 会の携帯用ホームページを立ち上げたこと。
- ホームページでのこまめな情報発信に努めている。また、当会の情報以外でも広く情報提供をした方が良いと判断した情報は発信するように努めている。また、紙面による会報、広報も発行している。
- 現在、作成したホームページがサーバー管理会社の都合で閉じられており、他の団体のホームページ、環境羅針盤、河川管理事務所等への発信となっている。その他メーリングリストに参加してもらい、河川環境情報のみならず総合的な水に係わる情報を毎日送信している。
- ミニコミ誌（隔月）発行→会員、行政、住所（一部）。メール。ホームページ。イベント開催。
- コストダウンの為、ネットをメインで活用。ブログは複数人で書き込みを分担（徹底出来ていない面もある）。ML を活用し、情報共有。場合によっては、専用 ML を別に設置する場合もあり。会員向け清掃会の案内などは、メールを使わない方も多いため、郵送も併用。
- メンバーによっては、イベント時や活動において、現地（河川）に看板を設置したり、取り組みのチラシを作成し、地域の個人や関係各所へ配付するなど、直接の情報発信・伝達を行っている。（釣り人への周知。清掃活動の呼びかけ　等）
- 親水空間や高水敷など人目に付く水辺に手作りの常設・非常設の掲示板を設置、市民活動の情報（呼びかけポスター、活動報告写真チラシ）を発信している。その場所を散歩したり、そこをフィールドとしている人に情報伝達することは、不特定多数ではない関心ある人の理解を得ることができる。
- 広く情報を知ってもらえるように、フォーラムなどへ参加する場合は資料を配布している。
- 活動について、一般的な行事報告から専門的な調査まで、年度末に報告書を作成し、校区の全戸に配布している。

【伝え方】

- 分かりやすさ（ビジュアル化（写真）、キーワードタイトル等）①池上彰さんのノウハウ本は勉強になる。また、自然共生研究センターの ARRC ニュースや年次報告書のまとめ方なども参考としている。②懇談会では、なるべく専門用語を使わない、用語集を配るなどの工夫をしている。
- 参加者が、興味を引くようなチラシづくり。
- NEWS は、テキスト文字だけのメールとして、写真や図はブログにリンクして閲覧できるようにしている。極力図や写真を入れて、分かりやすく伝えるようにしている。情報が入り次第、きめ細かく発信するようにしている。各団体の機関誌等もブログに掲載してみんなで閲覧できるようにしている。
- メールの件名をシンプルにして、中身を分かりやすくしている。加入する流域市民団体ネットワーク組織のルートも活用している。また、環境や NPO ボランティアのポータルサイトやメーリングリスト、マスコミ等のルートも活用している。
- 流域の情報の受信と発信の束ね役となっている流域ネットワーク団体を活用する（流域ネットワーク団体を通して流域内の情報を受信したり発信することが多い。）。
- 各地域で情報発信拠点となっている方へ情報を流すことによって更に多くの方に情報を受け取ってもらうようにしている。

質問 15　その他、河川環境の情報の受発信について意見･提案などがあれば教えてください。(n=51)

- 行政サイドが持っている基礎情報は膨大なものがある。紙ベースにしろ電子ベースにしろ、その情報をどの程度、どのように一般市民に公開するのかが今回の調査の着地点のような気がする。「欲しい情報であれば多少苦労しても取りに行く」と述べたが、市民が手軽に情報を入手できればそれに越したことはない。河川環境に限定して言えば、やはりインターネット上に公開するのが一番簡単なのかもしれない。無味乾燥な印象はあるが・・・。
- 公的機関で河川情報の共有で生きる WebGIS（地理情報システム）機能を持ったサイトがあれば、多くの市民と行政・専門家等との情報交流が手軽に発信できる。日本の国土の情報集約サイトの開設が望まれる。
- 行政のサイトは情報の場所が分かりにくく使いにくい。もっと簡単に情報にアクセスできるようにして欲しい。地方行政から、川に関する様々な情報が地域住民に伝達できるシステムが必要。
- 国管轄の情報はあっても県管轄の地域の情報はない。情報を集めて１級２級河川の情報をなるべく多く発信してほしい。
- 現在、河川の情報は『場所』『管轄』『内容』など、様々なものに分断された状態で点在している。一元的に俯瞰でき、さらに詳細情報にも簡単にアプローチできるシステムの整備が必要だと考える。また、河川環境に興味のない大多数の方達に、様々な河川に関する現状を知ってもらう・興味を持ってもらう方法を創造し、広く一般の方が河川環境に興味を持った状態にすべきと考える。
- 河川環境についてのそもそもの基本知識がないのは、中年以下の若年層なので、この世代や子供達が取っつきやすい情報の受発信サイトができると良いのではと思う。特に、小学校の先生が授業で使えるような情報の提供なども盛り込むより良いと思う。
- 河川環境に関わる情報の受発信には、メールや WebGIS のようなツールとともに、懇談やフォーラムのようなフェイストゥフェイスの機会の双方が必要である。また、様々な情報の中から有益な情報を選りすぐり、市民団体や関係者に配信する情報コーディネーターの存在が重要である。
- コスト削減という点ではインターネットやメールでの発信はやむを得ないことだとは思いますが、万人がそれらを活用できないので情報の濃淡ができてしまう。そのフォローとして「ここに行けば情報がわかる・もらえる」という情報発信拠点は必要だと思う。
- 流域ごとに、河川環境の情報の受発信もつかさどるオフィシャルで利用しやすい河川センター（集会ができたり、体験ができたり、指導やガイドもしてもらえるようなセンター）があるとありがたい（情報センター機能を有するだけでなく）。

- ①何を目的として、どんな情報を受発信するのか、不明のままの状況が他河川にもある。河川環境の保全、再生は地域住民との協働が謳われており、情報の受発信も地域との合意をもとに協働で行う必要がある。②河川管理の中で情報提供と広報活動が混同されている。地域にとって重要かつ貴重な情報も広報費の削減で公表されないこともある。また、市民が集めた情報等も同様である。③情報の受発信は、公費負担で役割分担も含め民（NPO 等）に任せた方がストック、整理、検索の点からも合理的と考える。河川管理者は異動等で情報の継続性等が担保されていない。
- 調査などのデータが、例えば具体的な政策立案に寄与していくなど、中長期的に河川環境の改善につながる様子をモニターできるような仕組みが必要。その際、国が管理するという発想ではなく、調査手法も含めた検討を、NGO/NPO と河川管理者が分担して取り組む手法が良い。
- 独自のホームページが無いため、メール配信が主な手段であり、正確な情報交換ができずにいる。河川環境情報のやり取りができる公開されたホームページがあれば、ホームページを持っていない団体でもホームページに投稿できる。市民からだけでなく、行政もそのホームページに河川情報を投稿すると、地域の課題が明らかになり、河川に携わっている者にとっては有効なホームページになる。ホームページの運営を市民団体が維持・管理・継続するには、限界があるので、公的機関による運営や公的資金の投入によるシステム化を望む。
- 冊子より、個々の情報に対してメール等で発信していただくと伝達がしやすい。「どこどこに、こういう情報がある。」というメールがあると情報リストとしてまとめやすい。今は、情報過多で自分のほしい情報が選べないし、リスト化しにくい状況がある。
- 川に多くの市民を誘い出したい。たのしいイベントをやりたい。他の団体の情報を知らせてほしい。
- ○○湖は、誰のものでもなく、村だけのものでもなく、観光で訪れる人、そこに棲んでいる様々な生きものたち、ひいては地球環境すべてに関わる、大事なものだと考えている。行政や観光事業者、地先の住民の方など、一部の人の考えだけではなく、今目先で得になるか損になるか、そうした狭い考え方でもなく、子供たちの未来のためにどうしていくのが一番いいのか、みんなで考えよう、特に子供たちには大切さを伝えていこう、ということが会の設立意図である。ただ、そういう広い立場での見識を今は持ち得ているとは言えず、特に河川管理者とはほとんど情報交換が出来ていない状況にある。これは、河川管理者も私達も、共に課題と考えるべきことと思う。情報の受発信は、共に非常に大きな労力が必要で、他に仕事をもった人達の集まりである私達のような会にとっては、この労力の解決が最大の課題である。お互いに、少ない労力で、これを教えてほしい、これが知りたい、といった情報を交換できる仕組みが出来てくれば、より良い関係、それによる実り多い事業成果が出てくるのではないかと思う。
- 県や市では、最近、種々の問題について市民意見を反映させるべく色々と努力されているようであるが、川の問題については必ずしも十分ではないように思っている。市民意見＝河川近傍の自治会の意見と考えられているように思われることが屡々ある。「河川改修には市民意見を取り入れる」ことが国の方針として打ち出されているにも拘らず、まだまだ道は遠い。また、市民の専門知識の不足を補う意味でアドバイザー制度が作られているが、アドバイザーは行政との会議に出席しないことになっているようである。その為、いざという場でアドバイスされたことが活きないケースが多いように思っている。
- アドバイザー制度の充実。
- （一般向けの情報発信について）当会の活動は、社会の発展と共に見過ごされがちになっていった、人間社会と水環境の結び付きを再確認し、多くの人との対話を通じて、環境と共に生きる、持続可能な社会を形成していくことを目的としている。情報の受発信は、この目的にとって根幹を成す非常に重要な部分だが、現代の複雑化した社会において、マスメディアやインターネットを通じた「情報の洪水」の中で、それぞれに専門的な役割をもった仕事をし忙しく生活している現代の人々同士が、「目先のこと」とは考えにくい面がある水環境について情報をやりとりする、ということは、特に関心の面で非常に難しい、と感じている。単に一方的な情報発信により我々の活動に関心をもってもらう、さらには活動意義の理解に立って対話を行う、というのは簡単ではない。情報のツールは日進月歩で進化が続いていくが、それはさらに「情報の洪水」を加速し、大きく強い情報が力

を持つ状況を生み、私達のような小さな活動にとっては状況をより困難にするのでは、誰も「見ようともしない」のではないか、という危惧も感じている。この状況で、一般向けのアプローチとして一番重要になるのは、実は直接の対話なのだろうと考えている。一方通行の情報提供をいくら続けても、関心の部分から動かすのは難しく、それを動かせるのはやはり直接会っての対話、「やりとり」なのではないか。また、情報ツールが進化を続けても、文字や言葉以外のものを多く含んだ直接の対話により「やりとり」できる情報量を超えることは無いのでは。その対話の場として、当会ではイベント型事業を多く開催しているが、受身で参加を待つだけでなく、こちらから働きかける、地域活動の場などへの参加を積極的に行うことが重要と思っている。インターネット等の情報ツールは、お互いに「見ようとする」、同じ関心を持った上で初めて十分に機能するものだ、という前提に立つ必要がある。

- 河川環境の情報とは、何かとの定義が欲しい。このアンケートでは河川環境を自然環境を中心として捉えているようであるが、河川環境には河川文化（歴史や芸術など）も含まれるものである、これら、河川文化の情報発信も重要であることを認識していただきたい。
- 地域文化（チエ教訓など）にかかわる情報発信がない。特に川ガキについて。川と人とのかかわりは、川が好きであること。それは川での原体験から始まる。こういった取り組みの紹介がない。専門的な取り組みが多い。川とのかかわりは「まちづくり」である。
- 身近な水環境の全国一斉調査は、流域の水質マップとしてA3版に印刷し、極力配布しているが、地元小中学校などの環境学習の教材として、地元自治体が買い上げて活用してもらえれば子どもを通して川に対する住民の認識も変わるし、制作費用に不安を感じない。実際印刷費だけなので高いものではないのだが、行政担当者の熱意の差がある。
- 他の団体などとの情報が共有できる機関が欲しい。
- ①河川堤防上の活用。現在、「防災情報」が各流域都市に『大型パネル』（液晶やアストロビジョン）で、掲示・発信されている。普段関心の無い情報ではいざという時の震災や洪水情報として役立たない。日常的に、川の魅力情報、物語履歴、祭り情報などを掲載し情報パネルへの目線をひきつけるべき。そのため、近づいた人がタッチパネルでの情報検索と双方向性の情報受発信ができるように改造をすすめるべき。②河川や橋上に近づいたときに、携帯などで受発信できるシステムにすべき。若い人も「川の魅力と怖さ」を知りうる環境整備が急がれる。③大震災や大洪水は避けられない。それを日常的に知らしめる場所の名所化が必要です。川の駅、川茶屋、川辺のレストラン、川辺の直売所など川辺の拠点施設での、『川ガイド』を高齢者や漁協リタイア者などにお願いし、これからはモバイルタッチパネルでの情報検索と双方向性の情報受発信をすすめるべき。

参考資料３　河川環境情報共有システムに関する公募モニターへのアンケート調査結果

１）アンケート概要

・実施期間：2012 年 12 月～2013 年 2 月

・配布数　：48 名

・回収数　：31 名

・設問数　：27 問

河川環境情報共有システム運用版に関する公募モニターへのアンケート

この度は、河川環境情報共有システムを試行していただき、誠にありがとうございました。
皆様のご感想やご意見・ご提案をいただきたく、以下の質問にお答えください。回答にあたっては、意見記入欄も含め全ての項目を回答してください。
お答えいただいた内容を整理・分析させていただき、今後のシステムの充実に役立てていきます。

1回答者情報

回答者名	
E-mail	

2表現について

画面は見やすいですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
デザインはどうですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
マップは見やすいですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
文字は読みやすいですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
図は分かりやすいですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
意見記入欄（上記の評価のご感想や、ご意見・ご提案を記入ください）	

3操作について

全体的に操作はしやすいですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
情報は見つけやすいですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
マップは使いやすいですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
表示のスピードはどうでしたか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
水質、流量のグラフの操作はしやすいですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
生物情報の図の操作はしやすいですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
情報の検索はしやすいですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
意見記入欄（上記の評価のご感想や、ご意見・ご提案を記入ください）	

アンケート調査票（１）

4.コンテンツについて

トップページの内容や構成はどうですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
生物情報ページの内容や構成はどうですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
水質・流量情報ページの内容や構成はどうですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
河川管理者情報ページの内容や構成はどうですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
川の学習情報ページの内容や構成はどうですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
市民活動情報ページの内容や構成はどうですか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
リンク情報は十分でしょうか？	○ よい ○ やや良い ○ やや良くない ○ 良くない
意見記入欄（上記の評価のご感想や、ご意見・ご提案を記入ください）	
今後、追加・充実してほしいコンテンツや機能があれば記入ください	

5.河川に係る活動について

各団体の活動成果等をWebGIS上で共有できるようになった場合、成果を登録したいですか？	○ 登録したい ○ 登録したくない
各団体の活動成果等をWebGIS上で共有できるようになった場合、登録された成果を閲覧したいですか？	○ 閲覧したい ○ 閲覧したくない
河川に係る活動を行う上で抱えている課題や問題点はありますか？	
活動を行う上で河川環境に関してどのような情報が不足していますか？	
行政（河川管理者）の情報をどのような手段で入手していますか？	
行政（河川管理者）のインターネットを通じた情報提供の内容に関する課題や問題点、要望はありますか？	

6.その他

このシステムを公開するにあたって、配慮すべきことがあれば記入ください	

確認画面へ　リセット

※ 当サイトで入手した参加申込みによる個人情報は、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十八号）およびその関連規定に則り適切に管理します。情報は「河川環境情報共有システム」のモニターの公募に必要な範囲内で利用させていただき、他の目的で利用することはありません。また、第三者に提供することもありません。

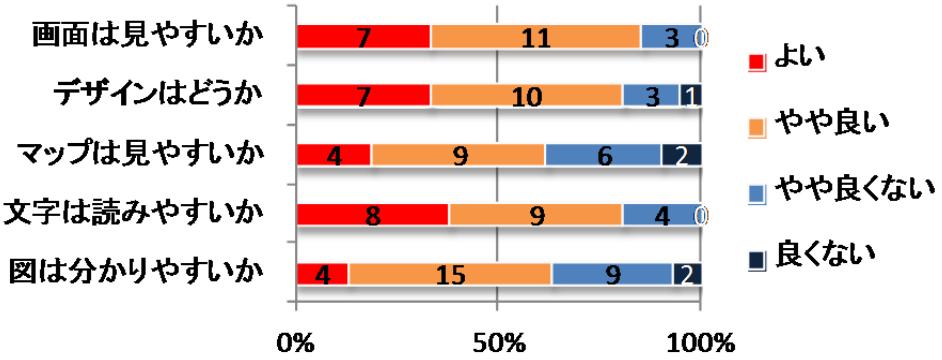
アンケート調査票（２）

2）アンケート結果

質問１．回答者情報

（回答略）

質問２．表現について

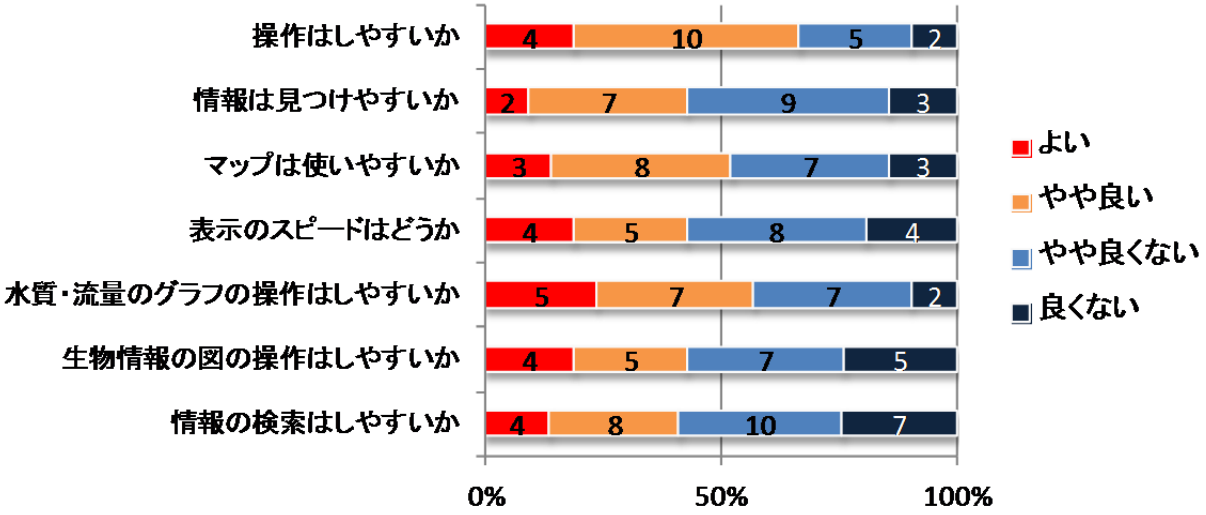


【ご意見】

- ごちゃごちゃしていなく、すっきりしていてわかりやすいと思う。ただ、わくわくするような魅力は感じられない。
- 総括的に見てよいと思う
- 全体的に見やすい。
- 感覚的に操作方法がわかり、情報も整理されていると思う
- とても見やすいし、見たい情報のアイコンもわかりやすくてよい。
- もう少し使いやすい、見やすい、分かりやすく、スッキリしたものになってくれたらと思う
- 文字がやや小さく、読みにくい
- 文字については、「白」と「灰」の色について、高齢者などに視認が困難ではないか懸念される。
- もう少しやわらかい感じが良い
- 関連情報を少し整理できないか。例えば、サブタイトルで国、都道府県、研究機関、市民団体など。
- リンクするページがブログであったり、いろいろなレベルがあるので一覧の中でなんらかの選別ができる工夫があるとよい
- 全体的なデザインはわかりやすくて見やすい印象を受けた。しかし、マップ上にアイコンが並ぶとごちゃごちゃした感じがしてストレスを感じる。
- やむを得ない部分も多いかとは思うが、マークなどの図に見づらさを感じた
- マップは地元に精通している方は良いと思うが、土地勘のない者にとっては分かりにくい
- 地図は、現在の地形図以外にも白図や管内図などに切り替えできるとなお良いと思われる。
- 地図下の地域タブは上にある方がよい。説明の文字はもう少し大きい方がよい。
- マップ上のマークに重なりが多くて検索しづらい。生物のマークがわかりにくい
- WebGIS：ベース地図の地図が見にくい。行政区画がないので、中流、上流の位置を探しにくい。地図上をクリックしても表示される位置が同じ、クリックする場所を中心として表示できるようにする。せめて、河川名をクリックしたらその流域が表示されるようにすべき。中国地方のインデックスが有り、そこをクリックすると中国地方に行くがそのときにはインデックスは各県が表示されるようにすべき、その次は河川名。
- WebGIS は分かりやすいと思うが、重い
- 情報を掲載している河川名が無いため、本川や支川がわからない。また、流向を表示していただきたい。

- シンプルなデザインや GoogleMap で分かりやすいと思う。IE6 のせいか、表示項目が下にずれたりする。図も関連情報と観測情報が似ていて同時に表示すると迷う。関連情報のところは、文字が多いので、各団体のシンボルマークとか活動イメージが分かるサムネイルとかがあると、親しみやすくなるかも。
- ①単純な構成なので、見易い面もあるが、面白みがない。キャラクターなども考慮しては。②トップ画面の写真が暗い。もっと明るく、きれいな写真を。③トップ画面の全体タイトルのすぐ下に「川の環境情報サイトとは」の前段程度のコメントを挿入することによりこのホームページの趣旨がすぐわかるようにしたい。④「川の環境情報サイトとは」の欄は、「川の環境情報サイトの概要と特徴」とダブリで不要。
- 生物情報ページで、エリアからの検索のみとなっているようだが、動植物ごとの検索ができればより使いやすいかと思う　（※補足：河川環境データベースには「生物種で検索」機能がある）
- 河川毎の地点別の水温情報や水量情報が欲しい。地方の河川の情報が少ない。しかし、可能性は大きいものがある。拡充してほしい。生物情報等は、まだまだ乏しい。生物情報など情報の拡充については地方でも応援したい。
- 定期採水地点の水質グラフの表記が●月１日となっているが、調査実施日は１日とは限らないため、●だけの方がよい。

質問３．操作について

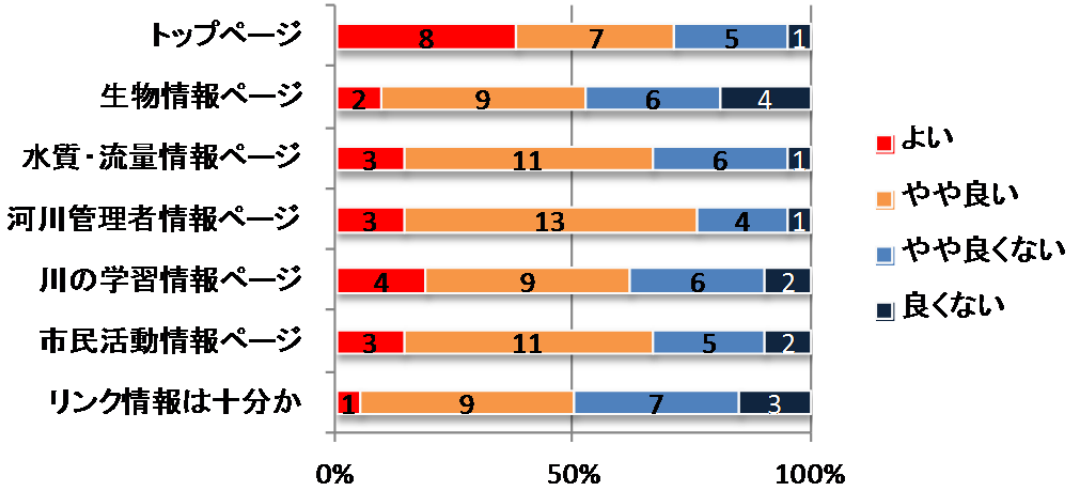


【ご意見】

- ひとつのマップから動植物・水量・活動団体の表示ができるのは大変見やすい
- 非常に操作しやすいと思った。右の表示項目がもう少し大きいと目に入りやすく、より操作しやすいかもしれない。
- マップも操作しやすく、起動にもそれほど時間がかからず操作性もよい。
- WebGIS の操作も比較的スムーズにできた。
- マップをクリックすると、縦長の情報ウインドウだと毎回表示が動きすぎて、次のマップ情報を見に行きにくくめんどくさい
- データがある年の範囲が明確になっていない。最後までいってデータが無いことがわかる。マップ上のマークに重なりが多くて検索しづらい。
- リンク先の情報提示が重すぎる。階層が多すぎて途中で検索をやめたくなる。

- 生物情報は情報が多すぎるためか、動きも鈍く、それぞれのコンテンツ（魚類や鳥類、昆虫など）が重なりすぎていて見にくい。工夫して重なりを少なくするか、別の方法で見やすくできないか？
- データベースに行った時の動きが非常に不安定。
- 生物情報の選択で最初からすべてにチェックがはいっていると表示がとてもおそくなり、アイコンも重なって見づらい。生物情報は、アイコンをクリックするとその生物がでてくるのかとちょっとわくわくしてしまった。
- 河川水辺の国勢調査の操作がしづらい。
- 【生物情報】アイコンはたくさんあるが、河川環境データベースにリンク後データ取得ができない。アイコン数、河川によって情報量の差が激しい。
- データのないところが多いせいか、使いづらさを感じた。
- コンテンツの説明があるとよい。
- 当方のパソコンの性能が悪いため、動きがすごくにぶい。パソコンを買い換えないと充分に使いきれない。
- 【水質・流量情報】１年間の表示では使えない。過去数年間の情報が入手できるようにするか、その情報サイトにリンクするようにする。グラフではなく数値情報を取得できるようにすべき（水質）水温、BOD、COD 以外の項目は調査していないのか？
- グラフ等も分かりやすい。
- （流量）開示情報の調査年が古い。リアルタイムが望ましいが、どのくらいの頻度での更新が可能か？
- 【河川管理者情報】「行政情報」と表記されているのであれば、河川管理者以外の行政機関もあっても良いのでは？
- 【川の学習情報】川の学習拠点が表示されるようになっているが、定義を明確にする必要がある。上流、中流域には市町村が設けている環境学習のできる施設があるのに情報が無い。
- 【市民活動情報】活動団体のトップページにリンクするのではなく、当該情報に直接リンクするとよい。
- 単純な構成の割には使いにくい。全体の体系がホームページの寄せ集め（リンク集）のようになっており、統一的な体系化した見せ方になっていない。リンク集もよいが、もう少し、５つのテーマ（ジャンル）に沿って整理した情報がほしい。
- 情報で新旧が混在しているので見つけづらい
- まだまだ情報が少なく使いにくいが、情報の拡充で利用しやすくなると思う。
- 全体として検索しやすいが、地図の切り替えにやや時間がかかることがあるのと、前のウインドウを残しておきたくてもマークを押すと勝手にウインドウが変わってしまうことがあり、ストレスを感じることがあった。
- 表示のスピードが遅く、非常にストレスを感じる。また、情報をプロットしている点がずれている等、不具合がある。箇所が近接している場合、アイコンが重なっているため、クリックがし難い
- ローデイング時間が長すぎる。セキュリテイレベルによっては、起動できないことがある。

質問４．コンテンツについて



【ご意見】

- コンテンツの構成は基本的に良いと思われる
- 項目としては、良くまとまっている
- 内容・構成については問題はないと考える（デザインは良好）。情報についても思いつく限りにおいては十分であると考える。
- わかりやすい説明がされていると思う
- 単なる河川管理データの資料倉庫のような中身である。川周辺の面白さ、楽しさ、人々がもっと川に寄り添っていくようなコンテンツはほとんど意識されていないように見受けられる。
- マップ上にもう少し引っ掛かりのある情報を表示したほうがいいのではないか
- 各コンテンツはどれぐらいの頻度で更新されるのか？
- リンクの情報について、「やや良い」としたのは、今後、全国のデータ公開となった場合、情報量が多くなりすぎて探したり見たりすることが大変になりそうな気もしている。しかし、情報の集約してあるサイトはないのでとても期待している。
- 今後、情報が増えた場合の操作性はどうか
- 生物と水質・流量については、まだ使いこなせていないがかなり満足がいく内容。それ以外は今後増えていくものと理解している。
- 今後、データを蓄積することで経年的な変化を見ることができれば更に良くなると感じた
- 今回のページは、見本と思うのでそれぞれの情報はこれから充実されることと期待する
- 情報量が少ない。使ってみたい情報が無い。
- 掲載情報が少ないせいか、あまり良く感じなかった
- 河川管理者情報ページは、国土交通省の HP のトップページにリンクなので、開いて環境部分を自分で検索しなくてはいけないのが少々不便。川の学習情報ページは、地図を拡大すると、アイコンが消えてしまってわかりづらい。市民活動情報は、県別もしくは、流域別だとよい。
- 市民活動情報では、タイムリーなイベント情報が重要だと考える。川の学習情報では、ホームページを添付するだけでなく、どの世代を対象とするのかを明確にしてのせるべきである。
- トップページに地図があり、各ページにも地図があるのはどうなのか
- ①「生物情報」、「水質・流量情報」、「川の学校情報」は、単にホームページを紹介するだけでなく、上記の３つのテーマ（ジャンル）ごとに各団体のホームページの関連する部分に絞ってリンクするようにきめ細かく設定するとテーマに沿ったコンテンツの検索が容易になる。現状では、紹介されているホームページの全てを見ないとテーマに沿った情報を確認できず、非常に使いにくい。②各団体の名称の次にある紹介コメントもテーマに沿った内容部分のみのコメントでよい。③「河川管

理者情報」、「市民活動情報」は、各団体等のホームページ全体・生物、水質、学習、市民活動など各ページの情報量はそれなりにあるようだが、寄せ集めだけで整理されないと見づらい。
- 市民活動情報の内容（紹介の情報）をもっと詳しく書いて欲しい
- 全国の各地の情報サイトへのアクセスがまだ不十分（※補足：今回の試験運用は中国地方が対象）
- 環境情報、河川情報それも直轄が解る名称にしては？項目を区切ることはしない方が良いと感じた。使う側が、何が欲しいかの視点で整理すべきではないかと感じた。

【今後、追加・充実してほしいコンテンツや機能】
- 現状では十分だと思う。もっと利用をしていくうちに意見を述べさせていただきたい。
- 使っていくうちに出てくるかと思うので、その時はご対応お願いしたい。
- 当面、運用しユーザから意見を頂きながら順次改善を図ることで問題ないと感じた
- 他省庁を含めた既存情報の追加
- マップ内の情報は 2004 年、2007 年のものもあるようで非常に見づらかった。2012 年の情報だけ／2010～の情報／全情報など、情報掲載年でスクリーニングできるとよい。県別、または、流域別の情報整理になるか分からないが、今後情報が増える中で何らかの整理が必要。
- 生物の情報についてどこに分布しているかどうか検索しにくい
- 生物と水質・流量については、さらに充実すればよいと思う
- 地域と行政が協働で実施している水生生物調査結果や五感で感じる水質調査結果など加えてはどうか
- 水文データを情報として取り込むのは良いと思うが、出来れば雨量観測所のデータなども入れてもらえると良い
- 川の学習情報と市民活動情報については、GIS 上のアイコンをクリックした際に、名称だけではなく、簡単な内容も表示できれば、情報の検索がしやすいと思う。
- 市民活動団体の充実、川の学習拠点で何が出来るかが分かりやすく
- 情報発信の場としてのアピールポイント（新着情報や特集記事）があれば、良いと思った。
- イベントカレンダーのような機能があれば、各種イベントの PR に役立つのではないかと思う。
- 川にまつわる民話、歴史、史跡等についても今後コンテンツとして追加してほしい。
- 川の周辺の歴史や民俗、食、景観ポイントなどは情報対象にはしていないのか
- 県河川の情報
- 漁協関係データのコンテンツ
- 各団体の調査内容、情報の共有ができるしくみが必要。WebGIS を共有する応援ツールの開発。
- 全国の企業、団体、行政等の河川環境保護活動に対する支援・補助の情報をタイムリーに提供してほしい
- 多自然河川づくりの位置情報が欲しい。魚道整備など生態に配慮した河川づくりの位置情報が欲しい。河川敷内部の植生分布の調査があれば載せて欲しい。魚類や両生類の情報が河川ごとに欲しい。

質問５．河川に係る活動について

【各団体の活動成果等を WebGIS 上で共有できるようになった場合、成果を登録したいか】

評　価	合計
登録したい	20
登録したくない	3
未回答	8
合　計	31

【各団体の活動成果等を WebGIS 上で共有できるようになった場合、登録された成果を閲覧したいか】

評　価	合計
閲覧したい	22
閲覧したくない	1
未回答	8
合　計	31

【河川に係る活動を行う上で抱えている課題や問題点】

- 川づくりに向けたグランドコンセプトが共有化されにくい。流域各地によって認識がばらばら。広域連携が難しい。
- 活動地点や拠点の近くだけでなく、流域全体についての情報を知りたい
- 行政や企業などに必要以上のことは積極的に動いてもらえない
- 河川管理者との交流が少なくなっている
- 一般の人に河川について興味や関心を持ってもらうためにどのような広報やイベントを行っていくべきかいつも悩んでいる。
- 運営資金調達と参加者募集。特に参加者の募集については、様々な広報を行うが、単独での広報は難しい。
- 参加者集め・安全対策・地元の人との協同。
- 川活動には、ライフジャケットや調査器機等の道具を利用することが多いので、保管場所が川の近くにあると良い。
- 河川敷の植生管理。まず人手が足りない。
- ①資金の確保。②会員の確保。③人材の育成。
- 新たな仲間を常に増やしていかないと、活動年数が長くなるほど、高齢化が進んできている。
- 一部漁業者との折り合いがつかない。
- 自分達の活動状況を地域に発信する手段が生活情報誌に時々掲載してもらう程度なので、目的としての啓発の役目が果たせていない。

【活動を行う上で河川環境に関してどのような情報が不足しているか】

- 環境情報だけでなく、歴史や民俗など人文的情報も興味があり、環境管理、水文的分野ばかりではあまり魅力がない。
- 具体的に何を行いたいからこの情報を見て、その結果どのようなアクションを取るか、の流れ
- 上・中・下流そして流域全体のゾーニングでの河川環境の情報を見たい
- 市民による水質調査の結果を集計している。その中で市民が行政の水質結果を十分に活用していないといった事実が浮かび上がってきた。情報が不足しているというよりは、情報発信の方法や検索、閲覧方法を工夫していきたい。
- 河川工事の計画内容やタイムスケジュール
- 動植物の詳細なデータ（専門機関の調査データ等）
- 様々な情報発信しているということの情報が不足
- 不足しているものはない。あるとうれしいのは、河川の生態図鑑
- 生物の生態、生活史に関する研究情報
- 詳細な水質
- 現在の水質の変化がわからない
- 河川環境の変化を追う際に、ごく最近のデータしか入手できないことがある。以前のデータがある

とよい。
- 国土交通省の出したデータだけでなくそれぞれの県が出している情報も見られるようにしてほしい
- 環境保護活動団体に対する支援・補助金の情報（県などは、協働活動に対する全般的な情報提供活動をしっかりしている）
- 基本計画の具体的な実施計画や年度中に行われる予定等を随時公表してほしい

【行政（河川管理者）の情報をどのような手段で入手しているか】
- ネットでひたすら検索し、どうしても見つからなければ直接電話をする
- 河川管理者のホームページから情報を入手、もしくは河川環境課に直接問い合わせる
- 河川事務所等から直接連絡をもらったり、他の市民からの情報提供により入手している
- 行政ホームページや関連団体のメールマガジン
- 直接通信（親書等）、口コミ
- 部署ではなく、きちんと説明や資料の提供をしてくれる「人」を訪ねて協力をお願いしている。組織としては、課の名前と実際にやってる業務が違うところが多く、どこに行ってよいかが分からない。
- 県・国・団体等のホームページ及びこれらが主催する会合
- 河川事務所と常に連携（1 ヶ月 1 回程度情報交換の場がある）しており、その時に情報（主に雨量や水質のデータ）をいただいている

【行政（河川管理者）のインターネットを通じた情報提供の内容に関する課題や問題点、要望】
- 河川管理者が運営する情報提供システムは、行政的すぎて面白くないものが多く、公的機関としての制約が多いのだと思う。市民感覚からすれば、近寄りがたいものがある。住民が親しみやすい楽しい HP を官民連携で運営できる手法はないものか検討してほしい。
- インターネットによる発信はだれでも見ることができよいが、新規情報が発信されているかその都度チェックをしなくてはならない。また、見たい情報までなかなかたどり着けないことがよくある。よって、このような統括されたサイトがあることはありがたい。
- １級河川は国の HP、２級河川は県の HP を見なくてはいけないのでまとまっているとうれしい。
- インターネットに頼り過ぎないでほしい。HP に搭載したので十分情報発信しているという意識は危険。PC の普及は目覚ましいと思うが、日常的に操作できる人はいかがなものかと感じている。内容はこれからに期待。
- （市民団体の）事務局は、多忙な日々を送っている中で、多くのホームページ情報を頻繁に検索することは難しい。できれば、新着情報などをテーマ分けにより選択できるメルマガで案内してもらうと興味のものだけにアクセスして見られるので、活用が増える。
- 担当者毎に、スピード感や情報掲載意欲の個人差が大きい。特に新着情報やプレスリリース以外の箇所である、常設のコンテンツは古い情報のままのことが多い。
- 行政中心の情報だけでなく、民間の情報も充実させてワンストップサービスが展開できるようにしてもらいたい。行政と民間がタッグを組んで活動を進めていくシステムを構築してもらいたい。
- 可能なかぎり、測定している水質や流量のデータをエクセル等で全て公開してほしい。
- 生物・水質などのデータについては、より積極的に情報公開・提供を進めていただきたい。陸上でのデータの多くは、気象庁などで過去にさかのぼって詳細に確認することができるが、それに比べると河川情報は情報提供が不十分と感じることがある。今後に期待する。
- サイトに紹介されるデータの掲載時期が遅い（整備計画関係）。公開の意見交換会の議事録を公開していない。どんな意見が出たのかを調べようがない。データの作り方がまずく（スキャンデータで PDF を作成しているので）重い。
- 単純な「情報掲載」と実際に情報公開機関が対象情報に対して何らかの積極的意義を見いだして行われる「情報公開」が現時点では一律に掲載される構成であるように見受けられるが、例えば市民活動情報など各機関が意図する情報の公開が反映されるような措置を手配することも今後の配慮と

して必要になると考えられる。

質問６．このシステムを公開するにあたって、配慮すべきことがあれば記入下さい。

- 希少な動植物などの詳しい生息場所などを不特定多数に情報公開することは少し怖い気もする。乱獲・いたずらなどを考慮する必要があると思う。（※補足：河川環境データベースでは重要種の確認位置を非公開としている）
- サイトの存在を広く知ってもらうための広報活動
- 新しい情報や更新はどのように予定されているか？市民活動団体へ粘り強く広報。更新情報や新規情報の扱いなど
- 対象年齢はどれくらいなのか知りたい
- システムを公開する目的を明確にする必要がある。つくるのは目的ではない。誰にどのように活用してもらうかを明確にして、必要な情報を掲載し、かつ負担をかけずに利用者の情報を提供して頂けるようにしないと誰も見なくなる。
- PC が、windows　vista、Internet Explorer 7 の環境で見たところ、表示等に時間がかかり、ストレスを感じた。まだまだ旧 PC を利用しているユーザも多くいることを配慮いただけると良い。
- 使われるサイトにするためには、やはり軽さが一番だと思う。
- Internet Explorer 6 であったので、画面がずれるなど、不具合がないようにしてほしい。大縮尺で表示すると、アイコンを読み込みに時間を要するので、もう少し表示時間が短くなるようにしてほしい。
- 公開後に、継続して関連サイトのリンク切れの確認や情報が常に最新のものになっているか、定期的に確認を行うことが必要。

参考資料４　市民との河川環境に関する情報交換・共有と連携・協働のポイント（案）

市民との河川環境に関する情報交換・共有と連携・協働のポイント(案)

目　　次

１．はじめに ･･･ １

２．市民との河川環境に関する情報交換・共有のポイント ･････････････････ ２
（１）基本は顔が見えるコミュニケーション ･････････････････････････ ２
（２）市民にニーズのある情報とは ･････････････････････････････････ ３
（３）河川事業や維持管理作業の情報交換 ･･････････････････････････ ５
（４）様々な手段の使い分けと組み合わせ ･･････････････････････････ ６
（５）インターネットの活用 ･･････････････････････････････････････ ８
（６）分かりやすい情報提供 ･･････････････････････････････････････ １２
（７）情報交換のタイミング ･･････････････････････････････････････ １３
（８）市民との情報の共有と活用 ･･････････････････････････････････ １６

３．市民との連携・協働による河川環境管理の事例 ･･････････････････････ １７
（１）市民との連携・協働の考え方 ･････････････････････････････････ １７
（２）河川の環境・防災施設や河川公園等の運営の事例 ･･････････････ １８
（３）除草・伐木等の河川敷管理の事例 ･･････････････････････････ ２３
（４）専門性の高い河川環境管理の事例 ･･････････････････････････ ２６
（５）流域連携による河川環境管理の事例 ･･････････････････････････ ３０

1．はじめに

河川環境の保全・向上に向けて、河川管理者と市民との連携・協働による様々な取組が全国各地で展開されています。その中では、河川環境に関する様々な情報が、様々な手段を活用して発信され、情報交換を行いながら、河川環境の保全・管理に反映されています。

しかしながら、河川環境の情報交換・共有の現場では、情報が一方的である、市民のニーズに対応していない、適切な手段が使われていない、分かりにくいなどの問題もみられます。このような問題を、様々な配慮・工夫で改善し、市民との情報交換・共有をより良いものとしていくことが求められます。そして、市民との共通認識にたった上で、連携・協働によって、より良い河川環境の保全・管理を進めていくことが求められます。

このような背景を受け、この「市民との河川環境の情報交換・共有と連携・協働について」は、国土交通省国土政策技術総合研究所環境部河川環境研究室で行ってきた関連調査（※）をもとに、河川管理の担当者を対象として、市民と連携・協働した河川環境の保全・管理に向けた市民との情報交換と共有を行う際の配慮・工夫事項について示すとともに、市民との連携・協働による河川環境管理の事例について整理したものです。

なお、この「市民との河川環境の情報交換・共有と連携・協働について」で示す配慮・工夫事項は、あくまでも河川管理の担当者が実務を行う際の参考として示しているものであり、可能な事項から実務に取り入れてもらうことを想定しています。

※関連調査

・「住民と行政が連携した河川管理に関する調査検討業務報告書」（平成 21 年度）

・「河川環境に関わる効果的な情報提供に関する調査業務報告書」（平成 22 年度）

・「インターネットを活用した河川環境に関わる情報共有ツール検討業務報告書」（平成 23 年度）

・「河川環境情報共有システム運用版作成業務報告書」（平成 24 年度）

２．市民との河川環境に関する情報交換・共有のポイント

本章では、河川管理者が市民と河川環境に関する情報交換・共有を行う際のポイントについて、枠囲いで簡潔に示し、その解説や事例を記載します。

（１）基本は顔が見えるコミュニケーション

・市民団体や市民との情報交換の基本は、人と人、フェイストゥフェイスの関係です。
・情報交換の前に、市民との懇談の機会を設ける、市民団体のキーパーソンやコーディネーターと交流しておくなどが有益です。

【解説】

河川環境の情報を市民団体や市民と情報交換する手段は、Web、メール、懇談・会議など様々あります。しかし、市民団体や市民との情報交換の基本は、人と人、フェイストゥフェイスの関係が基本です。

近年、インターネットが普及したため、その利便性を活用することが多くなっています。そのため、河川管理者と市民との直接的な情報交換や交流が少なくなり、河川管理者から一方的な情報発信になっていると感じる市民は少なくありません。インターネットでの情報発信では、発信する側の顔が見えないため、その情報の背景にある意図が市民団体に伝わらないことがあります。

実際、平成 22 年度に行った河川環境情報に関する市民団体との意見交換会でも、全国各地の市民団体関係者からこのような指摘が多々ありました。会ったこともない相手とは、市民も心理的に情報交換がしづらく、市民の情報も集まりにくくなるのです。

このため、インターネット等での情報発信の他に、市民との懇談の機会などを設ける、市民団体のキーパーソンや、情報の受発信を担っているコーディネーターなどと交流を行っておくことなどが有益です。そうすることで、インターネットでの情報交換もより活発にでき、情報共有も深まります。

実際、市民団体は河川管理者から多くの河川環境に関する情報を入手しています（図-1）。そして、その情報を受信する手段で最も多いのは、「懇談・会議」（河川管理者と市民が行う懇談会や会議など）なのです（図-2）。

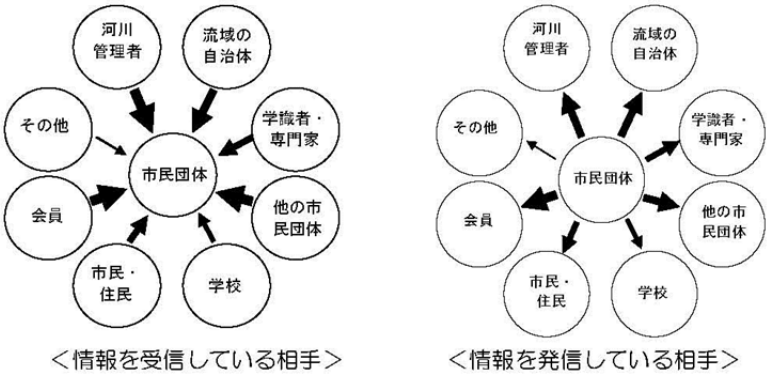


図-1　市民団体の情報の受発信の状況※

※河川環境の保全に取り組む市民団体計 51 団体に行ったアンケート調査の分析結果より。図中の矢線の太さは、各々の相手から情報を受信／発信している程度を表す。出典：「河川環境に関わる効果的な情報提供に関する調査業務報告書」（平成 22 年度）

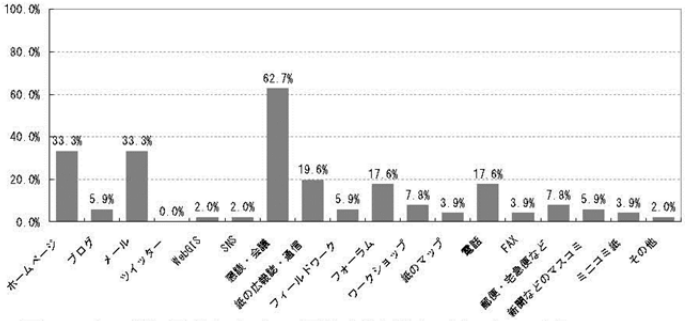


図-2　河川管理者から市民団体が情報を受信する手段※

※河川環境の保全に取り組む市民団体 51 団体に行ったアンケート調査結果より。出典：「河川環境に関わる効果的な情報提供に関する調査業務報告書」（平成 22 年度）

（2）市民にニーズがある情報とは

・河川管理者からの情報発信は、河川行政として伝達したい、発信したい情報が多くを占めており、市民が求める情報ニーズに対応した情報が提供できていません。
・市民が求めている情報を把握しておくことが求められます。

【解説】

河川管理者からの情報発信は、河川行政として伝達したい、発信したい情報に傾倒しているきらいがあります。そのため、必ずしも市民の情報ニーズに対応できていない可能性があります。

河川管理者の Web サイトで発信されている情報として多いのは、「事業内容」、「利用・イベント」などです（図-3）。このうち、「事業内容」の中身をみると、河川整備計画などの河川事業の方針や事業の概要などです。一方、市民団体が河川管理者から入手している情報は多様ですが、「河川改修」や「維持管理」に関するものが多く、地先の河川事業や草刈りなどの維持管理の情報を入手しています（図-4）。河川管理者の Web サイトでも「河川改修」や「維持管理」の掲載はあるものの、河川改修や維持管理の概要紹介にとどまっています、

市民団体は、河川管理者に「河川改修」、「維持管理」、といった地先の河川事業や維持管理作業に関する情報を求め、入手に努めているのに対し、河川管理者の Web サイトではこのような情報発信が多くはなく、あっても内容は簡単なものです。市民団体の情報ニーズを踏まえた情報提供が肝要です（地先の河川事業や維持管理作業に関する情報提供の方法は次項で解説します）。

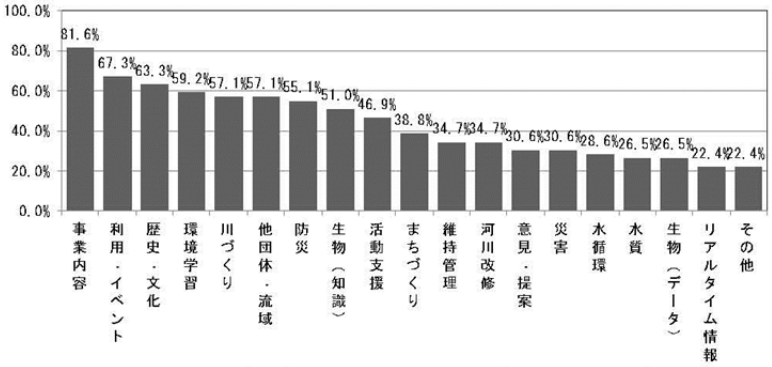


図-3　河川管理者の Web サイトで発信されている情報※

※全国の河川環境に関する情報提供の事例を調査した結果より、河川管理者の Web サイトで提供されている情報の項目を集計。出典：「河川環境に関わる効果的な情報提供に関する調査業務報告書」（平成 22 年度）

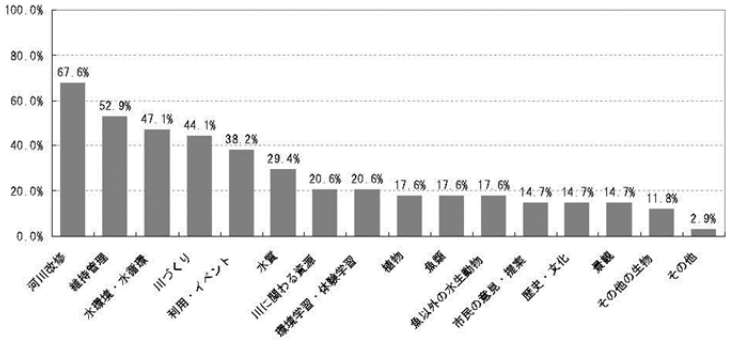


図-4　市民団体が河川管理者から入手している情報

※河川環境の保全に取り組む市民団体 51 団体に行ったアンケート調査の結果より。出典：「河川環境に関わる効果的な情報提供に関する調査業務報告書」（平成 22 年度）

また、市民の中にも河川環境の情報に様々な関心があることにも留意が必要です。先の図-4 でも、「河川改修」や「維持管理」に次いで多いのは、「水環境・水循環」、「川づくり」、「利用・イベント」など多様です。

市民の属性別にその関心とその情報ニーズの例を表-1 に整理しました。市民団体の運営メンバーや会員は、河川管理の動向や、保全活動に関係する様々な河川環境の情報を求めていますが、特定の目的で河川環境を利用している市民は、その関心に応じて求めている情報も異なります。

そのため、市民団体や市民がどのような情報を求めているのかを把握しておく必要があります。

表-1　河川環境の情報に関心がある市民と情報ニーズの例

分類	概要	河川環境への関心の例	情報ニーズの例
市民団体の運営メンバー	河川環境の保全等の活動を行う組織の運営メンバーで、河川環境の保全に対する目標や目的を有し、保全活動の企画、実施、運営等を行っている。	保全対象とする川の河川管理の動向や、保全活動に関係する河川環境の情報に幅広い関心を持っている。河川管理者との情報交換を求めていることが多い。	◆河川事業や環境の全般 ◆保全活動に関係する生物、水環境、利用等の情報 ◆地先の河川事業や維持管理作業の内容　など
市民団体の会員	河川環境の保全等の活動を行う組織の会員で、団体の目標や目的に賛同し、活動に参加している。	保全対象とする川の河川管理の動向や、河川環境の情報に関心を持っている。	◆保全活動に関係する生物、水環境、利用等の情報 ◆地先の河川事業や維持管理作業の内容　など
学校・教育関係者	小・中学校、高等学校の教師や児童、保護者などで、川を利用した環境学習（地域学習）や体験学習を行っている。	学習の素材、フィールドとして活用可能な河川環境の情報に関心を持っている。	◆学習活動に関係する生物、水環境、利用等の情報 ◆学習活動の支援に関する情報　など
自然環境に関心がある市民	環境保全等に意識が高く、自然観察を行ったり、環境保全の活動への参加意欲がある。	生物の生息・生育や、水環境などの自然環境に対して関心を持っていることが多い。	◆関心がある生物、水環境等の情報　など
スポーツ・レクリエーション利用者	特定のスポーツや、レクリエーションを行うために河川環境を利用している。	利用する特定の河川環境に対して関心を有している。	◆利用施設に関する情報　など

近隣の住民	河川の近隣に居住する住民で、日常的に河川環境を利用している人も多い。	近隣の河川環境に関心がある。また、近隣での工事や作業などにも関心がある。	◆近隣の生物、水環境、利用等の情報 ◆近隣の河川事業や維持管理作業の内容　など
その他	一般市民など	河川環境の他にも、川の歴史・文化、レクリエーション利用など、様々な関心が考えられる。	◆川の歴史・文化の情報 ◆利用施設の情報　など

（３）河川事業や維持管理作業の情報交換

・河川環境の保全活動を行う市民団体は、改修工事などの地先の河川事業や、草刈りなどの維持管理作業に関する情報を求めています。
・工事や作業に関する情報をタイムリーに、市民に分かりやすく提供し、意見交換をすることが必要です。

【解説】

河川整備計画が策定され、河川事業の内容について合意形成できていたとしても、その川でいつ、どこで、どのような工事や作業が行われるのかという情報は、保全活動を行っている市民団体に必要不可欠です。そのような情報が伝達されずに工事や作業が始まり、市民から苦情や反対などの声があがった事例は少なくありません。このような事態になれば、日常的な情報交換・共有によって築かれてきた信頼が損なわれてしまうことにもなりかねません。

平成 22 年度に市民団体と行った意見交換会でも、「河川改修の工事や草刈りなどの維持管理作業の情報提供が欲しい」という声が多数ありました。その背景には、市民が保全活動を行っているエリアに、知らせもなく河川改修の工事や草刈りの作業などが始まり、どのような内容なのかも分からないので、河川環境への影響を危惧するとともに、保全活動にも影響したというのです。また、「河川整備計画で位置づけられている事業の予定やその進捗がよく分からないので、知らせて欲しい」という声もありました。

実際、市民団体に行ったアンケートにおいても、河川管理者からの情報として不足しているものは、「河川改修」、「維持管理」が多くあがっており（図-5）、先述した通り、多くの団体はこのような情報を河川管理者との懇談や会議の場で収集しています。

また、河川管理者の Web サイトにおいても、このような河川事業や維持管理作業に関する地先の情報は掲載されていることが少なく、あっても箇所と概要などの記載にとどまっていることが少なくありません。その工法や施工方法などの記載はほとんど見られません。中には、工事発注情報として、工事の仕様書や図面などが公開されていることもありますが、このようなページは市民向けではありません。河川改修の目的、環境への配慮・工夫、工法や施工方法の要点の解説、対象区域、工事の期間など、市民に分かりやすく提供することが必要です。

このようなことから、近隣住民への説明会だけではなく、保全活動を行う市民団体と定期的な懇談や会議などで情報交換を図ることが必要です。工事や作業に関する情報をタイムリーに、懇談・会議、Web サイト、紙媒体などの方法を組み合わせて、市民に分かりやすく提供することが求められます（様々な手段の使いわけと組み合わせについては（４）で詳述）。そして、必要に応じて、その内容について意見交換し、対話を行うことが求められます。

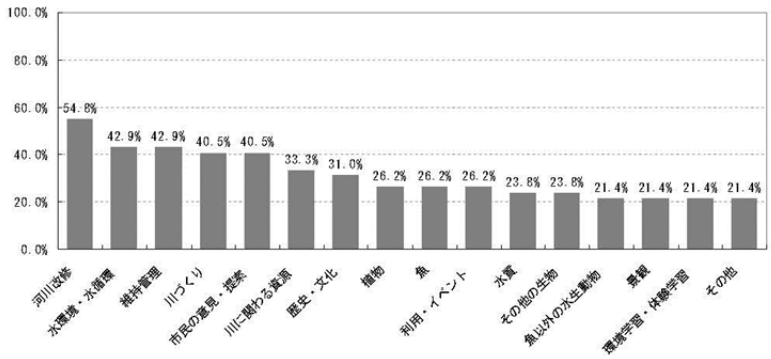


図-5　市民団体が不足しているとする情報

※河川環境の保全に取り組む市民団体計51 団体に行ったアンケート調査の結果より。出典：「河川環境に関わる効果的な情報提供に関する調査業務報告書」（平成22 年度）

（4）様々な手段の使い分けと組み合わせ

・情報交換の手段には各々特性があります。また、地域や年齢層によって情報受信の方法に違いがあります。
・インターネット、懇談・会議、紙媒体などの様々な情報交換の手段を使い分け、組み合わせて情報交換を行うことが必要です。

【解説】

河川環境に関する市民との情報交換の手段は様々ありますが、それぞれには特有の特性があります。それらを考慮して、先に示した市民の情報ニーズに対応することが求められます。

表-2　情報交換の手段の特性と活用例

手段	メリット	デメリット	活用例
Web サイト	◆高速に、安価に、不特定多数に情報を発信できる。 ◆文章、画像、音声、映像などが扱え、その表現性にも優れている。	◆インターネットにアクセスでき、操作ができる人への情報発信に限られる。 ◆必ずしも相手が更新情報を見ているとは限らない。	◆不特定多数に向けた河川事業や河川環境や利用などの様々な情報提供（地先の河川事業や維持管理作業の情報を含む）　など
電子メール	◆高速に、安価に、多数と日常的に情報・意見交換できる。 ◆文章に加え、画像やファイルの添付なども可能。	◆インターネットにアクセスでき、操作ができる人との情報交換に限られる。 ◆アドレスが分からない相手には発信できない。	◆河川事業や河川環境の課題等について、市民団体の運営者との情報・意見交換 ◆メールマガジン等を活用し、一定の関係者等への情報提供や意見交換　など
パンフレットやガイドブックなど	◆文章、画像などが扱える。 ◆デザインによって表現が工夫できる。 ◆インターネットを利用しない人にも情報提供ができる。	◆印刷、配布などの手間と費用がかかる。 ◆紙面の限りがある。 ◆一方向の情報発信になりがちである。	◆河川事業や河川環境、利用などの基本的な情報提供　など

紙媒体による広報紙、通信など	◆文章、画像などが扱える。 ◆インターネットを利用しない人にも情報提供ができる。	◆印刷、配布などの手間と費用がかかる。 ◆紙面スペースに限りがある。 ◆一方向の情報発信になりがちである。	◆河川環境や利用などについて、市民への定期的な情報提供 ◆地先の河川事業や維持管理作業の情報提供　など
懇談会、会議など	◆一定の参加者と顔を合わせた情報・意見交換ができる。意図が伝わりやすい。	◆参加者以外とは情報・意見交換ができない。	◆市民団体の運営者等と河川事業や河川環境の課題に関する情報・意見交換 ◆地先の河川事業や維持管理作業の情報提供　など
フォーラム、学習会など	◆比較的多くの参加者と顔を合わせた情報・意見交換ができる。	◆参加者以外とは情報・意見交換ができない。	◆河川環境、利用などの特定のテーマで、市民との情報・意見交換　など
住民説明会	◆一定の地域の住民への情報提供と意見交換ができる。	◆参加者以外には情報提供ができない。	◆近隣の住民へ、地先の河川事業や維持管理作業の情報提供　など

Web サイトは、高速に、安価に、不特定多数に情報を発信でき、文章、画像、音声、映像などが扱え、その表現性にも優れています。電子メールも相手のアドレスを共有すれば、双方向のコミュニケーションが高速、安価にでき、利便性が高いツールです。また、Web サイトでも工夫によって、情報のやりとりなどの双方向性も確保できます。ただ、これらは、情報の受け手側がインターネットにアクセスできる環境と操作ができることが前提です。また、広報紙や通信などの紙媒体は、紙面の中で様々な表現もできますが、印刷・配布などの手間と費用が必要です。懇談や会議などの手段は、相手の顔を見ながら情報・意見交換をすることができますが、参加者には限りがあります。情報交換する内容に応じて、これらの手段を使い分け、組み合わせることが必要です。

一方、情報の受け手側の地域や年齢層によっては、その方法を選ばないと情報が届かないことがあります。例えば、河川上流の山間地でもインターネット回線が普及するようになってきました、実際にインターネットを利用している人は多くはないという声があります。一方、下流域では、ほとんどの家庭でインターネットが使われるなど、情報を入手する方法に違いがあると考えられます。年齢層によって情報を入手する手段が異なるということもあります。高齢者にインターネットで情報を発信しても、届きにくいことが少なくありません。

このような中、市民団体は様々な手段の特性を活かし、情報交換を行っています。Web サイトやメールなどインターネットを利用した手段のほか、懇談・会議、紙媒体による広報紙、通信の他、電話、FAX なども使い分け、あるいは組み合わせて情報を受発信しています。河川管理者においても、インターネット、紙媒体、懇談・会議など、様々な手段を使い分け、組み合わせて情報を発信することが求められます。

（5）インターネットの活用

・インターネットの利便性を活かし、市民との河川環境の情報交換や共有に有効活用することが求められます。
・Web サイトでは、市民の情報ニーズを考慮して、市民からのアクセス性を高め、表現を工夫し、適度な更新を行うことなどが必要です。

【解説】

インターネット環境の普及によって、Web、メール、ソーシャルネットワークサービス（SNS）などを利用する市民が増えており、その利便性を活かして、市民との河川環境の情報交換・共有に有効活用することが求められます。

河川管理者の Web サイトは、市民への情報提供という面に関して、市民が求める情報が少なかったり、情報へのアクセスの容易さや表現の分かりやすさ等において差異が認められます。また、市民向けの情報を掲載しているにも関わらず、Web サイトの構成が複雑で分かりにくく、市民がアクセスしにくかったり、内容が専門的で分かりにくい、更新が滞っているなどの事例も散見されます。

市民に河川環境情報を提供するため、河川管理者の Web サイトについて、以下のような点をチェックすることが肝要です。

【チェックポイント】
① 市民が求めるコンテンツを掲載していますか？
② 市民が情報にアクセスがしやすいように工夫していますか？
③ 情報の表現を分かりやすく工夫していますか？
④ 情報を更新していますか？

①については、先述したように、保全活動をする市民団体、学習関係者、自然環境に関心がある市民、スポーツ・レクリェーション利用者など、様々な市民の情報ニーズを考慮してコンテンツを作成することが有効です（次ページの事例も参照）。この際、市民団体のキーパーソンや情報発信のコーディネーターに、情報のニーズや意見を聴取し、改善に役立てることも一計です。

②については、市民向けのテーマのメニューやページを設ける、市民向けの別サイトを設けるなどして、そのアクセス性を改善し、市民の関心に応じたページに誘うことが必要です（次ページの事例も参照）。また、③については（6）で後述していますが、写真や図などを活用し、分かりやすい解説を工夫する必要があります。さらに、④河川事業の動向や、地先の河川事業や維持管理作業の情報など、適切なタイミングでタイムリーに情報更新が求められます。

一定の市民に情報を発信する手段として、メール、メールマガジンなどを活用することも有効です。メールで案内し、Web サイトの情報にアクセスしてもらうことも効果的です。また、市民によっては、川で見られる生物や、川の状況変化などの日常的な情報を個人ブログで発信している例もあり、このような市民の発信情報をチェックすることも肝要です。

WebGIS（Web での地理情報システム）を活用して、河川環境に関する地理的な情報を発信したり、環境モニタリングに活用することも有効です。実際、荒川下流河川事務所の Web サイトのように、情報を WebGIS を活用して提供している事例もあります。

国土交通省国土政策技術総合研究所環境部河川環境研究室では、市民との河川環境情報の共有を図るためのポータルサイト「川の環境情報サイト」を開発しています（現在は中国地方のみの河川環境情報を登載）。このサイトでは、WebGIS を活用して、国土交通省の河川環境の情報を分かりやすく市民に提供することを指向しています。

【市民への情報提供を配慮・工夫した Web サイトの例】

◆大和川河川事務所 Web サイト

国土交通省大和川河川事務所の Web サイトでは、市民の関心事である「大和川の水環境」というコンテンツを提供して市民のアクセスを高めています。

「大和川について」というコンテンツを用意しており、その中の「大和川を知る・楽しむ」というコーナーでは、市民向けの様々な情報を提供しています。散策ガイドマップや子供向けのコンテンツもあります。

また、「大和川について」の中には、「大和川の治水と洪水の歴史」、「大和川での取り組み」などもあり、市民への防災情報の提供、河川事業の情報、水質改善のためのプロジェクトなどの進行中の取組の情報提供が行われています。

その他、大阪府域や奈良県域の支川情報へもリンクするように配慮されています。

http://www.kkr.mlit.go.jp/yamato

◆河水千年の夢 広瀬川ホームページ

仙台市の河川課広瀬川創生室が運営している「河水千年の夢 広瀬川ホームページ」は市民向けに作成されています。

その中では、市民の様々な情報ニーズに対応した「遊ぶ」、「風景」、「学ぶ」、「記憶」、「ボランティア」などのコンテンツが用意されています。

広瀬川の魅力や見所を紹介するためのマップや写真、動画、広瀬川に関する専門家の解説、子供向けのページ、河川環境に関するデータの解説などもあり、古い写真なども見ることができます。

さらには、地元の気象予報士の方の体験記事が紹介されている他、広瀬川で行われる行事やボランティア活動もカレンダーで紹介するなど、工夫されています。

http://www.hirosegawa-net.com/

◆淀川河川事務所 Web サイト

国土交通省淀川河川事務所の Web サイトでは、「淀川を楽しむ」、「安全に暮らす」、「淀川を知る」などの市民向けのコンテンツを用意するとともに、市民との連携・協働活動である「河川レンジャー」のサイトや、子供向けの「よどがわキッズLAND」というコンテンツも用意し、市民のアクセス性を高めています。

「淀川を楽しむ」の中では、河川公園の簡単なガイドを行いながら「淀川河川公園」のサイトへのアクセスを誘っています。また、バードウォッチングや植物などの分かりやすい解説も行いながら、より詳しい関連サイトへ誘導しています。

また、「淀川談話室」というコンテンツも用意しており、淀川に対する市民の意見が発信できるように工夫されています。

http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp

◆荒川下流河川事務所 Web サイト

国土交通省荒川下流河川事務所の Web サイトでは、対象者を一般とキッズ（子供）にサイトを切り替えることができます。

一般向けサイトの中では、「荒川を知る」、「荒川に行く」、「災害・防災」などの市民向けのコンテンツを用意して市民のアクセス性を高めています。「荒川に行く」の中では、河川敷の利用ルールを紹介する他、「荒川なんでもマップ」というコーナーでWebGISを活用して各種施設の紹介を行っています。

キッズ向けについては、一般と同様に「あらかわを知る」、「あらかわに行く」、「さいがい・ぼうさい」などのコンテンツが用意され、ふりがな付きで各情報を分かりやすく提供するよう工夫されています。

http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/

【河川環境情報の共有を図るためのポータルサイトー川の環境情報サイトー】

■概要

「川の環境情報サイト」は、河川環境に関わる様々な情報を、分かりやすい形で提供し、市民に利用していただくための「川のポータルサイト」です（現在は中国地方の情報のみを登載しています）。

本サイトでは、国土交通省が実施している河川環境の調査などから、生物や水質・流量に関する情報を提供しており、それらの情報を、マップ(WebGIS)を利用して見ることができます。また各地の河川管理者のサイトや、川の活動情報に関連するサイトも紹介しています。

■特徴

・５つのカテゴリーと画面上のマップ（WebGIS）を利用して見たい情報にアクセスできます。
・WebGIS の基図に GoogleMap と電子国土基本図の２つを採用し、地形図・航空写真それぞれ見ることができます。
・それぞれのサイト名をクリックすると関連サイトにジャンプ、「地図」ボタンを押すと位置情報にジャンプします。
・水文・水質データベース、河川環境データベース（河川水辺の国勢調査）などの国土交通省の調査結果をマップ（WebGIS）から検索することができます。
・サイト内の情報をフリーワード検索、絞り込み検索ができます。

■主なコンテンツ

◆地域ページ

該当する地域（中国地域）の流域ごとの河川環境の概要を紹介します。

◆生物情報ページ

国土交通省が実施している「河川水辺の国勢調査」の調査位置を WebGIS 上で表示、「河川環境データベース」にリンク。生物に関わるサイトも紹介しています。

◆流量・水質情報ページ

国土交通省の「水文水質データベース」のデータをもとに、グラフなどに加工して表示します。流量・水質に関わるサイトも紹介しています。

◆河川管理者情報ページ

河川管理者が発信しているサイトの紹介と、サイトへのリンクができます。

◆川の学習情報ページ

河川の環境活動などに役立つ施設情報や活動の事例を発信しているサイトの紹介と、サイトへのリンクができます。

◆市民活動情報ページ

河川環境に関わる市民団体等が発信しているサイトの紹介と、サイトへのリンクができます。

（6）分かりやすい情報提供

・河川環境に関するデータをそのまま発信するだけでは、市民にその意味や内容が伝わらないことが少なくありません。
・そのデータがどんなことを意味するのか、またどのような傾向にあるのかなどを工夫して解説することが求められます。

【解説】

河川環境に関する情報を発信する場合、生のデータや専門用語が多い内容をそのまま発信しても、市民にその意味や内容が伝わらないことが少なくありません。

河川管理者が実施している環境調査の結果は、そのデータが Web サイトなどに掲載されていますが、生のデータをそのまま掲載していることが多い状況です。また、河川環境の保全活動をしている市民団体がその存在を知らない、欲しい情報が見つけられず、十分に活かされていないことも少なくありません。

例えば、水質や流量の情報発信において、測定結果のデータのみが掲載されていることがあります。そのデータがどのようなことを意味するのか、またどのような傾向にあるのかなどを工夫して解説することが求められます。データをグラフなどに加工して、その傾向が読み取れるようにすることも有効です。信頼できる生のデータとともに、そのデータを分かりやすく加工して解説を添えて発信していくことが肝要です。

また、生物に関する情報発信では、生物の写真やイラストを添付し、生態や分布などを少々解説するだけでも市民の理解は違ってきます。さらには、その川の歴史や文化、風土などの情報もあわせて提供していくことも有益です。

◆大和川河川事務所「大和川の水環境」

国土交通省大和川河川事務所の Web サイトの「大和川の水環境」というコンテンツでは、大和川の水質が悪くなった原因について、その汚濁の原因や下水道の普及率などの関係をグラフで表示するとともに、簡潔な文章で分かりやすく解説しています。

http://www.kkr.mlit.go.jp/yamato

図-6（1）　分かりやすい情報提供の例

◆太田川河川事務所「太田川生物誌」

国土交通省太田川河川事務所の Web サイトの中にある「太田川生物誌」というコンテンツでは、太田川に生息・生育する主な動植物の生態について、写真と地図（分布）入りで図鑑のような形式で紹介しています。年間の生活サイクルも図で示しています。

http://www.kkr.mlit.go.jp/yamato

図-6（2）　分かりやすい情報提供の例

（7）情報交換のタイミング

・市民と情報交換する河川環境の情報は、その用途や内容などから、①基本的な情報、②課題解決に必要な情報、③状況変化やモニタリングに関する情報、④緊急に情報交換すべき情報などに分けることができます。
・その情報の用途や内容に応じて、適切なタイミングで、適した手段を活用して情報交換をしていく必要があります。

【解説】

河川環境に関する情報は多様です。水質、流量、生物などの情報、景観や歴史・文化の情報、利用やイベントの情報、地先の河川事業や維持管理の情報など、その内容や性格も様々です。

一方、河川環境の情報を必要としている市民においても、それらの用途や内容などから、必要とする情報は様々です。例えば、河川環境の保全活動を行うためには、その川の水質、流量、生物などがどのような特徴や傾向を有しているのかといった基本的な情報は、保全活動の基本として必要とされています。また、その川が抱えている特定の課題（水質汚濁、特定の生物の生息・生育、河川改修の影響など）を解決していくために必要となる特有の情報もあります。さらには、地先の河川事業や維持管理作業の状況、河川環境の状況変化、保全活動の進捗、イベントの開催、モニタリングなど、その状況変化に応じてタイムリーに情報交換が必要な情報もあります。時には、突発的な水質事故や環境の異変など、緊急に情報共有すべき情報もあります。

このように、①基本となる情報、②課題解決に必要な情報、③状況変化やモニタリングに関する情報、④緊急に情報共有すべき情報などの内容と、適切なタイミングで情報交換を行うことが必要です。

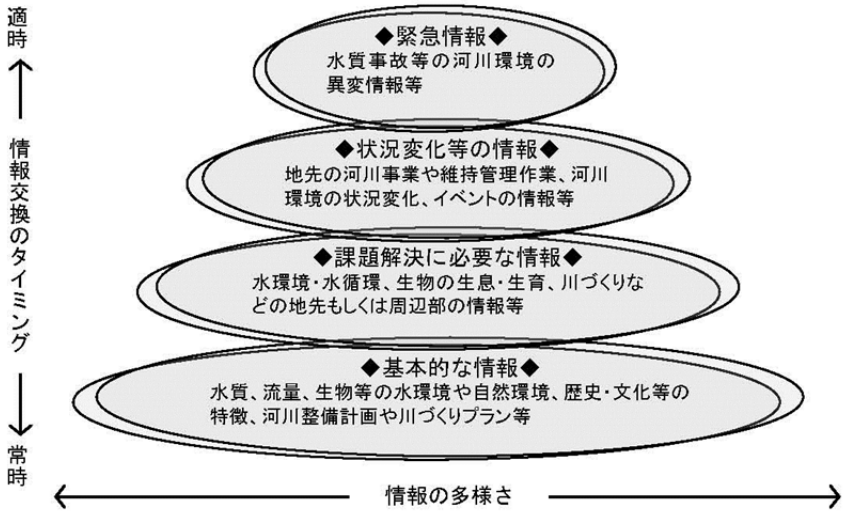


図-7　河川環境に関する情報の性格に応じた情報交換のタイミング

①基本的な情報

行政と市民との連携によって河川環境の保全・管理を行っていくために基本となる情報は、水質、流量、生物、歴史・文化、景観などの当該河川の水環境や自然環境、歴史・文化等の特徴や傾向を理解するための基本的な情報です。さらには、河川整備計画などの当該河川の川づくりのプランについても基本的な情報です。これらは、Web サイト、パンフレットなどの紙媒体、懇談・会議の機会などの様々な手段を組み合わせ、河川管理者から常時情報を提供していく必要があります。また、市民が有する関連情報を受信して、情報交換をしていくことが必要です。

このような基本的な情報は、河川管理者の Web サイトやパンフレットの中に、川の紹介、動植物や水環境の紹介、河川整備計画の情報などとして掲載されていることが一般的です。工夫されている Web サイトでは、市民向けの情報コンテンツを用意している事例（淀川河川事務所や荒川下流河川事務所の Web サイトなど）や、別サイトで市民の情報ニーズにあった情報提供をしている事例（山形河川国道事務所の「最上川電子大辞典」や九州地方整備局の「九州川の情報室」など）もあります。

【参考事例】

・淀川河川事務所 Web サイト：http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/
・荒川下流河川事務所 Web サイト：http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/
・山形河川国道事務所「最上川電子大辞典」：http://www.thr.mlit.go.jp/yamagata/river/enc
・九州地方整備局の「九州川の情報室」：http://www.qsr.mlit.go.jp/n-kawa/kawa-guide

②課題解決に必要な情報

河川や流域が抱える特定の課題（水質汚濁、特定の生物の生息・生育、河川改修の影響など）に対応していくために必要な情報としては、その川の状況や課題に応じて様々ですが、多くは、水質、水循環、生物の生息・生育、川づくりなどに関する地先もしくは周辺部の情報が該当すると考えられます。これらの情報を、Web サイト、懇談・会議、フォーラムなどを通じて市民に提供し、また、市民の意見や情報を受けとることが必要です。

このような課題解決に必要な情報は、市民の関心事であるため、Web サイトを活用する場合に

は専用のコンテンツページを準備し、トップページにそのメニューを用意して誘導することが望ましいと思われます（大和川河川事務所の「大和川の水環境」、豊岡河川国道事務所の「円山川水系自然再生」など）。また、このような事務所では、随時、当該テーマの懇談・会議、フォーラムなども行われています。

【参考事例】

・大和川河川事務所の「大和川の水環境」：http://www.kkr.mlit.go.jp/yamato/environment

・豊岡河川国道事務所の「円山川水系自然再生」：
http://www.kkr.mlit.go.jp/toyooka/jigyo/saisei/saisei.html

③状況変化等の情報

当該河川の地先の河川事業や維持管理作業に関する情報や、水質や生物の生息・生育に変化が生じるなどの河川環境の状況変化に対応した情報は、タイムリーに情報交換が必要です。また、利用・イベントに関する情報もタイムリーに情報交換する必要があります。さらには、河川環境のモニタリングにおいても、水質、流量、生物などの行政のモニタリング情報と市民のモニタリング情報を定期的に交換し共有することが求められます。このような一定の関係者とタイムリーに、定期的に情報交換できる手段としては、Web サイトも有用ですが、懇談・会議、メールなどを活用することが望ましいと思われます。

このような日常的な情報交換を図るため、年間数回の定期的な懇談・会議を継続的に開催している事例があります。（荒川下流河川事務所の「新河岸川流域川づくり連絡会」、淀川河川事務所の「淀川管内河川レンジャー代表者会議」など）

【参考事例】

・荒川下流河川事務所の「新河岸川流域川づくり連絡会」：
http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/about/associated/associated05/20090324-2.html

・淀川河川事務所の「淀川管内河川レンジャー代表者会議」：
http://www.river-ranger.jp/daihyou/daihyou.php

④緊急情報

水質事故や、生物の大量死などの突発的な河川環境の異変、不法行為などの情報は、迅速に河川管理者と自治体、関係者、市民などと情報共有することが必要です。このような異変を発見した市民などから速やかに情報をキャッチし、必要に応じて迅速な処置、対応、原因究明などにつなげる必要があります。電話、メールなど、速やかに情報交換ができる手段を活用することが求められます。

このような緊急情報を市民とやりとりしている事例としては様々あると思われますが、例えば、旭川流域ネットワークのメンバーが魚の大量死を発見して、その写真を Web サイトに掲載し、河川管理者やネットワークのメンバーに知らせた例などが報告されています。また、淀川河川レンジャーが不法行為を発見した場合に、河川管理者や関係者に報告するという例もあります。市民から情報を受ける窓口を用意したり、市民と日頃から情報交換ができるようにおくことで、緊急時にも速やかな情報交換・共有が可能となります。

（8）市民との情報の共有と活用

・市民と河川環境の情報交換と共有を行うことによって、市民団体と連携した河川環境のモニタリングにつなげることができます。
・河川環境の情報共有によって、必要な保全活動、維持管理活動への協力や、適正で効果的な利活用などを促すことにもなります。

【解説】

一般に、河川環境の保全活動を行う市民団体は、保全活動を行っている河川の水質、流量、生物などの河川管理者の情報を欲しています。その情報が保全活動に活かせるとともに、市民団体が行う簡易水質調査や生物調査などの結果と照らし合わせ、比較もできるためです。

市民団体の行う簡易水質調査や生物調査は、公定法に則ったものでないことがほとんどですが、専門家の指導などでその方法が工夫され、一定の精度を有している場合もあり、そのデータの蓄積によって環境の傾向を理解するのに有用である場合もあります。

河川管理者の持つデータや情報を市民団体と共有することで、相互のデータや情報の類似性と違いを認識しながら、市民団体の活動を河川環境のモニタリングに活かしていくことができます。

また、市民団体との連携によって河川環境の情報共有を行っておくことで、その川の環境の状況や課題を共通認識した上で、必要な保全活動や維持管理活動への協力も促せます。また、川を活かした学習、レクリエーションにおいても、適正で効果的な利活用を促すことにもなります。さらには、市民団体と日頃から連携しておくで、突発的な環境異変や不法行為などがあった場合にも、市民団体から情報提供を受けることができ、その対応にも協力を求めることができます。

【身近な川の全国一斉調査】

全国水環境マップ実行委員会では、全国で水質調査を実践している市民団体等が国土交通省の河川管事務所等と連携して、全国の河川や水辺の水質を一斉に調査しています。

結果は、全国の水環境マップとしてまとめられています。

【新河岸川水系身近な川の一斉調査】

新河岸川流域では、新河岸川水系水環境連絡会が市民団体、学校関係者などが荒川下流河川事務所等と連携して、流域の河川や水辺の水質を一斉に調査しています。

結果は、「新河岸川流域コミュニケーションマップ」という WebGIS のマップとして公開されており、流域の水質の状態が分かりやすく示されています。

図-8　河川管理者との情報共有による市民環境モニタリングの例

・「鶴見川流域水マスタープラン」 国土交通省京浜河川事務所ホームページ：http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/tsurumi/project/masterplan/00_top/index.htm

３．市民との連携・協働による河川環境管理の事例

（１）市民との連携・協働の考え方

市民との河川環境の情報交換とその共有を行いながら、市民との連携・協働によって河川環境の管理を行っている事例が増えてきています。

それらの事例において、河川管理者との連携・協働で河川環境管理を行っている市民の特徴は様々ですが、おおよそ以下のようなことが言えます。

◆対象としている河川の環境について詳しく、生物や水環境などに専門的な知識を有している場合があります。

◆環境保全や体験学習などのスキルや経験も豊かであることもあり、創意工夫しながら、様々な河川環境の課題解決に主体的な活動を行っています。

◆人材や関係者とのネットワークを有しており、地域住民や流域住民についても普及啓発の役割を担ったり、環境管理に地域の人々の参加を促進する役割を果たすことがあります。

このような市民の専門性、スキル、経験、アイデア、主体性、ネットワーク、普及啓発の役割などを河川環境管理に活かしてもらうことで、環境・防災施設や河川公園等の運営、除草・伐木等の河川敷管理、専門性の高い河川環境管理、流域連携による河川環境管理などについて、より良い環境管理活動の展開が期待できます。

ここではこのような考えに基づき、以下に示す市民との連携・協働による河川環境管理の事例を紹介します。

■河川の環境・防災施設や河川公園等の運営の事例

■除草・伐木等の河川敷管理の事例

■専門性の高い河川環境管理の事例

■流域連携による河川環境管理の事例

※ここに掲載している事例は、平成 21 年度調査によるものです。

（2）河川の環境・防災施設や河川公園等の運営の事例

●協働・連携事例のポイント

- 河川の環境・防災施設や河川公園等の運営を、川の環境に詳しく、人や情報のネットワークを持つ市民団体等と連携・協働で行っている事例があります。
- 市民の専門性や創意工夫をこのような施設の運営に活かすことで、その施設や周辺環境を活かした独自のプログラムが工夫でき、地域に根差した持続的な展開も期待できます。

●市民との連携・協働による河川環境管理の事例

◆事例１：「二ヶ領せせらぎ館」の施設運営と事業／施設管理と体験学習等の利活用プログラム

○市民団体：NPO法人多摩川エコミュージアム

○河川管理者：国土交通省京浜河川事務所　○関連自治体：神奈川県川崎市

（多摩川／神奈川県川崎市）

① 施設の概要と運営状況（2000 年～）

：二ヶ領せせらぎ館（以下、せせらぎ館）は、京浜河川事務所が管理する多摩川の二ヶ領用水宿河原堰のゲート管理施設の一部を利用した、市民開放型情報・活動拠点施設です。施設は主に情報展示室と集会・会議室からなり、隣接地にはNPO 法人の事務局棟、川崎市の災害備蓄庫の一部を利用した資材置場があります。

これらの施設の運営は、川崎市から委託を受け、地域にネットワークを有する川のNPO が行っています。

・せせらぎ館の館内

施設では、流域や地域の行政・市民情報の発信のほか、年間を通じた「写真展」、「野草絵画展」等の流域や地域の活動団体の企画展や、常設として魚の水槽、多摩川の DVD 映像資料を公開しています。

② 水辺の楽校、総合学習支援活動

：川崎市の２ヶ所の「水辺の楽校」の活動支援として、学童を対象とした魚釣りや、奥多摩サマーキャンプ、凧揚げ大会、河口干潟観察会、川流れ体験、カヌー教室等の活動に対し、技術指導や安全サポート、広報等を、施設を拠点に行っています。このような活動は、NPO が地域、流域にネットワークを活かして実施する独自のプログラムです。

・多摩川での川流れ体験

さらに、流域の他の水辺の楽校や関係する市町村、NPO、河川事務所との連携により、流域の小・中学校、高校に対する学習支援活動、市区町村への活動のサポート、情報交換等の支援とともに、流域の川をテーマ、フィールドとした環境教育、体験学習のネットワークに展開しています。

③ 多摩川流域懇談会・多摩川流域ネットワーク（TB ネット）の事務局運営

：「多摩川流域懇談会」は、市民（団体）、企業、学識経験者、流域自治体、河川管理者などで構成される川づくり・まちづくりの合意形成機関です。その市民部会として、流域の市民・住民団体による多摩川流域ネットワーク（TB ネット）があります。双方の組織の事務局を NPO が担い、官民の意見交換会や勉強会、「多摩川流域セミナー」等の運営やフィールド調査、シンポジウムの開催等、連携事業を継続的に運営・実施しています。これらの事業は、一部が委託により行われています。

【協働・連携のポイント】

・ 施設の使用、管理、運営は、国、市、市民による連携、協働事業により行われています。施設の管理運営や市民発案・提案の事業、活動に対して、「川崎市協働型事業」等の位置付けで川崎市からNPO法人に一部業務委託が行われ継続的な運営がなされています。

・ 施設を運営するNPO法人多摩川エコミュージアムは、流域交流や活動において施設を拠点としながら、ネットワークの要としての役割を担っています。

＊写真：NPO法人多摩川エコミュージアム

◆事例2：「遠賀川水辺館」の施設運営と事業／施設管理と様々な学習体験プログラム

○市民団体：NPO法人直方川づくりの会

○河川管理者：国土交通省遠賀川河川事務所　○関連自治体：福岡県，直方市

（遠賀川／福岡県直方市）

① 遠賀川水辺館の運営（2004 年～）

：「遠賀川水辺館」（以下、水辺館）は、任意団体 直方川づくり交流会による「遠賀川夢プラン」（1991～2001 年）の提案が形になり、地域の防災拠点・体験学習施設として開設されました。館の運営母体として設立した NPO 法人直方川づくりの会が、国土交通省及び直方市からの委託（人件費等運営事業費）等により水辺館の管理、運営を行っています。

・彦山川と遠賀川の合流地点にある遠賀川水辺館

水辺館は、1 階は川の図書館や水槽などの展示、2 階は学習会等が開ける交流室、屋上展望所の３つのフロアで構成されています。屋外には、ビオトープ水路「春の小川」や小規模な田んぼなどの環境学習・体験施設があります。

水辺館には、専従スタッフ（1 名）が常駐し、施設の維持管理や来館者の対応等を行っていますが、運営には多くのボランティアスタッフの参加があります。NPO のアイデアと地域のネットワークを活かし、施設を利用、拠点とする以下のようなさまざまな活動、事業が多世代の流域住民参加により行われています（一部受託事業）。

・館内に設置された水槽による遠賀川の魚類展示

② 水辺の体験プログラム

：水辺館では、道具をデポジット制で貸与し、近接する遠賀川にかかる「もぐり橋」や親水護岸で「遠賀川釣り体験」を常時行っています。また、日曜日を基本に、水辺館前の遠賀川や彦山川で

有料制のカヌースクールを開催し、道具の貸与とともに資格を有する指導員によるカヌーイングや川の流れの学習、セルフレスキュー体験、カヌーツーリングを行っています。

③ 屋外施設を利用した環境・体験学習「めだかの学校」

：子どもを対象とする自然の営みを体験する活動で、屋外の「春の小川」を利用した水質調査、生きもの調査や、年間を通じた野鳥観察「すずめの教室」、田んぼでの田植え、稲刈り、生きもの調査等を行う「田んぼの学校」等を企画、定期的に開催しています。参加者はイベントカレンダー等により随時募集され、指導は館のスタッフのほか、大学生、教員、農業者、主婦等、多様な人材が行っています。

・もぐり橋での遠賀川釣り体験（後方左の建物が水辺館）

・春の小川でのめだかの学校

④ 館内教室での学習活動事業や防災や減災についての取り組み

：室内では、市民ボランティアを講師に、子どもを対象とする茶道、華道教室「伝統文化子ども教室」のほか、「エコ科学工作教室」ではさまざまな子どもの遊び道具づくりの指導を定期的に行っています。

また、施設の防災拠点としての位置づけから、隣接する河川事務所との協働、連携により、防災情報の展示、「遠賀川防災セミナー」（勉強会や講座）、「My ハザードマップづくり」、セルフレスキュー（川流れ体験やスローロープ訓練）等、防災や減災に関わるさまざまな取り組みを継続的に行っています。

⑤ リバーツーリズムの企画・運営

：NPO の企画、運営による「遠賀川水辺館リバーツーリズム」は、遠賀川や流域の川を中心に自然環境、歴史、文化、特産物などを知り、市民参画によるまちづくりや川づくりに活かしていく目的で実施されてきました。リバーツーリズムで育まれた市内外各地のネットワークは、河川清掃活動「春の小川まつり」や、まちを見つめ直す「のおがた わがまちウォッチング」などの定例活動に繋がり、連携により次世代の若者の育成、支援体制が生まれてきています。

⑥ 遠賀川リバーチャレンジスクール（2002 年～）

：水辺館開設以前より任意団体「直方川づくり交流会」が企画、運営してきた活動で、夏休みを利用し、川での魚とりや生きもの観察、カヌー教室、竹炭焼き、夜の昆虫観察などの体験学習を行う宿泊型サマースクールや、季節ごとの体験プログラムが行われています。サポートには、市民団体のメンバーだけでなく大学生ボランティアや漁協組合なども参加します。

・多世代の交流を通じて行われるﾘﾊﾞｰﾁｬﾚﾝｼﾞ・ｻﾏｰｽｸｰﾙ

⑦ 青少年グループの活動支援による人材育成

：水辺館の事業に参加した小学生（めだかの学校グループ）・中高生・大学生グループの自主活動に対し、官民協働で資金や情報提供等の支援を行い、多世代の交流、相互協力を通じた人材育成を行っています。

・YNHC 青少年博物学会：学校の垣根を越えた中学生、高校生による水辺館を拠点とする自主活動グループで、環境問題や地域活動とともに春の小川でのホタルの飼育、観察等も行っています。

【協働・連携のポイント】

- もともと利活用も含めた市民提案による拠点施設であり、施設の運営・管理、情報収集・発信業務等で、国土交通省、市から市民団体に業務委託されています。施設を拠点とする市民の企画・運営による事業、活動を通じて、地域の多様な人々、年齢層の積極的な参加が促進されています。
- 国土交通省の呼びかけによる市内外の小中学校教師の環境教育リーダーの人材育成をめざす「遠賀川河川環境教育研究会」や、流域住民団体２５団体による施設を拠点とする交流・相互協力、施設の協働運営活動支援等を行う「遠賀川流域住民の会」など、協働の仕組みがあります。

＊写真：NPO法人直方川づくりの会・直方川づくり交流会

◆事例3：市民提案による水辺施設「ねや川せせらぎ公園」の維持管理
／市民工事による遺跡水辺公園の整備

○市民団体：ねや川水辺クラブ・寝屋川再生ワークショップ
○河川管理者：国土交通省淀川河川事務所，寝屋川市まち建設部下水道室 下水道整備課
○関連自治体：寝屋川市下水道室、大阪府河川室、大阪府枚方土木事務所ほか
（淀川及び淀川水系寝屋川／大阪府寝屋川市）

① 市民提案による「寝屋川せせらぎ公園」事業

：寝屋川市駅前の「寝屋川せせらぎ公園」事業は、市の公募により集まった寝屋川再生ワークショップの市民提案「寝屋川再生プラン」（2002 年）の重点整備箇所の一つとして実施されました。３年にわたる構想、基本設計・実施計画、施工の各段階のワークショップでの検討を経て、「人にも生き物にも魅力ある空間」を基本コンセプトに、市民のさまざまなアイデアが盛り込まれて整備がなされました。オープン後も、市民による維持管理の提案、市の委託による実施につながり、清掃や植生モニタリング、施設の改善等、環境維持管理が市民グループによって行われています。

・市民参加で行われたクリーンリバー作戦

・市民によるせせらぎ公園の植生調査

② 市民提案・市民工事による「茨田樋（まったのひ）遺跡水辺公園」整備

：行政と市民団体、地元住民と地元大学の連携による寝屋川市内水路（公共下水道）の復旧工事を契機に、整備に関わった市民らによるワークショップの場が設けられ、かつて河内平野の生活用水・農業用水を淀川から取水していた樋門跡を活かした歴史親水公園の復元整備が計画されました。

・市民による間伐材の皮むき

整備事業は、構想から実施設計、工事まで、市民の提案を活かし、行政との協働で行われました。淀川の土木文化遺産にちなみ、源流部の間伐材や川石を調達、運搬し、間伐木の皮むきから乾燥、切断といった加工までが市民の手で自主的に行われました。工事は、基盤整形や特殊な土木工事は市が実施し、木橋などの施設整備や水路の河床整備、植栽工事などは市民グループが担当しました。

地域にとって愛着のある場所となるよう、低木や水生植物の植え付けなどの植栽作業は、近隣の小学校に通う子どもたちや住民の参加によって行なわれ、オープン後は地域のお祭りなどにも利用されています。

【協働・連携のポイント】

- 計画の各過程のワークショップでの市民の意見が反映されたことにより、「自分たちの提案でできた空間は自分たちで育てる」という意識が生まれ、整備後の市民による維持管理への提案、行政の委託による実施につながり、清掃や植生モニタリング、施設の改善等、自主的、継続的な環境維持管理が行われるなど、行政との協働、役割分担のしくみが作られました。
- 計画から整備まで、市民のアイデアを取り入れた主体的な事業への参加により、地域のコミュニティを育む共同作業、市民が持つ専門性を活かした「物を作って人と人との関係も作る」をモットーとする「市民公共工事」として行われました。

＊写真：ねや川水辺クラブ

（3）除草・伐木等の河川環境管理の事例

●協働・連携事例のポイント

- アレチウリ等の外来種の除去やニセアカシアなどの河道内樹林の伐採など、全国的に課題となっている河川の環境管理を市民との連携・協働で行っている事例があります。
- 市民との連携・協働で行うことで、市民の主体的で持続的な取組が望め、市民のアイデア、ネットワークを活かした普及・啓発が図れることが期待できます。また、地域住民の理解や参加を得て展開することが期待できます。

●市民との連携・協働による河川環境管理の事例

◆事例１：天竜川流域侵略植物駆除大作戦“夏の陣”・“冬の陣”

○市民団体：NPO法人天竜川ゆめ会議

○河川管理者：国土交通省天竜川上流河川事務所　○関連自治体：長野県，駒ケ根市

（天竜川／長野県駒ケ根市ほか）

① 天竜川流域侵略植物駆除大作戦“夏の陣”（河川敷のアレチウリの駆除,2002 年～）

：天竜川流域の自然環境に脅威を与える侵略植物（特に特定外来種のアレチウリ）の駆除を住民参加型の流域全体の活動として毎年夏に行っています。国、県、流域市町村の後援、協力もあり、現在８箇所で実施され、多くの地域住民が参加、独自に「インストラクター講座」も行っています。

参加者に対する地域エコポイントの付与など、普及・啓発、参加に関わる市民の工夫が活きています。

・天竜川流域侵略植物駆除大作戦（岡谷会場）2009.7

② 天竜川流域侵略植物駆除大作戦“冬の陣”（河川敷のニセアカシアの伐木，2006 年～）

：天竜川や支川河畔へのニセアカシア(ハリエンジュ)の繁茂の問題について、市民グループによる「天竜川の河畔を考える会」での議論を経て、「地域住民がイメージする河川環境・景観の復元」についての合意、提言がなされました。

提言のもと地域住民自らが管理に参画するため、活動の許可や協力が市と国に求められ、行政との協働、役割分担によるハリエンジュの伐採等、河畔林の環境整備が実現しました。以下のような連携と役割分担のもと、毎年２月に場所を変えながら開催されています。薪ストーブユーザーに対する呼びかけ（ボランティア作業による伐採木の燃料利用や CO^2 削減の効果）など、市民の啓発活動で流域の多くの市民が参加しています。

・実施日には市民参加者の軽トラックが並ぶ

- NPO/市民団体/地域住民：全体企画、参加者募集、事前調査、重機手配・作動、炊き出し、実施作業への参加（※実施作業用の燃料や重機は建設業関係のボランティアからの供出、作業に関わる市民からは保険代として参加費を徴収）
- 国土交通省天竜川上流河川事務所ほか管轄事務所：住民の河川区域内での管理作業の許可、河川敷占有者への確認・調整、作業道路の事前整備、安全管理、搬出木の処理
- 駒ヶ根市など担当市町村：伐採作業の周知（広報、地元説明等）、関係機関の調整

【協働・連携のポイント】

・ 河川環境管理に関わる市民団体の主体的な活動、提案を受け、行政が協力・支援することにより、協働の体制、役割分担が整い、広域的な住民の参加や継続的な活動につながっています。

・ エコポイントの導入や薪ストーブユーザーへの参加の呼びかけなど、市民団体の柔軟な発想による普及・啓発が、継続的な参加や新たな参加を促しています。また、外来植物の影響を知り、管理に参加する意識が醸成されつつあり、市民だけでなく研究者や教育・学校関係者、企業などの連携、参画を得て、さまざまな流域での活動につながっています。

＊写真：NPO法人天竜川ゆめ会議

◆事例２：伐木ボランティア「百間川の川づくり」

○市民団体：岡山の自然を守る会・旭川流域ネットワーク（AR - NET）
○河川管理者：国土交通省 岡山河川事務所　○関連自治体：岡山県

（旭川派川百間川／岡山県）

① 伐木ボランティア「百間川の川づくり」（2002 年～）

：派川百間川上流での河川樹林の拡大、湿生植物・礫河原植物の減少に対し、管理や保全などの学習、調査を続けてきた岡山の自然を守る会と AR-NET、河川事務所の協働により、ヤナギなど河川内樹木の伐採を実施しています。市民団体は事業の主催者として、当日の作業や道具の準備、炊き出しなどを行い、行政は主に参加者の受付等の事前事務や周辺整備、ヤードの提供、伐採後の残枝の処分等を担当しました。

・百間川での伐木ボランティア

啓発を兼ねて、流域住民に伐採作業への参加や伐木のリサイクル利用について意見を聴取し、幹やチップ化した枝は無償で配布されています。

【協働・連携のポイント】

・ 市民団体と河川管理者の連携による河原の自然再生や礫河原の植生管理に関する継続的な調査や学習会を経て、「川らしい自然環境を回復する」という共通の目標を持ち、自然再生や管理方法の検討、合意のもとに事業が進められました。

・ 自然保護の観点から、伐採する場所や方法が難しい河川内の樹木管理について、地域の自然環境に詳しい市民団体の指導と、流域ネットワークを有する活動団体による情報発信により、河川樹木の治水上の問題点についても理解と関心が得られ、地域住民との協働作業が実現しました。

＊写真：旭川流域ネットワーク

◆事例3：広瀬川利活用計画モニタリング事業

○市民団体：NPO法人水・環境ネット東北
○河川管理者：宮城県仙台土木事務所

（広瀬川／宮城県仙台市）

① 広瀬川利活用計画モニタリング事業（広瀬川コラボ事業）

：仙台市内中心地を流れる広瀬川は、杜の都のシンボルとして市民の関心も高く、ボランティア活動も盛んに行われている一方で、土砂堆積や河川敷等の樹木の繁茂が進み、管理や利活用の問題

が生じていました。管理者である県は、管理及び利活用計画を策定するに当たり、NPO との協働事業として実施しました。利活用計画は、地域の合意形成のもと、協働により維持管理していくことを前提とし、地域住民の参画によるワークショップ形式で行われ、地域の河川環境に詳しいNPO がワークショップを運営しました。

3 年間にわたるワークショップでは、現地調査や意見交換、グループワークによる管理や利活用方法の検討を経て計画が策定されました。県による工事（石河原の創出、ワンドへの通水、中州内の伐木等）着手にあわせ、ワークショップ参加者による環境調査や地域住民との協働による維持管理体制についての検討が行われ、工事完了後も草刈実践講習会や環境調査の実施とともに、将来に向けた維持管理体制の改善が話し合われました。

・地域住民が参加するワークショップの様子

・参加市民による草刈管理実践講習会

【協働・連携のポイント】

- 計画策定や河川管理における地域住民との協働を図り、県の「NPO推進事業」の一つとして位置づけられ、水環境の保全をテーマに地域にネットワークをもつNPOが、県からの委託によって市民参加のコーディネートを担う形で事業が進められました。
- NPOの呼びかけやコーディネートにより、ワークショップには地元町内会や公募による市民のほか、川に関わる市民団体、地元の学校関係、学識者など、多様な立場からの参加が得られました。

＊写真：NPO法人水・環境ネット東北

（4）専門性の高い河川環境管理の事例

●協働・連携事例のポイント

- 生物の生息や自然環境の保全等に関わる市民の知識や技術、経験を活かすことにより、専門性の高い環境調査やそれを活かした河川環境管理を行っている事例があります。
- 河川環境管理を委託事業や、指定管理者制度等によってNPO法人等に委ねることにより、専門的な事業が展開できるとともに、地域住民への普及啓発も期待できます。

●市民との連携・協働による河川環境管理の事例

◆事例１：蕪栗沼遊水地における環境管理の活動

○市民団体：NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ

○河川管理者：宮城県北部土木事務所・登米地域事務所　○関連自治体：宮城県，大崎市

（蕪栗沼／宮城県）

① 蕪栗沼の環境調査及び環境管理

：蕪栗沼と周辺水田はラムサール条約湿地に指定された東日本有数の湿地で、毎年多くの水鳥が飛来します。多様な生物相や湿地の原風景が残された蕪栗沼の自然の保全と共生に取り組んできた活動団体が、管理者である県からの委託を受け、専門性を活かした環境モニタリング調査（鳥類・魚介類等）、水質調査、除草工、清掃などを実施しています（1999年～）。調査結果は、管理状況を把握し適切な管理を実施するためのデータとしてまとめられ、管理に活かされています。

また、環境省の委託により、環境基礎調査として同地域や周辺河川の流域の水田など広範囲の渡り鳥（ガンガモ、ヒシクイ）利用状況調査を実施しています。

このほか、環境省の補助事業、大崎市の委託による自然再生推進事業として、蕪栗沼の植物、昆虫、鳥類のモニタリング調査や水質調査とともに、大崎市の実施している野焼きやヤナギの伐採等の管理にボランティアとして参加しています。

・蕪栗沼の環境調査(上)や環境管理(下)

② 湿地の復元と環境教育への利用

：市民団体の提案で、県との連携のもと、元々は水田だった同地区が湿地として整備、管理されることことになり、復元された湿地は飛来するマガンのねぐらになりました。

また、同地区の一部は民間の助成を受け環境教育ゾーンとして整備され、子ども達の遊びや自然体験や、来訪者が蕪栗沼の自然に触れ合うことのできる場所として利用され、池の生息生物への影響を回避につながっています。このような湿地の保全を推進

・環境教育ゾーンでの自然とのふれあい

していくための環境教育や普及啓発活動として、学校、地域と連携した湿地環境教育プログラムや学習教材の開発や体験型環境学習が市民団体により実施、運営されています。

③ 環境管理に関わる事業の展開

：市民団体の専門性を活かした環境管理として、さまざまな事業が行政や地域社会との協働・連携で展開されています。市の委託事業による蕪栗沼遊水地の白鳥排水機場管理（ポンプの試験運転や冬期の水抜き、夏期増水時のくみ上げ等）、市や近隣小学校の PTA と連携したゴミの処理や不法投棄の監視、渡り鳥飛来前の「蕪栗沼クリーン作戦」の実施、また、蕪栗沼で環境保全のために刈り取られたヨシをペレット化してエネルギーとして有効利用するための試作や試験等が挙げられます。

・ヨシ刈りの管理作業

さらに、地域住民との交流を通じた蕪栗沼及び周辺地域の体験型エコツーリズムの支援事業として、蕪栗沼の観察ガイドやガイドを養成する研修会の開催、地元農業者との連携による都市と農村の交流を図るイベント等を企画、運営しています。

【協働・連携のポイント】

・ 地元の自然環境を良く知る農業者と学識者を中心に組織された市民団体が、蕪栗沼及び周辺地域の環境保全、環境教育（普及啓発）、農業との共生（地域振興）を活動の柱とし、行政や地域社会と協働した様々な事業を展開しています。NPOの専門性が活かされ、国や県・市との行政との協働事業（委託事業等）により、専門的、継続的な環境調査やそれを活かした管理を可能にしています。さらに、行政だけでなく地域住民や学校、営農者、関連する市民団体など地域社会との協働による、さまざまな事業、活動に展開しています。

＊写真：NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ

◆事例2：指定管理による河川敷公園管理

○市民団体：財団法人 埼玉県生態保護協会
○河川管理者：国土交通省（荒川水系・利根川水系などの管轄事務所）
○関連自治体：埼玉県

（荒川／埼玉県）

① 埼玉県自然学習センターの運営と北本自然観察公園（埼玉県北本市）の環境管理

：荒川に隣接する北本自然観察公園は、建設省(当時)のアーバン・エコロジーパーク(自然生態観察公園)として計画・整備され、ビジターセンターとしての機能をもつ環境教育の拠点「埼玉県自然学習センター」とともに 1992 年にオープンしました。1980 年代より、この貴重な里山と谷戸の自然が残る地域を保全する活動を行ってきた団体が、2005 年より県の指定管理者として双方の施設の管理、運営を支部活動との連携で行っています。

・里山と谷戸の自然環境が残る北本自然観察公園

埼玉の「里地里山」の自然環境を残しながら、生きものの生息や来園者が自然に親しめるように配慮、整備された公園（32.9ha）は、団体の専門性を活かすことにより、地域の自然や暮らし

や景観と結びついた「雑木林」、「草はら」、「湿地・池」といった環境タイプを配慮し、保全する管理作業が行われています。

また、自然学習指導員のスタッフが常駐するセンターを拠点に、野遊び教室や生きもの講座、自然観察会などの定例活動や季節に応じた様々なイベントを企画し、年間を通じて開催しています。人間が手を加えることによって維持されてきた里山の自然を保全していくため、管理作業の一部を地域ボランティアを募集し、実施しています。ボランティア活動では、月に２回程度の公園管理作業のほか、自然観察会等イベントのサブリーダーなども担っています。

・園内での自然観察会

② 荒川大麻生公園(埼玉県熊谷市)の公園管理

：荒川中流の河川敷にある荒川大麻生公園（県営）は、約 170ha の広大な区域のほぼ半分が、「野鳥の森」県内有数の野鳥の渡来地の広い樹林や、砂礫河原にはカワラナデシコやカワラサイコといった河原特有の植物など、多くの希少動植物が確認されています。

公園整備は、長くその保全活動に関わってきた団体の独自の提案、環境調査などに基づき保全が進められました。また、地元の支部では、河川敷の生態管理として、野焼きを実施していました。こうした団体の専門性や実績により、自然地や多目的グランドも含めた約 80ha の区域について、県の指定管理者として管理運営を行っています。

・公園内での学習観察会

管理事業として、定期的な巡回や施設管理のほか、河川敷の自然を守るため、砂礫河原特有の植物の保護、ニセアカシア等外来種や倒木の除去、選択的草刈などの植生管理、ヨシ焼きといった専門性の高い環境管理が支部と地元ボランティア団体等の連携で行われています。

また、普及啓発として、支部等が中心となり、子どもの野遊び体験や自然観察会、保全活動への市民参加を図った調査、ボランティア作業を兼ねた体験活動のなど、さまざまなイベント、定例活動が開催されています。

【協働・連携のポイント】

- 指定管理者制度により、里山や自然環境の保全や野生生物の保護等に関わり、環境調査や提案等の実績、専門的な知識や技術を有する団体によって、地域の自然環境を良く知り、その保全に適した専門性の高い環境管理が可能になりました。
- 地域住民を中心とする支部組織というネットワークを有する団体の活動により、地域の自然環境に配慮した管理や、地域住民に対する普及啓発として体験学習、環境管理等への活動参加が促されています。

＊写真：吉村伸一（株式会社吉村伸一流域計画室）

◆事例３：「多自然・多機能型の河川敷管理」の提案

○市民団体：鶴見川流域ネットワーキング
○河川管理者：国土交通省京浜河川事務所
○関連自治体：東京都・神奈川県

（鶴見川／東京都・神奈川県）

：流域ネットワークを有する活動団体によって、あまり手の入っていなかった県管理区間の都市河川の高水敷のアレチウリ（特定外来植物）の駆除やオギの回復等をボランティアで実施しています。県による用具や物置の提供や、社会実験として民間の助成を受けていますが、継続性が大きな課題となっています。団体は、特定外来種の駆除など環境管理に関わるノウハウや実績を有しており、NPO 等による継続的な維持管理を可能にする協働のしくみづくりの一つとして、都市河川の高水敷の「多自然多機能型」管理を提唱し、その事業化や NPO への委託を提案しています。

【協働・連携のポイント】

- 都市河川の高水敷は、市民が川の自然に親しむ場所として位置づけられていながら、外来植物が繁茂したままになるなど、自然環境として単調になり人が近づけない場所になっている場合があります。地域の自然環境に詳しく専門性を持つNPOなどが環境管理に関わることで、地域の自然環境に配慮し（「多自然」）、生物の生息や自然に親しめる（「多機能」）適正な管理として「多自然多機能管理」が提案されています。
- 河川敷の外来種対策などは、現場の状況を見ながらの継続的な維持管理が重要となります。その担い手として、地域の環境保全に関わるNPOや活動団体に環境調査(モニタリング)や環境管理を事業化して委ねることなどにより、継続的な事業の実施が求められています。

（5）流域連携による河川環境管理の事例

●協働・連携事例のポイント

- 河川管理者、流域自治体、市民団体が、流域全体で情報交換や意見交換を活発化し、課題を共有しながら、様々な連携・協働で事業や活動を展開している事例があります。
- 流域各地の様々な市民団体の活動と流域単位で連携することで、流域全体の環境について共通認識が醸成され、流域の河川環境の保全のための目標が共有できます。そして、流域全体での連携・協働による取組の展開が望めます。

●市民との連携・協働による河川環境管理の事例

◆事例１：流域連携による環境調査や普及啓発活動

○市民団体：新河岸川水系環境連絡会
○河川管理者：国土交通省荒川下流河川事務所
○関連自治体：東京都・埼玉県

（荒川水系新河岸川／東京都・埼玉県）

① 官民協働組織「新河岸川流域川づくり連絡会」による流域連携事業

：新河岸川流域では、総合治水対策や川づくり、地域づくりを官民協働による流域全体の取り組みとしていくことを目的に、流域の市民団体のメンバーや河川管理者、流域自治体などの行政で構成する「新河岸川流域川づくり連絡会」（以下、連絡会）が組織されています。

連絡会では、定期的に開催される会議において、各支川間での市民同士や市民と行政との情報共有、意見交換が行われています。連絡会により、主に以下のような協働事業が継続的に行われています。

- 新河岸川流域フォーラム：総合治水対策など流域での取組みや課題について流域住民の理解を深め、まちづくり、川づくり活動への参加、連携を深めるため現場視察やシンポジウム
- 川でつながる発表会：流域内の小・中学生、高校生による川、水、環境についての日頃の活動成果の発表を中心に、川についてさまざまな世代が交流する場
- 新河岸川流域川まつりリレーフェスティバル：流域連携とともに子ども達や流域住民の川への関心、川に親しむきっかけづくりを兼ねて毎年夏に各支川で開催されるリレーイベント

② 市民団体の流域の市民連携「新河岸川水系水環境連絡会」

：「新河岸川水系水環境連絡会」は、新河岸川水系の各支川で活動する市民団体など 50 団体以上の連携組織です。

多くの流域住民が参加する水系（本川・支川）での一斉水質調査や、漁協の協力も得て行われる魚類調査、調査の現場で採取した生きものを水槽展示する「出前水族館」、流域の小学校の要請を受けて行う川をフィールドとする環境学習のサポートなどを、河川管理者など行政の協力も受けながら、継続的に開催しています。

・市民による魚類調査

＊写真：新河岸川水系水環境連絡会

こうした活動による調査結果は、流域マップや学習教材などにまとめられ、流域の環境学習や啓発、市民提案等の基礎データとして利用されています。

また、WebGIS による流域情報の電子マップ「新河岸川コミュニケーションマップ」が構築、イ

ンターネットで公開され、流域の市民活動や調査結果を反映するなど、更新、普及や流域情報の可視化や共有、利活用が図られています。

◆事例２：官民協働による川づくり

○団体：野川流域連絡会
○河川管理者：東京都
○関連自治体：東京都、国分寺市、小金井市、武蔵野市、三鷹市、調布市、狛江市、世田谷区

（多摩川水系野川／東京都）

① 官民協働のしくみ

：「野川流域連絡会」（以下、野川流連）は、官民協働の川づくりをめざし、都が管理する各河川に設置された連絡会の一つで、公募による都民、市民団体、行政の各委員や学識者で構成されています。

「河川に係わる計画、工事、管理等」、「河川環境と歴史、文化」、「流域自治体の河川に係わる行政計画」、「流域内における開発などまちづくりと河川の関わり」などを主なテーマに、情報・意見交換や提案を行うもので、テーマごとの分科会や大学、研究機関との連携を図った研究部会により活動しています。流域で活動する多様な市民団体や、国分寺市、小金井市、調布市等の関連自治体の担当者の参加や協働も行っています。

② 官民協働による川づくり

：野川流連の各分科会では、これまでにさまざまな活動が官民の協働で行われてきました。環境学習や観察会も兼ねた水質や生物の環境調査、調整地の身近な生きもの復活を図った自然再生事業や湧水を利用したビオトープ水路づくりなどです。これらの自然管理は、都と市民団体の役割分担によって行われています。このほかにも、野川の大きな課題の一つである流量低下や水枯れ対策の基礎調査として、水路や湧水の独自の調査やマップ化、平常水量や景観の調査に基づく環境情報図の作成、市民が体感的に納得できる流量の目標値の検討、さらに野川の環境保全や快適な利用の普及啓発を図った「野川ルール」の作成など活動が挙げられます。

・野川の調整地の「ドジョウ池」での活動

＊写真：野川流域連絡会

◆事例３：流域ネットワークによる自然拠点管理

○市民団体：鶴見川流域ネットワーキング
○河川管理者：国土交通省京浜河川事務所
○関連自治体：東京都・神奈川県

（鶴見川／東京都・神奈川県）

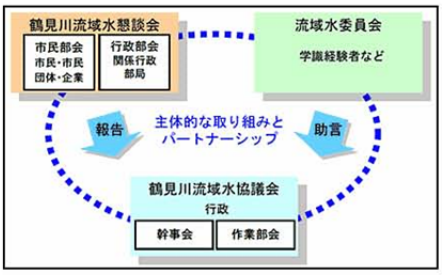
① 流域連携と官民協働のしくみ

：鶴見川流域ネットワーキング（以下、TR ネット）は、流域の支川、本川の市民団体のネットワーク組織でエリアごとのサブネットを有する任意団体「連携 TR ネット」と、独自の流域規模の公益事業や連携 TR ネットの事務局運営を担う「NPO TR ネット」で構成されています。活動の理念である「流域思考」にもとづいたそれぞれの公益活動を、ネットワークの協働により相互に支援し推進しています。

行政との連携体制として、国や自治体との流域全体に関する意見交換の場として「鶴見川流域

懇話会」が組織されています。さらに河川管理区間を主体とする４つの地域懇話会が当該自治体とサブネットの協働により組織され、河川整備等に関する意見交換会を定期的に行っています。

また、TRネットは、「鶴見川水マスタープラン」（2004 年）の官民連携による推進を目的とする組織「鶴見川流域懇談会」の市民部会に公募メンバーとして参加し、国や流域自治体による「鶴見川流域水協議会」と協働による流域連携事業を行っています。



・鶴見川流域水マスタープランの推進体制

＊国土交通省京浜河川事務所ホームページ

また、水マスタープランの推進する「水マス推進サポーター」に TR ネット参加団体 40 団体が登録し、活動を通じて事業を支援しています。

② 自然拠点の管理や公共的なプロジェクト事業への参画

：「連携 TR ネット」のサブネットを構成する各地域の活動として、国や自治体が管理する緑地や水辺の自然拠点の植生管理や各種の調査、観察会、草刈り等が一部受託、助成金等により行われています。これらの活動は、流域全体で行われるクリーアップ作戦などのキャンペーンやイベント、地域・流域文化の育成につながる学習支援活動などとともに、連携 TR ネット、NPO TR ネットが連携しながら行っています。

◆事例４：流域連携のしくみづくりと協働による活動

○市民団体：旭川流域ネットワーク
○河川管理者：国土交通省岡山河川事務所、岡山県
○関連自治体：流域市町村（3市4町1村）

（旭川／岡山県）

① 流域連携による活動

：旭川流域ネットワーク（以下、AR-NET）は、「地域や世代をつなぎ、一緒に考え、思いを伝えて、活動を続ける」をモットーに、流域の情報を共有し、改正河川法の理念を継承し、以下のような活動を行っていくことを目的に組織されました。

- 行政との意見交換、連携による“いい川づくり”の提案
- 流域が一体となった活動
- 活動報告、勉強会、シンポジウム等の開催
- 子ども達の体験交流学習

・旭川源流の碑を運ぶ、リヤカーでのキャラバン隊

流域連携による活動として、流域の人と人をつなぐため、旭川の全ての源流に毎年 1 本ずつリヤカーによるリレー方式で源流の碑を運び建立する「源流の碑」建立事業や、行政と協働による「旭川流域交流シンポジウム」の開催、旭川流域連絡協議会への参加、一斉水質調査などが、多くの流域住民の参画により継続的に行われています。

また、教育関係者や研究者、漁協など多様な団体との連携・協働により、川の環境調査や学習支援、環境管理活動などの活動、事業が行われています。ネットワークに参画する各市民団体の活動支援や普及啓発、情報共有を目的に、インターネットを利用した情報の受発信や流域外の活動団体との連携や交流も行っています。

② 流域の官民連携のしくみと協働事業

：旭川流域連絡協議会(以下、協議会)は、AR-NET の呼びかけにより、行政の流域全体のネットワーク構築、情報の共有を目的に、流域の 23 市町村（当時）と河川管理者である岡山県、建設省（当時）によって組織されました（1999 年）。AR-NET と協議会は、協働によりさまざまな事業を展開しています。

その一つが、毎年の旭川「源流の碑建立式」の前夜に、国、流域自治体、流域住民（団体）、学識者等の参加によって行われる「旭川流域交流シンポジウム」です。旭川の環境保全や住民参画の方策等、毎回、流域を通じたメインテーマのもとに開催され、流域の情報や課題を共有しています。

・旭川流域交流シンポジウム（2002）

そのほか、官民協働による事業として、毎年実施されている「旭川流域一斉水質調査」や、協議会と AR-NET 主催で学童や研究者も参加して行われた「旭川かいぼり調査」（旭川本流のかいぼりによる魚類、水生昆虫、河床構造等の調査）、派川百間川での河川敷の伐木ボランティア「百間川の川づくり」などがあります。

＊写真：旭川流域ネットワーク